



IBM Systems - iSeries

**Backup Recovery and Media Services for iSeries
コマンド**

バージョン 5 リリース 4





IBM Systems - iSeries

**Backup Recovery and Media Services for iSeries
コマンド**

バージョン 5 リリース 4

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、521 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、Backup Recovery and Media Services for iSeries (プロダクト番号 5722-BR1) のバージョン 5、リリース 4、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Systems - iSeries
Backup Recovery and Media Services for iSeries Commands
Version 5 Release 4

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

BRMへの媒体の追加 (ADDMEDBRM)	1	BRMを使用した媒体の移動 (MOVMEDBRM)	117
BRMへの媒体情報の追加 (ADDMEDIBRM)	15	BRMを使ったスプール・ファイル移動 (MOVSPFLBRM)	123
BRMへの媒体LIB媒体の追加 (ADDMLMBRM)	25	BRMを使用したラベルの印刷 (PRTLBLBRM)	131
BRM使用のライブラリーの分析 (ANZLIBBRM)	31	BRM媒体例外の印刷 (PRTMEDBRM)	133
リンク・リストの変更 (CHGLNKLBRM)	35	媒体移動の印刷 (PRTMOVBRM)	135
BRMを使用した媒体の変更 (CHGMEDBRM)	39	BRMからのログ項目の除去 (RMVLOGEBRM)	139
ジョブ・スケジューラーの変更 (CHGSCDBRM)	45	BRMから媒体ボリュームの除去 (RMVMEDBRM)	143
BRMの満了媒体の検査 (CHKEXPBRM)	49	BRMからの媒体情報の除去 (RMVMEDIBRM)	145
BRM媒体情報のコピー (CPYMEDIBRM)	53	BRMを使用した検索の再開 (RSMRTVBRM)	147
BRMSのダンプ (DMPBRM)	57	BRMを使用した権限の復元 (RSTAUTBRM)	155
ASP情報の表示 (DSPASPB RM)	61	BRM使用のオブジェクトの復元 (RSTBRM)	157
BRM使用のバックアップ計画表示 (DSPBKUBRM)	63	BRMを使用したDLOの復元 (RSTDLOBRM)	167
複写媒体の表示 (DSPDUPBRM)	65	BRM使用のライブラリーの復元 (RSTLIBBRM)	173
BRMのログの表示 (DSPLOGBRM)	67	BRM使用のオブジェクトの復元 (RSTOBJBRM)	185
BRMを使用した媒体の複写 (DUPMEDBRM)	73	BRM使用のオブジェクトの保管 (SAVBRM)	197
媒体情報の検索 (EXTMEDIBRM)	89	BRMを使用したDLOの保管 (SAVDLOBRM)	219
BRMSの初期設定 (INZBRM)	93	BRM使用のフォルダー・リストの保管 (SAVFLRLBRM)	239
BRMを使用した媒体の初期設定 (INZMEDBRM)	103		
BRMを使用した移行 (MGRBRM)	109		
活動時の保管モニター (MONSWABRM)	113		

BRM使用のライブラリーの保管 (SAVLIBBRM)	255	BRMを使用したクラスの処理 (WRKCLSBRM)	453
BRM使用の媒体情報の保管 (SAVMEDIBRM)	283	BRM使用のコンテナの処理 (WRKCNBRM)	455
BRM使用のオブジェクトの保管 (SAVOBJBRM)	297	制御グループの処理 (WRKCTLGBRM)	459
BRM使用のオブジェクト・リスト保管 (SAVOBJLBRM)	321	BRMを使用した装置の処理 (WRKDEVBRM)	461
BRM使用の保管ファイルの保管 (SAVSAVFBRM)	345	保管済みフォルダーの処理 (WRKFLRBRM).	463
BRMを使用したシステムの保管 (SAVSYSBRM)	355	BRMを使用したリストの処理 (WRKLB RM)	467
BRMを使用した媒体制御の設定 (SETMEDBRM)	367	リンク情報の処理 (WRKLNKBRM). . .	469
BRMの検索制御の設定 (SETRTVBRM)	375	BRMを使用したロケーションの処理 (WRKLOCBRM)	473
BRMのユーザー使用法の設定 (SETUSRBRM)	385	BRMを使用した媒体の処理 (WRKMEDBRM)	475
BRMを使用した保存の開始 (STRARCBRM)	389	媒体情報の処理 (WRKMEDIBRM) . . .	483
BRM使用のバックアップの開始 (STRBKUBRM)	395	移行情報の処理 (WRKMGRIBRM) . . .	491
BRMの満了の開始 (STREXPBRM) . . .	403	媒体ライブラリーの処理 (WRKMLB RM)	497
BRMを使用した移行の開始 (STRMGRBRM)	407	媒体ライブラリー媒体の処理 (WRKMLMBRM)	499
BRMの保守の開始 (STRMNTBRM). . .	413	保管済みオブジェクトの処理 (WRKOBJBRM)	503
BRMを使用した回復の開始 (STRRCYBRM)	425	BRMを使用したポリシーの処理 (WRKPCYBRM)	509
BRM使用のサブシステムの開始 (STRSBSBRM)	441	回復活動の処理 (WRKRCYBRM). . . .	511
BRMを使用した移動の確認 (VFYMOVBRM)	445	保管ファイルの処理 (WRKSAVFB RM)	513
ASP記述の処理 (WRKASPB RM). . . .	447	保管済みプール・ファイル処理 (WRKSPLFB RM)	515
BRMを使用した予定表の処理 (WRKCALBRM)	451	付録. 特記事項	521

BRMへの媒体の追加 (ADDMEDBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMへの媒体の追加(ADDMEDBRM)コマンドは、BRMS媒体インベントリに媒体ボリュームを追加します。このボリュームは、活動データが入っている別の媒体インベントリからのボリューム、他の外部ソースからのボリューム、または初期設定したい新しいボリュームとすることができます。いったん追加されると、BRMSはボリュームの特性、場所、用途、および内容をトラッキングします。

ボリュームを追加する時には、ボリュームの媒体クラスを指定しなければなりません。さらに、ボリュームの移動方法、ボリュームが位置づけられる場所、そのコンテナ（ある場合）および他の種々の属性を指定することができます。

追加するボリュームの番号づけ体系が連続の場合には、ADDMEDBRMコマンドは、一度に1つずつボリュームを追加せずに、自動的にボリュームを追加します。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- 装置(DEV)パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または*MEDCLS特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する*CHANGE権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリに対する実行(*X)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリ中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する*USE権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. IS/OSは特殊な目的のために特定のボリュームIDを使用します。ボリュームのラベル付けでこれらのボリュームIDを使用しないようにする必要があります。避ける必要があるボリュームIDは次の通りです。

TAPXXX
NLTXXX
BLKXXX
CLNXXX
ERRXXX
SLTXXX
IMPXXX

2. 仮想ボリュームを追加するには、既存のテープ・イメージ・カタログの名前を**イメージ・カタログ (IMGCLG)**パラメーターに指定する必要があります。これらの追加制約事項は仮想媒体の追加時に適用されます。
 - **ボリュームID (VOL)**パラメーターに指定される名前は、テープ・ボリューム名としてイメージ・カタログ項目中に存在していなければなりません。

- ・ 仮想ボリュームの密度（イメージ・カタログ項目）は媒体クラスの密度と同じでなければなりません。
- ・ 追加する数(VOLCNT)には1を指定する必要があります。仮想ボリュームは個別にのみ追加できます。
- ・ システム(SYSNAME)に*LCLまたは現行システム名を指定する必要があります。仮想テープ媒体は現行システムの記憶域内にあります。
- ・ 仮想テープ媒体のクリーニングおよびボリューム統計は保守されていません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリュームID	文字値	必須, 定位置 1
MEDCLS	媒体クラス	名前	必須, 定位置 2
VOLCNT	追加する番号	1-999, <u>1</u>	オプション
INZ	テープの初期設定	<u>*NO</u> , *YES	オプション
EXPDATE	満了日	文字値, <u>*NONE</u> , *PERM	オプション
MOVDATE	最後に移動された日付	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
MOVPCY	移動ポリシー	名前, <u>*NONE</u>	オプション
CRTDATE	作成日	日付, <u>*CURRENT</u>	オプション
SLOT	スロット番号	1-999999, <u>*NEXT</u> , *NONE	オプション
SYSNAME	システム	名前, <u>*LCL</u>	オプション
TEXT	テキスト	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前, <u>*NONE</u>	オプション
DEV	装置	名前	オプション
NEWOWNID	新規所有者ID	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
CHECK	活動ファイルの検査	<u>*YES</u> , *FIRST, *NO	オプション
CODE	コード	<u>*EBCDIC</u> , *ASCII	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	<u>*REWIND</u> , *UNLOAD	オプション
CLEAR	消去	<u>*NO</u> , *YES	オプション
NXTVOLMSG	次のボリューム・メッセージ	<u>*YES</u> , *NO	オプション
DLY	テープ取り付け待機	1-900, <u>*DEV</u> , *IMMED	オプション
LOC	場所	名前, <u>*HOME</u>	オプション
CNR	コンテナID	名前, <u>*NONE</u>	オプション
USECNT	媒体の使用回数	10 進数, <u>0</u>	オプション
READERR	読み取りエラー	10 進数, <u>0</u>	オプション
WRTErr	書き込みエラー	10 進数, <u>0</u>	オプション
BYTEREAD	読み取りバイト数	10 進数, <u>0</u>	オプション
BYTEWRT	書き込みバイト数	10 進数, <u>0</u>	オプション
CURBYTES	現行の書き込みバイト数	10 進数, <u>0</u>	オプション
MAXBYTES	最大書き込みバイト数	10 進数, <u>0</u>	オプション
LASTCLN	最終クリーニング日	日付, <u>*NONE</u>	オプション
USECLN	クリーニング以降の使用回数	10 進数, <u>0</u>	オプション

トップ

ボリュームID (VOL)

BRMS媒体インベントリーに追加しようとしているボリュームのIDを指定します。仮想密度を使用してボリュームを媒体クラスに追加している場合は、ボリュームIDはイメージ・カタログ項目のテープ・ボリューム名と一致していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

ボリューム識別コード

媒体インベントリーに追加しているボリュームの識別コードを指定してください。ボリューム識別コードの長さは最大6桁です。ボリューム識別コードがBRMS媒体インベントリーにすでに存在している場合には、そのボリュームは追加できません。

注: ボリューム識別コードの有効な文字は0-9およびA-Zです。

[トップ](#)

媒体クラス(MEDCLS)

追加中のボリュームの媒体クラスのユーザー定義名を指定します。媒体クラスは、媒体クラスの処理画面で検討することができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

追加する数(VOLCNT)

このセッション中に追加するボリュームの数を指定します。ボリューム識別コード(VOL)パラメーターに指定された値は、カウントの終わりに達するまで、各ボリュームが追加されるたびに1ずつ増やされます。TAPEB9といったボリュームの名前の付け方のために新しいボリューム識別コードを増やすことができない場合には、エラー・メッセージが送られます。

注: フィールドは最高5桁を保留できますが、一度に追加することができるボリュームの最大数は999個です。

1 単一のボリュームを追加します。

追加する数

追加するボリュームの数を指定してください。たとえば、「5」を指定すると5つのボリュームが追加され、各ボリュームはT00001, T00002, T00003といった具合に1ずつ増えます。最初のボリューム(上の例のT00001)はボリューム識別コード(VOL)パラメーターに指定されたボリュームです。一度に追加することができるボリュームの最大数は999です。

[トップ](#)

テープの初期設定(INZ)

追加中のボリュームが初期設定されるかどうかを指定します。

- *NO** 追加中のボリュームは初期設定されません。これは、ボリュームがBRMSの外部で初期設定されていて、ボリュームに活動データが入っている場合に使用されます。このボリュームの満了日は満了日(EXPDATE)パラメーターで指定できます。
- *YES** ボリュームはADDMEDBRMコマンドによって初期設定され、BRMS媒体インベントリに追加されます。満了日(EXPDATE)パラメーターの日付は*NONE(すべてゼロ)に設定されます。
- テープの初期設定(INZ)パラメーターに*YESを指定した場合には、装置(DEV)パラメーターを指定しなければなりません。媒体クラスが仮想密度(*VRT32K *VRT64K *VRT240K *VRT256K)を使用する場合は、カテゴリ*VRTTAPの装置を指定する必要があります。

トップ

満了日(EXPDATE)

媒体インベントリに追加される媒体ボリュームの満了日を指定します。日付を指定した場合には、ファイルはその満了日まで保護され、上書きすることはできません。

***NONE**

当該媒体は満了した媒体であって、バックアップまたは保存処理で使用できるものです。値*NONEは、そのボリュームが媒体インベントリに追加された新しいボリュームであるか、あるいはそのボリュームが再初期設定されたことを意味します。

***PERM**

当該媒体は永久保存媒体であり、バックアップまたは保存処理では使用できないものです。

満了日 媒体の保護が終了する日付を指定してください。

トップ

最後に移動された日付(MOVDATE)

媒体インベントリに追加される前に、このボリュームが移動された最終日付を指定します。

***NONE**

ユーザーはこのボリュームの最後に移動された日付を割り当てません。

移動日 このボリュームが最後に移動された日付を指定してください。

トップ

移動ポリシー(MOVPCY)

このボリュームに使用したい移動ポリシーのユーザー定義名を指定します。

注: 仮想媒体を移動することはできません。仮想ボリュームを複製する時に、移動ポリシーを出力媒体に複製できるように、そのポリシーが仮想ボリュームに割り当てられます。

***NONE**

このボリュームに移動ポリシーを割り当てません。

移動ポリシー名

この媒体ボリュームに割り当てる移動ポリシーのユーザー定義名を指定してください。

作成日(CRTDATE)

このボリュームの最初のファイルが書き込まれた日付を指定します。

*CURRENT

ユーザーは現在の日付をこのボリュームの作成日として割り当てます。

作成日 このボリュームにデータが書き出された日付を指定してください。日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

トップ

スロット番号(SLOT)

追加を選択したボリュームのスロット番号を指定します。

*NEXT

指定された位置で媒体のスロット割り当てができる場合には、使用可能な次のスロット番号を使用します。

*NONE

追加しているボリュームにスロットは割り当てられていません。

スロット番号

このボリュームに割り当てるスロット番号を指定してください。スロット番号は1-999999の任意の数とすることができます。

トップ

システム(SYSNAME)

ユーザーが追加しようとしているボリュームのシステム識別コードを指定します。

***LCL** システムがローカル・システムであることを指定します。BRMSは省略時のローカル・ロケーション名LCLLOCNAMEを使用し、システム名SYSNAMEは使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。DSPNETAコマンドを使用してシステム・ネットワーク属性を表示することができます。

ロケーション名

システムと関連したリモート・ロケーションの名前を指定してください。DSPNETA コマンドを使用することにより表示されるローカル・システムのネットワークIDが、システムのネットワークIDとして使用されます。

注: この値を使用するには、BRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

ネットワークID.ロケーション名

システムと関連したリモート・ロケーションのネットワークIDおよび名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。NNNNNNNNはネットワークIDで、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

注: この値を使用するには、BRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

テキスト(TEXT)

追加中の媒体を記述するためのテキストを指定します。

*NONE

追加中のボリュームと関連したテキストはありません。

テキスト

追加中のボリュームのテキストを指定してください。

トップ

イメージ・カタログ(IMGCLG)

仮想ボリュームである追加されるテープ・ボリュームの、イメージ・カタログの名前を指定します。仮想ボリュームを追加して初期設定する前に、追加しているボリュームのイメージ・カタログとイメージ・カタログ項目が存在しなければなりません。

注: GO CMDCLGおよびGO CMDCLGEを使用して、イメージ・カタログとイメージ・カタログ項目の管理に使用するコマンドのメニューを表示します。

*NONE

これが仮想ボリュームでないことを指定します。

イメージ・カタログ

仮想ボリュームのイメージ・カタログ項目が入っているイメージ・カタログの名前を指定します。

トップ

装置(DEV)

ボリュームの初期設定に使用されるテープ装置の名前を指定します。指定するテープ装置は、WRKDEVBRM画面に示されているように、カテゴリが*TAPまたは*TAPMLBのものでなければなりません。テープの初期設定(INZ)パラメーターに*YESを指定する時には、これは必須パラメーターです。媒体クラスが仮想密度(*VRT32K *VRT64K *VRT240K *VRT256K)を使用する場合は、カテゴリ*VRTTAPの装置を指定する必要があります。

トップ

新しい所有者識別コード(NEWOWNID)

書き込まれるボリュームのボリューム・ラベルに書き込むボリューム所有者の識別コードを指定します。

*BLANK

所有者識別フィールドはブランクに設定されます。

新しい所有者識別コード

ボリュームの所有者を識別する14桁を超えない文字を指定してください。14桁より少ない文字が指定された場合には、フィールドは左寄せされ、右側にブランクが埋め込まれます。

活動ファイルの検査(CHECK)

ラベル付きボリュームを使用するための初期設定をする前に、そのボリュームの活動データ・ファイルを検査する必要があるかどうかを指定します。指定された装置にラベルなしボリュームが入れられていた場合には、このパラメーターは無視されます。

***YES** ボリューム上のすべてのデータ・ファイル・ラベルが検査されます。活動ファイルが見つかった場合には、操作は終了され、エラー・メッセージが送られます。

***FIRST**

ボリューム上の最初のデータ・ファイル・ラベルだけが検査されます。ボリューム上にデータ・ファイルがないか、あるいは最初のデータ・ファイルが満了している場合には、ボリューム上の他のファイルを検査しないでボリュームが使用のために初期設定されます。最初のデータ・ファイルが満了していない場合には、操作は終了し、エラー・メッセージが送られます。

NO** 活動ファイルを検査せずにボリュームの初期設定が続行されます。新しいボリュームまたは空のボリュームを初期設定するにはNO**を指定し、**ボリューム識別コード(VOL)**パラメーターに***MOUNTED**を指定する必要があります。

トップ

コード(CODE)

ボリューム・ラベルが書かれる文字コードを指定します。ラベルの後に書かれた保管／復元データでないすべてのデータは、同じコードでなければならず、保管／復元ボリュームでないボリューム上でコードを混用することはできません。

***EBCDIC**

ボリューム・ラベルはEBCDICで書き出され、これはIBM標準ラベルです。すべての追加のデータもEBCDICで書き出す必要があります。

***ASCII**

ボリューム・ラベルはASCIIで書き出され、これは米国規格協会の標準ラベルです。すべての追加のデータもASCIIで書き出す必要があります。

トップ

テープの終わりオプション(ENDOPT)

使用するために初期設定された後で、ボリュームが巻き戻されるだけか、あるいは巻き戻されてアンロードされるかを指定します。

***REWIND**

ボリュームは使用できるように初期設定された後で、巻き戻されます。

***UNLOAD**

ボリュームは巻き戻されてアンロードされます。

トップ

消去(CLEAR)

使用のためにボリュームを初期設定する時に、そのボリュームからすべてのラベルおよびデータを削除するかどうかを指定します。ボリュームのすべてのデータを消去しなければならない場合には、ボリューム・ラベルまたはボリューム・マークの場所からボリュームの終わりマーカまで削除されます。

- *NO** 既存のデータは削除されません。既存のデータは削除されませんが、ボリュームが使用するために初期設定された後では、ボリューム上のデータを使用することはできません。
- *YES** ボリュームの先頭が使用のために初期設定された後で、ボリューム上の残りのデータが削除されます。

トップ

次のボリューム・メッセージ(NXTVOLMSG)

BRMSが、装置に別のボリュームを入れるようにメッセージでユーザーに通知するかどうかを指定します。

- *YES** 装置が別のボリュームを受け入れ可能になると、BRMSがメッセージを送ります。
- *NO** 装置が別のボリュームを受け入れ可能になりしだい、BRMSがユーザーにメッセージを送るようにはしません。

トップ

テープ取り付け待機(DLY)

装置上の次のボリュームの処理を開始する前に、装置を遅延させたい長さ（時間）を指定します。

- *DEV** 装置は、装置の省略時の値に基づいて次のボリュームの処理を始めます。

***IMMED**

装置は、前のボリュームが完了すると同時に次のボリュームの処理を始めます。

- 秒数** 装置が次のボリュームの処理を開始する前に待機すべき秒数を指定してください。この秒数は1-900の範囲とすることができます。

トップ

保管場所(LOC)

追加するボリュームの保管場所の名前を指定します。保管場所は、媒体およびコンテナを入れるために使用されます。保管場所はローカルとすることができます。すなわち、コンピューター・ルームまたはボリューム・インベントリあるいは保管場所または保管場所サービスなどのオフサイトです。保管場所名はユーザー定義です。

保管場所は保管場所の処理画面でセットアップされます。コマンド上の選択項目は、セットアップした場所に影響されます。

***HOME**

ボリュームは*HOMEと呼ばれる場所に割り当てられます。

ロケーション名

このボリュームの保管場所の名前を指定してください。

コンテナID (CNR)

このボリュームを追加したいコンテナの名前を指定します。コンテナは、このタイプの媒体を入れることのできるクラスのものでなければなりません。

*NONE

ユーザーはこのボリュームをコンテナに保管しません。

コンテナID名

このボリュームを保管するコンテナの名前を指定してください。

トップ

媒体の使用回数(USECNT)

媒体ボリュームが読み取りまたは書き込みされた回数を指定します。ボリュームが媒体クラス中の媒体の使用回数の限界値を超えた時には、そのボリュームは処理の対象外になり、新しいボリュームと取り替えなければなりません。使用限界値の値は、媒体クラスの処理画面で検討することができます。媒体の使用回数は、使用された回数で表現されます。

0 媒体の使用回数をゼロとして初期設定します。

媒体使用回数

媒体の使用回数を指定してください。

トップ

読み取りエラー数(READERR)

媒体インベントリー中の各媒体ボリュームごとに記録された読み取りエラーの数を指定します。読み取りエラーの数がボリュームの媒体クラスの読み取りエラー限界値に指定された値を超えた場合には、そのボリュームを新しいボリュームと取り替えなければなりません。読み取りエラー限界値は、媒体クラスの処理画面で検討することができます。読み取りエラーは読み取りエラー1つ当たりのキロバイト数で表されます。

媒体クラスの読み取りエラー限界値を決定するためには、次の指針を使用することができます。ボリュームまたはカートリッジが基準を超えている場合には、内容を新しいボリュームにコピーし、古いボリュームを破棄してください。

3570 1000メガバイトの読み取りにつき、1つの一時的な読み取りエラー。

3580 10ギガバイトの読み取りにつき、1つの一時的な読み取りエラー。

3590 10ギガバイトの読み取りにつき、1つの一時的な読み取りエラー。

3480および3490

50,000,000 KBの読み取り当たり1つの一時的な読み取りエラー。

1/4インチ・カートリッジ(10,000 BPIの密度の6341, 6346, 6366と9346, および6342と6347)

12,500 KBの読み取り当たり1つの一時的な読み取りエラー。

1/4インチ・カートリッジ(16,000 BPIの密度の6342および6347)

4,170の読み取り当たり1つの一時的な読み取りエラー。

8ミリメートル・カートリッジ(7208)

100 KBの読み取り当たり1つの一時的な読み取りエラー。

1/2インチ・ボリュウム・リール(9347)

50,000 KBの読み取り当たり1つの一時的な読み取りエラー。

1/2インチ・テープ・リール(9348および2440)

100,000 KBの読み取り当たり1つの一時的な読み取りエラー。

1/2インチ・テープ・リール(3422)

144,000 KBの読み取り当たり1つの一時的な読み取りエラー。

1つのドライブで使用されるすべてのボリュウムがこれらの基準を超える場合には、読み書きヘッドが汚れている可能性があります。ハード読み取りエラーのあるテープ・リールおよびテープ・カートリッジも破棄してください。

0 読み取りエラー数をゼロとして初期設定します。

読み取りエラー数

読み取りエラーの数を指定してください。

[トップ](#)

書き込みエラー数(WRTERR)

媒体インベントリ中の各媒体ボリュウムごとに記録された書き込みエラーの数を指定します。書き込みエラーの数がボリュウムの媒体クラスの書き込みエラー限界値に指定された値を超えた場合には、そのボリュウムを新しいボリュウムと取り替えなければなりません。書き込みエラー限界値は、媒体クラスの処理画面で検討することができます。書き込みエラーは、書き込みエラー1つ当たりのキロバイト数で表されます。

媒体クラスの書き込みエラー限界値を決定するためには、次の指針を使用することができます。ボリュウムまたはカートリッジが基準を超えている場合には、内容を新しいボリュウムにコピーし、古いボリュウムを破棄してください。

3570 250 GBの書き込みにつき、1つの一時的な書き込みエラー。

3580 10 GBの書き込みにつき、1つの一時的な書き込みエラー。

3590 1 GBの書き込みにつき、1つの一時的な書き込みエラー。

3480および3490

12,500 KBの書き込み当たり1つの一時的な書き込みエラー。

1/4インチ・カートリッジ(10,000 BPIの密度の6341, 6346, 6366と9346, および6342と6347)

1,250 KBの書き込み当たり1つの一時的な書き込みエラー。

1/4インチ・カートリッジ(16,000 BPIの密度の6342および6347)

890 KBの書き込み当たり1つの一時的な書き込みエラー。

8ミリメートル・カートリッジ(7208)

50 KBの書き込み当たり1つの一時的な書き込みエラー。

1/2インチ・テープ・リール(9347)

4,500 KBの書き込み当たり1つの一時的な書き込みエラー。

1/2インチ・テープ・リール(9348および2440)

1600 BPIの場合には、5,000 KBの書き込み当たり1つの一時的な書き込みエラー。6250 BPIの場合には、8,500 KBの書き込み当たり1つの一時的な書き込みエラー。

1/2インチ・テープ・リール(3422)

8,500 KBの書き込み当たり1つの一時的な書き込みエラー。

1つのドライブで使用されたすべてのテープがこの基準を超える場合には、読み書きヘッドが汚れている可能性があります。ハード書き込みエラーのあるボリュームおよびテープ・カートリッジを破棄してください。

0 書き込みエラー数をゼロとして初期設定します。

書き込みエラー数

書き込みエラーの数を指定してください。

[トップ](#)

読み取りバイト数(100万バイト単位) (BYTEREAD)

ボリュームの作成日以降にそのボリュームから読み取られたバイト数を(100万バイト単位で)指定します。

0 読み取りバイト数をゼロとして初期設定します。

読み取りバイト数

読み取りバイト数を(100万バイト単位で)指定してください。

[トップ](#)

書き込みバイト数(100万バイト単位) (BYTEWRT)

ボリュームの作成日以後にそのボリュームに書き込まれたバイト数を(100万バイト単位で)指定します。

0 書き込みバイト数をゼロとして初期設定します。

書き込みバイト数

書き込みバイト数を(100万バイト単位で)指定してください。

[トップ](#)

現行の書き込みバイト数(100万バイト単位) (CURBYTES)

媒体ボリュームに現在書き込まれているバイト数を(100万バイト単位で)指定します。

0 現行の書き込みバイト数をゼロとして初期設定します。

現行の書き込みバイト数

現在書き込まれているバイト数を(100万バイト単位で)指定してください。

[トップ](#)

最大書き込みバイト数(100万バイト単位) (MAXBYTES)

このボリュームに書き込みできる最大バイト数を(100万バイト単位で)指定します。

0 最大書き込みバイト数をゼロとして初期設定します。

最大書き込みバイト数

最大書き込みバイト数を(100万バイト単位で)指定してください。

最終クリーニング日(LASTCLN)

媒体ボリュームがクリーニングされた最終日付を指定します。

*NONE

最終クリーニング日の日付を指定しません。

最終クリーニング日

ボリュームがクリーニングされた最終日付を指定してください。

クリーニング以降の使用回数(USECLN)

最後のクリーニング以降の使用回数を指定します。この数がこの媒体クラスのクリーニング前使用回数パラメーターと等しいかまたはそれを超えている場合には、ボリュームをさらに使用する前にクリーニングする必要があります。クリーニング前使用回数の値は、媒体クラスの処理画面で検討することができます。

0 クリーニング以降の使用回数をゼロとして初期設定します。

クリーニング以降の使用回数

クリーニング以降の使用回数を指定してください。

例

例1: ボリュームをBRMSに追加

```
ADDMEDBRM VOL(T00001) MEDCLS(QIC1000)
```

このコマンドは、ボリュームをBRMS媒体インベントリーに追加します。この例では、ボリュームT00001が媒体クラスQIC1000に割り当てられて、BRMS媒体インベントリーに追加されます。このボリュームは初期設定されずに、期限切れとして追加されます。

例2: ボリュームを初期設定してBRMSに追加

```
ADDMEDBRM VOL(T00002) MEDCLS(QIC1000)
           INZ(*YES) DEV(TAP01)
```

このコマンドは、ボリュームT00002を媒体クラスQIC1000でBRMS媒体インベントリーに追加します。このボリュームは装置TAP01を使用して初期設定されます。

例3: 仮想ボリュームをBRMSに追加

```
ADDMEDBRM VOL(VRT001) MEDCLS(VRT256K)
           INZ(*YES) DEV(VRTTAP) IMGCLG(VRTIMGCLG)
```

このコマンドは、仮想ボリュームVRT001を媒体クラスVRT256KでBRMS媒体インベントリーに追加します。このボリュームは装置VRTTAPを使用して初期設定されます。イメージ・カタログVRTIMGCLGには、イメージ・カタログ項目VRT001が含まれています。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1134

装置&1が見つからない。

BRM133E

仮想ボリューム&2のイメージ・カタログ項目が存在していません。

BRM133F

仮想ボリューム&2のイメージ・カタログが存在していません。

BRM1713

媒体クラス&2が見つからない。

BRM1717

ボリュームを&1に名前変更することはできない。

BRM1762

ボリューム&1が初期設定されていない。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

BRMへの媒体情報の追加 (ADDMEDIBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMへの媒体情報の追加(ADDMEDIBRM)コマンドは、ファイル・レベルの詳細をBRM媒体インベントリの内容ボリューム情報に追加します。

ファイルおよびそれらが含まれるボリュームは、別のテープ・インベントリまたは他の外部のソースからのものとすることができます。

このコマンドの目的は、ボリュームおよびその内容を管理できるように、ユーザー適用業務または別のボリューム管理システムがデータ（ボリューム・ファイル記述）をBRMS媒体内容情報に挿入できるようにすることにあります。

各ボリュームごとに、複数のボリュームによって媒体情報レコードが書き出され、レコードが追加されるたびにボリューム順序が増やされます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. 満了ボリュームに追加できるのは、媒体内容情報だけです。
2. このコマンドは、特にファイル順序、ボリュームなどに関してユーザーが指定した情報に基づいて、BRMS媒体内容情報ファイルにレコードを追加します。このコマンドを使用する前に、正しい情報を慎重に適用し、コマンドを完全に理解しておくことが重要です。
3. 内容情報を追加するボリュームは、媒体インベントリの中に存在していなければならず、ボリューム、ファイル順序、およびボリューム順序はBRMS媒体インベントリの内容情報の中で固有のものとなっていなければなりません。
4. 装置(DEV)パラメーターに指定できる仮想テープ装置は1つだけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム	値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 1
VOLSEQ	ボリューム順序	1-9999	必須, 定位置 2
SEQNBR	順序番号	1-16777215	必須, 定位置 3
LABEL	ファイル・ラベル	文字値, *TYPE	オプション, 定位置 4
TYPE	タイプ	*LIB, *ALLDLO, *LINK, *QHST, *SAVCFG, *SAVSECDTA, *SAVSYS	オプション, 定位置 5
LIB	ライブラリー	名前	オプション
LNKLIST	リンク・リスト	名前, *LINK	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイルの起点	*FILE, *SAV, *SAVCFG, *SAVCHG, *SAVCHGOBJ, *SAVCHGDLO, *SAVDLO, *SAVLIB, *SAVOBJ, *SAVSECDTA, *SAVSYS	オプション
INCTYPE	増分タイプ	*CUML, *INCR	オプション
CRTDATE	入力日	日付, *CURRENT	オプション
CRTTIME	入力時刻	時刻, *CURRENT	オプション
EXPDATE	満了日	文字値, *PERM	オプション
DEV	装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション
STRVOL	開始ボリューム	文字値, *VOL	オプション
ASP	補助記憶域プール	1-255, *SYSTEM	オプション
ASPDEV	補助記憶域プール装置	名前, *NONE	オプション
FLR	フォルダー	文字値, *ANY	オプション
OBJSAV	保管されたオブジェクト数	1-999999, <u>1</u>	オプション
OBJNOTSAV	保管されなかったオブジェクト	0-999999, <u>0</u>	オプション
CTLGRP	制御グループ	名前, *NONE, *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
RCDFMT	レコード様式	<u>U</u> , F, V, *NONE	オプション
RCLEN	レコード長	0-32760, <u>0</u>	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	0-32760, <u>32760</u>	オプション
BLKCNT	ブロック数	0-999999, <u>1</u>	オプション
TEXT	テキスト	文字値, *NONE	オプション

トップ

ボリューム(VOL)

BRMS媒体インベントリーの内容情報に追加中のファイルを含むボリューム（1つまたは複数）のボリューム識別コードを指定します。ボリュームはBRMS媒体インベントリーに登録されていなければなりません。ここでは最大300のボリュームを指定することができます。

これは必須パラメーターです。

ボリューム識別コード

BRMS媒体インベントリーの内容情報に追加しようとしているファイルが入っているボリュームの識別コードを指定してください。ボリューム識別コードの長さは最大6桁です。このボリュームはBRMS媒体インベントリーにすでに存在していなければなりません。

トップ

ボリューム順序(VOLSEQ)

BRMS媒体インベントリーの内容情報に追加しようとしているファイルが入っているボリュームの順序番号を指定します。このボリューム順序番号は、追加中のファイルの先頭が入っているボリュームの順序番号です。1以外のボリューム順序をボリューム順序(VOLSEQ)パラメーターに指定する場合には、媒体セットの開始ボリュームを開始ボリューム(STRVOL)パラメーターに指定しなければなりません。ボリューム順序

(VOLSEQ)パラメーターに1を指定する場合には、ボリューム(VOL)パラメーターに指定したボリュームが開始ボリューム(STRVOL)パラメーターに指定したボリュームと一致しているか、あるいはそれが*VOLでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

順序番号(SEQNBR)

媒体インベントリに追加中のファイルの順序番号を指定します。この順序番号は、追加中のボリューム上のファイル順序です。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ファイル・ラベル(LABEL)

媒体内容情報に追加中のファイルのラベルを指定します。

*TYPE

ファイルのラベルが使用されます。

ラベル識別コード

ファイルのラベル識別コードを指定してください。

[トップ](#)

タイプ(TYPE)

BRMS媒体内容情報に追加しようとしているファイルと関連付けられる特殊値を指定します。

*LIB 追加中の情報のタイプはライブラリー情報です。タイプ(TYPE)パラメーターに*LIBを指定する場合には、ライブラリー(LIB)パラメーターにライブラリー名を指定しなければなりません。

*ALLDLO

追加中の情報のタイプは文書ライブラリー情報です。

*LINK

追加しようとする情報のタイプは統合ファイル・システム・オブジェクト情報です。

*QHST

追加中の情報のタイプはヒストリー情報です。

*SAVCFG

追加中の情報のタイプは構成情報です。

*SAVSECDTA

追加中の情報のタイプは機密保護情報です。

*SAVSYS

追加中の情報のタイプはシステム保管情報です。

ライブラリー(LIBRARY)

内容情報をBRMS媒体内容情報に追加しようとしているライブラリーのライブラリー名を指定します。**タイプ(TYPE)**パラメーターにLIBを指定している場合には、このパラメーターは必須です。

トップ

リンク・リスト(LNKLIST)

BRMS媒体内容情報に追加しようとしている統合ファイル・システム・オブジェクト情報と関連付けられるリンク・リスト名を指定します。

***LINK**

作成される項目は制御グループで使用される***LINK**タイプの保管と対応していることを指定します。

リスト名

作成される項目に対応するリスト名を指定します。

注: ユーザーが指定したリスト名は、媒体情報の処理時にバックアップ項目名として表示されません。

トップ

ファイル起点(FILE)

媒体情報ファイルに追加中のファイルの作成に使用された操作を指定します。

***FILE** 追加中のファイルは、保管操作を使用して作成されていません。

***SAV** BRMS媒体インベントリー内容情報に追加しようとしているファイルは、オブジェクト保管(SAV)コマンドを使用して作成されています。

***SAVCFG**

BRMS媒体インベントリー内容情報に追加しようとしているファイルは、構成保管(SAVCFG)コマンドを使用して作成されています。

***SAVCHG**

BRMS媒体インベントリーの内容情報に追加しようとしているファイルは、選択した参照日時を指定したSAVコマンドを使用して作成されていました。

***SAVCHGDLO**

BRMS媒体インベントリーの内容情報に追加しようとしているファイルは、選択した参照日時を指定したSAVDLOコマンドを使用して作成されていました。

***SAVCHGOBJ**

BRMS媒体インベントリー内容情報に追加しようとしているファイルは、変更オブジェクト保管(SAVCHGOBJ)コマンドを使用して作成されています。

***SAVDLO**

BRMS媒体インベントリー内容情報に追加しようとしているファイルは、文書ライブラリー・オブジェクト保管(SAVDLO)コマンドを使用して作成されています。

***SAVLIB**

BRMS媒体インベントリー内容情報に追加しようとしているファイルは、ライブラリー保管(SAVLIB)コマンドを使用して作成されています。

***SAVOBJ**

BRMS媒体インベントリー内容情報に追加しようとしているファイルは、オブジェクト保管(SAVOBJ)コマンドを使用して作成されています。

***SAVSECDTA**

BRMS媒体インベントリー内容情報に追加しようとしているファイルは、機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドを使用して作成されています。

***SAVSYS**

BRMS媒体インベントリー内容情報に追加しようとしているファイルは、システム保管(SAVSYS)コマンドを使用して作成されています。

[トップ](#)

増分タイプ(INCTYPE)

BRMS媒体内容情報に追加しようとしている内容情報の増分保管のタイプを指定します。

***CUML**

変更された項目だけを保管します。*CUMLは、増分保管には最後の全保管以降に変更されたすべてのオブジェクトが含まれることを意味します。

***INCR**

変更された項目だけを保管します。*INCRは、増分保管には最後の増分保管以降に変更されたすべてのオブジェクトが含まれることを意味します。

[トップ](#)

入力日(CRTDATE)

ファイルが作成された日付を指定します。日付は、日付区切り記号を付けるかあるいは付けないジョブ日付の形式で入力します。

***CURRENT**

ファイルの保管された日付がシステムの現在日となります。

入力日 ファイルが保管された日付を指定してください。

[トップ](#)

入力時刻(CRTTIME)

各ファイルが作成された時刻を指定します。時刻はHHMMSSの形式で表されます。ここで、HHは時間、MMは分、およびSSは秒です。

***CURRENT**

ファイルの保管された時刻がシステムの現在の時刻となります。

入力時刻

ファイルが保管された時刻を指定してください。

[トップ](#)

満了日(EXPDATE)

媒体内容情報に追加されるファイルの満了日を指定します。日付が指定された場合には、ファイルは保護され、満了日が経過するまで重ね書きすることはできません。日付は、日付区切り記号を付けるかあるいは付けないジョブ日付の形式で入力します。

***PERM**

ファイルは永久保存であり、使用することはできません。

***VER NNN**

BRMS媒体インベントリーの内容情報に保持されるバージョンの数を指定してください。たとえば、*VER 003は保管項目の3つのバージョンが保存されることを示します。保管項目の4番目のバージョンが作成された場合には、最も早いバージョンが除去され、4番目の保管バージョンに置き換えられます。

注: *VER 003はバージョン番号ではありません。これは媒体ポリシーに指定されたバージョンの数です。

満了日 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

[トップ](#)

装置(DEV)

ファイルを作成するために使用された装置（複数もある）の名前を指定してください。

単一値

***NONE**

BRMS媒体インベントリーの内容情報に追加しようとしているファイルとはどの装置も関連づけません。

その他の値（反復は最大4回まで）

装置名 BRMS媒体インベントリーの内容情報に追加しようとしているファイルと関連づけたい装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

開始ボリューム(STRVOL)

媒体情報に追加中のファイルが入っている媒体セットの開始ボリュームを指定します。たとえば、3つのボリューム媒体セットT00001、T00002、およびT00003があって、媒体セット(T00002)に4番目のファイルを追加している場合には、ボリューム(VOL)パラメーターの値はT00002、順序番号(SEQNBR)パラメーターの値は4、ボリューム順序(VOLSEQ)パラメーターの値は2、開始ボリューム(STRVOL)パラメーターはT00001になります。

***VOL** ボリューム・リストに指定された最初のボリュームが開始ボリュームです。これは、ボリューム順序が1と等しい場合にのみ真とすることができます。

ボリューム識別コード

BRMS媒体インベントリーの内容情報に追加しようとしているファイルが入っている媒体セットの先頭ボリュームであるボリューム識別コードを指定してください。

[トップ](#)

補助記憶域プール(ASP)

媒体内容情報に追加中のファイルのための補助記憶域プール番号を指定します。

***SYSTEM**

追加中の内容情報は、システム(1)補助記憶域プールから保管されています。

補助記憶域プール番号

追加中の内容情報は、この番号によって識別される補助記憶域プールから保管されています。

注: タイプ(TYPE)パラメーターに*ALLDLOまたは*SAVCALの値が指定されている場合には、補助記憶域番号は33より小さくしなければなりません。

[トップ](#)

補助記憶域プール装置(ASPDEV)

媒体内容情報に追加中のファイルのための補助記憶域プール装置を指定します。

***NONE**

追加中の内容情報は、システム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールから保管されています。ASPの値が*SYSTEMまたは1-32の場合には、*NONEを指定しなければなりません。

補助記憶域プール名

追加中の内容情報は、この名前によって識別される補助記憶域プール装置から保管されています。ASPの値が33-255の場合には、補助記憶域プールの装置名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

フォルダー(FLR)

BRMS媒体インベントリーの内容情報に追加しようとしているファイルと関連付けられるフォルダーの名前を指定します。フォルダー(FLR)パラメーターは、ライブラリー(LIB)パラメーターおよびファイル起点(FILE)パラメーターに指定されている値と対応しています。ライブラリー(LIB)パラメーターに*ALLDLOまたはQDOCを指定すると、値*ANYがフォルダー(FLR)パラメーターの省略時の値になります。ファイル起

点(FILE)パラメーターにSAVDLOまたはSAVCHGDLOを指定する場合には、ライブラリー(LIB)パラメーターにQDOCまたは*ALLDLOを指定しなければなりません。フォルダー(FLR)パラメーターの省略時の値は*ANYになります。

***ANY** 媒体内容情報に追加中のファイルには任意のフォルダーを入れることができます。

フォルダー名

媒体内容情報に追加中のファイルのフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

保管されたオブジェクト数(OBJS AV)

媒体内容情報に追加中のファイルについて保管されたオブジェクトの数を指定します。

1 保管されたオブジェクトの数は1です。

保管されたオブジェクトの数

保管されたオブジェクトの数を指定してください。

[トップ](#)

保管されなかったオブジェクト数(OBJNOTSAV)

媒体内容情報に追加中のファイルについて保管されなかったオブジェクトの数を指定します。

0 保管されなかったオブジェクトの数は0です。

保管されなかったオブジェクトの数

保管されなかったオブジェクトの数を指定してください。

[トップ](#)

制御グループ(CTLGRP)

媒体内容情報に追加中のファイルに関連づけたい制御グループを指定します。

***NONE**

媒体内容情報に追加中のファイルを制御グループと関連づけたくない場合です。

***ARCGRP**

媒体内容情報に追加中のファイルが保存制御グループと関連づけられるようにします。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKUGRP**

媒体内容情報に追加しようとしているファイルがユーザー・データ・バックアップ制御グループと関連づけられるようにします。

***SYSGRP**

媒体内容情報に追加しようとしているファイルがシステム・データ制御グループと関連づけられるようにします。

*SYSTEM

媒体内容情報に追加しようとしているファイルがシステム全体バックアップ制御グループと関連づけられるようにします。

制御グループ名

追加中のファイルを関連づけることを定義した制御グループ名を指定してください。

[トップ](#)

レコード様式(RCDFMT)

媒体内容情報に追加中のファイルのレコード様式を指定します。

U 媒体内容情報に追加中のファイルについてレコード様式は未定義です。

F 媒体内容情報に追加中のファイルについて、レコード様式は固定長レコードです。

V 媒体内容情報に追加中のファイルについて、レコード様式は可変長レコードです。

*NONE

媒体内容情報に追加中のファイルと関連したレコード様式はありません。

[トップ](#)

レコード長(RCDLEN)

ファイルのレコード長を指定します。

- 固定長レコード=各レコード中のバイト数
- 可変長レコード=各レコード中の最大バイト数
- 未定義の様式=ゼロ

0 レコード長はゼロです。

レコード長

ファイル中のレコードのレコード長を指定してください。

[トップ](#)

ブロック長(BLKLEN)

各ブロック中のバイト数を指定します。

32760 ブロック長は32760バイトです。

ブロック長

このファイルのブロック長を指定してください。

[トップ](#)

ブロック数(BLKCNT)

ブロック数を指定します。

1 ブロック数は1です。

ブロック数

このファイルのブロック数を指定してください。

[トップ](#)

テキスト(TEXT)

媒体内容情報に追加中のファイルについてのテキスト情報を指定します。

***NONE**

媒体内容についてテキストは指定されません。

テキスト

媒体内容を記述するテキストを指定してください。

[トップ](#)

例

例1: 内容をボリュームに追加

```
ADDMEDIBRM TYPE(*ALLDLO) VOL(T00001)
           SEQNBR(1) VOLSEQ(1)
```

このコマンドは、ボリュームT00001の媒体インベントリー内容情報に項目を追加します。このボリュームの内容は更新されて、最初のボリュームにファイル順序番号1として入っている文書ライブラリーの保管を示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMへの媒体LIB媒体の追加 (ADDMLMBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMへの媒体ライブラリー媒体の追加(ADDMLMBRM)コマンドにより、媒体ライブラリー(MLB)にボリュームを追加することができます。このコマンドは、指定された媒体ボリュームを使用可能なカテゴリーに追加し、任意選択でそれらをBRMSに登録します。BRMへのボリューム追加(ADDVOL)パラメーターが*YESの場合には、追加しようとしている1つまたは複数のボリュームの媒体クラスを指定できます。BRMへのボリューム追加(ADDVOL)パラメーターとテープの初期設定(INZ)パラメーターが両方とも*YESの場合には、ポリシー移動や初期設定情報などの追加のパラメーターが提供されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MLB	媒体ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリュームID	単一値: <u>*INSERT</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 2
ADDVOL	BRMへのボリュームの追加	<u>*YES</u> , *NO	オプション
INZ	テープの初期設定	* <u>NO</u> , *YES	オプション
MEDCLS	媒体クラス	名前	オプション
MOVDATE	最後に移動された日付	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
MOVPCY	移動ポリシー	名前, <u>*NONE</u>	オプション
EXPDATE	満了日	文字値, <u>*NONE</u> , *PERM	オプション
DEV	装置	名前, <u>*MLB</u>	オプション
NEWOWNID	新規所有者ID	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
CHECK	活動ファイルの検査	<u>*YES</u> , *FIRST, *NO	オプション
CODE	コード	<u>*EBCDIC</u> , *ASCII	オプション
CLEAR	消去	* <u>NO</u> , *YES	オプション

[トップ](#)

媒体ライブラリー(MLB)

媒体を追加しようとしている媒体ライブラリーの名前を指定します。MLBは、BRMSがその媒体ライブラリーの処理画面にリストするものでなければなりません。

[トップ](#)

ボリューム識別コード(VOL)

BRMS媒体インベントリに追加しようとしている媒体のボリューム識別コードを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

*INSERT

MLBの挿入カテゴリの中にあるボリューム識別コードがBRMへのボリューム追加(ADDVOL)パラメーターに指定された値に基づいてMLB内の使用可能カテゴリに変更されます。BRMへのボリューム追加(ADDVOL)パラメーターに指定された値が*NOの場合には、すでにBRMSに登録されている値だけが挿入カテゴリから使用可能カテゴリに変更されます。BRMへのボリューム追加(ADDVOL)パラメーターに指定された値が*YESの場合には、現在BRMSに登録されているボリュームと、現在BRMSに登録されていない挿入カテゴリになっているボリュームがBRMSに追加されて、挿入カテゴリから使用可能カテゴリに変更されます。

その他の値（反復は最大300回まで）

ボリューム識別コード

MLBの中で挿入カテゴリから使用可能カテゴリに変更したい1つまたは複数のボリュームの識別コードを指定してください。

[トップ](#)

BRMへのボリューム追加(ADDVOL)

ボリューム識別コード(VOL)パラメーターに指定されたボリュームをBRMS媒体インベントリに追加するかどうかを指定します。

*YES 指定したボリュームがBRMS媒体インベントリに追加されるようにします。*YESを指定すると、媒体クラス(MEDCLS)パラメーターに媒体クラスを指定するように求められます。

*NO 指定したボリュームがBRMS媒体インベントリに追加されるようにしません。

[トップ](#)

テープの初期設定(INZ)

ボリューム識別コード(VOL)パラメーターに指定されたボリュームを初期設定するかどうかを指定します。ADDVOL=*NOの場合には、このパラメーターは無視されます。

*NO 指定されたボリュームが様式設定されないようにします。

*YES 指定されたボリュームが様式設定されるようにします。*YESを指定した場合には、装置および初期設定情報を指定するよう求められます。

[トップ](#)

媒体クラス(MEDCLS)

追加するボリュームの媒体クラスの名前を指定します。媒体クラスは、媒体クラスの処理画面で検討することができます。

媒体クラスは、媒体ライブラリーに追加されるボリュームのカテゴリーを判別するためにも使用されます。媒体クラスの**共用媒体属性**が*NOである場合には、カテゴリーは*INSERTから*NOSHAREに変更されます。そうでない場合には、カテゴリーは*SHARE400に変更されます。

ADDVOL=*YESの場合は、これは必須パラメーターです。ADDVOL=*NOの場合には、このパラメーターは無視されます。

ボリュームを追加している場合には、これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

最後に移動された日付(MOVDATE)

媒体インベントリーに追加される前に、この媒体ボリュームが最後に移動された時の日付を指定します。

ADDVOL=*NOの場合には、このパラメーターは無視されます。

*NONE

この媒体ボリュームの最後に移動された日付を割り当てません。

移動日 このボリュームが最後に移動された日付を指定してください。

[トップ](#)

移動ポリシー(MOVPCY)

このボリュームに使用したい移動ポリシーのユーザー定義名を指定します。

ADDVOL=*NOの場合には、このパラメーターは無視されます。

*NONE

このボリュームに移動ポリシーを割り当てません。

移動ポリシー名

このボリュームの移動を管理する移動ポリシーの名前を指定してください。

[トップ](#)

満了日(EXPDATE)

媒体インベントリーに追加されるボリュームの満了日を指定します。日付を指定した場合には、ファイルはその満了日まで保護され、上書きすることはできません。

ADDVOL=*NOの場合には、このパラメーターは無視されます。

*NONE

媒体は、活動データを含まず、バックアップおよび保存処理に使用できるものと理解されます。ボリュームが新しいボリュームである場合、またはボリュームが前に使用されたボリュームであってデータが満了している場合には、*NONEを使用してください。

*PERM

当該媒体は永久保存媒体であり、バックアップまたは保存処理では使用できないものです。

満了日 ボリューム上のデータの必要性がなくなつたと判断されて上書きが可能となる日付を指定してください。日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

トップ

装置(DEV)

指定したボリュームの初期設定に使用したい装置の名前を指定します。装置の場所と**媒体ライブラリー (MLB)**パラメーターに指定された**MLB**の場所は同じでなければなりません。

ADDVOL=*NOの場合には、このパラメーターは無視されます。

***MLB** 指定した**MLB**と関連するすべての装置は、指定したボリュームを初期設定するのに使用することができます。

装置名 指定したボリュームの初期設定に使用したい装置のユーザー定義名を指定してください。

トップ

新しい所有者識別コード(NEWOWNID)

書き込まれるボリュームのボリューム・ラベルに書き込むボリューム所有者の識別コードを指定します。

注: ADDVOL=*NOの場合には、このパラメーターは無視されます。

***BLANK**

所有者識別フィールドはブランクに設定されます。

新しい所有者識別コード

ボリュームの所有者を識別する14桁を超えない文字を指定してください。14桁より少ない文字が指定された場合には、フィールドは左寄せされ、右側にブランクが埋め込まれます。

トップ

活動ファイルの検査(CHECK)

ラベル付きボリュームを使用するための初期設定をする前に、そのボリュームの活動データ・ファイルを検査する必要があるかどうかを指定します。指定された装置にラベルなしボリュームが入れられていた場合には、このパラメーターは無視されます。

ADDVOL=*NOの場合には、このパラメーターは無視されます。

***YES** ボリューム上のすべてのデータ・ファイル・ラベルが検査されます。活動ファイルが見つかった場合には、操作は終了され、エラー・メッセージが送られます。

***FIRST**

ボリューム上の最初のデータ・ファイル・ラベルだけが検査されます。ボリューム上にデータ・ファイルがないか、あるいは最初のデータ・ファイルが満了している場合には、ボリューム上の他のファイルを検査しないでボリュームが使用のために初期設定されます。最初のデータ・ファイルが満了していない場合には、操作は終了し、エラー・メッセージが送られます。

NO** 活動ファイルを検査せずにボリュームの初期設定が続行されます。新しいボリュームまたは空のボリュームを初期設定するにはここに*NOを指定し、**ボリューム識別コード(VOL)**パラメーターにMOUNTED**を指定する必要があります。

トップ

コード(CODE)

ボリューム・ラベルが書かれる文字コードを指定します。ラベルの後に書かれた保管／復元データでないすべてのデータは、同じコードでなければならず、保管／復元ボリュームでないボリューム上でコードを混用することはできません。

ADDVOL=*NOの場合には、このパラメーターは無視されます。

***EBCDIC**

ボリューム・ラベルはEBCDICで書き出され、これはIBM標準ラベルです。すべての追加のデータもEBCDICで書き出す必要があります。

***ASCII**

ボリューム・ラベルはASCIIで書き出され、これは米国規格協会の標準ラベルです。すべての追加のデータもASCIIで書き出す必要があります。

トップ

消去(CLEAR)

使用のためにボリュームを初期設定する時に、そのボリュームからすべてのラベルおよびデータを削除するかどうかを指定します。ボリュームのすべてのデータを消去しなければならない場合には、ボリューム・ラベルまたはテープ・マークの場所からテープの終わりマーカまで削除されます。

ADDVOL=*NOの場合には、このパラメーターは無視されます。

***NO** 既存のデータは削除されません。既存のデータは削除されませんが、ボリュームが使用するために初期設定された後では、ボリューム上のデータを使用することはできません。

***YES** ボリュームの先頭が使用のために初期設定された後で、ボリューム上の残りのデータが削除されます。

トップ

例

例1: ボリュームを媒体ライブラリーに追加

```
ADDMLMBRM MLB(MLB01) VOL(T00001)
          INZ(*NO) ADDVOL(*NO)
```

このコマンドは、ボリュームT00001を媒体ライブラリーに追加しますが、そのボリュームは初期設定されません。ボリュームT00001はBRMS媒体ライブラリーのメンバーでなければなりません。

例2: ボリュームをBRMSに追加して初期設定

```
ADDMLMBRM MLB(MLB01) VOL(*INSERT)
          INZ(*YES) MEDCLS(CART3490E)
```

このコマンドは、*INSERTカテゴリーのすべてのボリュームを媒体ライブラリーMLB01に追加して、それらのボリュームをクラスCART3490Eの媒体としてBRMS媒体インベントリーに追加します。ボリュームは媒体クラスCART3490Eに指定された密度で初期設定されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1134

装置&1が見つからない。

BRM1342

ボリュームID &2が正しくありません。

BRM1707

媒体ライブラリー&1が見つからないか、または定義されていない。

BRM1763

装置&1は使用できません。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM使用のライブラリーの分析 (ANZLIBBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したライブラリーの分析(ANZLIBBRM)コマンドは、バックアップしなかったライブラリーだけでなく、バックアップしたライブラリーの分析も印刷します。ライブラリーのサイズおよびオブジェクトの数は各ライブラリーごとにリストされます。

ANZLIBBRMコマンドを実行する前に、最初にディスク情報検索(RTVDSKINF)コマンドを実行していなければなりません。RTVDSKINF コマンドは、ANZLIBBRMがユーザーのライブラリーを分析するために必要なファイルを作成します。

RTVDSKINFコマンドは、BRMSバックアップ分析パネル(GO BRMBKUANL)から**オプション1=ディスク・スペース情報の検索**を使用して実行することができます。システムに補助記憶域プール装置がある場合には、それぞれの補助記憶域プール装置ごとに1回ずつRTVDSKINFコマンドを複数回実行する必要があります。

注: RTVDSKINFコマンドは、ユーザーがシステム配布ディレクトリーに登録されている必要があります。配布ディレクトリー項目を作成するには、ディレクトリー項目の処理(WRKDIRE)コマンドを使用してください。

ANZLIBBRMコマンドは、RTVDSKINFジョブが完了した後で1回実行する必要があるだけです。RTVDSKINFコマンドは、RTVDSKINFのジョブ名を使用して、QBATCHジョブ待ち行列に投入されます。ANZLIBBRMコマンドを実行する前に、QBATCHサブシステムのすべてのRTVDSKINFジョブの完了をモニターしてください。

ANZLIBBRMコマンドで作成される報告書は、ライブラリー・バックアップ分析報告書です。基本システム報告書に加えて補助記憶域プール装置にRTVDSKINFコマンドを実行する場合には、複数の報告書があります。報告書はシステムおよび補助記憶域プールの印刷装置ファイルQP1ALAと、補助記憶域プール装置の印刷装置ファイルQP1ALANNNNNに書き込まれます。この場合に、NNNNNはASP識別コードです。

このコマンドにはパラメーターはありません。

このコマンドは、システム・ポリシーにリストされている最初の装置を使用して、報告書に示されている**転送速度**項目を判別します。転送速度の省略時の値は、オペレーティング・システムによって報告された装置転送速度です。装置の転送速度は**BRMを使用した装置処理(WRKDEVBRM)**コマンドを使用し、**装置処理**パネルから**オプション2=変更**を選択して、**テープ装置変更画面の1秒当たり転送速度**プロンプトの値を変更することによって変更できます。

BRMSがシステム・ポリシーに指定された装置を見つけられない場合には、報告書に使用する転送速度はゼロとなり、報告書の推定時間もゼロになって、報告書の下部に次のメッセージが印刷されます。

エラー: 装置情報項目が存在しないか、またはシステム・ポリシーに省略時の装置が指定されていません。

このコマンドは、システム・ポリシーにリストされている媒体クラスを使用して、報告書に示されている**媒体容量**項目を判別します。媒体容量の省略時の値は、その媒体クラスに対してBRMSによって設定された固

定値になります。媒体クラスの媒体容量は、**BRM**を使用した**クラス処理(WRKCLSBRM)**コマンドを使用し、**媒体クラス処理**パネルから**オプション2=変更**を選択して、**媒体クラス変更画面**で**媒体容量**プロンプトの値を変更することによって変更できます。

BRMSがシステム・ポリシーに指定された媒体クラスを見つけられない場合には、報告書に使用する媒体容量はゼロになり、推定ボリュームもゼロになって、報告書に次のメッセージが印刷されます。

エラー：省略時の媒体クラスが設定されていないか、システム・ポリシーに指定されていません。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

例1: 基本システムの分析

```
GO BRMBKUANL
1. ディスク・スペース情報の検索
RTVDSKINF ASPDEV(*SYSBAS)
ANZLIBBRM
```

これらのコマンドは、システムおよび基本ユーザー補助記憶域プールのディスク情報を検索します。検索されたデータの分析で報告書QP1ALAが生成されます。

例2: 補助記憶域プールPRIMETIMEの分析

```
GO BRMBKUANL
1. ディスク・スペース情報の検索
RTVDSKINF ASPDEV(PRIMETIME)
ANZLIBBRM
```

これらのコマンドは、装置記述PRIMETIMEを使用し、補助記憶域プール35として構成されている補助記憶域プール装置のディスク情報を検索します。検索されたデータの分析で報告書QP1ALA00035が生成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

リンク・リストの変更 (CHGLNKLBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リンク・リスト変更(CHGLNKLBRM)により、バックアップまたは保存処理に使用されるオブジェクトのリストを変更することができます。完全に修飾されたオブジェクト名を組み込むことができ、リストにオブジェクトを組み入れたり除外することもできます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. CHGLNKLBRMコマンドは、IS/OSオブジェクト保管(SAV)コマンドおよびオブジェクト復元(RST)コマンドを使用して、CHGLNKLBRMコマンドに入力したリストを処理します。これらの制約はSAVおよびRSTコマンドのヘルプ情報で調べることができます。
2. BRMを使用したオブジェクト保管(SAVBRM)コマンドを使用してQDLSまたはQSYS.LIBを保管することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIST	リスト	文字値	オプションル、定位置 1
TYPE	使用タイプ	*BKU, *ARC	オプションル
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し); 要素リスト	オプションル
	要素 1: NAME	パス名	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
SUBTREE	ディレクトリー・サブツリー	*ALL, *DIR, *NONE, *OBJ	オプションル
TEXT	テキスト	文字値	オプションル

[トップ](#)

リスト(LIST)

統合ファイル・システム・オブジェクトを含めるように変更しているリストの名前。このリストは、既存のBRMSリンク・リストでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

使用状況タイプ(TYPE)

処理のために1つにグループ化している項目の所要の使用状況タイプを指定します。

***BKU** リストはバックアップ処理で使用されます。

***ARC** リストは保存処理で使用されます。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

トップ

オブジェクト(OBJ)

保管したいオブジェクトのリストに組み込むかまたはリストから除外したいオブジェクトを指定します。最大300個のオブジェクト名パターンを指定することができます。

これは必須パラメーターです。

要素1: 名前

''** 現行ディレクトリー中のオブジェクトが保管されます。

'オブジェクト・パス名パターン'

オブジェクト・パス名または多くの名前と一致できるパターンを指定してください。

制約事項:

- リンク・リストにQDLSまたはQSYS.LIBオブジェクトをリストすることはできません。こうしたファイル・システムのオブジェクトには、適切な***OBJ**または***FLR**リストを使用してください。こうしたファイル・システムにオブジェクトのリストを作成するには、**BRM**を使用したリストの処理(WRKLBRM)コマンドを使用してください。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の部分は、そのパターンと一致する名前を操作に組み込むかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する際には、関係を示す名前パターンが常に現行作業ディレクトリーと比較してテストされることに注意してください。**ディレクトリー・サブツリー(SUBTREE)**パラメーターは、サブツリーを組み込むか除外するかを決定します。

***INCLUDE**

***OMIT**指定によって一時変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトが保管されます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは保管されません。これは***INCLUDE**の指定を一時変更し、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

トップ

ディレクトリー・サブツリー(SUBTREE)

ディレクトリー・サブツリーを処理するかどうかを指定します。

***ALL** オブジェクト名パターンと一致する各ディレクトリーのサブツリー全体が処理されます。

***DIR** オブジェクト名パターンと一致する各ディレクトリーの第1レベルにあるオブジェクトが処理されます。

***NONE**

サブツリーは保管操作に含まれません。ディレクトリーが指定されたオブジェクト名パターンと一致する場合には、そのディレクトリー中のオブジェクトは含まれます。ディレクトリーにサブディレクトリーがある場合には、そのサブディレクトリーもサブディレクトリー中のオブジェクトも含まれません。

***OBJ** オブジェクト名パターンと正確に一致するオブジェクトだけが処理されます。オブジェクト名のパターンがディレクトリーを指定している場合には、そのディレクトリーの中のオブジェクトは含まれません。

[トップ](#)

テキスト(TEXT)

統合ファイル・システム・オブジェクト・リストについて記述するテキストを指定します。

テキスト

統合ファイル・システム・オブジェクト・リストを記述するテキストを指定してください。

[トップ](#)

例

例1: リンク・リストの変更

```
CHGLNKLBRM LIST(MYLIST) USE(*BKU)
      OBJ(('/*' *INCLUDE) ('/QSYS.LIB/' *OMIT)
          ('/QDLS/' *OMIT) ('/NOTES/DATA/' *OMIT))
```

この例では、統合ファイル・システム・オブジェクトのリストに、QSYS.LIBおよびQDLSファイル・システムを除く全システムと/NOTES/DATAディレクトリーが組み込まれます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用した媒体の変更 (CHGMEDBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した媒体の変更(CHGMEDBRM)コマンドは、BRMS媒体インベントリー中の媒体ボリュームの1つまたは複数の属性を変更します。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

- 適切な権限なしに媒体を変更することがないようにCHGMEDBRMコマンドに対する権限をPUBLIC(*CHANGE)からより制限された権限に変更するには、十分考慮する必要があります。
- 仮想テープ・ボリュームの変更では、以下の制約事項が適用されます。
 - 仮想ボリュームの密度（イメージ・カタログ項目）は媒体クラスの密度と同じでなければなりません。
 - 仮想テープ媒体は現行システムの記憶域内になければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリュームID	文字値	必須, キー, 定位置1
MEDCLS	媒体クラス	名前, <u>*SAME</u>	オプション
EXPDATE	満了日	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE, *PERM	オプション
MOVDATE	最後に移動された日付	日付, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
MOVPCY	移動ポリシー	名前, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
CRDATE	作成日	日付, <u>*SAME</u>	オプション
VOLSEC	ボリュームの保護	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
SLOT	スロット番号	1-999999, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
SYSNAME	システム	名前, <u>*SAME</u> , *LCL	オプション
TEXT	テキスト	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション

[トップ](#)

ボリューム識別コード(VOL)

BRMS媒体インベントリー中で変更しようとしているボリュームのボリューム識別コードを指定します。

これは必須パラメーターです。

ボリューム識別コード

媒体インベントリー中の変更するボリュームの識別コードを指定してください。ボリューム識別コードの長さは最大6桁です。

注: ボリューム識別コードの有効な文字は0-9およびA-Zです。

[トップ](#)

媒体クラス(MEDCLS)

変更中のボリュームの媒体クラスのユーザー定義名を指定します。媒体クラスは、媒体クラスの処理画面で検討することができます。

*SAME

パラメーターに現在割り当てられているものと同じ値を使用します。

媒体クラス

変更したい(変更後の)媒体クラスを指定してください。

[トップ](#)

満了日(EXPDATE)

媒体インベントリーの中の変更される媒体ボリュームの満了日を指定します。日付を指定した場合には、ファイルはその満了日まで保護され、上書きすることはできません。

ボリュームの満了日を変更すると、そのボリューム上にデータがあるすべての項目について満了日が変わります。項目のデータが複数のボリュームにわたっている場合には、それらのボリュームについても満了日が変わることがあります。その他のボリュームの満了日は、変更された日付がずっと後の日付であるか、あるいは変更された項目がそのボリュームにデータのある唯一の項目である場合にだけ、変更されません。

*SAME

媒体に現在割り当てられている満了日は変更されません。

*NONE

当該媒体は満了した媒体であって、バックアップまたは保存処理で使用できるものです。

*PERM

当該媒体は永久保存媒体であり、バックアップまたは保存処理では使用できないものです。

満了日 媒体の保護が終了する日付を指定してください。

[トップ](#)

最後に移動された日付(MOVDATE)

この媒体ボリュームが移動された最終日付を指定します。

***SAME**

ボリュームに現在割り当てられている最後に移動された日付が変更されないようにします。

***NONE**

この媒体ボリュームの最後に移動された日付を割り当てません。

最終移動日

このボリュームが最後に移動された日付を指定してください。

[トップ](#)

移動ポリシー(MOVPCY)

変更したいこのボリュームの移動ポリシーのユーザー定義名。

注: 仮想媒体を移動することはできません。仮想ボリュームを複製する時に、移動ポリシーを出力媒体に複製できるように、そのポリシーが仮想ボリュームに割り当てられます。

***SAME**

ユーザーは、ボリュームに現在割り当てられているものと同じ移動ポリシーを使用することを望んでいます。

***NONE**

このボリュームに移動ポリシーを割り当てません。

移動ポリシー名

この媒体ボリュームに割り当てる移動ポリシーのユーザー定義名を指定してください。

[トップ](#)

作成日(CRTDATE)

このボリュームにデータが書き出された日付を指定します。

***SAME**

ボリュームに現在割り当てられている作成日を変更しません。

作成日 このボリュームにデータが書き出された日付を指定してください。

[トップ](#)

ボリュームの保護(VOLSEC)

このボリュームへのアクセス権をもつ人を変更するかどうかを指定します。

***SAME**

ボリュームのアクセス可能性を変更しません。

***NO** このボリュームは機密保護されていません。

***YES** このボリュームは機密保護されています。特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけがこのボリュームを読み取ることができます。

[トップ](#)

スロット番号(SLOT)

変更を選択したボリュームのスロット番号を指定します。

*SAME

ボリュームに現在割り当てられているスロット番号を変更しません。

*NONE

変更しているボリュームにスロットは割り当てられていません。

スロット番号

このボリュームに割り当てるスロット番号を指定してください。スロット番号は1-999999の任意の数とすることができます。

[トップ](#)

システム(SYSNAME)

変更するために選択したボリュームのシステム識別コードを指定します。

*SAME

このボリュームに現在割り当てられているシステム識別コードを変更しません。

***LCL** システムがローカル・システムであることを指定します。BRMSは省略時のローカル・ロケーション名LCLLOCNAMEを使用し、システム名SYSNAMEは使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。DSPNETAコマンドを使用してシステム・ネットワーク属性を表示することができます。

ロケーション名

システムと関連したリモート・ロケーションの名前を指定してください。DSPNETA コマンドを使用することにより表示されるローカル・システムのネットワークIDが、システムのネットワークIDとして使用されます。

注: この値を使用するには、BRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

ネットワークID.ロケーション名

システムと関連したリモート・ロケーションのネットワークIDおよび名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。NNNNNNNNはネットワークIDで、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

注: この値を使用するには、BRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

[トップ](#)

テキスト(TEXT)

変更中の媒体を記述するテキストを指定します。

*SAME

ボリュームを記述するテキストが変更されないようにします。

*NONE

このボリュームを説明するテキストは指定されていません。

テキスト

ボリュームを記述するテキストを指定してください。

イメージ・カタログ(IMGCLG)

変更しているテープ・ボリュームのイメージ・カタログ名を指定します。イメージ・カタログ名を指定した場合、そのボリュームを使用するには、そのボリュームのイメージ・カタログとイメージ・カタログ項目が存在しなければなりません。

注: GO CMDCLGおよびGO CMDCLGEを使用して、イメージ・カタログとイメージ・カタログ項目の管理に使用するコマンドのメニューを表示します。

*SAME

パラメーターに現在割り当てられているものと同じ値を使用します。

*NONE

これが仮想ボリュームでないことを指定します。

イメージ・カタログ

仮想ボリュームのイメージ・カタログ項目が入っているイメージ・カタログの名前を指定します。

トップ

例

例1: BRMSのボリュームの変更

```
CHGMEDBRM VOL(T00001) MEDCLS(QIC1000)
      EXPDATE(*PERM) MOVDATE('2/12/03')
```

このコマンドは、ボリュームT00001の媒体情報を変更します。媒体クラスがQIC1000に変更され、満了日が*PERMに変更されて、最終移動日が2003年2月12日に変更されています。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1147

ボリューム&1が見つかりませんでした。

BRM133E

仮想ボリューム&2のイメージ・カタログ項目が存在していません。

BRM133F

仮想ボリューム&2のイメージ・カタログが存在していません。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

ジョブ・スケジューラーの変更 (CHGSCDBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMSはI5/OSジョブ・スケジューラーを省略時のジョブ・スケジューラーとして使用します。また、省略時のジョブ・スケジューラーとしてIBM JOB SCHEDULER FOR ISERIESジョブ・スケジューラーの使用を選択するか、あるいは省略時として他のI5/OSジョブ・スケジューラーを選択することもできます。

BRMのジョブ・スケジューラーの変更(CHGSCDBRM)コマンドは、BRMSによって使用されるジョブ・スケジューラー・インターフェースを変更します。ユーザーは、I5/OSジョブ・スケジューラー（これが省略時の値）、IBM JOB SCHEDULER FOR ISERIES,あるいはユーザーが選択する別のジョブ・スケジューラーを使用することができます。ユーザーは、BRMSがジョブ・スケジューリング項目の追加、リスト、および選択のために使用するコマンドを変更できます。また、BRMSがこれらのコマンドを使用する時に、ユーザーに対してプロンプトが出されるようにしたいかどうかも指定できます。

値をBRMSからスケジューラーに渡すために、次の置換変数をこれらのコマンドで使用できます。

- &JOBNAME - QBRMBKUPまたはQBRMARC
- &REQUEST - STRARCBRMまたはSTRBKUBRMのいずれかとなります
- &APPL - BRMS
- &GROUP -制御グループ名

これらを操作要件に合わせて変更するか、あるいは省略時の値の使用を選択することができます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	スケジューラーのタイプ	<u>*SYSTEM</u> , *IJS, *USRDFN	オプション、位置 1
ADDCMD	ジョブの追加コマンド	文字値, <u>*SAME</u> , *IJS, *SYSTEM	オプション
ADDPMT	追加のためのコマンド・プロンプト	<u>*NO</u> , *YES	オプション
LISTCMD	ジョブのリスト・コマンド	文字値, <u>*SAME</u> , *IJS, *SYSTEM	オプション
LISTPMT	リストのためのコマンド・プロンプト	<u>*NO</u> , *YES	オプション
SLTCMD	ジョブの選択コマンド	文字値, <u>*SAME</u> , *IJS, *SYSTEM	オプション
SLTPMT	選択のためのコマンド・プロンプト	<u>*NO</u> , *YES	オプション

スケジューラー・タイプ(TYPE)

BRMS制御グループおよびコマンドをスケジュールするために使用したいスケジューラーを指定します。BRMSで、商用またはユーザー開発の任意のスケジューラーを使用できます。

***SYSTEM**

BRMSがI5/OSジョブ・スケジューラーとその関連コマンドのセットを使用することを指定します。

注: スケジューラー・タイプ(TYPE)パラメーターに*SYSTEMを指定すると、ADDCMD, ADDPMT, LISTCMD, LISTPMT, SLTCMD,およびSLTPMT パラメーターは無視されます。

***IJS** BRMSがIBM JOB SCHEDULER FOR ISERIESとその関連したコマンド・セットを使用することを指定します。

注: スケジューラー・タイプ(TYPE)パラメーターに*IJSを指定すると、ADDCMD, ADDPMT, LISTCMD, LISTPMT, SLTCMD,およびSLTPMTパラメーターは無視されます。

***USRDFN**

ユーザーが別のスケジューリング・パッケージ・コマンドのセットを使用したいか、あるいはBRMSがI5/OSジョブ・スケジューラーを開始する方法を変更したいことを指定します。

注: スケジューラー・タイプ(TYPE)パラメーターに*USRDFNを指定すると、すべてのジョブ・スケジューラー・コマンドが表示されて変更することができます。

トップ

ジョブの追加コマンド(ADDCMD)

ジョブ・スケジュール項目を追加するためにBRMSによって使用される代替コマンドを指定します。ジョブ・スケジューラーにジョブを追加できるBRMS機能に入っている場合には、ここに指定するコマンドが、BRMSの省略時のコマンドの代りに開始されます。

***SAME**

使用されるコマンドは変更されません。

***IJS** ジョブをジョブ・スケジュールに追加するためのJOB SCHEDULER FOR ISERIESのコマンドが使用されます。

***SYSTEM**

ジョブをジョブ・スケジュールに追加するためのI5/OSのコマンドが使用されます。

ユーザー・コマンド

ジョブ・スケジュール項目の追加時にBRMSが使用するようにしたいコマンドを指定してください。

トップ

追加用のコマンド・プロンプト(ADDPMT)

BRMSが、ジョブの追加コマンド(ADDCMD)パラメーターに指定されたコマンドのプロンプトを出すかどうかを指定します。

***NO** コマンドは、BRMSによって開始されるとプロンプトを出しません。

***YES** コマンドは、BRMSによって開始されるとプロンプトを出します。

トップ

ジョブ・リスト・コマンド(LISTCMD)

ジョブ・スケジュールですべてのジョブをリストするためにBRMSによって使用される代替コマンドを指定します。ジョブ・スケジュールですべてのジョブをリストできるBRMS機能に入っている時には、ここに指定するコマンドが開始されます。

***SAME**

使用されるコマンドは変更されません。

***IJS** ジョブ・スケジュール中のすべてのジョブをリストするためにJOB SCHEDULER FOR ISERIESのコマンドが使用されます。

***SYSTEM**

ジョブ・スケジュール中のすべてのジョブをリストするためにI5/OSのコマンドが使用されます。

ユーザー・コマンド

ジョブ・スケジュール中のすべてのジョブをリストする時に使用したいコマンドを指定してください。

トップ

リスト用のコマンド・プロンプト(LISTPMT)

BRMSが、ジョブのリスト・コマンド(LISTCMD)パラメーターに指定されたコマンドのプロンプトを出すかどうかを指定します。

***NO** コマンドは、BRMSによって開始されるとプロンプトを出しません。

***YES** コマンドは、BRMSによって開始されるとプロンプトを出します。

トップ

ジョブ選択コマンド(SLTCMD)

ジョブ・スケジュールで選択したジョブをリストするためにBRMSによって使用される代替コマンドを指定します。ジョブ・スケジュール中のBRMSジョブのリストを選択することのできるBRMS機能に入っている時には、ここに指定するコマンドが開始されます。

***SAME**

使用されるコマンドは変更されません。

***IJS** ジョブ・スケジュール中のジョブを選択するためにJOB SCHEDULER FOR ISERIESのコマンドが使用されます。

***SYSTEM**

ジョブ・スケジュール中のジョブを選択するためにI5/OSのコマンドが使用されます。

ユーザー・コマンド

ジョブ・スケジュール中のBRMSジョブをリストする時にBRMSが使用するようになりたいコマンドを指定してください。

トップ

リスト用のコマンド・プロンプト(SLTPMT)

BRMSが、ジョブの選択コマンド(SLTCMD)パラメーターに指定されたコマンドのプロンプトをだすかどうかを指定します。

***NO** コマンドは、BRMSによって開始されるとプロンプトを出しません。

***YES** コマンドは、BRMSによって開始されるとプロンプトを出します。

トップ

例

```
CHGSCDBRM TYPE(*USRDFN) ADDCMD('ADDJOBJS JOB(&JOBNAME)
APP(&APPL) SCDCDE(*DAILY) TIME (2300)
CMD(&REQUEST)') ADDPMT(*YES)
```

このコマンドは、BRMSがジョブ・スケジュール項目を追加するために使用するCLコマンドを変更します。この例では、代替スケジューラーが使用されています。スケジュールにバックアップ・ジョブを追加すると、BRMSはADDJOBJSコマンドとここで指定した置き換え変数を使用します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

トップ

BRMの満了媒体の検査 (CHKEXPBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRM満了済み媒体の検査(CHKEXPBRM)コマンドは、保管操作の媒体要件を満たすだけの十分な満了済み媒体があるかどうかを調べるために使用されます。このコマンドでは、媒体ポリシーに指定された場所またはユーザーが指定した場所に基づいて媒体の場所を考慮し、保管操作に使用可能な指定された媒体クラスの媒体を計算します。コマンドに指定した値にしたがって、1つまたは複数の場所の組み合わせをもつ1つまたは複数の媒体クラスに使用可能な媒体を計算することができます。

たとえば、必要ボリューム数フィールドに20を指定し、媒体クラス・フィールドにFMT2GBを指定し、また、場所フィールドに*HOMEを指定した場合には、媒体クラスと場所の1つの組み合わせが得られます。場所フィールドを*ANYに変更した場合には、媒体クラスを指定してセットアップしたそれぞれの場所について、媒体クラスの使用可能性に関するメッセージを受け取ることがあります。必要ボリューム数フィールドに*MEDPCYを指定し、媒体ポリシー・フィールドに*CTLGRPを指定し、また、制御グループ・フィールドに*ALLを指定してあるような状況の場合には、媒体クラスと場所の複数の組み合わせが予期されます。このコマンドは、媒体クラスと場所の各組み合わせごとに使用可能な十分な媒体があるかどうかを示すメッセージを戻してきます。

このコマンドは、必要ボリューム数フィールドに指定された値と共同して働きます。この値は、指定されたボリュームの数かまたは媒体ポリシーの特殊値とすることができます。CHKEXPBRMコマンドによって計算された使用可能ボリューム数が必要ボリューム数フィールドの値と比較されます。CHKEXPBRMによって計算された満了済み媒体が必要ボリューム数フィールドの値より大きいか等しければ、保管操作を続行することができます。この値が小さければ、保管操作は取り消されます。

また、CHKEXPBRMコマンドを用いたユーザー・ジョブによって満了済みボリューム数を調べることができます。たとえば、CHKEXPBRMコマンドをジョブ・スケジューラーに組み込み、保管操作に使用できる十分な満了済み媒体があるかどうかをさまざまな時点で判別するのに使用することができます。

このコマンドはすべてのBRMS保管操作によって使用されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EXPMED	必要ボリューム数	1-9999, *MEDPCY	必須, 定位置 1
MEDCLS	媒体クラス	名前	オプション
LOC	場所	名前, *ANY, *HOME	オプション
MEDPCY	媒体ポリシー	名前, *CTLGRP	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CTLGRP	制御グループ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
DATE	保管用日付	文字値, <u>*CURRENT</u>	オプション

トップ

必要ボリューム数(EXPMED)

保管操作の処理に必要な満了済みボリューム数を指定します。ボリューム数を指定することもできれば、媒体ポリシーに基づいて必要ボリューム数を決定するように指定することもできます。このコマンドが処理されると、基準を満たす使用可能満了済みボリューム数が数えられ、ここで指定された値と比較されます。

注: *MEDPCYを指定した場合には、**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターは必須パラメーターとなります。

*MEDPCY

保管操作の処理に必要な満了ボリュームの数は、**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定された媒体ポリシーの**必要ボリューム数**フィールドに指定されたボリューム数です。

ボリュームの数

保管操作に必要なボリュームの数を指定してください。

トップ

媒体クラス(MEDCLS)

カウントしたい満了済みボリュームの媒体クラスを指定します。

必要ボリューム数(EXPMED)パラメーターに数値が入力されると、これが必須パラメーターとなります。媒体ポリシーを入力した場合には、その媒体ポリシーから媒体クラスが引き出されます。

トップ

場所(LOC)

満了済みボリューム数に入れる媒体の場所を指定します。

***ANY** 各場所にある1つまたは複数の媒体クラスの満了済みボリュームが、保管操作に使用できる満了済みボリューム数のカウントに入れられます。

*HOME

ホーム場所にある満了済みボリュームだけが保管操作に使用できる満了済みボリューム数に入れられます。

場所 満了済みボリューム数に入れる満了済みボリュームがある場所を指定してください。

トップ

媒体ポリシー(MEDPCY)

保管操作に必要な満了済みボリューム数を決めるために使用したい媒体ポリシーを指定します。

必要ボリューム数 (EXPMED)パラメーターに***MEDPCY**が入力されると、これが必須パラメーターとなります。

*CTLGRP

保管操作に必要な満了済みボリューム数を判別するためには、制御グループと関連づけられた媒体ポリシーを使用してください。**制御グループ(CTLGRP)**パラメーターは、***CTLGRP**を選択したときの省略時の値です。

媒体ポリシー

保管操作に必要な満了済みボリューム数を決めるために使用する媒体ポリシーを指定してください。

[トップ](#)

制御グループ(CTLGRP)

保管操作に必要な満了済みボリューム数を判別するために使用したい媒体ポリシーがある制御グループの名前またはすべての制御グループを指定します。

媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに***CTLGRP**が指定されると、これが省略時のフィールドとなります。

単一値

***ALL** 保管操作のための媒体クラスと場所の各組み合わせに必要なボリューム数を判別するために、各バックアップ制御グループの媒体ポリシーが使用されます。

その他の値 (反復は最大50回まで)

*BKUGRP

保管操作のための媒体クラスと場所の各組み合わせに必要なボリューム数を判別するために、省略時のユーザー・データ・バックアップ制御グループによって使用される媒体ポリシーが使用されます。

*SYSGRP

保管操作のための媒体クラスと場所の各組み合わせに必要なボリューム数を判別するために、省略時のシステム・データ制御グループによって使用される媒体ポリシーが使用されます。

*SYSTEM

保管操作のための媒体クラスと場所の各組み合わせに必要なボリューム数を判別するために、省略時のシステム全体バックアップ制御グループによって使用される媒体ポリシーが使用されます。

制御グループ名

保管操作のための媒体クラスと場所の各組み合わせに必要なボリューム数を判別するために使用したいバックアップ制御グループの名前(WEEKLYなど)を指定してください。

[トップ](#)

保管日付(DATE)

制御グループが保管された日付を指定します。

*CURRENT

制御グループとその関連媒体ポリシーを決めるために、現行日付が使用されます。

満了日 制御グループとその関連媒体ポリシーを決めるために使用する日付を指定してください。

日数 制御グループと関連づけられる将来日付を計算する日数を指定してください。

[トップ](#)

例

例1: 使用可能ボリューム数の検査

```
CHKEXPBRM EXPMED(50) MEDCLS(FMT2GB) LOC(*HOME)
```

このコマンドは、ホーム場所での保管操作に媒体クラスFMT2GBで50個の満了ボリュームがあるかどうかを検査して確認します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1118

制御グループ&1に活動項目が見つからない。

BRM1157

制御グループ&1が見つからない。

BRM1169

ポリシー&1が見つからない。

BRM1441

媒体の使用が正しくないので、制御グループは処理されない。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM1930

媒体クラス&3の&1満了済みボリュームの要求が正常に行われなかった。

BRM40A2

BRMS プロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM媒体情報のコピー (CPYMEDIBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

このコマンドを一般的に使用するのには、BRMS媒体インベントリ情報を共有するシステムのネットワークの中に1つのシステムを組み込む場合です。BRMを使用した媒体情報のコピー(CPYMEDIBRM)コマンドは、媒体インベントリ情報を作業ファイルにコピーするか、あるいは作業ファイルの内容を媒体インベントリにコピーします。

システム名をBRMSネットワークに追加する前にCPYMEDIBRMコマンドを使用することにより、現在の媒体インベントリの内容を作業ファイルに保管できます。ネットワークの同期化が完了した後では、新しく追加されたシステムでOPTION (*FROMFILE)を指定したCPYMEDIBRMを使用することによって、元の媒体インベントリ情報を媒体インベントリに再びコピーすることができます。OPTION(*FROMFILE)が使用された場合に、システムの新しいネットワーク・レベル媒体インベントリ情報と一致しない情報は報告されますが、未解決のままです。

CPYMEDIBRMコマンドの処理時に、媒体組み合わせ報告書が作成されます。この報告書は診断済みの相違点を指摘します。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1AENに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、BRMSネットワーク機能 (オプション1)が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	コピーのタイプ	* <u>TOFILE</u> , *FROMFILE	オプション、 位置 1
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ファイル	名前, <u>QA1AMED</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
CPYMEDI	媒体情報のコピー	* <u>NO</u> , *YES	オプション

トップ

コピーのタイプ(OPTION)

このコマンドは、現行システムからの既存のBRMS情報を1つまたは複数のシステムの既存のネットワーク・グループと組み合わせることができるように設計されたものです。

このコマンドによって、現行システムのBRMS情報を一時ファイルに一時的に保管することができます。オプション*NETSYSを使用したBRM初期設定(INZBRM)が使用された後に、保管した一時コピーを、他のシステムからもたらされたBRMS情報と組み合わせることができます。

***TOFILE**

媒体インベントリから媒体情報を作業ファイルにコピーします。このオプションはINZBRM *NETSYS の前に使用する必要があります。

***FROMFILE**

作業ファイルから媒体情報を媒体インベントリにコピーします。OPTION(*FROMFILE)が使用された場合に、システムの新しいネットワーク・レベル媒体インベントリ情報と一致しない情報は報告されますが、未解決のままです。このオプションはINZBRM *NETSYSの後に使用する必要があります。

トップ

ファイル(FILE)

BRMSが媒体インベントリ情報をコピーする時に使用する作業ファイルの名前を指定します。

修飾子1: ファイル

QA1AMED

コピーするファイル(OPTION)パラメーターに指定された値によって、媒体インベントリ・ファイルがこのファイルとの間でコピーされます。

ファイル名

媒体インベントリのコピー時に使用したいファイルの名前を指定してください。指定したファイルが存在していない場合には、BRMSがユーザーに代ってこれを作成します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリー名を指定してください。

トップ

媒体情報のコピー(CPYMEDI)

コピー中の媒体インベントリについて媒体情報をコピーしたいかどうかを指定します。

注: システムをネットワークに接続する計画がない場合には、*NOを指定する必要があります。

***NO** 媒体情報はコピーされません。

***YES** 媒体情報がコピーされます。

トップ

例

例1: ファイルへのBRMS媒体情報のコピー

CPYMEDIBRM FILE(WORKFILE)

このコマンドは、媒体情報をWORKFILEと呼ばれるファイルにコピーします。

例2: ファイルからのBRMS媒体情報のコピー

CPYMEDIBRM OPTION(*FROMFILE) FILE(WORKFILE)

このコマンドは、BRMS媒体情報をWORKFILEと呼ばれるファイルからネットワーク媒体インベントリにコピーします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMSのダンプ (DMPBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMダンプ(DMPBRM)コマンドは、問題判別でIBMサポート担当員に役立つようにBRMSファイルおよびその関連ファイルを保管します。ユーザーはいろいろなレベルの詳細を指定したり、ダンプするための1つまたは複数のジョブ・ログを指定することができます。このコマンドは、QUSRBRMカラーの各種のファイルおよび関連のシステム・ファイル（指定されたレベルにより異なる）を装置または保管ファイルに保管します。この情報は、問題判別の際に技術担当者によって使用されます。このコマンドの処理はその技術担当者と協力して実行しなければなりません。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前, *SAVF	必須, 定位置 1
VOL	ボリュームID	文字値, *MOUNTED	オプション
LVL	レベル	1-9, *ALL	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT	オプション
DMPDEV	ダンプ装置	単一値: *ALL, *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 名前	オプション
JOBLOG	ダンプするジョブ・ログ	*NONE, *JOB	オプション
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ名	修飾ジョブ名	
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	

トップ

装置(DEV)

ダンプ情報の保管先の装置ファイルまたは保管ファイルの名前を指定します。

*SAVF

ダンプ情報を保管ファイルに書き込みます。

装置名 ダンプ情報を書き込みたい装置の名前を指定してください。

ボリューム識別コード(VOL)

データをダンプするボリューム識別コードを指定します。

***MOUNTED**

指定した装置に入っている任意のラベル付きボリュームが使用されます。

ボリューム識別コード

使用するラベル付きボリュームのボリューム識別コードを指定してください。

トップ

レベル(LVL)

ダンプに含めたい明細のレベルを指定します。明細のレベルは、最も詳細でない1から最も詳細な9まで、1-9の範囲とすることができます。指定する明細のレベルについては、弊社技術員に確認する必要があります。

***ALL** サービス提供元が必要とするすべての情報を組み込みます。

明細のレベル

ダンプに組み込みたい明細のレベルを指定してください。

トップ

ターゲット・リリース(TGTRLS)

保管されているオブジェクトを復元したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在のシステムで実行中のオペレーティング・システムと同じリリースを実行するシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合の***CURRENT**は、オブジェクトをV5R2M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、そのオペレーティング・システムの後続リリースが導入されているシステムでも復元することができます。

PRV** オブジェクトは、モディフィケーション・レベル0の前のオペレーティング・システムのリリースで実行されるシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合のPRV**は、オブジェクトをV5R1M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、これより後のリリースのオペレーティング・システムが導入されているシステムでも復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

ターゲット・リリース

リリースはVXRXXMXの形式で指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R2M0はバージョン5、リリース2、モディフィケーション・レベル0です。

オブジェクトは、指定されたリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

有効な値は現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変更されます。このコマンドでサポートされている最も古いリリース・レベルよりさらに古いリリース・レベルを指定した場合には、サポートされる最も古いリリースを示したエラー・メッセージが出されます。

[トップ](#)

ダンプ装置(DMPDEV)

診断情報を取得したい装置（1つまたは複数）を指定します。これが指定されると、BRMSは、特殊値 *SPLFを問題識別コードとして使用してこの情報を収集するために、QTADMPDV APIを呼び出します。

注: このパラメーターに*APPCまたは*NETタイプの装置が指定されると、BRMSは保管／復元フライト・レコーダーをダンプします。

単一値

***ALL** 収集される情報には、BRMSに対して定義されたすべての装置が組み込まれます。

***NONE**

装置は指定されません。

その他の値（反復は最大10回まで）

装置名 診断情報を取得したい装置を指定してください。

[トップ](#)

ダンプするジョブ・ログ(JOBLG)

ジョブ・ログ情報をダンプしたいかどうかを指定します。

***NONE**

ジョブ・ログ情報はダンプしません。

***JOB** 指定されたジョブからジョブ・ログ情報をダンプします。

[トップ](#)

ジョブ(JOB)

ジョブ・ログ情報を検索するジョブの名前を指定します。

単一値

***** 現行ジョブから情報をダンプします。

その他の値（反復は最大10回まで）

修飾子1: ジョブ名

ジョブ名

ダンプするジョブの名前を指定してください。ジョブの修飾子が指定されない場合には、現在システムにあるすべてのジョブから単純ジョブ名が検索されます。

修飾子2: ユーザー

ユーザー名

ジョブが実行されているユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

修飾子3: 番号

番号 システムによって割り当てられたジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

例

```
DMPBRM DEV(TAP01) LVL(2) JOBLLOG(*JOB)
```

このコマンドによって、レベル2のダンプ情報が現行ジョブのジョブ・ログと一緒にテープ装置TAP01に書き込まれます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4060

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

ASP情報の表示 (DSPASPBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ASP情報の表示(DSPASPBRM)コマンドは、ASP情報の表示画面を表示します。この画面には、セットアップされたすべての補助記憶域プール(ASP)の要約およびシステム上の補助記憶域プールについての各種の統計情報が表示されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*、*PRINT	オプション

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

作成される報告書はASP情報表示報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1AASPに書き出されます。

[トップ](#)

例

例1: ASP情報表示報告書の印刷

DSPASPBRM OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、ASP情報表示報告書を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM使用のバックアップ計画表示 (DSPBKUBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したバックアップ計画の表示(DSPBKUBRM)コマンドは、バックアップ計画の表示画面を表示するか、あるいはバックアップ計画報告書を印刷します。バックアップ計画の表示画面または報告書は、セットアップされたすべてのバックアップ制御グループの要約、各バックアップ制御グループにあるライブラリー、特殊値、およびリスト、そして各制御グループが実行するバックアップのタイプを表示します。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

作成される報告書はバックアップ計画報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイル QP1ABPに書き出されます。

[トップ](#)

例

例1: バックアップ計画表示報告書の印刷

```
DSPBKUBRM OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、バックアップ計画表示報告書を印刷します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMS プロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

複写媒体の表示 (DSPDUPBRM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した複写媒体の表示(DSPDUPBRM)コマンドは、指定されたボリュームのすべての複写コピーを表示します。複写相互参照の表示画面には、ボリューム識別コード、順序番号、満了日、および複写時刻および日付が組み込まれています。元のボリュームと複写は、それぞれ入力(*INP)または出力(*OUT)として識別されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

- このコマンドはバッチでは実行できません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム識別	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ボリューム識別(VOL)

複写を確認したいボリュームのボリューム識別コードを指定します。ボリュームおよび結果としてのすべての複写ボリュームが表示されます。指定したボリュームが媒体セットのメンバーである場合には、元のボリュームと複写ボリュームのすべてが表示されます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

例1: 重複ボリュームの表示

DSPDUPBRM VOL(T00001)

このコマンドは、ボリュームT00001のすべての重複コピーを重複相互参照表示画面に表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMのログの表示 (DSPLOGBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMログの表示(DSPLOGBRM)コマンドは、BRMSログを表示します。BRMSログは、BRMSが処理の結果として作成したメッセージの日付および時刻別の画面です。DSPLOGBRMコマンドによって、ログの全部または一部を表示または印刷することができます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	<u>*ALL</u> , *ARC, *BKU, *MAINT, *MED, *MGR, *RCY, *RTV, *SEC	オプション、位置 1
PERIOD	ログ出力の期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日	文字値, <u>*CURRENT</u> , *BEGIN	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日	文字値, <u>*CURRENT</u> , *END	
SEV	重大度	0-99, <u>00</u>	オプション
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション
DETAIL	明細	<u>*BASIC</u> , *FULL	オプション
USER	ユーザー	名前, <u>*ALL</u>	オプション
MSGID	メッセージID	名前, <u>*ALL</u>	オプション

[トップ](#)

タイプ(TYPE)

ログ項目を検討したい項目のタイプを指定します。

注: タイプ(TYPE)パラメーターの省略時パラメーターはこのコマンドへのアクセスに使用する区域によって異なります。たとえば、バックアップ・メニューからこのコマンドをアクセスする場合には、省略時のタイプは*BKUです。保管メニューからこのコマンドをアクセスする場合には、省略時のタイプは*ARCとなり、以下同様です。コマンドをコマンド入力行に入力するか、あるいはシステム・ポリシー画面から入力する場合には、省略時の値は *ALLです。

***ALL** 表示または印刷用にすべてのログ項目を選択します。

***ARC** 表示または印刷用に保管ログ項目だけを選択します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKU** 表示または印刷用にバックアップ・ログ項目だけを選択します。

***MAINT**

表示または印刷用に保守ログ項目だけを選択します。

***MED** 表示または印刷用に媒体管理ログ項目だけを選択します。

***MGR** 表示または印刷用に移行ログ項目だけを選択します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***RCY** 表示または印刷用に回復ログ項目だけを選択します。

***RTV** 表示または印刷用に検索ログ項目だけを選択します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***SEC** 表示または印刷される機密保護ログ項目だけを選択します。1次区域または2次区域が機密保護であるログ項目だけが表示されます。項目は何らかの理由でログに記録され、機密保護は2次区域として含まれていることがあります。

トップ

ログ出力の期間(PERIOD)

画面または報告書に選択されるログ項目の時間間隔を指定します。

要素1: 開始時刻および日付

開始日付および時刻またはその後で作成されたログ項目が選択されます。開始日付および時刻の前に作成されたログ項目は選択されません。

要素1: 開始時刻

ログ項目が選択される開始時刻またはそれ以後を指定します。

***AVAIL**

開始日付に使用可能な項目が選択されます。

開始時刻

ログ項目が選択される開始日付の開始時刻を指定します。

時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしの場合には、4または6桁の文字列(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH=時、MM=分、SS=秒です。時間、分、および秒は、(必要な場合には、先行ゼロを使用して)それぞれが正確に2桁でなければなりません。
- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁の文字列を指定してください。この場合には、時、分、秒を区切るためにジョブに指定された時刻区切り記号を使用します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、文字列をアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号が使用された場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日付

ログ項目が選択される開始日付を指定します。

*CURRENT

現在日付のログ項目が選択されます。

*BEGIN

使用可能なすべてのログ項目の先頭からログ項目が選択されます。

開始日 ログ項目が選択される開始日付を指定します。この日付は、ジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

要素2: 終了時刻および日付

終了日付および時刻またはその前に作成されたログ項目が選択されます。終了日付および時刻の後で作成されたログ項目は選択されません。

要素1: 終了時刻

これより前のログ項目が組み込まれる終了時刻を指定するために、次の1つが使用されます。指定された時刻および日付より後に作成された項目は報告書のログ項目に組み込まれません。

ログ項目が選択される終了時刻またはそれ以前を指定します。

*AVAIL

終了日付に使用可能な項目が選択されます。

終了時刻

ログ項目が選択される終了日付の終了時刻を指定します。

時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしの場合には、4または6桁の文字列(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH=時、MM=分、SS=秒です。時間、分、および秒は、(必要な場合には、先行ゼロを使用して)それぞれが正確に2桁でなければなりません。
- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁の文字列を指定してください。この場合には、時、分、秒を区切るためにジョブに指定された時刻区切り記号を使用します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、文字列をアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号が使用された場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 終了日付

ログ項目が選択される終了日付を指定します。

*CURRENT

現在日付のログ項目が選択されます。

***END** 使用可能なすべてのログ項目の最後までログ項目が選択されます。

終了日 ログ項目が選択される終了日付を指定します。この日付は、ジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

トップ

重大度(SEV)

報告書または画面に組み込みたいメッセージ重大度レベルを指定してください。たとえば、重大度レベル30は重大度レベル30以上のすべてのメッセージを組み込みます。重大度レベルは0-99を指定することができます。

00 省略時の重大度レベルはゼロです。

重大度レベル

表示したいメッセージ重大度レベルを指定してください。

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

作成される報告書はBRMSログ報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1ALGに書き出されます。

[トップ](#)

明細(DETAIL)

印刷出力に使用される形式を指定します。

*BASIC

項目が簡略リスト形式で印刷されます。

*FULL

各項目の明細が拡張形式で印刷されます。

[トップ](#)

ユーザー(USER)

表示または印刷したいログ項目のユーザー・プロファイルの名前を指定します。

***ALL** すべてのユーザー・プロファイルを画面または報告書に組み込みます。

ユーザー名

画面または報告書に組み込みたいログ項目のあるユーザー・プロファイルを指定してください。

[トップ](#)

メッセージ識別コード(MSGID)

表示または印刷したいログ項目のメッセージ識別コードを指定します。

***ALL** すべてのメッセージ識別コードを画面または報告書に組み込みます。

メッセージ識別コード

画面または報告書に組み込みたいログ項目を持つメッセージ識別コードを指定してください。

トップ

例

例1: BRMSログ項目の日付範囲および重大度レベルの表示

```
DSPLOGBRM TYPE(*BKU) PERIOD((*AVAIL *BEGIN) (*AVAIL *END))  
SEV(20)
```

このコマンドは、バックアップ・ログ項目とログの先頭からログの最後までの日付範囲を表示します。バックアップに関連したログ項目が、重大度レベル20またはそれ以上のBRMログ情報表示画面に表示されません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

トップ

BRMを使用した媒体の複製 (DUPMEDBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した媒体の複製(DUPMEDBRM)コマンドは、単一ボリューム、媒体セット中の単一ボリューム、媒体セット、またはマークされた保管項目セットの内容を別のボリュームにコピーします。複製されるボリュームを指定するか、あるいは複製されるボリュームまたは保管項目の識別のために実行される検索を指定することができます。また、エラーで終了した前の複製操作を再開することもできます。

注: これらのテープ装置は同じ媒体クラスをサポートするものである必要はありません。媒体ポリシーはDUPMEDBRMコマンドで指定されます。

注: ファイル見出しラベルの密度フィールドは真の密度を反映するために変更されます。

注: DUPMEDBRMを使用してファイル・グループをコピーしている場合には、出力媒体が入力媒体のグループ番号と見なされます。この例外は、BRMを使用した媒体制御の設定(SETMEDBRM)コマンドでファイル・グループの値と出力ボリュームのタイプが一時変更される場合です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. コピーするボリュームは活動ボリュームでなければならず、BRMS媒体インベントリーのメンバーでなければなりません。
2. 媒体セットのボリュームをVOLパラメーターに設定してバッチ・モードで媒体セットをコピーしている場合は、FROMVOLパラメーターに特殊値*SETを使用しなければなりません。
3. DUPMEDBRMコマンドを使用してTSM (ADSM)媒体は複製できません。
4. カテゴリーが*APPCまたは*NETである装置は、DUPMEDBRMコマンドを使ったデータの複製には使用できません。
5. このコマンドを使用するためには2つのテープ・ドライブが必要です。これらの装置が共用装置である場合には、BRMSがユーザーに代ってこれらの装置をオンに変更します。これらの装置が共用装置でない場合には、ユーザーがこれらの装置をオンに構成変更しなければなりません。
6. 最適ブロック・サイズを使用可能にした装置を使用している場合には、出力装置でサポートされる最適ブロック・サイズは、入力装置の最適ブロック・サイズに等しいかそれ以上でなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	FROMボリュームID	文字値, *LIST, *RESUME, *SCHHST, *SEARCH	必須, キー, 定位置1
RSMKEY	再開キー	1-999999, *ALL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
FILEGRP	ファイル・グループ	名前, <u>*ALL</u> , *NONE, *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション, 位置 2
GRPTYPE	ファイル・グループ・タイプ	名前, <u>*ALL</u> , *ARC, *BKU	オプション, 位置 3
SCHMEDCLS	媒体クラス元	名前, <u>*ALL</u>	オプション
FROMDEV	FROM装置	名前	オプション
TODEV	TO装置	名前	オプション
FROMSEQNBR	FROM順序番号	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ファイル順序番号	1-16777215, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: 終了ファイル順序番号	1-16777215, <u>*LAST</u> , *ONLY	
TOSEQNBR	TO順序番号	<u>1</u> , *END	オプション
MEDPCY	媒体ポリシー先	名前, <u>*SYSPCY</u> , *NONE	オプション
FROMVOL	入力ボリューム・リスト	単一値: <u>*VOL</u> , *SET その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
FROMENDOPT	FROM装置終了オプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
TOENDOPT	TO装置終了オプション	<u>*UNLOAD</u> , *LEAVE, *REWIND	オプション
FROMSYS	FROMシステム	文字値, <u>*LCL</u>	オプション
TOVOL	TOボリュームID	単一値: <u>*MOUNTED</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
OBJDTL	オブジェクト明細の保存	<u>*NO</u> , *YES	オプション
EXPDATE	満了日	日付, <u>*MEDPCY</u> , *PERM	オプション
MOVPCY	移動ポリシー	名前, <u>*MEDPCY</u> , *NONE	オプション
MEDCLS	媒体クラス	文字値, <u>*MEDPCY</u> , *SYSPCY	オプション
LOC	場所	名前, <u>*MEDPCY</u> , *ANY, *HOME	オプション
VOLSEC	ボリュームの保護	<u>*MEDPCY</u> , *NO, *YES	オプション
MINVOL	必要ボリューム数	1-9999, <u>*MEDPCY</u> , *NONE	オプション
MARKDUP	ボリュームの複写マーク付け	<u>*MEDPCY</u> , *NO, *YES	オプション
MARKHST	履歴の複写マーク付け	<u>*MEDPCY</u> , *NO, *YES	オプション
SAVMEDINF	媒体情報の保管	<u>*NONE</u> , *BKUPCY, *LIB, *OBJ	オプション

トップ

FROMボリュームID (VOL)

複写されるボリュームを指定するか、あるいは複写されるボリュームまたは保管項目の識別のために使用する検索のタイプを指定します。

このパラメーターを入力ボリューム・リスト(FROMVOL)パラメーターと組み合わせて使用して、コピーしたい1つまたは複数のボリュームを指定することができます。単一ボリューム、媒体セット中のボリューム、ボリュームのリスト、または複写のためにマークされたすべてのボリュームをコピーできます。単一ボリュームまたは媒体セット中の単一ボリュームをコピーしたい場合には、コピーしたいボリュームの名前をVOLパラメーターに指定し、特殊値*VOLをFROMVOLパラメーターに指定してください。

注: コマンドのプロンプトが出されている場合には、VOLパラメーターにボリュームを指定する前に、F9を使用してすべてのコマンド・パラメーターを表示してください。プロンプターは、FROMVOLパラメーターの省略時の値を*VOLに設定します。

たとえば、媒体セットのメンバーでないボリュームT00009をコピーしている場合には、コマンドをプロンプト表示して、F9を押してから、VOLパラメーターにT00009を入力してください。*VOLは、FROMVOLパラメーターに表示される省略時の値です。

ボリュームが媒体セットのメンバーである場合には、同じ手順に従うことになります。

ボリュームが媒体セットのメンバーであるかどうか確信がない場合には、VOLパラメーターにそのボリュームを入力して、実行キーを押します。ボリュームが媒体セットのメンバーである場合には、そのセット内のすべてのボリュームのボリュームIDがFROMVOLパラメーターに表示されます。

たとえば、T00001、T00002、およびT00003から構成される媒体セットがある場合には、VOLパラメーターにT00002を入力して、実行キーを押すことができます。ボリュームT00001、T00002およびT00003がFROMVOLパラメーターに表示されます。FROMVOLパラメーターのボリュームは、この時点では変更できません。これは、セットのすべてのメンバーを複製しようとしていることの保証に役立ちます。

媒体セットのコピーの代替方式は、媒体セットに含まれているボリュームをVOLパラメーターに指定して、FROMVOLパラメーターに特殊値*SETを使用することです。

VOLパラメーターに*LISTを指定して、FROMVOLパラメーターに指定するボリュームのリストをコピーすることができます。

複製されるようにマークされたボリュームを媒体インベントリーで検索するには、VOLパラメーターに*SEARCHを指定し、また、複製されるようにマークされた保管項目をヒストリー情報で検索するには*SCHHSTを指定することができます。*SEARCHまたは*SCHHSTの使用時には、FROMVOLパラメーターは使用されません。

これは必須パラメーターです。

***LIST** 指定する活動ボリュームのリストを複製するには、この特殊値を指定してください。複製したいボリュームのリストをFROMVOLパラメーターに入力してください。

***RESUME**

エラーで終了するヒストリーまたは媒体の複製操作を再開することを指定します。再開キー(**RSMKEY**)パラメーターを使用して、再開する複製操作を指定します。

注: 複製操作を再開する前に、複製操作が終了する原因となったエラーをすべて訂正する必要があります。

***SCHHST**

複製のマークが付けられていて、指定した検索値と一致する保管項目がすべて複製されます。検索値は次のパラメーターを使用して指定します。

- ファイル・グループ(**FILEGRP**)パラメーター
- ファイル・グループ・タイプ(**GRPTYPE**)パラメーター
- 媒体クラス(**SCHMEDCLS**)パラメーター
- FROMシステム(**FROMSYS**)パラメーター

***SEARCH**

複製のマークが付けられていて、指定した検索値と一致する活動ボリュームがすべて複製されます。検索値は次のパラメーターを使用して指定します。

- ファイル・グループ(FILEGRP)パラメーター
- ファイル・グループ・タイプ(GRPTYPE)パラメーター
- 媒体クラス(SCHMEDCLS)パラメーター
- FROMシステム(FROMSYS)パラメーター

FROMボリュームID

複写したいボリュームの名前を指定してください。指定するボリュームIDはBRMS媒体インベントリーにある活動ボリュームでなければなりません。

[トップ](#)

再開キー(RSMKEY)

再開する、前の複写操作を指定します。前の複写操作がエラーで終了した場合に、それを再開したいことがあります。

エラーで終了した複写操作では、診断メッセージBRM4137の回復テキスト内で再開キーが戻されます。

また、保管項目の保留中の複写の再開キーは「媒体情報の処理」画面の複写ビューにも表示されます。媒体情報の処理(WRKMEDIBRM)コマンドを使用して保管項目を表示してから、F11を使用して複写ビューを選択します。

注: ボリューム(VOL)パラメーターに*RESUMEを指定している場合には、このパラメーターは必須です。

*ALL 再開キーのある保管項目の保留中の複写は、すべて複写されます。

1-999999

指定された再開キーのある保管項目の保留中の複写が、複写されます。

[トップ](#)

ファイル・グループ(FILEGRP)

指定されたファイル・グループが入っているボリュームを検索して複写したいファイル・グループを指定します。

*ALL 他の指定を満たすすべてのファイル・グループを検索に組み込みます。

*ARCGRP

省略時の保存制御グループが入っているボリュームを複写するファイルのグループに組み込みます。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

*BKUGRP

省略時のユーザー・データ・バックアップ制御グループが入っているボリュームを複写するファイルのグループに組み込みます。

*SYSGRP

省略時のシステム・データ制御グループが入っているボリュームを複写するファイルのグループに組み込みます。

*SYSTEM

省略時のシステム全体バックアップ制御グループが入っているボリュームを複製するファイルのグループに組み込みます。

ファイル・グループ

複製したいボリュームをもつファイル・グループの名前を指定してください。

トップ

ファイル・グループ・タイプ(GRPTYPE)

指定されたファイル・グループ・タイプが入っているボリュームを検索して複製したいファイル・グループのタイプを指定します。

***ALL** 他の指定を満たすすべてのファイル・グループを検索に組み込みます。

***ARC** ファイル・グループは保存ファイル・グループです。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKU** ファイル・グループはバックアップ・ファイル・グループです。

ファイル・グループ・タイプ

検索に組み込みたいファイル・グループ・タイプを指定してください。

トップ

複製元媒体クラス(SCHMEDCLS)

指定された媒体クラスに対応する入力ボリュームを検索して複製したい場合の媒体クラスを指定します。

このパラメーターは、特殊値*SEARCHが指定されているときには、開始ボリューム識別コード(VOL)パラメーターと一緒になければ使用できません。

***ALL** 他の指定を満たすすべての媒体クラスを検索に組み込みます。

複製元媒体クラス

複製したい媒体クラスの名前を指定してください。

トップ

FROM装置(FROMDEV)

コピーされる1つまたは複数のボリュームが入っている装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

TO装置(TODEV)

コピー先としたいボリュームを入れる装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

FROM順序番号(FROMSEQNBR)

どのデータ・ファイル順序番号をコピーするかを指定します。

注: 開始ファイル順序番号に*ALLが指定された場合、あるいは開始ファイル順序番号に*FIRSTが指定され、終了ファイル順序番号に*LASTが指定された場合には、ボリュームの履歴情報中に存在しない*FIRSTより前または*LASTより後のファイル順序は複製されません。

単一値

***ALL** すべてのファイルが複製されます。

要素1: 開始ファイル順序番号

*FIRST

最初のファイル順序から開始されるすべてのファイルが複製されます。

ファイル順序番号

複製される開始ファイル順序番号を指定してください。順序番号の有効な範囲は1 - 16777215です。指定された順序番号の範囲内のファイルだけが複製されます。

要素2: 終了ファイル順序番号

*LAST

最後のファイル順序で終るすべてのファイルが複製されます。

***ONLY**

開始ファイル順序に指定されたファイルだけが複製されます。最初の要素に*ALL が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

ファイル順序番号

複製される範囲の終わりのファイル順序番号を指定してください。順序番号の有効な範囲は1 - 16777215です。

トップ

TO順序番号(TOSEQNBR)

データ・ファイルのコピー先の順序番号を指定します。

1 データ・ファイルはファイル順序1にコピーされます。

***END** データ・ファイルはテープの論理上の終わりに追加されます。次の有効な順序番号が使用されます。

ファイル順序番号

データ・ファイルがコピーされる順序番号を指定してください。装置が上書き機能をもっていない場合、および指定された値が論理上のテープ・ボリュームの終わりで使用される次の論理値でない場合には、この値は使用できません。

トップ

複写先媒体ポリシー(MEDPCY)

コピー先のボリュームの媒体ポリシーを指定します。

媒体ポリシーは、次のことを決定するために使用されます。

- 制御グループの処理で使用される媒体に使用する保存のタイプ（日数、日付、またはバージョンなど）。
- この媒体ポリシーで使用する移動ポリシー。
- 使用する媒体クラス。
- 保管ファイルを使用するかどうか。
- 制御グループの処理で作成された保管ファイルに使用する保存のタイプ、すなわち日数または日付。

指定する媒体ポリシーは、BRMS媒体ポリシー・テーブルの中にある媒体ポリシーでなければなりません。

*SYSPCY

システム・ポリシーに指定された媒体ポリシーが媒体ポリシーの値として使用されます。

*NONE

この複写操作には媒体ポリシーが指定されていません。省略時の値*MEDPCYになっている各パラメーターについては、コマンドから媒体ポリシー値を指定しなければなりません。

複写先媒体ポリシー名

BRMSでセットアップ済みの媒体ポリシーを指定してください。F4 キーを押して、これらの媒体ポリシーのリストを表示することができます。

トップ

入力ボリューム・リスト(FROMVOL)

コピーされるボリュームのリストを指定します。このパラメーターは、コピーしたい1つまたは複数のボリュームを指定するために、開始ボリューム識別コード(VOL)パラメーターと一緒に機能します。単一のボリューム、ボリュームのセット、またはボリュームのリストをコピーすることができます。FROMVOLパラメーターに最大300個までのボリュームを指定することができます。

単一ボリュームをコピーするには、そのボリュームをVOLパラメーターに指定して、特殊値

*VOLをFROMVOLパラメーターに指定してください。

注: コマンドのプロンプトが出されている場合には、VOLパラメーターにボリュームを指定する前に、F9を使用してすべてのコマンド・パラメーターを表示してください。プロンプターは、FROMVOLパラメーターの省略時の値を*VOLに設定します。

ボリュームが媒体セットのメンバーであるかどうか確信がない場合には、VOLパラメーターにそのボリュームIDを入力して、実行キーを押します。ボリュームが媒体セットのメンバーである場合には、そのセット内のすべてのボリュームのボリュームIDがFROMVOLパラメーターに表示されます。

VOLパラメーターに*LISTを指定した場合には、コピーするボリュームのリストをFROMVOLパラメーターに入力することができます。

VOLパラメーターに*SEARCHを指定した場合には、このパラメーターは使用されません。

媒体セット内のボリュームを複製したい場合には、その媒体セットのボリュームをVOLパラメーターに指定して、*SETをFROMVOLパラメーターに指定してください。この方式は、媒体セット中のボリュームをバッチ・ジョブで複製するために使用しなければなりません。

単一値

***VOL** VOLパラメーターに指定されている単一ボリュームをコピーしたいことを示します。VOLパラメーターに特殊値*SEARCHが指定されている場合には、特殊値*VOLは表示されますが、使用されません。

***SET** VOLパラメーターにセットの1つのボリュームだけが指定されているときに、その媒体セット内のすべてのボリュームをコピーするには、この特殊値を指定してください。媒体セットのボリュームをVOLパラメーターに設定してバッチ・モードで媒体セットをコピーしている場合は、FROMVOLパラメーターに特殊値*SETを使用しなければなりません。

その他の値（反復は最大300回まで）

ボリュームID

複製したい活動ボリュームのリストのボリュームIDを指定してください。

[トップ](#)

FROM装置終了オプション(FROMENDOPT)

FROM装置(FROMDEV)パラメーターで指定された装置に入っているボリュームを操作の完了後に巻き戻してアンロードするかどうかを指定します。

***REWIND**

操作の終了後に、ボリュームは自動的に巻き戻されますが、アンロードはされません。

***LEAVE**

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

ボリュームは操作の終了後に自動的に巻き戻され、アンロードされます。

[トップ](#)

TO装置終了オプション(TOENDOPT)

TO装置(TODEV)パラメーターで指定された装置に入っているボリュームを操作の完了後に巻き戻してアンロードするかどうかを指定します。

***UNLOAD**

操作の完了後に、ボリュームが巻き戻され、アンロードされます。

***LEAVE**

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

***REWIND**

操作の完了後に、ボリュームが巻き戻されます。

FROMシステム(FROMSYS)

複写したいボリュームを所有するシステムの場所とネットワークIDを指定します。リモート・システムを指定すると、操作に使用される入出力ボリュームは指定されたシステムによって所有されます。

注: ネットワーク属性の表示(DSPNETA)コマンドは、システム・ネットワーク属性を表示するのに使用します。

注: *LCL以外の値が指定されている場合には、この値を使用するのにBRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

***LCL** FROMシステムがローカル・システムであることを示します。BRMSは、現行システム名を判別するのに、省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を使用し、システム名(SYSNAME)ネットワーク属性は使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。

ロケーション名

ネットワーク操作のリモート・システムの省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。リモート・システムと接続するには、現行システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性が使用されます。

ネットワークID.ロケーション名

ネットワーク操作のリモート・システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)および省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。ここで、NNNNNNNNはLCLNETIDで、CCCCCCCCはLCLLOCNAMEです。

TOボリュームID (TOVOL)

データがコピーされる先のボリュームのボリュームIDを指定します。

指定するボリュームIDはBRMS媒体インベントリにあるボリュームでなければなりません。

単一値

***MOUNTED**

TO装置(TODEV)パラメーターに指定された装置に入っているボリュームのボリュームIDが使用されます。ソース・ボリュームが標準ラベル付きボリュームであって、装置に入れられているボリュームがラベルなしであるか、または間違った密度に初期設定されている場合には、現在その装置に入っているソース・ボリュームのボリュームIDを使用して、ボリュームが正しい密度に再初期設定されます。

その他の値（反復は最大300回まで）

ボリュームID

データがコピーされる先のボリュームのボリュームIDを指定してください。ボリュームの終わりに達した場合には、このボリュームIDを使用してボリュームを再初期設定することができます。ボリ

ュームに正しいボリュームIDが入っているが、密度が間違っている場合には、ボリュームは正しい密度に再初期設定されます。このボリュームIDは保管されます。

[トップ](#)

オブジェクト明細の保存(OBJDTL)

このパラメーターには機能はありません。物理ファイルのメンバー・レベル詳細を含むオブジェクト詳細は、オブジェクト詳細がその入力ボリュームに使用可能である限り、常に複製された媒体に保存されます。

[トップ](#)

満了日(EXPDATE)

この複製操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい満了を指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この複製コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーです。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*PERM

この複製操作からの出力ボリュームには永続満了が割り当てられます。

満了日 この複製操作からの出力ボリュームに割り当てる満了日を日付区切り記号付きまたはなしで指定してください。

[トップ](#)

移動ポリシー(MOVPCY)

この複製操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい媒体ポリシーを指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この複製コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーです。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NONE

この複製操作の結果として作成される出力ボリュームと関連づけられた媒体ポリシーはありません。

移動ポリシー

この複製操作からの出力ボリュームに割り当てる移動ポリシーを指定してください。

[トップ](#)

媒体クラス(MEDCLS)

この複写操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい媒体クラスを指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この複写コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーです。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*SYSPCY

この複写操作からの出力ボリュームには、システム・ポリシーにある媒体クラスの値が割り当てられます。

媒体クラス

この複写操作からの出力ボリュームに割り当てる媒体クラスを指定してください。

[トップ](#)

場所(LOC)

この複写操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい場所を指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この複写コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーです。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ANY** この複写操作からの出力ボリュームには、任意の有効な場所が割り当てられます。

*HOME

この複写操作からの出力ボリュームには、ホーム場所が割り当てられます。

場所 この複写操作からの出力ボリュームに割り当てる場所を指定してください。

[トップ](#)

ボリュームの保護(VOLSEC)

この媒体クラスのボリュームにボリューム保護を適用するかどうかを指定します。保護されているボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この複写コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーです。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NO** この媒体クラスにはボリューム保護は適用されていません。ボリューム保護のないボリュームは、誰でも読み取ることができます。

***YES** この媒体クラスの媒体ボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

トップ

必要ボリューム数(MINVOL)

この媒体ポリシーを使用して複写を行う場合に必要の満了済みボリュームの最小数を指定します。この値は、BRM満了済み媒体の検査(CHKEXPBRM)コマンドを使用したユーザー・ジョブによって調べることができます。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この複写コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーです。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NONE**

複写操作を開始するために必要なボリュームの最小数を調べる検査は行われません。

ボリュームの数

BRMS複写操作を開始する前に使用可能になっていなければならない満了済み媒体ボリュームの数を指定してください。指定できる数は1-9999です。

トップ

ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP)

ボリュームが複写された後そのボリュームに複写のマークを付けるかどうかを指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この複写コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーです。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NO** ボリュームに複写を示すマークを付けません。

***YES** ボリュームに複写を示すマークを付けます。

トップ

履歴の複写マーク付け(MARKHST)

履歴項目が複写された後で、それらの項目に複写のマークを付けるかどうかを指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この複写コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーです。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NO** ヒストリー項目に複写のマークを付けません。

***YES** ヒストリー項目に複写のマークを付けます。

トップ

媒体情報の保管(SAVMEDINF)

複写を実行した後、媒体情報を自動的に保管したいかどうかを指定します。この媒体情報は、複写操作中被行われる保管ヒストリーおよびボリューム情報に対する変更です。媒体情報の保管ヒストリーをライブラリー・レベルで保管するか、あるいはオブジェクト・レベルで保管するかを指定できます。

注: オブジェクト・レベルの保管ヒストリー情報を保管できるのは、オブジェクトが当初保管された時に、オブジェクト・レベルまたはメンバー・レベル詳細が保存された場合だけです。

注: 保管された媒体情報は複写で使用された最後の出力ボリュームに追加されます。

***NONE**

複写を実行した後に、媒体情報を保管したくないことを指定します。

***BKUPCY**

複写を実行した後、媒体情報を保管するかどうかを指定するために「バックアップ・ポリシー」が必要なことを指定します。この値を指定した場合、このコマンドを実行した後に媒体情報を保管するかどうかは、この「バックアップ・ポリシー」の「媒体情報を自動的にバックアップする」プロンプトの現行値によって決定されます。

***LIB** 複写を実行した後に媒体情報を保管したいことを指定しますが、ライブラリー・レベルのヒストリー情報だけが必要となります。ライブラリー・レベルのヒストリー情報では、個々のオブジェクトを復元するためのオブジェクト名が判明していなければなりません。

***OBJ** 複写を実行した後に媒体情報を保管し、オブジェクト・レベルのヒストリー情報を保管したいことを指定します。オブジェクト・レベルのヒストリー情報では、BRMSを使用して、物理ファイルまたはメンバーなど、復元したい保管対象オブジェクトの検出を支援できます。

トップ

例

例1: 単一ボリュームのコピー

```
DUPMEDBRM VOL(T00001) FROMDEV(TAP01)
           TODEV(TAP03) FROMVOL(T00001)
```

このコマンドは、FROM装置としてTAP01を、TO装置としてTAP03を使用して、ボリュームT00001を複写します。T00001は媒体セットのメンバーでないので、入力リスト(FROMVOL)にはT00001だけが入ります。

例2: ボリュームのリストの複写

```
DUPMEDBRM VOL(*LIST) FROMDEV(TAPMLB01) TODEV(TAPMLB02)
           MEDPCY(FMT3570) FROMVOL(VOL001 VOL002 VOL003)
```

このコマンドは、FROM装置として媒体ライブラリーTAPMLB01を使用し、TO装置として媒体ライブラリーTAPMLB02を使用し、TOボリュームにFMT3570媒体ポリシーの媒体クラスを使用して、ボリュームVOL001、VOL002、およびVOL003を複写します。

例3: ボリューム・セットの複写

```
DUPMEDBRM VOL(VOL002) FROMDEV(TAPMLB01) TODEV(TAPMLB02)
FROMVOL(*SET) MEDPCY(FMT3570)
```

このコマンドは、FROM装置として媒体ライブラリーTAPMLB01を使用し、TO装置として媒体ライブラリーTAPMLB02を使用し、TOボリュームにFMT3570媒体ポリシーの媒体クラスを使用して、VOL002が入っているボリューム・セットのすべてのボリュームを複製します。

例4: 別のシステムのすべてのマーク付けボリュームの複写

```
DUPMEDBRM VOL(*SEARCH) FROMDEV(TAPMLB01) TODEV(TAPMLB02)
FROMSYS(SYSTEM_B)
```

このコマンドがSYSTEM_Aで実行されると、このコマンドはFROM装置として媒体ライブラリーTAPMLB01を、TO装置として媒体ライブラリーTAPMLB02を使用して、SYSTEM_Bが所有する複写のマークが付いたすべてのボリュームを検索します。SYSTEM_AおよびSYSTEM_BはBRMSネットワークにあって、媒体ライブラリー資源を共有します。

例5: BRMを使用した前の複写媒体の再開

```
DUPMEDBRM VOL(*RESUME) RSMKEY(123456)
```

このコマンドは異常終了した、前の複写操作を再開します。複写操作が例外BRM4138で終了した時に、再開キー**123456**がメッセージBRM4137中に戻されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM15A2

ボリューム&1はこのシステムで複写することはできない。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM1934

媒体の複写が正常に行われなかった。

BRM1936

複写用の媒体が見つからなかった。

BRM2338

複写がエラーで完了しました。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMS プロダクトの初期設定が必要である。

BRM4138

媒体の複写がエラーで完了しました。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

媒体情報の検索 (EXTMEDIBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

媒体情報の抜き出し(EXTMEDIBRM)コマンドは、ボリュームに関する情報をBRMS媒体ファイルに追加します。ユーザーはボリュームの識別コードおよびそのボリュームの内容を指定します。

BRMSは、すでにBRMS媒体インベントリに追加されている媒体で、かつ、その内容が現在満了したものと示されている媒体についてのみ、内容情報を記録します。媒体の活動状態の内容情報がすでに存在している場合、あるいは媒体が媒体インベントリに追加されていなかった場合には、内容情報は追加されません。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリュームID	文字値, <u>*MOUNTED</u>	オプション, 定位置 2
FILE	ファイルの起点	<u>*FILE</u> , *SAV, *SAVCFG, *SAVCHG, *SAVCHGDLO, *SAVCHGOBJ, *SAVDLO, *SAVLIB, *SAVOBJ, *SAVSECDTA, *SAVSYS	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	<u>*UNLOAD</u> , *LEAVE, *REWIND	オプション

[トップ](#)

装置(DEV)

ボリュームをロードする装置の名前を指定します。装置名はBRMS装置テーブル中に定義されていなければなりません。

[トップ](#)

ボリューム識別コード(VOL)

その情報がBRMSに追加される装置上のボリュームのボリューム識別コードを指定します。

*MOUNTED

装置にロードされたボリューム識別コードに関する情報がBRMSに追加されます。

ボリューム識別コード

BRMS媒体内容情報に追加しようとしているデータが入っているボリュームのボリューム識別コードを指定してください。

[トップ](#)

ファイル起点(FILE)

ボリュームに記憶される情報のタイプを指定します。

***FILE** ボリューム上の情報はファイルです。

***SAV** ボリューム上の情報はIFS情報です。

***SAVCFG**

ボリューム上の情報は構成情報の保管です。

***SAVCHG**

ボリューム上の情報はIFS情報の増分保管です。

***SAVCHGDLO**

ボリューム上の情報は文書情報の増分保管です。

***SAVCHGOBJ**

ボリューム上の情報は増分オブジェクト保管です。

***SAVDLO**

ボリューム上の情報は文書情報の全保管です。

***SAVLIB**

ボリューム上の情報は保管されたライブラリーです。

***SAVOBJ**

ボリューム上の情報は全オブジェクト保管です。

***SAVSECDTA**

ボリューム上の情報は機密保護情報の保管です。

***SAVSYS**

ボリューム上の情報はシステム保管情報です。

[トップ](#)

テープの終わりオプション(ENDOPT)

テープが使用される時期、保管操作の終了後にテープ・ボリュームについて自動的に実行される位置指定操作を指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームだけに適用されます。他のすべてのボリュームは、テープの終わりに達すると、巻き戻され、アンロードされます。

注: オブジェクトが保管されない場合には、ボリュームはオープンされず、ENDOPTパラメーターは無視されます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

***UNLOAD**

ボリュームは操作の終了後に自動的に巻き戻され、アンロードされます。

***LEAVE**

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

***REWIND**

ボリュームは巻き戻されますが、アンロードされません。

[トップ](#)

例

例1: 媒体情報の追加

```
EXTMEDIBRM DEV(TAP06) FILE(*SAVLIB)
```

このコマンドは、装置TAP06に取り付けられているボリュームのライブラリー内容情報をBRMS媒体インベントリーに保管します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

BRM1134

装置&1が見つからない。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

BRM6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMSの初期設定 (INZBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMS初期設定(INZBRM)コマンドは、いくつかのタイプの初期設定を実行します。それらは次の通りです。

- BRMSプロダクトを将来のバージョンおよびリリースに更新するための時間を見積もることができます。
- 導入または更新の後でBRMSプロダクトの初期設定を開始できます。
- BRMSプロダクトの初期設定を完了するまでの残りの時間を見積もることができます。
- 省略時のポリシーおよび制御グループを確立するだけでなく、すべての主要ファイルを初期設定します。
- マルチ・システム環境におけるネットワークのためのサブシステムを始動します。
- BRMSをリセットし、省略時のポリシーおよび制御グループを確立するだけでなくすべての主要ファイルを再初期設定できます。
- 補助記憶域プール(ASP)記述を作成します。
- すべてのBRMS機能の権限要素を、IS/OS登録機能により再登録できます。このオプションは、ユーザー・プロファイルの復元前の全システム回復中に使用されます。
- この情報を別のシステムまたは論理区画に復元するときに、BRMS媒体情報のシステム名を新しいシステム名に変更することができます。
- 1つのライブラリーに入っているBRMSデータベース・ファイルを別のライブラリーのBRMSデータベース・ファイルとマージすることができます。

INZBRMコマンドは、BRMSネットワーク・グループにシステムを追加し、ネットワーク上の時間を同期化するために使用します。INZBRMコマンドは、ネットワーク・グループに追加しているシステムから処理する必要がありません。

注: システム名へのすべての参照で、システム名とシステム・ロケーション名は同じであり、ヘルプ情報で交換して使用できるものと見なします。これらが同じでない場合には、システム名の代わりにシステム・ロケーション名を使用してください。コマンド入力行からネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドを使用して、システム名とシステム・ロケーション名の設定値を確認することができます。

ネットワーク・グループのメンバーであるシステムはBRMS媒体インベントリを共用します。ネットワーク中の任意のシステム上の媒体ファイルの追加、変更、および除去の結果として、同じ変更がネットワーク・グループのメンバーであるすべてのシステムに対して行われることとなります。

システムがネットワーク・グループに追加される時に、ネットワーク・グループに共通の媒体情報が追加するシステムにコピーされます。システムの媒体情報は、ネットワーク・グループの媒体情報で置き換えられます。

システムが最初に追加された時には、活動ネットワーク・グループ・メンバーの非活動状況に追加されません。

注: これは、システム・ポリシー・メニューに見つかったネットワーク・グループの変更画面を使用して、システムをネットワーク・グループに追加することにより達成されます。システム名がリストに追加された時には、非活動状態で示されます。

INZBRM OPTION(*NETSYS)オプションは、状況を非活動状態から活動状態に変更し、媒体情報を同期化します。

次の共用BRMS情報ファイルは、このシステム上で着信システムからの情報に置き換えられます。

- 媒体インベントリー
- 媒体クラス
- 媒体ポリシー
- コンテナ・インベントリー
- コンテナ・クラス
- 移動ポリシー
- ネットワーク・システム
- 保管場所

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。
2. このコマンドを実行する前にすべてのBRMS操作を終了しなければなりません。
3. *RUNPRDINZオプションを実行するには、全オブジェクト権限が必要です。
4. オプション(OPTION) パラメーターに*MERGEが指定されている場合には、以下の追加の制約事項が適用されます。
 - **TOライブラリー(TOLIB)**パラメーターにQUSRBRMが指定されている場合には、すべてのBRMS操作を終了しなければなりません。
 - **FROM**ライブラリーとそのオブジェクトおよび**TO**ライブラリーとそのオブジェクトからの所有権は、マージの前にQBRMSに変更されます。共通認可は*USEに変更されます。
 - マージの前に、排他ロックが**FROM**ライブラリー・オブジェクトと**TO**ライブラリー・オブジェクトの物理ファイルにかけられます。
 - マージの前に、論理ファイルが**FROM**ライブラリーと**TO**ライブラリーから削除されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	*DATA, *CHGSYSNAM, *DEVICE, *ESTPRDINZ, *ESTPRDUPD, *MERGE, *NETSYS, *RESET, *RUNPRDINZ, *SETAUT	オプション、位置 1
FROMSYS	FROMシステム	文字値	オプション
PRVSYSNAM	前のシステム名	文字値, *LCL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
NEWSYSNAM	新しいシステム名	文字値, *LCL	オプション
FROMLIB	FROMライブラリー	名前	オプション
MERGE	マージ	単一値: *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *ARC, *BKU, *DEV, *HST, *MED, *MGR	オプション
TOLIB	TOライブラリー	名前	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値	オプション

トップ

オプション(OPTION)

実行したい初期設定のタイプを指定します。

*DATA

BRMSを初期設定しようとしています。初期設定されているシステムの特性に基づいて、省略時の制御グループ、ポリシー、およびテーブルが作成されます。さらに、新しい装置が追加され、ASPが構成されます。システムに対して定義されているが、BRMSに対してまだ定義されていないASPの省略時のASP記述が追加されます。

ASPが構成されると、次の省略時の情報が追加されます。

- ASP名の値は*NONEです。ただし例外として、ASP 1には*SYSTEMというASP名が与えられません。
- 低限界値と高限界値は*NONEに設定されます。
- テキストは「BRM構成によって作成された項目」です。

このパラメーターに特殊値*DATAが入っている場合には、BRMSを初期設定したいシステムでINZBRMコマンドを処理しなければなりません。

このオプションは保管済みのヒストリーには影響を与えません。

このオプションでは、パラメーターは使用されません。

*CHGSYSNAM

BRMS媒体情報に記憶されたシステム名を変更できるようにします。システム名は、このシステムの媒体情報をBRMSネットワーク内の他のシステムの媒体情報と区別するために使用されます。このシステム名は、BRMSネットワーク機能を使用していない場合であっても、媒体情報に適用されます。BRMSでは、このシステム名にシステムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)および省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)が使用されます。DSPNETAコマンドを使用して、これらのシステム・ネットワーク属性を表示することができます。

BRMS媒体情報を別のシステム、または保管されたシステム名と異なるシステム名をもつ別の論理区画に回復する場合には、媒体情報のシステム名を現行システム名に変更する必要があります。前のシステム名(PRVSYSNAM)パラメーターを使用して前のシステム名を指定し、新しいシステム名(NEWSYSNAM)パラメーターを使用して新しいシステム名を指定する必要があります。

FROMライブラリー(FROMLIB)、TOライブラリー(TOLIB) およびマージ(MERGE)のパラメーターはこのオプションでは使用されません。

*DEVICE

装置および媒体ライブラリー情報を消去し、現在システム上で記述されている装置を用いてファイ

ルを再初期設定しようとしています。*DEVICEは、装置ファイルの消去および再初期設定のほかにも、*DATAと同じ機能を実行します。*DEVICE特殊値を使用すると、同名のAPPC装置が見つかる、CSIオブジェクトおよびAPPC装置情報が、BRMSインベントリーから除去されることとなります。*DEVICE特殊値の使用によって、NET装置情報は除去されません。

このオプションは保管済みのヒストリーには影響を与えません。

このオプションでは、パラメーターは使用されません。

*ESTPRDINZ

このオプションを使用して、導入または更新後にBRMSプログラム・プロダクトの初期設定を完了するために必要な概算時間を決定します。初期設定時間の見積もりはメッセージBRM402Bで戻されます。より正確な見積もりのために、このオプションを初期設定ジョブと同じシステム環境で実行してください。プロダクトの初期設定と並行してこのオプションを実行した場合は、残りの概算時間が戻されます。

プロダクト更新の後に必要なのは、プロダクト初期設定のみです。このコマンドのオプション*RUNPRDINZは、更新の後のプロダクトの初期設定を実行するために使用します。

このオプションでは、パラメーターは使用されません。

*ESTPRDUPD

このオプションは、BRMSプログラム・プロダクトを将来のバージョンおよびリリースに更新する時、その完了に必要な概算時間を決定するために使用します。この時間の見積もりはメッセージBRM402Cに戻されます。

注：更新が異なるシステムで行われた場合、あるいは異なるジョブ環境を使用した場合には、実際の時間は見積もり時間と異なることがあります。

このオプションの使用時には、ターゲット・リリース(TGTRLS)の値を指定しなければなりません。

*MERGE

マージ(MERGE)パラメーターで指定されたオプションを使用して、FROMライブラリー (FROMLIB)パラメーターで指定された1つのライブラリーに入っているBRMSデータベース・ファイルとTOライブラリー(TOLIB)パラメーターで指定された別のライブラリーのBRMSデータベース・ファイルとマージすることができます。この機能は、複数のシステムを単一システムに統合する時、あるいは後続の保存でBRMSオブジェクトをライブラリーQUSRBRMから別のライブラリーにコピーする時に便利です。このオプションの使用の追加のガイダンスについては「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES」ブックの付録Aを参照してください。

注：マージ操作には高度なファイル処理が含まれるので、選択するマージ・オプションとマージされるファイルのサイズによってこれは長時間の実行プロセスとなることがあります。

注：現行システムに2つ以上のライブラリーをマージしようとする場合には、それらのライブラリーを中間のライブラリーにマージしてからQUSRBRMライブラリーへの中間ライブラリーの最終マージを実行することをお勧めします。

FROMシステム(FROMSYS)、前のシステム名(PRVSYSNAM)および新しいシステム名(NEWSYSNAM)のパラメーターは、このオプションでは使用されません。

*NETSYS

BRMSファイルは、ネットワーク・システム・グループに入っているFROMシステム(FROMSYS)パラメーターに指定されたシステムからコピーされます。このオプションを使用する前に、媒体情報のコピー(CPYMEDIBRM)コマンドを使用して、現行のBRMS情報をこのシステムから一時ファイルにコピーしてください。INZBRM *NETSYSが完了した後に、旧情報を組み合わせるために、

CPYMEDIBRMを再び使用して、情報を一時ファイルからコピーし戻します。このオプションは、現行の一部のBRMSファイルのデータを置き換えます。

注: この値を使用するには、BRMSネットワーク機能 (オプション1)が必要です。

このオプションで使用されるのは、**FROMシステム(FROMSYS)**パラメーターだけです。

*RESET

BRMSをリセットしようとしています。このオプションを使用すると、BRMS情報がシステムから除去され、すべての主要ファイルが再初期設定されます。OPTION(*RESET)を使用すると、すべての主要BRMSファイルが消去され、INZBRMコマンドのOPTION(*DATA)が処理されます。このオプションは、すべての階層記憶域管理(HSM)情報を消去し、すべての構成を、このプロダクトが初めて導入された時に作成された構成と矛盾しないように設定し直します。APPC情報はBRMSによって自動的に構成されないため、*RESETは、作成済みのすべてのCSIオブジェクトを含むすべてのAPPC装置情報をBRMSから除去します。

このオプションでは、パラメーターは使用されません。

*RUNPRDINZ

このオプションは、導入後にBRMSプログラム・プロダクトの初期設定を完了するために使用します。BRMSプログラム・プロダクトは、初期設定が完了しなければ使用することができません。プロダクト更新の後に必要なのは、プロダクト初期設定のみです。プロダクト更新の後でBRMS操作を実行しようとして、メッセージBRM40A2 - BRMSプロダクトの初期設定が必要を受信した場合には、このオプションを使用してください。

BRMSプロダクトの初期設定は長時間の処理となることがあります。サーバー上の活動が少ないか、他の活動がない時にこのオプションを実行することによって、パフォーマンスを最適化できます。

このコマンドのオプション*ESTPRDINZは、現在の環境で初期設定を実行するために必要な時間の概算を検索するために使用します。

注: このオプションを使用するには、全オブジェクト権限が必要です。

このオプションでは、パラメーターは使用されません。

*SETAUT

すべてのBRMS機能の権限要素を、I5/OS登録機能により再登録できます。このオプションは、ユーザー・プロファイルの復元前の全システム回復中に使用されます。

このオプションでは、パラメーターは使用されません。

トップ

FROMシステム(FROMSYS)

新しいシステムを組み入れたいネットワーク・グループにすでに存在している任意のシステムの名前を指定します。ここで指定するシステムにあるネットワーク媒体情報がユーザーのシステムにコピーされます。たとえば、システムAがネットワークに追加したいシステムで、システムBがネットワーク・グループの活動メンバーである場合には、**FROMシステム(FROMSYS)**パラメーターにシステムBを指定します。システムBからのネットワーク媒体インベントリーがシステムAの媒体インベントリーにとって代わり、システムAはネットワーク・グループの活動メンバーとなります。

非活動システム上の媒体インベントリー・ファイルを置き換えるために、次の媒体インベントリー・ファイルがネットワーク・グループ中の活動システムからコピーされます。各ファイルが置き換えられる前に、ユーザーに通知されます。

- 媒体インベントリー
- 媒体クラス
- 媒体ポリシー
- コンテナ・インベントリー
- コンテナ・クラス
- 移動ポリシー
- ネットワーク・システム
- 保管場所

注: このパラメーターを使用するには、BRMSネットワーク機能 (オプション1)が必要です。

ロケーション名

FROMシステムと関連づけられているリモート・ロケーションの名前を指定してください。ローカル・システムのネットワークID (DSPNETAコマンドを用いて表示されるもの) がFROMシステムのネットワークIDとして使用されます。

ネットワークID.ロケーション名

FROMシステムと関連づけられているネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。ここで、NNNNNNNNはネットワークID、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

[トップ](#)

前のシステム名(PRVSYSNAM)

媒体情報のシステム名を別のシステムまたは別の論理区画に回復するために変更する場合に、前のシステムの名前を指定します。

***LCL** ローカル・システム名を前のシステム名として使用することを指定します。BRMSは、このシステムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)と省略時のローカル・ロケーション名 (LCLLOCNAME)を前のシステム名として使用します。

前のシステム名

前のシステム名として使用する名前を指定します。この値を指定した場合には、BRMSはローカル・ネットワークID (LCLNETID)とこの指定された名前を使用して、前のシステム名を作成します。

ネットワークID.ロケーション名

前のシステム名として使用するローカル・ネットワークIDおよび省略時のローカル・ロケーション名を指定します。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定します。ここで、NNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCは前のシステムのリモート・ロケーション名です。

[トップ](#)

新しいシステム名(NEWSYSNAM)

媒体情報のシステム名を別のシステムまたは別の論理区画に回復するために変更する場合に、システムの新しい名前を指定します。

***LCL** ローカル・システム名を新しいシステム名として使用することを指定します。BRMSは、このシステムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)と省略時のローカル・ロケーション名 (LCLLOCNAME)を新しいシステム名として使用します。

新しいシステム名

新しいシステム名として使用する名前を指定します。この値を指定した場合には、BRMSはローカル・ネットワークID (LCLNETID)とこの指定された名前を使用して、新しいシステム名を作成します。

ネットワークID.ロケーション名

新しいシステム名として使用するローカル・ネットワークIDおよび省略時のローカル・ロケーション名を指定します。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定します。ここで、NNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCは新しいシステムのリモート・ロケーション名です。

[トップ](#)

FROMライブラリー(FROMLIB)

マージするレコードを持つBRMSファイルが入っているソース・ライブラリーの名前を指定します。これは、別のシステムから保管され、別のライブラリー名を使用して現行システムに復元されたQUSRBRMライブラリーのバージョンでなければなりません。

注: マージ操作の前に、ライブラリーとライブラリー内のすべてのオブジェクトの所有権がQBRMSに変更され、共通認可が*USEに変更されます。また、すべての論理ファイルがこのライブラリーから削除されて、すべての物理ファイルが現行リリースに変換されます。

FROMライブラリー名

マージされるBRMSデータベース・ファイルが入っているライブラリーの名前。ライブラリーQUSRBRMをFROMライブラリーとして指定することはできません。

[トップ](#)

マージ(MERGE)

マージ処理のオプションを指定します。これらのオプションは、マージするBRMSデータのタイプを定義します。

単一値

***ALL** すべてのBRMS媒体、装置、ヒストリー、およびポリシー・ファイルがマージされることを示します。

その他の値 (反復は最大5回まで)

***ARC** すべてのBRMS保存制御グループと保存リスト・ファイルがマージされることを示します。

- ***BKU** すべてのBRMSバックアップ制御グループとバックアップ・リスト・ファイルがマージされることを示します。
- ***DEV** タイプ*NETのTIVOLI STORAGE MANAGER (TSM)およびタイプ*USRMLBのユーザー媒体ライブラリー装置などのすべてのBRMSユーザー装置がマージされることを示します。
- ***HST** バックアップ、保存、および移行履歴が入っているすべてのBRMS媒体情報ファイルがマージされることを示します。
- ***MED** すべてのBRMSボリューム情報および媒体関連ファイルがマージされることを示します。
- ***MGR** すべてのBRMS移行制御グループ・ファイルがマージされることを示します。

[トップ](#)

TOライブラリー(TOLIB)

マージ・レコードを受け取るBRMSファイルが入っているターゲット・ライブラリーの名前を指定します。

注: TOライブラリーにQUSRBRMが指定されている場合に、マージ操作を実行する前に常にライブラリーQUSRBRMを保管します。

注: TOライブラリーにQUSRBRMが指定されている場合に、マージ操作を実行する前にすべてのBRMS操作を終了する必要があります。TOライブラリーのファイルに排他ロックを獲得できない場合には、マージ操作は失敗します。

TOライブラリー名

マージ・レコードを受け取るBRMSデータベース・ファイルが入っているライブラリーの名前。

[トップ](#)

ターゲット・リリース(TGTRLS)

BRMSプロダクト更新時間を見積もるターゲット・リリースを指定します。*ESTPRDUPDがオプション(OPTION)パラメーターに指定された場合は、これは必要パラメーターです。

*DEFAULT

BRMSプロダクトの更新時間を見積もる時に、省略時の処置が使用されることを指定します。省略時の処置は、ターゲット・リリースが使用不可で、ワーストケースの更新時間が戻されるものと想定しています。プロダクトの将来のバージョンおよびリリースが使用不可であるか、あるいは現行バージョンおよびリリースがもう保守されておらず、使用可能なターゲット・リリースがリストされていない場合には、この値を使用します。

ターゲット・リリース

更新対象のターゲット・リリースはVXRXXMXの形式で指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R4M0はバージョン5、リリース4、モディフィケーション・レベル0です。

[トップ](#)

例

例1: BRMSプロダクトの初期設定

```
INZBRM OPTION(*RESET)
```

このコマンドは、BRMSを初期設定してすべての値を省略時の値にリセットします。

例2: ネットワーク上のシステムの活動化

```
INZBRM OPTION(*NETSYS) FROMSYS(MYNETID.MYSYSID)
```

このコマンドは、BRMSネットワークへネットワークMYNETID上のシステムMYSYSIDを活動化します。このコマンドは、システムMYSYSID上で実行します。

例3: すべての機能権限の登録

```
INZBRM OPTION(*SETAUT)
```

このコマンドは、現在BRMSで定義されているすべてのポリシーおよび機能をI5/OS登録機能に登録します。

例4: 媒体情報の名前変更

```
INZBRM OPTION(*CHGSYSNAM) PRVSYSNAM(MYNETID.MYSYSID) NEWSYSNAM(*LCL)
```

このコマンドは、現在ネットワークMYNETID上のシステムMYSYSIDが所有しているすべてのBRMS媒体情報を識別されたローカル・ネットワークとネットワーク属性で定義された省略時のローカル・ロケーション名に名前変更します。

例5: BRMSデータベース・ファイルのマージ

```
INZBRM OPTION(*MERGE) FROMLIB(QUSRBRMSAV) TOLIB(QUSRBRM) MERGE(*ALL)
```

このコマンドは、ライブラリーQUSRBRMSAVで見つかったデータベース・ファイルに入っているレコードをライブラリーQUSRBRMで見つかったレコードとマージします。

例6: BRMS初期設定の見積もり

```
INZBRM OPTION(*ESTPRDINZ)
```

このコマンドはプロダクト1次言語の導入の後のBRMS初期設定に必要な時間を見積もります。この見積もりはメッセージBRM402Bに戻されます。

例7: BRMS初期設定の実行

```
INZBRM OPTION(*RUNPRDINZ)
```

BRMS操作を実行しようとするすると例外BRM40A2を受け取ります。このコマンドはBRMSプロダクトの初期設定を完了して、通常のBRMS操作の継続を許可します。

例8: BRMS更新時間の見積もり

```
INZBRM OPTION(*ESTPRDUPT) TGTRLS(VxRxMx)
```

BRMSの現行バージョンおよびリリースを、TGTRLSパラメーターのVXRXXMX値によって指定されたバージョンおよびリリースに更新するための時間を見積もります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM13FF

マージ操作は正常に行われなかった。理由は&5です。

BRM1521

システム&1への接続を確立できなかった。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A5

BRMSプロダクトの初期設定が異常終了した。

BRM40A6

BRMSプロダクトの初期設定がすでに開始している。

BRM412B

値がパラメーターには無効です。

BRM6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用した媒体の初期設定 (INZMEDBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した媒体の初期設定(INZMEDBRM)コマンドは、BRMSで使用するための媒体を準備します。このコマンドは、標準ラベル磁気ボリューム処理用の標準ボリューム・ラベルの付いたボリュームを初期設定するために使用されます。

注: IS/OS INZTAPコマンドの代わりに、INZMEDBRMコマンドを使用することをお勧めします。媒体の保護を保証するために、BRMSは、*SECADM、*SECOFR、*SERVICE、または*SAVSYS権限がないユーザーにINZTAP CHECK(*NO)を使用不可にします。INZTAPのユーザーと違って、INZMEDBRMのユーザーはCHECK(*NO)オプションを使用するためにこれらのレベルの権限を必要としません。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- 装置(DEV)パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または*MEDCLS特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する*CHANGE権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリー中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する*USE権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1
NEWVOL	新規ボリュームID	文字値	必須, 定位置 2
MEDCLS	媒体クラス	名前	必須, 定位置 3
NEWOWNID	新規所有者ID	文字値, *BLANK	オプション
VOL	ボリュームID	文字値, *MOUNTED	オプション
CHECK	活動ファイルの検査	*YES, *FIRST, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CODE	コード	*EBCDIC, *ASCII	オプションル
ENDOPT	テープの終わりオプション	*REWIND, *UNLOAD	オプションル
CLEAR	消去	*NO, *YES	オプションル

トップ

装置(DEV)

ボリュームの初期設定に使用する装置の名前を指定します。装置名はBRMS装置テーブル中に定義されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

トップ

新しいボリューム識別コード(NEWVOL)

BRMSボリュームとして使用するために初期設定しようとしているボリュームのボリューム識別コードを指定します。

新しいボリューム識別コードは必須フィールドです。

新しいボリューム識別コード

新しいボリュームの6桁の識別コードを指定してください。識別コードには英数字(A-Zおよび0-9)しか使用できず、また、接頭部を付けたりブランクで埋めたりすることはできません。

これは必須パラメーターです。

トップ

媒体クラス(MEDCLS)

MEDCLSパラメーターは、ボリュームを形式設定するために使用する密度を定義します。ボリュームに割り当てられる媒体クラスが定義されるわけではありません。ボリュームの媒体クラス割り当てを変更するには、CHGMEDBRMコマンドを使用してください。

これは必須パラメーターです。

トップ

新しい所有者識別コード(NEWOWNID)

書き込まれるボリュームのボリューム・ラベルに書き込むボリューム所有者の識別コードを指定します。

*BLANK

所有者識別フィールドはブランクに設定されます。

新しい所有者識別コード

ボリュームの所有者を識別する14桁を超えない文字を指定してください。14桁より少ない文字が指定された場合には、フィールドは左寄せされ、右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

ボリューム識別コード(VOL)

使用するために初期設定されるボリュームの既存のボリューム識別コードを指定するか、あるいは現在磁気装置上にあるボリュームを使用するために初期設定しなければならないことを指示します。

***MOUNTED**

指定されたボリューム装置に入れられたラベル付きまたはラベルなしボリュームが使用するために初期設定されます。使用する新しいボリュームまたは空のボリュームを***MOUNTED**を指定し、**活動ファイルの検査(CHECK)**パラメーターに***NO**を指定しなければなりません。

ボリューム識別コード

使用するために初期設定するラベル付きボリュームの識別コードを指定してください。このパラメーター値は、すでにラベル付きボリュームであるボリュームを使用するために初期設定する場合にだけ使用することができます。指定された装置のテープに、指定したものと異なったボリューム識別コードがある場合、あるいはラベルなしボリュームである場合には、エラー・メッセージが送られます。

[トップ](#)

活動ファイルの検査(CHECK)

ラベル付きボリュームを使用するための初期設定をする前に、そのボリュームの活動データ・ファイルを検査する必要があるかどうかを指定します。指定された装置にラベルなしボリュームが入れられていた場合には、このパラメーターは無視されます。

***YES** ボリューム上のすべてのデータ・ファイル・ラベルが検査されます。活動ファイルが見つかった場合には、操作は終了され、エラー・メッセージが送られます。

***FIRST**

ボリューム上の最初のデータ・ファイル・ラベルだけが検査されます。ボリューム上にデータ・ファイルがないか、あるいは最初のデータ・ファイルが満了している場合には、ボリューム上の他のファイルを検査しないでボリュームが使用のために初期設定されます。最初のデータ・ファイルが満了していない場合には、操作は終了し、エラー・メッセージが送られます。

NO** 活動ファイルを検査せずにボリュームの初期設定が続行されます。使用する新しいボリュームまたは空のボリューム初期設定するには、ここにNO**を指定し、**ボリューム識別コード(VOL)**パラメーターに***MOUNTED**を指定しなければなりません。

[トップ](#)

コード(CODE)

ボリューム・ラベルが書かれる文字コードを指定します。ラベルの後に書かれた保管/復元データでないすべてのデータは、同じコードでなければならず、保管/復元ボリュームでないボリューム上でコードを混用することはできません。

***EBCDIC**

ボリューム・ラベルはEBCDICで書き出され、これはIBM標準ラベルです。すべての追加のデータもEBCDICで書き出す必要があります。

***ASCII**

ボリューム・ラベルはASCIIで書き出され、これは米国規格協会の標準ラベルです。すべての追加のデータもASCIIで書き出す必要があります。

トップ

テープの終わりオプション(ENDOPT)

使用するために初期設定された後で、ボリュームが巻き戻されるだけか、あるいは巻き戻されてアンロードされるかを指定します。

***REWIND**

ボリュームは使用できるように初期設定された後で、巻き戻されます。

***UNLOAD**

ボリュームは巻き戻されてアンロードされます。

トップ

消去(CLEAR)

使用のためにボリュームを初期設定する時に、そのボリュームからすべてのラベルおよびデータを削除するかどうかを指定します。ボリュームのすべてのデータを消去しなければならない場合には、ボリューム・ラベルまたはテープ・マークの場所からテープの終わりマーカまで削除されます。

***NO** 既存のデータは削除されません。既存のデータは削除されませんが、ボリュームが使用するために初期設定された後では、ボリューム上のデータを使用することはできません。

***YES** ボリュームの先頭が使用のために初期設定された後で、ボリューム上の残りのデータが削除されます。

トップ

例

例1: ボリュームの初期設定

```
INZMEDBRM DEV(TAP06) NEWVOL(T00004) MEDCLS(QIC1000)
```

このコマンドは、装置TAP06を使用して、ボリュームT00004を初期設定します。このボリュームには媒体クラスQIC1000が割り当てられ、QIC1000媒体クラスで指定された密度を使用して初期設定されます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

BRM1317

ボリューム&1を初期設定することはできない。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用した移行 (MGRBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した移行(MGRBRM)コマンドによって、ライブラリーまたは第1レベル・フォルダーを指定した補助記憶域プールに移行させることができます。このコマンドはBRMS移行処理によって使用され、必要に応じて特定のライブラリーまたはフォルダーの移行を要求するために使用されます。ライブラリーまたはフォルダーを移行させたい先の補助記憶域プールを指定することができます。

MGRBRMコマンドを使用すると、BRMSは、移動させようとしている項目が入っている補助記憶域プールの低記憶域限界値制約を無視しますが、ターゲット補助記憶域プールの高記憶域限界値は尊重します。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TOASP	TO ASP	文字値, *SYSTEM	必須, 定位置 1
TYPE	タイプ	*LIB, *FLR	オプション, 定位置 2
LIB	ライブラリー	名前	オプション, 定位置 3
FLR	フォルダー	名前	オプション

[トップ](#)

TO ASP (TOASP)

指定したライブラリーまたは第1レベル・フォルダーの移行先の補助記憶域プールを指定します。

*SYSTEM

ライブラリーまたはフォルダーは、システム(1)補助記憶域プールに移行されます。

ASP名 ライブラリーまたはフォルダーの移行先の補助記憶域プールの名前を指定します。補助記憶域プール名はWRKASPBRMコマンドを使用して割り当てられます。

ASP番号

ライブラリーまたはフォルダーの移行先の補助記憶域プールの番号を指定します。

注: このパラメーターの場合には、UDFS, 1次, および2次補助記憶域プールはサポートされません。

[トップ](#)

タイプ(TYPE)

移行したい項目のタイプを指定します。ライブラリーまたは第1レベル・フォルダーを選択することができます。

***LIB** 別の補助記憶域プールに移行させたい項目のタイプはライブラリーです。

***FLR** 別の補助記憶域プールに移行させたい項目のタイプは第1レベル・フォルダーです。

[トップ](#)

ライブラリー(LIB)

別の補助記憶域プールに移行させたいライブラリー名を指定します。

TYPEが*LIBでは、これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

フォルダー(FLR)

別の補助記憶域プールに移行させたいフォルダー名を指定します。

TYPEが*FLRでは、これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

例1: ライブラリーの移行

```
MGRBRM TOASP(COMPRESS) TYPE(*LIB) LIB(GLLIB)
```

このコマンドは、ライブラリーGLLIBをCOMPRESSという名前の補助記憶域プール(ASP)に移行します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1867

ファイル&1への書き込み中にエラー。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM1F24

項目&1を移行することができない。すでにASP &4の中にあります。

BRM1F25

項目&1を移行することができない。オブジェクトが使用中です。

BRM1F26

項目&1を移行することはできない。これは許可されていません。

BRM1F27

操作が許されない、資源が使用不能である。

BRM1F34

項目&1を移行することはできない。限界値が低すぎます。

BRM1F41

ASP &1は移行をサポートしない。

BRM1F42

ASP &1は移行には適格ではありません。

BRM1F44

ASP &1は移行をサポートしない。

BRM2112

ASP &2が無効です。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

活動時の保管モニター (MONSWABRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

活動時保管の監視(MONSWABRM)コマンドは、活動時保管メッセージ待ち行列を調べて、ライブラリー同期の終わりを示すメッセージを探します。同期が検出されると、ユーザーはシステムに対してコマンドを出すことができます。

バックアップの処理中に、MONSWABRMコマンドを制御グループの出口(*EXIT)特殊値として使用することができます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	保管されたライブラリー	名前, *MSGQ	必須, 定位置 1
CMD	実行するコマンド	コマンド・ストリング	必須, 定位置 2
JOB	ジョブ記述	単一値: *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *JOBQ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
WAITMSG	時間範囲 (秒数)	1-999999, 3600, *NOMAX	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	名前	オプション

トップ

保管されたライブラリー(LIB)

活動時保管操作中に、同期を検討したいライブラリーまたはメッセージ待ち行列の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

ライブラリー名

同期を検討したいライブラリーの名前を指定してください。

*MSGQ

*MSGQを指定した場合には、メッセージ待ち行列(MSGQ)パラメーターにメッセージ待ち行列名を指定しなければなりません。指定したメッセージ待ち行列名が同期について検討されます。

トップ

実行するコマンド(CMD)

活動時保管操作中にライブラリーの同期が達成された時に処理したいコマンドを指定します。たとえば、保管中のライブラリーで同期がいったん行われた場合には、サブシステムを再始動することができます。

注: 制御グループ内でMONSWABRMを効果的に使用するためには、監視されるライブラリーの制御グループ項目の中の「活動時保管」に*YESを指定する必要がある、また*EXIT項目が監視されるライブラリーの制御グループ項目より前にある必要があります。

これは必須パラメーターです。

トップ

ジョブ記述(JOBD)

このジョブで使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

*USRPRF

投入済みジョブが実行されるユーザー・プロファイルのジョブ記述が、投入済みジョブのジョブ記述として使用されます。

修飾子1: ジョブ記述

名前 ジョブで使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL ジョブ記述を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ジョブ記述を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ジョブ待ち行列(JOBQ)

このジョブが入られるジョブ待ち行列を指定します。このジョブ待ち行列は制御グループが実行されるジョブ待ち行列とは異なるものでなければならぬので、MONSWABRMコマンドは制御グループと同時に実行されます。

単一値

***JOB**

投入済みジョブは、指定されたジョブ記述で名前が指定されているジョブ待ち行列に入れられます。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 投入済みジョブが入れられるジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブ待ち行列を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ジョブ待ち行列を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

時間 (秒数) (WAITMSG)

MONSWABRMコマンドがジョブ待ち行列中のライブラリー同期化メッセージを待機する必要がある時間 (秒数) を指定します。指定された時間が経過した場合には、MONSWABRM コマンドはメッセージ待ち行列の監視を停止します。この時間は1-999999秒で指定することができ、省略時の時間は3600秒 (1時間) です。

3600 省略時の時間範囲は1時間です。

***NOMAX**

プログラムはライブラリー同期メッセージの到着をいつまでも待ちます。

時間範囲 (秒数)

時間制限 (秒数) を指定してください。指定できる時間は1-999999秒です。

トップ

メッセージ待ち行列(MSGQ)

同期について検討したいメッセージ待ち行列の名前を指定します。このパラメーターは、**保管ライブラリー (LIB)**パラメーターに*MSGQが指定されている場合には必須です。

制約事項:

- 指定したメッセージ待ち行列名は、監視しようとしている制御グループ項目のSWAメッセージ待ち行列フィールドに使用されている名前、または監視しようとしているBRMS保管コマンドで指定された**活動メッセージ待ち行列の保管(SAVACTMSGQ)**パラメーターに指定されている名前と一致しなければなりません。

MONSWABRMは常にライブラリーQUSRBRMのメッセージ待ち行列を使用します。

トップ

例

例1: 同期化後のコマンドの処理

```
MONSWABRM LIB(GLLIB) CMD(SBMJOB JOB(GLDAILY))
```

このコマンドは、ライブラリーGLLIBの保管中に同期化メッセージが送られたときに、GLDAILYジョブを投入します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用した媒体の移動 (MOVMEDBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した媒体の移動(MOVMEDBRM)コマンドは、BRMS移動ポリシーに基づいて媒体を移動させます。このコマンドの処理の結果として移動される媒体は、移動ポリシー要件（たとえば、指定できる移動日）ばかりでなく、場所、媒体クラス、システム名その他についてコマンドに指定された基準も満たすものでなければなりません。

MOVMEDBRMコマンドは、自動的に実行できるシステム・スケジューラー中のジョブとすることができるか、あるいはコマンドを手操作で投入することができます。

MOVMEDBRMコマンドの実行時に作成される出力は、印刷装置ファイルQP1AVMSに書き込まれるボリューム移動報告書か、出力ファイルに書き出される移動済み媒体レコードのいずれかです。

注: BRMSを使用したシステムのネットワークの場合には、この処理はシステムごとに実行できますが、ネットワークのメンバーの1つでMOVMEDBRMコマンドを処理することだけが必要です。

注: ネットワーク内の他のすべてのシステムに対して移動を実行しているシステムは、ネットワーク操作をサポートするすべての媒体ライブラリーに物理的に接続されているはずですが、そうならない場合には、再びMOVMEDBRMを実行して、論理的に接続されている媒体ライブラリー装置に適切な移動ポリシーを指定しなければならないことがあります。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

- 出力(OUTPUT)パラメーターに特殊値*OUTFILEを使用する場合には、出力ファイルおよび出力ファイル・ライブラリーに必要な権限について、ISERIES SECURITY REFERENCEの付録DにあるGENERAL RULES FOR OBJECT AUTHORITIES ON COMMANDSの項を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MOVPCY	移動ポリシー	名前, <u>*ALL</u>	オプション
LOC	FROM場所	名前, <u>*ALL</u> , *HOME	オプション
CNR	コンテナ	名前, <u>*ALL</u>	オプション
MEDCLS	媒体クラス	名前, <u>*ALL</u>	オプション
SYSNAME	システム名	文字値, <u>*ALL</u> , *LCL	オプション
FILEGRP	ファイル・グループ	名前, <u>*ALL</u> , *NONE, *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
GRPTYPE	ファイル・グループ・タイプ	名前, <u>*ALL</u> , *ARC, *BKU, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*PRINT , *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	

トップ

移動ポリシー(MOVPCY)

ボリュームの選択に使用したい移動ポリシーのユーザー定義名を指定します。

***ALL** 移動ポリシーをもつすべての媒体が選択されます。

移動ポリシー名

媒体ボリュームの選択に使用している移動ポリシーのユーザー定義名を指定してください。

トップ

FROM場所(LOC)

移動するボリュームの選択時に使用したい媒体の場所を指定します。

***ALL** 任意の保管場所にある媒体ボリュームを選択します。

*HOME

ホーム場所にあるボリュームを選択してください。

FROMロケーション名

媒体保管場所の名前を指定してください。

トップ

コンテナ(CNR)

媒体移動のために選択したいコンテナを指定します。1つまたはすべてのコンテナを指定することができます。

***ALL** コンテナに現在入っているすべての媒体を媒体移動のために選択します。

コンテナID

媒体移動のために選択したいコンテナの名前を指定してください。

トップ

媒体クラス(MEDCLS)

媒体移動のために選択したい媒体クラスを指定します。特定の媒体クラスまたはすべての媒体クラスを選択することができます。

***ALL** 媒体クラスに関係なくすべての媒体を選択します。

媒体クラス名

媒体移動するボリュームの選択に使用したい媒体クラスの名前を指定します。

[トップ](#)

システム名(SYSNAME)

媒体移動のために考慮に入れたい媒体インベントリをもつシステム名を指定します。

***ALL** すべてのシステム上にあるすべての媒体を媒体移動のために選択された媒体に組み込みます。

***LCL** システムがローカル・システムであることを指定します。BRMSは省略時のローカル・ロケーション名LCLLOCNAMEを使用し、システム名SYSNAMEは使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。DSPNETAコマンドを使用してシステム・ネットワーク属性を表示することができます。

ロケーション名

システムと関連したリモート・ロケーションの名前を指定してください。DSPNETA コマンドを使用して表示されるローカル・システムのネットワークIDが、システムのネットワークIDとして使用されます。

注: この値を使用するには、BRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

ネットワークID.ロケーション名

システムと関連したリモート・ロケーションのネットワークIDおよび名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。NNNNNNNNはネットワークIDで、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

注: この値を使用するには、BRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

[トップ](#)

ファイル・グループ(FILEGRP)

移動したいボリュームの選択時に使用したいファイル・グループを指定します。

***ALL** 移動したい媒体の選択時にすべてのファイル・グループを組み込みます。

*NONE

媒体をファイル・グループに組み込みません。

*ARCGRP

省略時の保存制御グループが入っている媒体をファイルのグループに組み込みます。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能（オプション2）が必要です。

*BKUGRP

省略時のユーザー・データ・バックアップ制御グループが入っている媒体をファイルのグループに組み込みます。

***SYSGRP**

省略時のシステム・データ制御グループが入っている媒体を、ファイルのグループに組み込みます。

***SYSTEM**

省略時のシステム全体バックアップ制御グループが入っている媒体をファイルのグループに組み込みます。

ファイル・グループ

移動のために選択したい媒体をもつファイル・グループの名前を指定してください。

トップ

ファイル・グループ・タイプ(GRPTYPE)

移動のために選択したいファイル・グループのタイプを指定します。

***ALL** 他の指定を満たすすべてのタイプのファイル・グループを検索に組み込みます。

***ARC** 保存タイプ・ファイル・グループであるファイル・グループを移動したい媒体に組み込みます。

注: *ARCは特殊値ではありませんが、これが保存ファイル・グループ・タイプであることを示します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKU** バックアップ・タイプ・ファイル・グループであるファイル・グループを移動したい媒体に組み込みます。

注: *BKUは特殊値ではありませんが、これがバックアップ・ファイル・グループ・タイプであることを示します。

***NONE**

どのファイル・グループ・タイプも移動したい媒体に組み込みません。

ファイル・グループ・タイプ

移動したいファイル・グループに組み込みたいファイル・グループ・タイプを指定してください。ファイル・グループ・タイプの例としてはQBRMBKUPがあり、これはバックアップ制御グループ・ファイルのグループ・タイプであることを示します。

トップ

出力(OUTPUT)

出力をジョブのプール出力で印刷するか、またはデータベース・ファイルに送るかを指定します。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は出力を受け取るファイル(OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル(OUTFILE)

出力(OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定されているときに、出力を受け取るデータベース・ファイルの修飾名を指定します。このファイルが存在しない場合には、このコマンドは、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。新規ファイルは、モデルとして様式名QBRMMOV MEDでライブラリーQBRMのデータベース・ファイルQO1AVMSを使用して作成されます。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

データベース・ファイル名

コマンドからの出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定します。このファイルが存在しない場合には、指定されたライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルを見つけるために指定されたライブラリーが使用されます。

トップ

出力メンバー・オプション(OUTMBR)

出力(OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定されているときに、コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

出力を受け取るファイルの最初のメンバー。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、そのメンバーが存在しない場合には、出力を受け取るファイル(OUTFILE)パラメーターとレコード・オプションで指定されたファイルの名前でメンバーが作成されます。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーを指定します。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、そのメンバーが存在しない場合には、メンバーが作成されます。

メンバーが存在する場合には、既存のメンバーの最後にレコードを追加するか、既存のメンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存のレコードが、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存の情報に新規レコードが追加されます。

トップ

例

例1: 場所*HOMEの移動するすべてのボリュームの選択

```
MOVMEDBRM LOC(*HOME)
```

このコマンドは、媒体移動用に場所*HOMEに入っているすべての移動ポリシーのすべてのボリュームを選択します。移動活動の要約がファイルQPIAVMSとして印刷されます。

例2: 場所*HOMEの移動するすべてのボリュームの選択

```
MOVMEDBRM LOC(*HOME) OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(MYLIB/MOVEMENT)
```

このコマンドは、媒体移動用に場所*HOMEに入っているすべての移動ポリシーのすべてのボリュームを選択します。移動活動の要約は、ライブラリーMYLIBのデータベース・ファイルMOVEMENTの最初のメンバーに入れられます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

BRM6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使ったスプール・ファイル移動 (MOVSPFBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したスプール・ファイルの移動(MOVSPFBRM)コマンドにより、選択したスプール・ファイルを指定したライブラリー修飾出力待ち行列に移動することができます。選択基準には、ライブラリー修飾FROM出力待ち行列名、FROM補助記憶域プール、スプール・ファイル、ジョブ名、ジョブ・ユーザー、ジョブ番号、ユーザー・データ、作成日の範囲、最終使用日の範囲、およびサイズの範囲が含まれます。

*REPORTという実行オプションにより、ユーザーは、選択したスプール・ファイルを移動する前に、「BRMを使用したスプール・ファイルの移動」報告書を検討することができます。報告書（印刷の場合）は印刷装置ファイルQP1AMSFに書き出されます。

BRMSは、出力待ち行列のスプール・ファイル補助記憶域プール属性を使用して、スプール・ファイルが1つの出力待ち行列から別の出力待ち行列に移動される時に、実際にそのスプール・ファイルを1つの補助記憶域プールから別の補助記憶域プールに移動するかどうかを決定します。1つの出力待ち行列から別の出力待ち行列に移動するスプール・ファイルが1つの補助記憶域プールから別の補助記憶域プールに移動しない場合には、そのスプール・ファイルは移動しないので、BRMSは補助記憶域プールのASP高記憶域限界値を調べません。1つの出力待ち行列から別の出力待ち行列に移動するスプール・ファイルがある1つの補助記憶域プールから別の補助記憶域プールにも移動する場合には、BRMSは、移動するスプール・ファイルを要求する前に、ターゲット補助記憶域プールの高記憶域限界値を超えないでそのスプール・ファイルを収容する十分なスペースがターゲット補助記憶域プールにあるかどうかを調べます。この限界値を超えないとそのスプール・ファイルを移動できない場合には、BRMSは、そのファイルが移動されなかったこと、および移動できなかったファイルの数とスプール・データの量を示す要約セクション明細にそのファイルが含まれることを示します。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、BRMS拡張機能（オプション2）が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	*REPORT, *MOVE	オプション、位置 1
TOOUTQ	TO出力待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション、位置 2
	修飾子 1: TO出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	

キーワード	記述	選択項目	注
FROMOUTQ	FROM出力待ち行列	修飾オブジェクト名	オプションナル、定位置 3
	修飾子 1: FROM出力待ち行列	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*ALL</u>	
FILE	ファイル	名前, <u>*ALL</u>	オプションナル、定位置 4
JOB	ジョブ名	名前, <u>*ALL</u> , *	オプションナル
USER	ユーザー	名前, <u>*ALL</u>	オプションナル
USRDTA	ユーザー・データ	名前, <u>*ALL</u>	オプションナル
FROMASP	FROM ASP	文字値, <u>*ALL</u> , *SYSTEM	オプションナル
SLTCRTDATE	作成日の選択	要素リスト	オプションナル
	要素 1: 開始日	文字値, <u>*BEGIN</u> , *CURRENT	
	要素 2: 終了日	文字値, <u>*END</u> , *CURRENT	
SLTUSEDATE	最終使用日付の選択	要素リスト	オプションナル
	要素 1: 開始日	文字値, <u>*BEGIN</u> , *CURRENT	
	要素 2: 終了日	文字値, <u>*END</u> , *CURRENT	
SLTSIZE	サイズの選択	要素リスト	オプションナル
	要素 1: サイズ・タイプ	<u>*KB</u> , *MB, *GB, *PAGES	
	要素 2: 最小サイズ	0-999999, <u>0</u>	
	要素 3: 最大サイズ	0-999999, <u>*NOMAX</u>	

トップ

実行オプション(OPTION)

移動候補のプール・ファイルの報告書を作成するか、あるいは移動操作を処理するかを指定します。

注: 移動操作を処理する前に、常に移動候補の報告書(*REPORTオプション) を実行する必要があります。

*REPORT

「BRMを使用したプール・ファイルの移動」報告書を作成します。この報告書は印刷装置ファイルQP1AHSFに書き出されます。

*MOVE

移動操作を処理します。

トップ

TO出力待ち行列(TOOUTQ)

プール・ファイルを移動したい(移動先の)ライブラリーおよび出力待ち行列の名前を指定します。結果は、報告書を作成するか、プール・ファイルをある出力待ち行列から他の出力待ち行列に移動するか、そのいずれかとすることができます。

修飾子1: 移動先出力待ち行列

移動先出力待ち行列名

プール・ファイルの移動先の出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

FROM出力待ち行列(FROMOUTQ)

移動したいスプール・ファイルが入っている（移動元の）ライブラリーおよび出力待ち行列の名前を指定します。システム上のすべての出力待ち行列を処理するように指示する特殊値*ALLが用意されています。

*ALLが指定されている場合には、ライブラリー名の値を指定することはできません。移動元出力待ち行列名に*ALLが指定されていない時には、移動元出力待ち行列が入っているライブラリーを示すためにライブラリー名を指定する必要があります。移動元出力待ち行列ライブラリーには、システム内のすべてのライブラリー(QSYSを含む)が検索されることを意味する特殊値*ALLがサポートされています。結果は、報告書を作成するか、スプール・ファイルのある出力待ち行列から他の出力待ち行列に移動するか、そのいずれかとすることができます。

修飾子1: 移動元出力待ち行列

***ALL** すべての出力待ち行列を報告書または移動操作に組み込みます。特殊値*ALLを使用している時には、ライブラリーの値は指定できません。

総称*移動元出力待ち行列名

出力待ち行列の総称名を指定してください。総称名とは、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が続いた文字列です。たとえば、ABC*などです。アスタリスク(*)は任意の有効な文字の代用です。総称名は、総称接頭部で始まる名前をもつ出力待ち行列のうち、ユーザーがそれに対して権限をもっているものすべてを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないと、システムはそれを完全な出力待ち行列名であると見なします。

移動元出力待ち行列名

報告書または移動処理に組み込みたい出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー移動元出力待ち行列を指定する場合には、ライブラリー名または特殊値*ALLを指定する必要があります。

***ALL** QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

スプール・ファイルを検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ファイルの選択(FILE)

ファイル名に基づいて移動するスプール・ファイルを指定します。

***ALL** 名前にかかわらずすべてのスプール・ファイルを報告書または移動操作に組み込みます。

スプール・ファイル名

報告書または移動操作に組み込みたいスプール・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名の選択(JOB)

スプール・ファイルを作成したジョブの名前に基づいて移動するスプール・ファイルを指定します。

***ALL** スプール・ファイルを作成したジョブにかかわらず、すべてのスプール・ファイルを報告書または移動操作に組み込みます。

* このコマンドを実行したジョブと名前が一致するジョブのすべてのスプール・ファイルが選択されます。

ジョブ名

報告書または移動操作に組み込むスプール・ファイルと関連したジョブの名前を指定してください。

[トップ](#)

ユーザーの選択(USER)

スプール・ファイルを作成したユーザーの名前に基づいて報告書または移動操作に組み込むスプール・ファイルを指定します。

***ALL** すべてのユーザーについてスプール・ファイルを報告書または移動操作に組み込みます。

ユーザー名

報告書または移動操作に組み込むスプール・ファイルと関連したユーザーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー・データの選択(USRDTA)

関連したユーザー・データ・タグに基づいて報告書または移動操作に組み込むスプール・ファイルを指定します。

***ALL** 任意のデータ・タグをもつスプール・ファイルを報告書または移動操作に組み込みます。

ユーザー・データ

報告書または移動操作に組み込みたいユーザー・データを指定してください。

[トップ](#)

FROM ASP (FROMASP)

スプール・ファイルの検索を、指定した補助記憶域プールに常駐しているライブラリーに含まれる出力待ち行列からのデータのみが含まれるように制限します。

***ALL** すべての補助記憶域プールを報告または移動操作に組み込みます。

*SYSTEM

システム(1)補助記憶域プールのみを報告または移動操作に組み込みます。

FROM ASP名

報告または移動操作に組み込みたい補助記憶域プールの名前を指定します。

FROM ASP番号

報告または移動操作に組み込みたい補助記憶域プールの番号を指定します。

注: このパラメーターの場合には、UDFS, 1次, および2次補助記憶域プールはサポートされません。

[トップ](#)

作成日の選択(SLTCRTDATE)

スプール・ファイルの報告または移動時に使用したい作成日の範囲を指定します。**開始日**が日付の範囲の始めであり、**終了日**が日付の範囲の終わりとなります。開始日以後で終了日以前に作成されたスプール・ファイルのみが、選択したスプール・ファイルに組み込まれます。

注: このパラメーターを使用すれば、区切り記号のない日付または最大5桁までの日数を入力することができます。たとえば、月/日/年形式を使用している場合には、12904という数字は1月29日、2004年として形式設定されます。一方、13904という数字を入力した場合には、BRMSはこれを日付とは見なさず、数値と見なします。BRMSは、数字が入力された時に常にカレンダー日付を最初に計算しようとし、計算した日付が正しくなかった場合には、それを日数と見なします。5桁を超える数字を入力し、計算された日付が正しくなかった場合には、エラー・メッセージを受け取ります。

要素1: 開始日付

***BEGIN**

最も古い作成日が日付範囲の開始日です。

***CURRENT**

現在日が日付の範囲の開始日となります。

開始作成日

日付範囲の開始日にしたい日付をジョブ日付形式（日付区切り記号付き、または日付区切り記号なし）で指定してください。

日数 日付の範囲の開始日を決めるのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

要素2: 終了日付

***END** 見つかった最終日付が検索の日付範囲の終わりです。

***CURRENT**

現行日付が日付範囲の終了日です。

終了作成日

日付範囲の終了日にしたい日付をジョブ日付形式（日付区切り記号付き、または日付区切り記号なし）で指定してください。

日数 日付の範囲の終了日を決めるのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

[トップ](#)

最終使用日付の選択(SLTUSEDATE)

スプール・ファイルの報告または移動時に使用したい最終使用日付の範囲を指定します。**開始日**が日付の範囲の始めであり、**終了日**が日付の範囲の終わりとなります。開始日以後で終了日以前に最後に使用されたスプール・ファイルのみが、選択したスプール・ファイルに組み込まれます。

注: このパラメーターを使用すれば、区切り記号のない日付または最大5桁までの日数を入力することができます。たとえば、月/日/年形式を使用している場合には、12904という数字は1月29日、2004年として形式設定されます。一方、13904という数字を入力した場合には、BRMSはこれを日付とは見なさず、数値と見なします。BRMSは、数字が入力された時に常にカレンダー日付を最初に計算しようとし、計算した日付が正しくなかった場合には、それを日数と見なします。5桁を超える数字を入力し、計算された日付が正しくなかった場合には、エラー・メッセージを受け取ります。

要素1: 開始日付

***BEGIN**

最も古い最終使用日付が日付範囲の開始日です。

***CURRENT**

現在日が日付の範囲の開始日となります。

開始使用日付

日付範囲の開始日にしたい日付をジョブ日付形式（日付区切り記号付き、または日付区切り記号なし）で指定してください。

日数 日付の範囲の開始日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

要素2: 終了日付

***END** 見つかった最終日付が検索の日付範囲の終わりです。

***CURRENT**

現行日付が日付範囲の終了日です。

終了使用日付

日付範囲の終了日にしたい日付をジョブ日付形式（日付区切り記号付き、または日付区切り記号なし）で指定してください。

日数 日付の範囲の終了日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

[トップ](#)

サイズの選択(SLTSIZE)

報告書または移動操作に組み込むスプール・ファイルのサイズを指定します。ファイルの選択には3つの位置値を指定することができます。最小サイズより大きいサイズのファイルか、または最大サイズより小さいサイズのファイルのみが選択されます。

要素1: サイズ・タイプ

***KB** スプール・ファイルのサイズはキロバイト単位で指定されます。

***MB** スプール・ファイルのサイズはメガバイト単位で指定されます。

***GB** スプール・ファイルのサイズはギガバイト単位で指定されます。

***PAGES**

スプール・ファイルのサイズはページ単位で指定されます。

要素2: 最小サイズ

0 ゼロより大きいサイズのスプール・ファイルが組み込まれます。

最小サイズ

スプール・ファイルを報告書または移動操作に組み込むためにはそれ以上でなければならないサイズを指定してください。指定できるスプール・ファイル・サイズの範囲は0-999,999で、指定したサイズは、組み込むファイルを決めるために サイズ・タイプ 値および 最大サイズ 値と一緒に使用されます。

要素3: 最大サイズ

*NOMAX

最小サイズ・パラメーターに指定された値以上のすべてのスプール・ファイルが組み込まれます。

最大サイズ

スプール・ファイルを報告書または移動操作に組み込むために超えてはならないサイズを指定してください。選択に組み込まれるためには、指定したサイズが最小サイズ指定以上であり、指定したサイズ以下である必要があります。指定できるスプール・ファイル・サイズの範囲は1-999,999で、指定したサイズは、組み込むファイルを決めるために サイズ・タイプ 値と一緒に使用されます。

[トップ](#)

例

例1: システムASPのラージ・スプール・ファイルの移動

```
MOVSPFLBRM OPTION(*MOVE) TOOUTQ(MYLIB/MYOUTQ)
FROMASP(*SYSTEM) SLTSIZE(*MB 50 *NOMAX)
```

このコマンドは、サイズが50メガバイト以上の現在のシステムASPに入っているすべてのスプール・ファイルをMYLIBという名前のライブラリーのMYOUTQという名前の出力待ち行列に移動します。この例は、MYLIBがシステムASPになく、MYOUTQ出力待ち行列のスプール・ファイルのASP属性は、スプール・ファイルを出力待ち行列と同じASPに入れるように指定していることを想定しています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1131

ライブラリー&1が見つからないか使用できません。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM1F18

選択基準に適合した出力待ち行列が見つからない。

BRM2112

ASP &2が無効です。

BRM1F27

操作が許されない、資源が使用不能である。

BRM1F28

移行は実行されなかった。

BRM2112

ASP &2が無効です。

BRM2270

ライブラリー&3の出力待ち行列&2を移行用に使用することはできない。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用したラベルの印刷 (PRTLBLBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したラベルの印刷(PRTLBLBRM)コマンドは、媒体処理の結果として選択した媒体ラベルを印刷します。ラベル情報は次の通りです。

- ボリューム通し識別コード
- 作成日
- 満了日
- 場所
- コンテナ識別コード

注: 印刷装置ファイル記述を変更した場合には、コピーを保存しなければなりません。リリースの更新によって印刷装置ファイルが変更されることがあり、ユーザーのバージョンがバックレベルになることがあります。

注: 印刷装置ファイルのソースはQUSRBRM/QA1ASRCの中にあります。3つの印刷装置ファイルQP1A1LP, QP1A2LPおよびQP1A3LPがあります。これらは、6行/インチ、8行/インチ、および9行/インチに対応します。

印刷装置ラベルの形式を変更するためには、媒体に選択したラベルに対応するソース・メンバーを編集してください。編集はエディター(たとえば、原始ステートメント入力ユーティリティ(SEU))で実行できますが、最初にメンバーに正しいメンバー・タイプPRTFを指定する必要があります。これは、メンバーの処理時にPDMによって行なうことができます。ソースを変更する時には、レコード名もフィールド名も変更しないでください。印刷プログラムは、与えられるこれらの名前に基づいています。位置は変更できます。印刷装置ファイルをコンパイルする時には、CRTPRTFコマンドにレベル・チェック(*NO)を必ず指定してください。

このコマンドにはパラメーターはありません。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

PRTLBLBRM

このコマンドは、媒体ラベルを印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM媒体例外の印刷 (PRTMEDBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMの媒体例外の印刷(PRTMEDBRM)コマンドは、ボリュームの媒体クラスに指定されている使用限界値、読み取りまたは書き込み回数などを超えたBRMS媒体インベントリ中のボリュームに関する情報を提供します。

その情報に基づいて、報告されたボリュームについて判断を下すことができます。例外を含むすべてのボリュームまたは例外をもつボリュームだけを指定することができます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	<u>*THRESHOLD</u> , *STATISTICS	オプション、位置 1
VOL	リストするボリューム	<u>*ALL</u> , *EXCP	オプション

[トップ](#)

タイプ(TYPE)

BRMSが印刷するようにしたい報告書のタイプを指定します。

*THRESHOLD

媒体ボリューム限界値情報報告書には、媒体クラスの処理画面を介して設定された使用限界値または読み／書き限界値と等しくなったか、あるいはそれを超えたボリュームが含まれています。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1AVOLに書き出されます。

*STATISTICS

媒体の有効期間、クリーニング前使用回数などを含め、その他すべてのボリューム関連統計が報告され、媒体クラスの処理画面で設定された値と比較されます。この報告書は媒体ボリューム統計報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1AVUに書き出されます。

[トップ](#)

リストするボリューム(VOL)

すべてのボリュームを例外を含めた報告書と例外だけの報告書のどちらにリストしたいかを指定します。

***ALL** 報告書には、例外を含むすべてのボリュームが含まれます。

***EXCP**

例外ボリュームだけが報告書に含まれます。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMS プロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

媒体移動の印刷 (PRTMOVBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

媒体移動の印刷(PRTMOVBRM)コマンドは、指定された日付の範囲、要求された移動のタイプ、場所などに基づいて、媒体移動報告書を印刷します。この報告には、移動した（あるいはボリュームが新しい場所に移動した*NEXT状態の）すべてのボリューム、移動元および移動先場所、各ボリュームごとの移動ポリシー、および移動日が表示されます。印刷される場合、印刷装置ファイルQP1APVMSに書き出されます。

媒体移動報告書は、すでに移動したボリュームまたはボリュームの次のスケジュール済み媒体移動を報告するために使用することができます。次のスケジュール済み媒体移動の報告は、タイプ・パラメーターで*NEXT変数を選択することによって実行されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SLTDATE	日付の選択	要素リスト	オプションル
	要素 1: 開始日	文字値, *BEGIN, *CURRENT	
	要素 2: 終了日	文字値, *CURRENT, *END	
TYPE	タイプ	*ALL, *NEXT, *NOTVIFY, *VFY	オプションル
LOC	FROM場所	名前, *ALL, *HOME	オプションル

トップ

日付の選択(SLTDATE)

媒体移動報告書の印刷時に使用したい日付の範囲を指定します。開始日が媒体移動の日付の範囲の始めになり、終了日が日付の範囲の終わりとなります。

注: このパラメーターを使用すれば、区切り記号のない日付または最大5桁までの日数を入力することができます。たとえば、月/日/年形式を使用している場合には、12904という数字は1月29日、2004年として形式設定されます。一方、13904という数字を入力した場合には、BRMSはこれを日付とは見なさず、数値と見なします。BRMSは、数字が入力された時に常にカレンダー日付を最初に計算しようとし、計算した日付が正しくなかった場合には、それを日数と見なします。5桁を超える数字を入力し、計算された日付が正しくなかった場合には、エラー・メッセージを受け取ります。

要素1: 開始日付

***BEGIN**

最も早い活動日付を日付の範囲の開始日として使用します。

***CURRENT**

現在日を日付の範囲の開始日として使用します。

開始日 日付区切り記号の有無にかかわらずジョブ日付の形式で入力された日付を、日付の範囲の開始日として指定してください。

日数 日付の範囲の開始日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

注: **タイプ(TYPE)**パラメーターに***NEXT**を指定すると、現在日より 後 の日数を使用して日付範囲の開始日が指定されます。

要素2: 終了日付

***CURRENT**

現在日を日付の範囲の終了日として使用します。

***END** 媒体が移動された最終日付が、検索に使用したい日付の範囲の終了日となります。

終了日 日付の範囲の終了日として使用したい日付を、日付区切り記号付きまたはなしのジョブ日付形式で指定してください。

日数 日付の範囲の終了日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

注: **タイプ(TYPE)**パラメーターに***NEXT**を指定すると、現在日より 後 の日数を使用して日付範囲の終了日が決定されます。

トップ

タイプ(TYPE)

報告書に組み込みたい媒体移動活動のタイプを指定してください。

***ALL** 移動されたすべてのボリュームを組み込み、各ボリュームと関連づけられた最新の媒体移動を示します。

***NEXT**

完了した移動ではなく、媒体が移動する次の場所の媒体移動報告書を作成します。***NEXT**オプションは次の場所までのすべての媒体移動を組み込みます。選択された日付の範囲の報告書の結果が意味があることを確認するために、終了日は将来の日付になっていなければなりません。

***NOTVfy**

選択された日付の範囲で、検査待ちの媒体だけを報告書に組み込みます。

***Vfy** 選択された日付の範囲で、報告書に検査済み媒体移動だけを組み込みます。このオプションが媒体についての報告書作成に使用された後は、指定された日付の範囲で選択されたボリュームは、次に報告書が処理されると、報告書に現れません。

トップ

FROM場所(LOC)

媒体移動報告書に単一の場所またはすべての場所を組み込みたいかどうかを指定してください。

***ALL** 媒体移動報告書にすべての場所を組み込みます。報告される各組み込み先および組み込み元の場所移動ごとに、ページの切れ目が起こります。すなわち、保管場所から*HOMEまでの移動が報告書の一部となり、*HOMEから保管場所までの移動ではページの切れ目が起こり、報告書の新しい部分が始まります。

***HOME**

媒体移動報告書にホーム場所(*HOME)が組み込まれます。

FROMロケーション名

媒体移動報告書に組み込みたい場所の名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1: 媒体移動報告書の印刷

```
PRTMOVBRM TYPE(*VFY) LOC(*HOME)
```

このコマンドは、妥当性検査され(*VFY)、ホーム場所(*HOME)から移動される媒体項目を含む報告書を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMからのログ項目の除去 (RMVLOGEBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMからのログ項目の除去(RMVLOGEBRM)コマンドは、指定する項目のタイプと日付の範囲に基づいて、BRMSログを消去します。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*ALL, *ARC, *BKU, *MAINT, *MED, *MGR, *RCY, *RTV, *SEC	オプション、位置 1
SLTDATE	日付の選択	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日	文字値, *CURRENT, *BEGIN	
	要素 2: 終了日	文字値, *CURRENT	

トップ

タイプ(TYPE)

BRMSログから消去したい項目のタイプを指定します。項目のタイプの例として、バックアップ、保存などがあります。

注: TYPEパラメーターの省略時の値は、このコマンドのアクセスに使用するBRMSの区域によって異なります。たとえば、バックアップ・メニューからこのコマンドをアクセスする場合には、省略時のタイプは*BKUです。保管メニューからこのコマンドをアクセスする場合には、省略時のタイプは*ARCとなり、以下同様です。コマンドをコマンド入力行に入力するか、あるいはシステム・ポリシー画面から入力する場合には、省略時の値は *ALLです。

***ALL** 指定された日付の範囲内で消去するすべてのログ項目を選択します。

***ARC** 指定された日付の範囲内で消去する保存ログ項目だけを選択します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKU** 指定された日付の範囲内で消去するバックアップ・ログ項目だけを選択します。

***MAINT**

指定された日付の範囲内で消去する保守ログ項目だけを選択します。

***MED** 指定された日付の範囲内で消去する媒体管理ログ項目だけを選択します。

***MGR** 指定された日付範囲内に消去する移行ログ項目のみを選択します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***RCY** 指定された日付の範囲内で消去する回復ログ項目だけを選択します。

***RTV** 指定された日付の範囲内で消去する検索ログ項目だけを選択します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***SEC** 指定された日付の範囲内で除去する機密保護ログ項目だけを選択します。1次区域が機密保護であるログ項目だけが除去されます。項目は何らかの理由でログに記録され、機密保護は2次区域として含まれていることがあります。

[トップ](#)

日付の選択(SLTDATE)

BRMSログから除去する項目の選択時に使用したい日付の範囲を指定します。**開始日**は日付の範囲の開始点で、**終了日**は日付の範囲の終了点です。

注: このパラメーターを使用すれば、区切り記号のない日付または最大5桁までの日数を入力することができます。たとえば、月/日/年形式を使用している場合には、12904という数字は1月29日、2004年として形式設定されます。一方、13904という数字を入力した場合には、BRMSはこれを日付とは見なさず、数値と見なします。BRMSは、数字が入力された時に常にカレンダー日付を最初に計算しようとし、計算した日付が正しくなかった場合には、それを日数と見なします。5桁を超える数字を入力し、計算された日付が正しくなかった場合には、エラー・メッセージを受け取ります。

要素1: 開始日付

***CURRENT**

現在日が、BRMSヒストリー・ログから項目を除去する日付範囲の開始点となります。

***BEGIN**

BRMSログ中の最も早いログ項目が日付範囲の先頭日付になります。

開始日 日付の範囲の開始日として使用したい日付を、日付区切り記号付きまたはなしのジョブ日付形式で指定してください。

日数 日付の範囲の開始日である現在日より前の日数を指定してください。

要素2: 終了日付

***CURRENT**

現行日付が日付範囲の終了日です。

***END** ログ中の最終日付が日付の範囲の終了日となります。

終了日 日付の範囲の終了日として使用したい日付を、日付区切り記号付きまたはなしのジョブ日付形式で指定してください。

日数 日付の範囲の終了日である現在日より前の日数を指定してください。

[トップ](#)

例

例1: 日付範囲に基づいたBRMSログからの項目の除去

```
RMVLOGEBRM SLTDATE('1/1/03' '4/01/03')
```

このコマンドは、2003年1月1日から2003年4月1日までのすべてのログ項目をログから除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMから媒体ボリュームの除去 (RMVMEDBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMからの媒体ボリュームの除去(RMVMEDBRM)コマンドは、BRMS媒体インベントリーから媒体ボリュームを除去します。ボリュームは、世代、エラー率、別の場所への出荷などの理由で除去されます。

注: 媒体は、ADDMEDBRMコマンドを使用して前に追加されている場合にのみ除去することができます。ボリュームの移動時に、内容および統計を含めてボリュームに関するすべての情報が削除されます。また、BRMSでの合計ボリューム数も減らされます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリュームID	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ボリューム識別コード(VOL)

BRMS媒体インベントリーから除去しようとしているボリュームのボリューム識別コードを指定します。

これは必須パラメーターです。

ボリューム識別コード

媒体インベントリーから除去するボリュームの識別コードを指定してください。ボリューム識別コードの長さは最大6桁です。

[トップ](#)

例

例1: BRMSからのボリュームの除去

```
RMVMEDBRM VOL(C00005)
```

このコマンドは、BRMS媒体インベントリーからボリュームC00005を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1147

ボリューム&1が見つかりませんでした。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMからの媒体情報の除去 (RMVMEDIBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMからの媒体情報の除去(RMVMEDIBRM)コマンドは、レコードをBRMS媒体内容情報から除去する時期、およびオブジェクト明細の保存期間を指定するために使用されます。**媒体内容(MEDCON)**パラメーターは、レコードを満了時に除去するか、満了したボリュームの再使用時に除去するかを指示します。**オブジェクト・レベルの明細(OBJDTL)**パラメーターは、オブジェクト・レベルの明細を除去する時点を指示します。レコード・レベルの情報を除去すると同時にオブジェクト・レベルの明細を除去したり、あるいはオブジェクト情報を保存する日数を指定することができます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MEDCON	媒体の内容	*EXP, *REUSE	オプション
OBJDTL	オブジェクト・レベルの明細	1-9999, *MEDCON	オプション

[トップ](#)

媒体内容(MEDCON)

レコードは媒体の満了時と媒体の再使用時のどちらに除去されるかを指定します。

***EXP** 満了日が現在日以前になっているすべてのBRMS媒体内容情報項目が媒体内容情報から除去されます。

***REUSE**

媒体ボリュームと関連した媒体内容情報項目は、ボリュームがすでに満了していても、そのボリュームが再使用されるまではファイルから除去されません。

[トップ](#)

オブジェクト明細(OBJDTL)

媒体内容情報中の媒体レコードについてオブジェクト・レベルの明細を除去したい時期を指定します。

***MEDCON**

オブジェクト・レベルの明細情報は、**媒体内容(MEDCON)**パラメーターに指定された値に基づいて除去されます。

日数 項目のオブジェクト明細がファイル上で保存される日数を指定してください。この日数が、**媒体内容(MEDCON)**パラメーターに指定した日数より大きい場合(ボリュームが60日で満了して、**オブジェクト・レベルの明細(OBJDTL)**パラメーターに90日を指定したような場合)には、内容レコードはすでに除去されているので、パラメーターは何の意味もありません。しかし、45日を指定し、オブジェクトが60日で満了する場合には、オブジェクト・レベルの明細は45日後に除去され、付随した内容レコードは60日後に除去されます。

[トップ](#)

例

例1: BRMSからの媒体情報の除去

```
RMVMEDIBRM MEDCON(*REUSE) OBJDTL(45)
```

このコマンドによって、BRMS媒体内容情報を除去することができます。この例では、媒体内容情報は、媒体が再使用されて付随するオブジェクト明細が45日後に除去されるまでBRMS媒体内容ファイルに残されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用した検索の再開 (RSMRTVBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク・スペースの不足のために保留されているものを含めて、ライブラリー、文書、およびバイト・ストリーム・ファイルについての延期されている検索操作を再開することができます。BRMを使用した検索の再開(RSMRTVBRM)コマンドは、テープから項目を検索しようとします。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。
2. ALWOBJDIFパラメーターに*NONE以外の値を使用するためには、*ALLOBJ特殊権限が必要です。
3. 逐次検索操作で選択できる仮想テープ装置は1つだけです。さらに、仮想テープ装置の密度を指定する媒体クラスの使用時には、指定できる*MEDCLSも1つだけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
HDLOBJ	検索選択	*ALL, *DELAY, *SECURITY, *STORAGE	オプションル, 定位置 1
ACTION	処置	*RETRIEVE, *REPORT	オプションル, 定位置 2
CFMRTV	検索の確認	*YES, *NO	オプションル, 定位置 3
ASP	補助記憶域プール	文字値, *ALL, *SYSTEM	オプションル, 定位置 4
TYPE	項目タイプ	*LIB, *FLR, *LNK	オプションル
SAVLIB	ライブラリー	名前, *ALL	オプションル
DEV	検索装置	単一値: *RTVPCY その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前, *MEDCLS	オプションル
PRLRSC	並列装置資源	要素リスト	オプションル
	要素 1: 最小資源	1-32, *SAV, *AVAIL, *NONE	
	要素 2: 最大資源	1-32, *MIN, *AVAIL	
ENDOPT	テープの終わりオプション	*RTVPCY, *LEAVE, *REWIND, *UNLOAD	オプションル
RSTOPT	オプション	*RTVPCY, *ALL, *FREE, *NEW, *OLD	オプションル
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: *RTVPCY, *ALL, *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *AUTL, *FILELVL, *OWNER, *PGP	オプションル

検索の選択(HDLOBJ)

コマンドの処理時に検索したい保留中の項目のタイプを指定します。ディスク装置上の記憶域スペースの不足のために検索されていない項目などの保留中のオブジェクトのタイプを指定するか、あるいは保留中のすべての項目を指定することができます。

***ALL** 前の検索処理時に保留されたすべての項目を検索しようとします。

***DELAY**

遅れている検索操作の再開を試みます。

***SECURITY**

前の検索要求の実行時に機密保護が不十分なために保留された項目を検索しようとします。

***STORAGE**

前の検索要求でディスク装置のスペースが足りないために保留された項目を検索しようとします。

トップ

処置(ACTION)

報告書を作成したいか、または実際の検索を実行したいかを指定します。

***RETRIEVE**

要求した項目がBRMS媒体内容情報から検索されるようにします。

***REPORT**

検索報告書が作成されるようにします。これによって、選択した項目が検索される前に、検索されるものを検討することができます。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1ASXに書き出されます。

トップ

検索の確認(CFMRTV)

検索の前に、検索用に選択された項目を検索の確認画面に表示するかどうかを指定します。

注: バッチでは、このパラメーターは無視されます。

***YES** 検索を開始する前に、検索の確認画面が表示されます。

***NO** 検索を開始する前に、検索の確認画面は表示されません。

トップ

補助記憶域プール(ASP)

項目を検索して入れたい補助記憶域プールを指定します。

***ALL** 項目を検索して、すべての補助記憶域プールに入れたい場合です。

*SYSTEM

項目を検索して、システム(1)補助記憶域プールに入れたい場合です。

ASP番号

項目を検索して入れたいシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールの番号を指定します。

ASP名 項目を検索して入れたい補助記憶域プール名を指定します。

制約事項:

- 検索に指定する補助記憶域プールは、指定した項目タイプに有効なものでなければなりません。

[トップ](#)

項目タイプ(TYPE)

検索操作の前にどのタイプの項目を検索の確認画面に表示するかを指定します。

***LIB** ライブラリーの検索情報が組み込まれます。

***FLR** フォルダの検索情報が組み込まれます。

***LNK** バイト・ストリーム・ファイルの検索情報が組み込まれます。

[トップ](#)

ライブラリー(SAVLIB)

項目を検索して入れたいライブラリーを指定します。

***ALL** 項目が検索されて元のライブラリーに戻されます。

ライブラリー名

項目を検索して入れるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

検索装置(DEV)

検索処理に使用する装置名を指定してください。検索処理には、単一の装置を使用しなければなりません。

単一値

*RTVPCY

BRMS検索ポリシーに指定された検索装置が使用されます。

その他の値 (反復は最大4回まで)

*MEDCLS

BRMSは、要求した項目が保管される媒体の媒体クラスを判別します。いったん媒体クラスが決まると、その媒体クラスをサポートする装置が、要求した1つまたは複数の保管項目が検索されて入れられる装置として選択されます。

装置名 検索処理で省略時の検索装置として使用される装置の名前を指定してください。

並列装置資源(PRLRSC)

復元操作に使用される装置資源の最小数および最大数を指定します。

要素 1：最小資源数

並列復元に必要な装置資源の最小数を指定します。

注：媒体ライブラリー装置(MLB)が使用されていて、必要な資源が使用できない場合に、コマンドは、MLBが使用可能になるのをユーザーによって指定された期間だけ待機します。この待機時間は、INLMNTWAITについて*MLB装置記述に指定された値によって決まります。*TAP装置が使用されていて、必要な資源が使用できない場合には、コマンドは正常に実行されません。

注：テープへの保管ファイルの転送の場合、並列操作はサポートされていません。

***SAV** 保管に使用されたのと同じ数の装置資源が復元に使用されることを指定します。保管が逐次保管であった場合には、復元も逐次になります。

*AVAIL

指定された最大値まで使用可能な数の装置を使用します。最小値にこの値を指定すると、BRMSは使用可能ないくつの資源でも使用できますが、コマンドの開始時にただ1つの資源しか使用可能でない場合には、その1つの資源を使用するだけです。

*NONE

装置資源は使用されません。復元は、逐次復元として実行されます。

I-32 この復元コマンドで使用される装置資源の最小数（保管に使用された最大数までで）指定します。

要素 2：最大資源数

***MIN** 装置資源の最小数として指定された値を使用します。

*AVAIL

使用可能ないくつの装置でも使用します。最大値にこの値を指定すると、BRMSは使用可能ないくつの資源でも使用できますが、少なくとも最小値要素に指定された値だけは使用します。

I-32 この復元コマンドで使用される装置資源の最大数を（保管に使用された最大数までで）指定します。

テープの終わりオプション(ENDOPT)

テープの使用時に、保管操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に行われるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

***RTVPCY**

使用される値は、BRMS検索ポリシーに指定された値です。

***LEAVE**

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

***REWIND**

回復操作の終了後にボリュームは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***UNLOAD**

回復操作の終了後にボリュームは自動的に巻き戻され、アンロードされます。

トップ

オプション(RSTOPT)

システム上のライブラリーに項目が存在しているかどうかに応じて、どの項目を検索するかを指定します。

***RTVPCY**

BRMS検索ポリシーからの値が使用されます。

***ALL** 保管されたライブラリーの中のすべての項目が検索されてライブラリーに入れられます。ボリューム上または保管ファイル中の古い項目が、システム上のライブラリーの現行バージョンに取って代ります。現行バージョンのない項目がシステム上のライブラリーに追加されます。現在ライブラリーの中にあるが、媒体上にはない項目は、そのままライブラリーに残されます。

***FREE**

保管された項目は、それらのスペースが解放されたシステム・ライブラリーの中に存在している場合にのみ検索されます。各項目の保管されたバージョンはシステム中で検索されて、前に解放されたスペースに戻されます。このオプションは、保管時にそのスペースが解放された項目を検索します。保管された項目のうち、もはやライブラリーの現行バージョンの一部でないもの、あるいは空間が解放されていないものは、復元されません。検索操作は続行され、解放されたすべての項目が検索されます。

***NEW** 保管されたライブラリーでシステム上のライブラリーの現行バージョンに存在しない、項目だけがライブラリーに追加されます。システム上のライブラリーに認識されていない項目だけが検索されます。認識されている項目は検索されません。このオプションは、保管された後に削除された項目、あるいはこのライブラリーにとっては新規の項目を検索します。保管された項目がシステム上のライブラリーの中にすでにあるバージョンをもっている場合、それらは検索されず、各項目について通知メッセージが送られますが、検索操作は続行されます。

***OLD** 保管済みのバージョンをもつライブラリー中の項目だけが検索されます。すなわち、現在ライブラリーの中にある各項目のバージョンが、保管されたバージョンで置き換えられます。ライブラリーに認識されている項目だけが検索されます。保管された項目がライブラリーのオンライン・バージョンの一部でなくなった場合には、ライブラリーに追加されません。各オブジェクトについて通知メッセージが送られますが、検索は続行されます。

トップ

オブジェクト差異可能(ALWOBJDIF)

保管済みのオブジェクトと復元されるオブジェクトとの間の差異が許されるかどうかを指定します。これらの差異には次のものがあります。

- **権限リスト:** システム上のオブジェクトの権限リストが、保管操作からのオブジェクトの権限リストと異なる。あるいは、権限リスト付きの新規オブジェクトの復元先のシステムが、それが保管されているシステムと異なる。
- **ファイル・レベルID:** システム上のデータベース・ファイルの作成日時が、保管されたファイルの作成日時と一致していない。
- **メンバー・レベルID:** システム上のデータベース・ファイル・メンバーの作成日時が、保管されたメンバーの作成日時と一致していない。
- **所有権:** システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なる。
- **1次グループ:** システム上のオブジェクトの1次グループが、保管操作からのオブジェクトの1次グループと異なる。

注: このパラメーターを使用するためには*ALLOBJ特殊権限が必要です。

単一値

*RTVPCY

検索ポリシーからの値がこの値に使用されます。

- *ALL 上記にリストされたすべての差異が復元操作で許可されます。ファイル・レベルIDおよびメンバーIDの差異は、*FILELVL値とは別に処理されます。ファイル・レベルの差異があつて、**データベース・メンバーのオプション・フィールド(MBROPT)**パラメーターに*ALLが指定されている場合には、ファイルの既存のバージョンの名前が変更されて、そのファイルの保管済みバージョンが復元されます。メンバー・レベルの差異がある場合には、メンバーの既存のバージョンの名前が変更されて、メンバーの保管済みバージョンが復元されます。この値は、保管済みデータを復元しますが、その結果が正しくなるとは限りません。その他の差異について、差異を処理する方法を判別するには、個々の値の記述を参照してください。

注: SAVOBJまたはSAVCHGOBJで保管されたオブジェクトを復元しようとする場合には、BRMSはこれらのオブジェクトが名前変更されないように、そのパラメーターをALWOBJDIF(*FILELVL *AUTL *OWNER *PGP)に変更します。

*NONE

上にリストされた差異は復元操作では許可されません。差異を処理する方法を判別するには、個々の値の記述を参照してください。

その他の値 (反復は最大4回まで)

*AUTL

権限リストの差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる権限リストのオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管元とは異なるシステムに復元される新規オブジェクトは、復元されてその権限リストにリンクされます。新規のシステムに権限リストが存在していない場合には、共通権限が*EXCLUDEに設定されず。

この値が指定されていない場合には、権限リストの差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる権限リストをもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェク

トは復元されません。保管元とは異なるシステムに復元される新規オブジェクトは復元されませんが、その権限リストにはリンクされず、共通権限は*EXCLUDEに設定されます。

*FILELVL

ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの差異が、許可されます。

保管媒体が、システム上の物理ファイルと異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDをもつ場合でも、既存の物理ファイルを復元する試みが行われます。物理ファイル・データは、システム上の対応する物理ファイルの形式レベルIDと一致する保管媒体上の形式レベルIDをもつ物理ファイルについてのみ、復元されます。

この値が指定されていない場合には、ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDをもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。

*OWNER

所有権の差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる所有者のオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されていない場合には、所有権の差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる所有者をもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。

*PGP 1次グループの差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる1次グループのオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの1次グループで復元されます。

この値が指定されていない場合には、1次グループの差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる1次グループをもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。

[トップ](#)

例

例1: 機密保護項目の検索の再開

```
RSMRTVBRM HDLOBJ(*SECURITY)
```

このコマンドは、権限の欠如により保留されていた項目の検索操作を再開します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM2112

ASP &2が無効です。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用した権限の復元 (RSTAUTBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した権限の復元(RSTAUTBRM)コマンドは、この情報が保管されていた場合に、基本ユーザー補助記憶域プール(2-32)上のオブジェクトについてオブジェクト所有者、1次グループ、および権限リスト名を再確立します。

この情報は、バックアップ・ポリシー除外リストの*SAVSYSか*SECDTAのどちらかの項目に除外として*USRASPAUTを指定することによって保管から明示的に除外されていない限り、保管されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. ユーザー・プロファイルは、RSTAUTBRMコマンドを使用する前に復元されなければなりません。
2. 保管されたユーザー補助記憶域プールのライブラリーおよびオブジェクトは、RSTAUTBRMコマンドを使用する前に復元されなければなりません。
3. このコマンドはIS/OS RSTAUTコマンドを置き換えるものではありません。RSTAUTBRMは、システムの回復中の保管されているユーザー補助記憶域プール・オブジェクトの復元時に、RSTAUTコマンドに追加して使用されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRASP	補助記憶域プール	値 (最大 31 回の繰り返し): 文字値, <u>*ALLUSR</u>	オプション、位置 1

トップ

復元するASP (USRASP)

保管された権限情報を復元する対象の基本ユーザー補助記憶域プール(2-32)を指定します。

RSTAUTBRMコマンドを使用する前に、ライブラリーおよびオブジェクトが基本ユーザー補助記憶域プールに復元されていることが必要です。

注: 最大31個の値を指定することができます。

*ALLUSR

すべての基本ユーザー補助記憶域プール(2-32)にあるオブジェクトについて保管された権限情報が復元されます。

補助記憶域プール番号

保管された権限情報が復元される対象のオブジェクトが入っている基本ユーザー補助記憶域プールを識別する番号を指定します。

補助記憶域プール名

保管された権限情報が復元される対象のオブジェクトが入っている基本ユーザー補助記憶域プールを識別する名前を指定します。

[トップ](#)

例

例1: すべてのASPの保管済み権限情報の復元

```
RSTAUTBRM  
-または-  
RSTAUTBRM USRASP(*ALLUSR)
```

このコマンドは、すべての基本ユーザー補助記憶域プール(ASP 2-32)に入っているオブジェクトの所有者プロフィール、1次グループ、および権限リスト名を復元します。

例2: ASP 2および3の保管済み権限情報の復元

```
RSTAUTBRM USRASP(2 3)
```

このコマンドは、基本ユーザー補助記憶域プール2および3に入っている所有者プロフィール、1次グループ、および権限リスト名を復元します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM使用のオブジェクトの復元 (RSTBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したオブジェクトの復元(RSTBRM)コマンドは、統合ファイル・システムで使用できる1つまたは複数のオブジェクトのコピーを復元します。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、INTEGRATED FILE SYSTEM INTRODUCTIONを参照してください。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- 装置(DEV)パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または*MEDCLS特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する*CHANGE権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリー中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する*USE権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. ルート・ディレクトリーで名前パターンを使用してオブジェクトを復元するか、ライブラリーのオブジェクトを復元するか、あるいは文書ライブラリー・オブジェクトを復元するためにこのコマンドを使用する際の詳細な制約事項については、バックアップおよび回復の手引きブックの**オブジェクト復元 (RST)**コマンドを参照してください。
2. RSTBRMコマンドは光ディスク・ファイルをサポートしません。
3. オブジェクト復元(RST)コマンドを使用する権限が必要です。
4. システム保管(*SAVSYS)特殊権限があるか、あるいは以下のすべてのオブジェクト権限がなければなりません。
 - システムにすでに存在している場合には、ファイルを復元するために*Wおよび*OBJEXIST権限が必要です。
 - 親ディレクトリーに対する*WX権限が必要です。
 - 親ディレクトリーを作成する先のディレクトリーの所有ユーザー・プロファイルに対する*ADD権限が必要です。
 - 自分のユーザー・プロファイルではないユーザー・プロファイルで親ディレクトリーを作成するには、*ALLOBJ特殊権限が必要です。
5. ALWOBJDIFパラメーターに*NONE以外の値を使用するためには、*ALLOBJ特殊権限がなければなりません。

6. このコマンドを使用してTSMサーバー装置からデータを復元することができます。指定できるのは、1つのTSM装置かTSM装置を選択する必要がある***MEDCLS**だけです。選択するTSM装置は、SNAネットワーク・プロトコルをサポートする***APPC**か、TCP/IPプロトコルをサポートする***NET**のいずれかとすることができます。
7. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ***EXIT**の項目処理で使用してはいけません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): 名前, * MEDCLS	必須, 定位置 1
PRLRSC	並列装置資源	要素リスト	オプション
	要素 1: 最小資源	1-32, * SAV , * NONE , * AVAIL	
	要素 2: 最大資源	1-32, * MIN , * AVAIL	
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: 名前	パス名, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	* INCLUDE , * OMIT	
	要素 3: 新しいオブジェクト名	パス名, * SAME	
SUBTREE	ディレクトリー・サブツリー	* ALL , * DIR , * NONE , * OBJ	オプション
SAVLVL	保管レベル	1-99, * CURRENT	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	* REWIND , * LEAVE , * UNLOAD	オプション
OPTION	オプション	* ALL , * NEW , * OLD	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: * NONE , * ALL その他の値 (最大 2 回の繰り返し): * AUTL , * OWNER , * PGP	オプション
OBJID	オブジェクトID	* SAVED , * SYS	オプション
CRTPRNDIR	親ディレクトリーの作成	* NO , * YES	オプション
PRNDIOWN	親ディレクトリー所有者	名前, * PARENT	オプション
FROMSYS	FROMシステム	文字値, * LCL	オプション

トップ

装置(DEV)

装置名またはオブジェクトを復元するために使用される特定媒体クラスを指定してください。回復処理用に1つの装置を使用しなければなりません。

このコマンドを使用してTSM (ADSM)サーバーからデータを復元することができます。TSMタイプのサーバーを1つだけ指定するか、あるいは***MEDCLS** (TSMサーバーを選択していなければならない) を指定することができます。選択する装置は***APPC** (SNA ネットワーク・プロトコルをサポートする) または***NET** (TCP/IPプロトコルをサポートする) のいずれかとすることができます。

これは必須パラメーターです。

*MEDCLS

BRMSは、要求した項目が保管される媒体の媒体クラスを判別します。媒体クラスが決定されると、その媒体クラスをサポートする装置が、要求された1つ以上のオブジェクトを復元するために選択されます。

装置名 選択した1つまたは複数のオブジェクトを復元するために使用したい装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

並列装置資源(PRLRSC)

復元操作に使用される装置資源の最小数および最大数を指定します。

要素 1：最小資源数

並列復元に必要な装置資源の最小数を指定します。

注：媒体ライブラリー装置(MLB)が使用されていて、必要な資源が使用できない場合に、コマンドは、MLBが使用可能になるのをユーザーによって指定された期間だけ待機します。この待機時間は、INLMNTWAITについて*MLB装置記述に指定された値によって決まります。*TAP装置が使用されていて、必要な資源が使用できない場合には、コマンドは正常に実行されません。

注：テープへの保管ファイルの転送の場合、並列操作はサポートされていません。

***SAV** 保管に使用されたのと同じ数の装置資源が復元に使用されることを指定します。保管が逐次保管であった場合には、復元も逐次になります。

*AVAIL

指定された最大値まで使用可能な数の装置を使用します。最小値にこの値を指定すると、BRMSは使用可能ないくつの資源でも使用できますが、コマンドの開始時にただ1つの資源しか使用可能でない場合には、その1つの資源を使用するだけです。

*NONE

装置資源は使用されません。復元は、逐次復元として実行されます。

I-32 この復元コマンドで使用される装置資源の最小数（保管に使用された最大数までで）指定します。

要素 2：最大資源数

***MIN** 装置資源の最小数として指定された値を使用します。

*AVAIL

使用可能ないくつの装置でも使用します。最大値にこの値を指定すると、BRMSは使用可能ないくつの資源でも使用できますが、少なくとも最小値要素に指定された値だけは使用します。

I-32 この復元コマンドで使用される装置資源の最大数を（保管に使用された最大数までで）指定します。

[トップ](#)

オブジェクト(OBJ)

復元したいオブジェクトのリストに組み入れたり、あるいはリストから除外したいオブジェクトを指定します。最大300個のオブジェクト名パターンを指定することができます。

パス名の指定の詳細については、コマンド言語解説書の第2章を参照してください。

オブジェクト名のパターンの詳細については、INTEGRATED FILE SYSTEM INTRODUCTIONを参照してください。最初の要素は、媒体に保管されるオブジェクトのパス名を指定します。ディレクトリーの省略形（たとえば、現行ディレクトリー）は、保管操作時の値ではなく、現行の値で展開されます。

要素1: 名前

オブジェクト・パス名パターン

オブジェクト・パス名または多くの名前と一致できるパターンを指定してください。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の部分は、そのパターンと一致する名前を操作に組み込むかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する際には、関係を示す名前パターンが常に現行作業ディレクトリーと比較してテストされることに注意してください。SUBTREEパラメーターは、サブツリーを組み込むか除外するかを決定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって一時変更されないかぎり、オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは復元されることとなります。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは復元されません。これは*INCLUDEの指定を一時変更し、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

要素3: 新規オブジェクト名

3番目の要素はオブジェクトの新しいパス名を指定します。

***SAME**

オブジェクトは保管時と同じ名前でも復元されます。

新しいパス名

オブジェクトを復元するために使用するパス名を指定してください。最初の要素の中にパターンが指定されている場合には、新しいパス名は、そのパターンと一致するすべてのオブジェクトが復元されるディレクトリーでなければなりません。要素1の中にオブジェクト名が指定されている場合には、新しいパスの中に各構成要素が存在していなければなりません（最後の構成要素は例外）。最後の構成要素の中に記述されているオブジェクトが存在していない場合には、それは新規として復元されます。

[トップ](#)

ディレクトリー・サブツリー(SUBTREE)

ディレクトリーのサブツリーを復元操作に含めるかどうかを指定します。

- *ALL** オブジェクト名パターンと一致する各ディレクトリーのサブツリー全体が含まれます。サブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。
- *DIR** オブジェクト名パターンと一致する各ディレクトリーの第1レベルのオブジェクトが含まれます。一致する各ディレクトリーのサブディレクトリーは含まれますが、サブディレクトリー中のオブジェクトは含まれません。
- *NONE**
サブツリーは復元操作には含まれません。ディレクトリーが指定されたオブジェクト名パターンと一致する場合には、そのディレクトリー中のオブジェクトは含まれます。ディレクトリーにサブディレクトリーがある場合には、そのサブディレクトリーもサブディレクトリー中のオブジェクトも含まれません。
- *OBJ** オブジェクト名パターンと正確に一致するオブジェクトだけが処理されます。オブジェクト名のパターンがディレクトリーを指定している場合には、そのディレクトリーの中のオブジェクトは含まれません。

トップ

保管レベル(SAVLVL)

媒体内容情報から復元したいオブジェクトのコピーを指定します。

***CURRENT**

オブジェクトの最新のコピーが復元されます。

保管レベル番号

媒体内容情報から復元したいコピーの世代を指定してください。1-99のコピー番号を指定することができます。たとえば、最後の最新のコピーの次に復元したい場合には、1を指定してください。

トップ

テープの終わりオプション(ENDOPT)

ボリュームが使用される時に、復元操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に行われるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

***REWIND**

回復操作の終了後にボリュームは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

回復操作の終了後にボリュームは自動的に巻き戻され、アンロードされます。

オプション(OPTION)

各オブジェクトの復元の処理方法を指定します。

***ALL** すべてのオブジェクトがシステムに復元されます。保管されたオブジェクトはシステム上のオブジェクトと置き換えられます。保管されたオブジェクトがシステム上にない場合には、システムに追加されます。システム・ライブラリーにあって保管されたライブラリーにないオブジェクトはライブラリーに入ったままです。

***NEW** システム上に存在していないオブジェクトだけが復元されます。

***OLD** システム上に存在しているオブジェクトだけが復元されます。

トップ

オブジェクト差異可能(ALWOBJDIF)

保管済みのオブジェクトと復元されるオブジェクトとの間の差異が許されるかどうかを指定します。これらの差異には次のものがあります。

- **権限リスト:** システム上のオブジェクトの権限リストが、保管操作からのオブジェクトの権限リストと異なる。あるいは、権限リスト付きの新規オブジェクトの復元先のシステムが、それが保管されているシステムと異なる。
- **所有権:** システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なる。
- **1次グループ:** システム上のオブジェクトの1次グループが、保管操作からのオブジェクトの1次グループと異なる。

注: このパラメーターを使用するためには*ALLOBJ特殊権限が必要です。

単一値

***NONE**

上にリストされた差異は復元操作では許可されません。

***ALL** 上記にリストされたすべての差異が復元操作で許可されます。ファイル・レベルIDおよびメンバーIDの差異は、*FILELVL値とは別に処理されます。ファイル・レベルの差異があつて、**データベース・メンバーのオプション・フィールド(MBROPT)**パラメーターに*ALLが指定されている場合には、ファイルの既存のバージョンの名前が変更されて、そのファイルの保管済みバージョンが復元されます。メンバー・レベルの差異がある場合には、メンバーの既存のバージョンの名前が変更されて、メンバーの保管済みバージョンが復元されます。この値は、保管済みデータを復元しますが、その結果が正しくなるとは限りません。その他の差異について、差異を処理する方法を判別するには、個々の値の記述を参照してください。

注: BRMSがSAVOBJまたはSAVCHGOBJで保管したオブジェクトを復元しようとする場合には、BRMSはこれらのオブジェクトが名前変更されないように、そのパラメーターをALWOBJDIF(*FILELVL *AUTL *OWNER *PGP)に変更します。

その他の値 (反復は最大4回まで)

***AUTL**

権限リストの差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる権限リストのオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管元とは異なるシステムに復元される新規オブジェクトは、復元されてその権限リストにリンクされません。新規のシステムに権限リストが存在していない場合には、共通権限が*EXCLUDEに設定されません。

この値が指定されていない場合には、権限リストの差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる権限リストをもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。保管元とは異なるシステムに復元される新規オブジェクトは復元されますが、その権限リストにはリンクされず、共通権限は*EXCLUDEに設定されます。

***OWNER**

所有権の差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる所有者のオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されていない場合には、所有権の差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる所有者をもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる1次グループのオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの1次グループで復元されます。

この値が指定されていない場合には、1次グループの差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる1次グループをもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。

[トップ](#)

オブジェクトID (OBJID)

復元されたオブジェクトのSOMオブジェクトIDが、保管媒体からのそのオブジェクトのSOMオブジェクトID、復元以前にシステムに存在しているそのオブジェクトのSOMオブジェクトID、またはそのオブジェクトが復元以前にシステムに存在していない場合にシステムによって生成される新しいSOMオブジェクトIDのいずれになるかを指定します。

***SAVED**

復元されたオブジェクトは、それが保管された時にもっていたSOMオブジェクトIDをもつことになります。

***SYS** 復元されたオブジェクトは、システムによって生成される新しいSOMオブジェクトIDをもつことになります。このオブジェクトが新しいオブジェクトとして復元されている場合には、新しいSOMオブジェクトIDが復元されたオブジェクトに与えられます。媒体からのオブジェクトと同じ名前をもつオブジェクトがすでにシステムに存在している場合には、復元されたオブジェクトのSOMオブジェクトIDは、復元前にあるシステム上のそのオブジェクトのSOMオブジェクトIDと同じものになります。

[トップ](#)

親ディレクトリーの作成(CRTPRNDIR)

オブジェクトを復元する前に親ディレクトリーが存在しない場合、そのディレクトリーが自動的に作成されるかどうかを指定します。このパラメーターは、"ルート" (I), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムにのみ適用されます。

***NO** 親ディレクトリーは自動的に作成されないことを指定します。

***YES** 親ディレクトリーが自動的に作成されることを指定します。親ディレクトリーの所有者は**親ディレクトリー所有者(PRNDIROWN)** パラメーターを使用して指定することができます。

[トップ](#)

親ディレクトリー所有者(PRNDIROWN)

存在していない親ディレクトリーを作成する時に、その親ディレクトリーに対して使用される所有者の名前を指定します。

***PARENT**

親ディレクトリーが作成される先のディレクトリーの所有者が、作成された親ディレクトリーの所有者として使用されるよう指定します。

ユーザー・プロファイル

存在していない親ディレクトリーが作成される際に、その親ディレクトリー所有者として使用されるユーザー・プロファイルの名前を指定します。

[トップ](#)

FROMシステム(FROMSYS)

媒体情報をローカル・システムに復元したい場合に、その復元元のシステムの位置およびネットワークIDを指定します。

注: ネットワーク属性の表示(DSPNETA)コマンドは、システム・ネットワーク属性を表示するのに使用します。

注: *LCL以外の値が指定されている場合には、この値を使用するのにBRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

***LCL** FROMシステムがローカル・システムであることを示します。BRMSは、現行システム名を判別するのに、**省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)**ネットワーク属性を使用し、**システム名(SYSNAME)**ネットワーク属性は使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。

ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムの**省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)**ネットワーク属性を指定します。リモート・システムと接続するには、現行システムの**ローカル・ネットワークID (LCLNETID)**ネットワーク属性が使用されます。

ネットワークID.ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムの**ローカル・ネットワークID (LCLNETID)**および**省略**

時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。ここで、NNNNNNNNはLCLNETIDで、CCCCCCCCはLCLLOCNAMEです。

[トップ](#)

例

例1: すべての統合ファイル・システムの復元

```
RSTBRM DEV(TAPE01)
```

このコマンドによって、SAVBRMコマンドを使用して保管され、その内容情報がまだ媒体内容情報中に存在する統合ファイル・システム・オブジェクトを選択し復元することができます。この例では、復元操作はすべての統合ファイル・システム・オブジェクトに対して行われ、復元操作には装置TAPE01が使用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1177

リモート・システムとの接続を確立できません。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM2262

TSMサーバーからデータを受信中にエラーが起こった。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用したDLOの復元 (RSTDLOBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したDLOの復元(RSTDLOBRM)コマンドは、文書、フォルダー、および配布オブジェクト（メール）を、テープまたは保管ファイルからシステムに復元します。媒体情報が保管された時に有効であった媒体ポリシーによって、この情報がテープに存在するか、あるいは保管ファイルに保管されるかが決まります。

注: RSTDLOBRMコマンドを使用すると、選択した数の文書、フォルダー、および配布オブジェクトを、BRMS媒体内容情報にあるコピー数に基づいてシステムに復元できます。これは、**保管レベル(SAVLVL)**パラメーターにコピー数を指定することによって実行されます。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- **装置(DEV)**パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または***MEDCLS**特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(**LODIMGCLG**)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する***CHANGE**権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリーに対する実行(***X**)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリー中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(***RWX**)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する***USE**権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「**BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES**」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、システム配布ディレクトリーに登録していなければなりません。
2. このコマンドを使用するには、文書ライブラリー・オブジェクト復元(RSTDLO)コマンドに対する権限が必要です。
3. システムにすでに存在している場合には、親フォルダーに対する***CHANGE**権限と文書に対する***ALL**権限が必要です。
4. 文書ライブラリーに対する***EXECUTE**権限が必要です。
5. このコマンドの実行中は、DLO(***ALL**)を指定した別のRSTDLOBRM, RSTDLO, SAVDLOBRM, SAVDLOコマンドまたは文書ライブラリー・オブジェクト再利用(RCLDLO) コマンドを実行することはできません。
6. このコマンドを使用してTSMサーバー装置からデータを復元することができます。指定できるのは、1つのTSM装置かTSM装置を選択する必要がある***MEDCLS**だけです。選択するTSM装置は、SNAネットワーク・プロトコルをサポートする***APPC**か、TCP/IPプロトコルをサポートする***NET**のいずれかとすることができます。
7. **ALWOBJDIF**パラメーターに***NONE**以外の値を使用するためには、***ALLOBJ**特殊権限が必要です。

8. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *ALL	必須, 定位置 1
SAVFLR	保管済みフォルダー	文字値	必須, 定位置 2
DEV	装置	名前, *MEDCLS	必須, 定位置 3
RSTFLR	復元先のフォルダー	文字値, *SAME	オプション
RENAME	新しいオブジェクト名	文字値, *SAME	オプション
SAVLVL	保管レベル	1-99, *CURRENT	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
NEWOBJ	オブジェクト名生成	*SAME, *NEW	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	*NONE, *ALL	オプション
RSTASP	ASPへの復元	文字値, *SAVASP, *SYSTEM	オプション
FROMSYS	FROMシステム	文字値, *LCL	オプション

トップ

文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)

復元したい文書ライブラリー・オブジェクトの名前を指定してください。これは必須パラメーターです。

***ALL** 媒体に保管され、**保管済みフォルダー(SAVFLR)**パラメーターに指定された基準に適合するすべての文書、フォルダー、および配布オブジェクト(メール)が復元されます。

文書名 復元したい文書ライブラリー・オブジェクトの名前を指定してください。

トップ

保管済みフォルダー(SAVFLR)

文書が復元される媒体上のフォルダーの名前を指定してください。

これは必須フィールドです。

トップ

装置(DEV)

装置名またはオブジェクトを復元するために使用される特定媒体クラスを指定してください。回復処理にはシステムに認識されている1つの装置を使用しなければなりません。

このコマンドを使用してTSM (ADSM)サーバーからデータを復元することができます。TSMタイプのサーバーを1つだけ指定するか、あるいは***MEDCLS** (TSMサーバーを選択していなければならない) を指定することができます。選択する装置は***APPC** (SNA ネットワーク・プロトコルをサポートする) または***NET** (TCPIPプロトコルをサポートする) のいずれかとすることができます。

***MEDCLS**

BRMSは、要求した項目が保管される媒体の媒体クラスを判別します。媒体クラスが決定されると、その媒体クラスをサポートする装置が、要求された1つ以上のオブジェクトを復元するために選択されます。

装置名 選択した1つまたは複数のオブジェクトを復元するために使用したい装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

フォルダーへの復元(RSTFLR)

復元されたフォルダーおよび復元される文書が入られるフォルダーの名前を指定します。フォルダーはシステム上に存在するか、または**文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)**パラメーターに***ALL**を指定した場合には保管済みフォルダーが媒体上に存在しなければなりません。

***SAME**

復元されるフォルダーおよび文書は、それらが保管されたのと同じフォルダーに入れられます。

復元フォルダー名

復元される文書およびフォルダーが入られるフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

新しいオブジェクト名(RENAME)

復元されたオブジェクトに対する新しいユーザー割り当て名を指定します。

***SAME**

文書は、それが保管された時と同じ名前でも復元されます。

文書名 文書が復元された後にもつ新しいユーザー割り当て名を指定してください。

注: **文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)**パラメーターに***ALL**を指定した場合には、文書名を指定することはできません。

[トップ](#)

保管レベル(SAVLVL)

媒体内容情報から復元したいオブジェクトのコピーを指定します。

***CURRENT**

オブジェクトの最新のコピーが復元されます。

保管レベル番号

媒体内容情報から復元したいコピーの世代を指定してください。1-99のコピー番号を指定することができます。たとえば、最後の最新のコピーの次に復元したい場合には、1を指定してください。

テープの終わりオプション(ENDOPT)

ボリュームが使用される時に、復元操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に行われるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

*REWIND

回復操作の終了後にボリュームは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

回復操作の終了後にボリュームは自動的に巻き戻され、アンロードされます。

トップ

オブジェクト名生成(NEWOBJ)

復元中のフォルダーおよび文書用に新しいライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名を生成するかどうかを指定します。

*SAME

ライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名は変更されません。

*NEW 復元中の各文書またはフォルダー用に新しいライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名が生成されます。

トップ

オブジェクト差異可能(ALWOBJDIF)

保管されたオブジェクトと復元されるオブジェクトの間に差異が許されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターを使用するためには*ALLOBJ特殊権限が必要です。

*NONE

上にリストされた差異は復元操作では許可されません。

*ALL 上記にリストされたすべての差異が復元操作で許可されます。ファイル・レベルIDおよびメンバーIDの差異は、*FILELVL値とは別に処理されます。ファイル・レベルの差異があって、データベース・メンバーのオプション・フィールド(MBROPT)パラメーターに*ALLが指定されている場合には、ファイルの既存のバージョンの名前が変更されて、そのファイルの保管済みバージョンが復元されます。メンバー・レベルの差異がある場合には、メンバーの既存のバージョンの名前が変更さ

れて、メンバーの保管済みバージョンが復元されます。この値は、保管済みデータを復元しますが、その結果が正しくなるとは限りません。その他の差異について、差異を処理する方法を判別するには、個々の値の記述を参照してください。

注: BRMSがSAVOBJまたはSAVCHGOBJで保管したオブジェクトを復元しようとする場合には、BRMSはこれらのオブジェクトが名前変更されないように、そのパラメーターをALWOBJDIF(*FILELVL *AUTL *OWNER *PGP)に変更します。

トップ

ASPへの復元(RSTASP)

文書ライブラリー・オブジェクトを復元したい先のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールの番号を指定します。

***SAVASP**

BRMSによって保管された時に常駐していた補助記憶域プールに文書ライブラリー・オブジェクトを復元します。

***SYSTEM**

文書ライブラリー・オブジェクトはシステム(1)補助記憶域プールに復元されます。

復元先ASP名

文書ライブラリー・オブジェクトを復元する先のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールの名前を指定します。

復元先ASP番号

文書ライブラリー・オブジェクトを復元する先のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールの番号を指定します。

注: このパラメーターの場合には、UDFS, 1次, および2次補助記憶域プールはサポートされません。

トップ

FROMシステム(FROMSYS)

媒体情報をローカル・システムに復元したい場合に、その復元元のシステムの位置およびネットワークIDを指定します。

注: ネットワーク属性の表示(DSPNETA)コマンドは、システム・ネットワーク属性を表示するのに使用しません。

注: *LCL以外の値が指定されている場合には、この値を使用するのにBRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

***LCL** FROMシステムがローカル・システムであることを示します。BRMSは、現行システム名を判別するのに、省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を使用し、システム名(SYSNAME)ネットワーク属性は使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。

ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムの省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)

ネットワーク属性を指定します。リモート・システムと接続するには、現行システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性が使用されます。

ネットワークID,ロケーション名

ネットワーク操作のリモート・システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)および省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。ここで、NNNNNNNNはLCLNETIDで、CCCCCCCCはLCLLOCNAMEです。

[トップ](#)

例

例1: サブフォルダーのすべてのDLOの復元

```
RSTDLOBRM DLO(*ALL) SAVFLR('ACCTMST/ACCT03')
          COPY(*CURRENT) DEV(TAP09)
```

このコマンドによって、SAVDLOBRMコマンドを使用して保管され、その内容情報がまだ媒体内容情報中に存在するフォルダーおよびサブフォルダーを選択し復元することができます。この例では、復元操作はACCTMSTと呼ばれるフォルダーとACCT03と呼ばれるサブフォルダーのすべてのDLOに対して行われます。最新のコピーは、TAP09を使用して復元されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM2112

ASP &2が無効です。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM使用のライブラリーの復元 (RSTLIBBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したライブラリーの復元(RSTLIBBRM)コマンドによって、BRMS媒体情報に入っているライブラリーを復元できます。BRMを使用したライブラリーの保管(SAVLIBBRM)コマンドによって保管されたライブラリーまたは保管された制御グループ中のライブラリーは、RSTLIBBRMコマンドによって復元することができます。RSTLIBBRMコマンドは、ライブラリー記述、オブジェクト記述、およびライブラリー内のオブジェクトの内容を含むライブラリー全体を復元します。

注: RSTLIBBRMコマンドを使用すると、BRMS媒体内容情報から選択したライブラリーのコピーを復元できます。たとえば、ライブラリーのコピーに対する回復要求では、**保管レベル(SAVLVL)**パラメーターで要求されたコピーに対応するライブラリーの全バックアップに、そのライブラリーの次の全バックアップの最後の増分バックアップを加え、この2つの完全保管の間にあるオブジェクト・レベルの保管を加えたものが復元されます。これによって、要求したコピーには、次の全保管の前に適用されたすべての変更が確実に入れられます。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- 装置(DEV)パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または*MEDCLS特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する*CHANGE権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリー中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する*USE権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、ライブラリー復元(RSTLIB)コマンドに対する権限が必要です。
2. システム保管(*SAVSYS)特殊権限があるか、あるいは以下のすべてのオブジェクト権限がなければなりません。
 - 存在しないライブラリーを復元するには、QSYSライブラリーに対する*ADDおよび*READ権限が必要です。
 - ライブラリーに入っているオブジェクトの上に復元するには、*OBJEXIST権限が必要です。
3. 補助記憶域プール(RSTASP)パラメーターに指定された補助記憶域プール装置に対する*USE権限が必要です。

4. このコマンドを使用してTSMサーバー装置からデータを復元することができます。指定できるのは、1つのTSM装置かTSM装置を選択する必要がある*MEDCLSだけです。選択するTSM装置は、SNAネットワーク・プロトコルをサポートする*APPCか、TCP/IPプロトコルをサポートする*NETのいずれかとすることができます。
5. ALWOBJDIFパラメーターに*NONE以外の値を使用するためには、*ALLOBJ特殊権限が必要です。
6. ジャーナル変更を適用する時には、以下の追加の制約事項が適用されます。
 - APYJRNCHGコマンドに対する権限が必要です。
 - ファイル、ジャーナル、およびジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
 - システムにすでに存在するファイルを復元するには*OBJEXIST権限が必要です。
 - ジャーナル処理されたファイルにジャーナル変更を適用するには、*CHANGEおよび*OBJMGT権限が必要です。
 - ジャーナル変更を適用するために使用するジャーナルまたはジャーナル・レシーバーに対する*USE権限が必要です。
7. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SAVLIB	ライブラリー	単一値: *MEDINF その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): 名前, *MEDCLS	必須, 定位置 2
PRLRSC	並列装置資源	要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 最小資源	1-32, *SAV, *NONE, *AVAIL	
	要素 2: 最大資源	1-32, *MIN, *AVAIL	
SAVLVL	保管レベル	1-99, *CURRENT, *SAVDATE	オプション
SAVDATE	保管日付	日付	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
OPTION	オプション	*ALL, *NEW, *OLD, *FREE	オプション
MBROPT	データ・ベース・メンバー・オプション	*MATCH, *ALL, *NEW, *OLD	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	*NEW, *NONE	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *AUTL, *FILELVL, *OWNER, *PGP	オプション
RSTLIB	復元先のライブラリー	名前, *SAVLIB	オプション
RSTASP	補助記憶域プール	文字値, *SAVASP, *SYSTEM	オプション
FROMSYS	FROMシステム	文字値, *LCL	オプション

トップ

ライブラリー(SAVLIB)

復元したいライブラリーの名前を指定してください。

これは必須フィールドです。

単一値

*MEDINF

BRMS媒体情報が復元されるようにします。QUSRBRMライブラリーにはBRMS媒体情報が入っています。

注: ライブラリー・レベルの情報の回復は、QUSRBRMライブラリーに復元された7つのオブジェクトから構成されています。オブジェクト・レベルの情報の回復は、QUSRBRMライブラリーに復元された8つのオブジェクトから構成されています。最初の7つのオブジェクトは、ライブラリー・レベルの回復に必要であり、8番目のオブジェクトは、オブジェクト・レベルの回復に必要です。

その他の値 (反復は最大50回まで)

ライブラリー名

復元したいライブラリーの名前を指定してください。ライブラリー名はBRMS媒体内容情報中の項目でなければなりません。

[トップ](#)

装置(DEV)

復元操作に使用される装置の名前を指定します。この装置は、すでにBRMS装置テーブルの中になければなりません。

注: 複数のシステムでテープ装置または媒体ライブラリー装置(MLB)の使用を共用することができます。装置がテープ装置である(MLB装置でない) ときには、その装置が共用されることを指示した場合に、BRMSが複数のシステムによる装置の使用を管理します。

このコマンドを使用してTSM (ADSM)サーバーからデータを復元することができます。TSMタイプのサーバーを1つだけ指定するか、あるいは*MEDCLS (TSMサーバーを選択していなければならない) を指定することができます。選択する装置は*APPC (SNA ネットワーク・プロトコルをサポートする) または*NET (TCPIPプロトコルをサポートする) のいずれかとすることができます。

これは必須パラメーターです。

*MEDCLS

BRMSは、要求した項目が保管される媒体の媒体クラスを判別します。媒体クラスが決定されると、保管操作を実行するために、媒体クラスに指定された密度をサポートする装置が選択されます。

注: 並列最小資源の値が*NONEの場合にのみ、装置(DEV)パラメーターに特殊値*MEDCLSを最大4回まで指定することができます。そうでない場合には、*MEDCLSは1回しか指定することができません。BRMSは、この操作に割り振ることができる最大数の装置を使用しようとします。

より多くの装置で並列復元を実行するには、値*MEDCLSは1回しか指定することができず、並列最小資源および最大資源は1より大きいか、*SAVでなければなりません。

装置名 復元操作に使用される1つまたは複数の装置の名前を指定してください。複数の装置（最大4台まで）を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。

注：逐次復元を実行している場合には、媒体ライブラリー装置を1つだけ指定することができます。並列復元を実行するときには、複数の媒体ライブラリー装置を指定することができます。

トップ

並列装置資源(PRLRSC)

復元操作に使用される装置資源の最小数および最大数を指定します。

要素1：最小資源数

並列復元に必要な装置資源の最小数を指定します。

注：媒体ライブラリー装置(MLB)が使用されていて、必要な資源が使用できない場合に、コマンドは、MLBが使用可能になるのをユーザーによって指定された期間だけ待機します。この待機時間は、INLMNTWAITについて*MLB装置記述に指定された値によって決まります。*TAP装置が使用されていて、必要な資源が使用できない場合には、コマンドは正常に実行されません。

注：テープへの保管ファイルの転送の場合、並列操作はサポートされていません。

***SAV** 保管に使用されたのと同じ数の装置資源が復元に使用されることを指定します。保管が逐次保管であった場合には、復元も逐次になります。

*AVAIL

指定された最大値まで使用可能な数の装置を使用します。最小値にこの値を指定すると、BRMSは使用可能ないくつの資源でも使用できますが、コマンドの開始時にただ1つの資源しか使用可能でない場合には、その1つの資源を使用するだけです。

*NONE

装置資源は使用されません。復元は、逐次復元として実行されます。

I-32 この復元コマンドで使用される装置資源の最小数（保管に使用された最大数までで）指定します。

要素2：最大資源数

***MIN** 装置資源の最小数として指定された値を使用します。

*AVAIL

使用可能ないくつの装置でも使用します。最大値にこの値を指定すると、BRMSは使用可能ないくつの資源でも使用できますが、少なくとも最小値要素に指定された値だけは使用します。

I-32 この復元コマンドで使用される装置資源の最大数を（保管に使用された最大数までで）指定します。

トップ

保管レベル(SAVLVL)

媒体内容情報から復元したいライブラリーのコピーを指定します。

***CURRENT**

ライブラリーの最新のコピーが復元されます。これには、ライブラリーのすべての増分バックアップだけでなく、最新のライブラリーが含まれます。

***SAVDATE**

復元したいオブジェクトのレベルを識別するために、保管日が使用されることを指定します。保管日は**保管日(SAVDATE)** パラメーターに指定されます。

保管レベル番号

媒体内容情報から復元したいコピーの世代を指定してください。1-99のコピー番号を指定することができます。たとえば、最後の最新のコピーの次に復元したい場合には、1を指定してください。

[トップ](#)

保管日(SAVDATE)

復元したいオブジェクトの保管日付を指定してください。指定した日付のオブジェクトの最新の保管が復元されます。指定した日付にオブジェクトの保管が行なわれていない場合には、このオブジェクトは復元されません。

注: **保管レベル(SAVLVL)**パラメーターに***SAVDATE**が指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

保管日付

復元したいオブジェクトの保管日付を指定してください。この日付は、QDATFMTシステム値によって指定された形式で、区切り文字を付けてあるいは付けずに入力しなければなりません。システム値QDATSEPは、使用できる日付区切り文字を指定しています。

[トップ](#)

テープの終わりオプション(ENDOPT)

ボリュームが使用される時に、復元操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に行われるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

***REWIND**

回復操作の終了後にボリュームは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

回復操作の終了後にボリュームは自動的に巻き戻され、アンロードされます。

[トップ](#)

オプション(OPTION)

各オブジェクトの復元の処理方法を指定します。

***ALL** 保管されたライブラリー中のすべてのオブジェクトがライブラリーに復元されます。テープ上または保管ファイル中の古いオブジェクトによって、システム上のライブラリーの現行バージョンが置き換えられます。現行バージョンのないオブジェクトがシステム上のライブラリーに追加されます。現在ライブラリーの中にあるが、媒体上にはないオブジェクトは、そのままライブラリーに残されます。

***FREE**

保管されたオブジェクトが復元されるのは、システム・ライブラリー中に存在していて、その空間が解放された場合だけです。各オブジェクトの保管されたバージョンは、システム中の前に解放された空間に復元されます。このオプションでは、保管時にその空間が解放されたオブジェクトが復元されます。保管されたオブジェクトのうち、もはやライブラリーの現行バージョンの一部でないもの、あるいは空間が解放されていないものは、復元されません。復元操作が継続されて、解放されたすべてのオブジェクトが復元されます。

***NEW** 保管されたライブラリーにあってシステム上のライブラリーの現行バージョンに存在しないオブジェクトだけがライブラリーに追加されます。システム上のライブラリーに認識されていないオブジェクトだけが復元されます。認識されているオブジェクトは復元されません。このオプションでは、保管後に削除されたオブジェクト、またはこのライブラリーにとって新規のオブジェクトが復元されます。保管されたオブジェクトであっても、システム上のライブラリーにすでにそのバージョンがあるオブジェクトは復元されず、各オブジェクトについて通知メッセージが送られますが、復元操作は続行されます。

***OLD** 保管バージョンがあるライブラリー中のオブジェクトだけが復元されます。すなわち、現在ライブラリー中にあるそれぞれのオブジェクトのバージョンが保管バージョンによって置き換えられます。ライブラリーに認識されているオブジェクトだけが復元されます。保管したオブジェクトがもはやライブラリーのオンライン・バージョンの一部でない場合には、これらはライブラリーに追加されず、それぞれに通知メッセージが送信されますが、復元は続行されます。

トップ

データベース・メンバー・オプション(MBROPT)

システム上に存在しているデータベース・ファイルの場合に、どのメンバーが復元されるかを指定します。

***MATCH**を使用する場合には、保管済みファイルのメンバー・リストがシステムの現行バージョンとメンバーごとに一致しなければなりません。ファイルを復元する場合には、存在していないファイルのすべてのメンバーが復元されます。

***MATCH**

保管されたメンバーは、それが存在しているメンバーのリストがメンバーごとに現行システム・バージョンのリストと一致している場合に復元されます。**オブジェクト差異可能(ALWOBJDIF)**パラメーターに***ALL**が指定されている場合には、**MBROPT(*MATCH)**は無効です。

***ALL** 保管ファイル中のすべてのメンバーが復元されます。

***NEW** 新規のメンバー（システムに認識されていないメンバー）だけが復元されます。

***OLD** すでにシステムに認識されているメンバーだけが復元されます。

トップ

スプール・ファイル・データ(SPLFDTA)

保管済みスプール・ファイル・データおよび属性が、復元された出力待ち行列に復元されるかどうかを指定します。

***NEW** 新規の保管済みスプール・ファイル・データおよび属性が、保管済み出力待ち行列に復元されることを指定します。保管済みスプール・ファイルは、同じ属性を持つ既存のスプール・ファイルがシステム上にない場合に、これらが保管されたのと同じ出力待ち行列に対して復元されます。

***NONE**

スプール・ファイル・データまたは属性が、復元済みの出力待ち行列に復元されないことを指定します。

トップ

オブジェクト差異可能(ALWOBJDIF)

保管済みのオブジェクトと復元されるオブジェクトとの間の差異が許されるかどうかを指定します。これらの差異には次のものがあります。

- **権限リスト:** システム上のオブジェクトの権限リストが、保管操作からのオブジェクトの権限リストと異なる。あるいは、権限リスト付きの新規オブジェクトの復元先のシステムが、それが保管されているシステムと異なる。
- **ファイル・レベルID:** システム上のデータベース・ファイルの作成日時が、保管されたファイルの作成日時と一致していない。
- **メンバー・レベルID:** システム上のデータベース・ファイル・メンバーの作成日時が、保管されたメンバーの作成日時と一致していない。
- **所有権:** システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なる。
- **1次グループ:** システム上のオブジェクトの1次グループが、保管操作からのオブジェクトの1次グループと異なる。

注: このパラメーターを使用するためには*ALLOBJ特殊権限が必要です。

単一値

***NONE**

上にリストされた差異は復元操作では許可されません。

***ALL** 上記にリストされたすべての差異が復元操作で許可されます。ファイル・レベルIDおよびメンバーIDの差異は、*FILELVL値とは別に処理されます。ファイル・レベルの差異があって、**データベース・メンバーのオプション・フィールド(MBROPT)**パラメーターに*ALLが指定されている場合には、ファイルの既存のバージョンの名前が変更されて、そのファイルの保管済みバージョンが復元されます。メンバー・レベルの差異がある場合には、メンバーの既存のバージョンの名前が変更されて、メンバーの保管済みバージョンが復元されます。この値は、保管済みデータを復元しますが、その結果が正しくなるとは限りません。その他の差異について、差異を処理する方法を判断するには、個々の値の記述を参照してください。

注: BRMSがSAVOBJまたはSAVCHGOBJで保管したオブジェクトを復元しようとする場合には、BRMSはこれらのオブジェクトが名前変更されないように、そのパラメーターをALWOBJDIF(*FILELVL *AUTL *OWNER *PGP)に変更します。

その他の値 (反復は最大4回まで)

***AUTL**

権限リストの差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる権限リストのオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管元とは異なるシステムに復元される新規オブジェクトは、復元されてその権限リストにリンクされません。新規のシステムに権限リストが存在していない場合には、共通権限が*EXCLUDEに設定されません。

この値が指定されていない場合には、権限リストの差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる権限リストをもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。保管元とは異なるシステムに復元される新規オブジェクトは復元されませんが、その権限リストにはリンクされず、共通権限は*EXCLUDEに設定されます。

***FILELVL**

ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの差異が、許可されます。

保管媒体が、システム上の物理ファイルと異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDをもつ場合でも、既存の物理ファイルを復元する試みが行われます。物理ファイル・データは、システム上の対応する物理ファイルの形式レベルIDと一致する保管媒体上の形式レベルIDをもつ物理ファイルについてのみ、復元されます。

この値が指定されていない場合には、ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDをもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。

***OWNER**

所有権の差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる所有者のオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されていない場合には、所有権の差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる所有者をもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる1次グループのオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの1次グループで復元されます。

この値が指定されていない場合には、1次グループの差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる1次グループをもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。

[トップ](#)

ライブラリーへの復元(RSTLIB)

ライブラリーの内容を保管されたライブラリーから同じライブラリーへ、または別のライブラリーへ復元するかどうかを指定します。

***SAVLIB**

ライブラリーの内容は、保管されたものと同じ1つまたは複数のライブラリーに復元されます。

ライブラリー名

保管されたライブラリーの内容が復元されるライブラリーの名前を指定してください。

注: 構造化照会言語(SQL)データベースを保管されたライブラリー以外のライブラリーに復元した場合には、ジャーナルは復元されません。

[トップ](#)

ASP (RSTASP)

ライブラリーおよびオブジェクトは、それらが保管された補助記憶域プールに復元されるか、別の補助記憶域プールに復元されるかを指定します。ライブラリーとそこに含まれるオブジェクトは、システム(1)補助記憶域プール、基本ユーザー(2-32)補助記憶域プール、1次補助記憶域プール、または2次補助記憶域プールにのみ復元することができます。

補助記憶域プールに復元できるオブジェクト・タイプの詳細については、バックアップおよび回復の手引きを参照してください。

*SAVASP

ライブラリーおよびオブジェクトは保管されたASPに復元されます。

*SYSTEM

ライブラリーおよびオブジェクトは、システム(1)補助記憶域プールに復元されます。

補助記憶域プール名

ライブラリーおよびオブジェクトは、この名前によって識別された補助記憶域プールに復元されます。これは、使用可能な任意の基本ユーザー補助記憶域プール(2-32)あるいは使用可能な任意の1次または2次補助記憶域プールの名前とすることができます。

補助記憶域プール番号

ライブラリーおよびオブジェクトは、この番号によって識別されたシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールに復元されます。補助記憶域プール番号の範囲は1-32です。

[トップ](#)

FROMシステム(FROMSYS)

媒体情報をローカル・システムに復元したい場合に、その復元元のシステムの位置およびネットワークIDを指定します。

注: ネットワーク属性の表示(DSPNETA)コマンドは、システム・ネットワーク属性を表示するのに使用します。

注: *LCL以外の値が指定されている場合には、この値を使用するのにBRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

***LCL** FROMシステムがローカル・システムであることを示します。BRMSは、現行システム名を判別するのに、省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を使用し、システム名(SYSNAME)ネットワーク属性は使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。

ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムの省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)

ネットワーク属性を指定します。リモート・システムと接続するには、現行システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性が使用されます。

ネットワークID,ロケーション名

ネットワーク操作のリモート・システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)および省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。ここで、NNNNNNNNはLCLNETIDで、CCCCCCCCはLCLLOCNAMEです。

FROMSYSパラメーターが指定され、リモート・システムへの接続を確立できなかった場合は、コマンドは復元操作の実行にローカル・データを使用しません。媒体情報の処理(WRKMEDIBRM)コマンドまたはBRMを使用した回復の開始(STRRCYBRM)を使用して、オブジェクトを選択して復元します。

トップ

例

例1: BRMSを使用したライブラリーの復元

```
RSTLIBBRM SAVLIB(MYLIB) DEV(*MEDCLS) COPY(2) RSTASP(3)
```

このコマンドは、MYLIBと呼ばれるライブラリーを復元します。この復元操作には、MYLIBが入っている媒体に割り当てられた媒体クラスをサポートする装置を使用することができます。媒体情報のライブラリーの2番目のコピーは補助記憶域プール(ASP) 3に復元されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1177

リモート・システムとの接続を確立できません。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM2112

ASP &2が無効です。

CPF4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM使用のオブジェクトの復元 (RSTOBJBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したオブジェクトの復元(RSTOBJBRM)コマンドは、BRMS媒体内容情報から1つ以上のオブジェクトを復元します。BRMを使用したオブジェクトの保管(SAVOBJBRM)コマンドによって保管されたオブジェクトまたは制御グループの一部として保管されたオブジェクトは、RSTOBJBRMコマンドで復元することができます。このコマンドで復元できるオブジェクトのタイプは、**オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)**パラメーターにリストされます。これらは、別個のオブジェクトとしてか、またはライブラリー保管操作の一部として保管することができます。RSTOBJBRMコマンドは、このコマンドに指定された各オブジェクトのオブジェクト記述と内容を復元します。

注: RSTOBJBRMコマンドを使用すると、**保管レベル(SAVLVL)**パラメーターによって、BRMS媒体内容情報から選択したオブジェクトのコピーを復元することができます。たとえば、オブジェクトのコピー1の回復要求は、BRMS媒体内容情報のオブジェクトの最新コピーの次に復元されます（現行コピーが最新コピーです）。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- **装置(DEV)**パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または*MEDCLS特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する*CHANGE権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリー中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する*USE権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. ユーザー・ドメイン・オブジェクト・ユーザー空間(*USRSPC),ユーザー索引(*USRIDX),またはユーザー待ち行列(*USRQ)がシステム値QALWUSRDMN（ライブラリーにユーザー・オブジェクト使用可能）で許可されていないライブラリーに復元された場合には、オブジェクトはシステム・ドメインに変換されます。
2. このコマンドを使用するには、オブジェクト復元(RSTOBJ) コマンドに対する権限が必要です。
3. システム保管(*SAVSYS)特殊権限があるか、あるいは以下のすべてのオブジェクト権限がなければなりません。
 - ライブラリーに入っているオブジェクトの上に復元する場合には、復元ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。

- これらのオブジェクトの上に復元する場合には、ライブラリーに入っているオブジェクトに対する*OBJEXIST権限が必要です。
- 補助記憶域プール(RSTASP)パラメーターに指定された補助記憶域プール装置に対する*USE権限が必要です。
 - このコマンドを使用してTSMサーバー装置からデータを復元することができます。指定できるのは、1つのTSM装置かTSM装置を選択する必要がある*MEDCLSだけです。選択するTSM装置は、SNAネットワーク・プロトコルをサポートする*APPCか、TCP/IPプロトコルをサポートする*NETのいずれかとすることができます。
 - ALWOBJDIFパラメーターに*NONE以外の値を使用するためには、*ALLOBJ特殊権限が必要です。
 - ジャーナル変更を適用する時には、以下の追加の制約事項が適用されます。
 - APYJRNCHGコマンドに対する権限が必要です。
 - ファイル、ジャーナル、およびジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
 - システムにすでに存在するファイルを復元するには*OBJEXIST権限が必要です。
 - ジャーナル処理されたファイルにジャーナル変更を適用するには、*CHANGEおよび*OBJMGT権限が必要です。
 - ジャーナル変更を適用するために使用するジャーナルまたはジャーナル・レシーバーに対する*USE権限が必要です。
 - 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
SAVLIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 2
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): 名前, *MEDCLS	必須, 定位置 3
PRLRSC	並列装置資源	要素リスト	オプション
	要素 1: 最小資源	1-32, *SAV, *NONE, *AVAIL	
	要素 2: 最大資源	1-32, *MIN, *AVAIL	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
SAVLVL	保管レベル	1-99, *CURRENT, *SAVDATE	オプション
SAVDATE	保管日付	日付	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
OPTION	オプション	*ALL, *NEW, *OLD, *FREE	オプション
MBROPT	データ・ベース・メンバー・オプション	*MATCH, *ALL, *NEW, *OLD	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	*NEW, *NONE	オプション
ALWBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *AUTL, *FILELVL, *OWNER, *PGP	オプション
RSTLIB	復元先のライブラリー	名前, *SAVLIB	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
RSTASP	補助記憶域プール	文字値, *SAVASP, *SYSTEM	オプション
FROMSYS	FROMシステム	文字値, *LCL	オプション

トップ

オブジェクト(OBJ)

復元したいオブジェクトの名前、復元したいオブジェクトの総称グループ、またはすべてのオブジェクトを指定します。

コマンドの実行時に**オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)**パラメーターが指定されていないと、それらが媒体上の指定されたライブラリーまたは保管ファイルにある場合やそれらが指定された名前を持っている場合には、そのパラメーターの記述にリストされているすべてのオブジェクト・タイプが復元されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** コマンドに指定されたその他の要件を満たすすべてのオブジェクトを復元します。

その他の値 (反復は最大50回まで)

総称*オブジェクト名

復元したいオブジェクトのグループの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名とは、1つまたは複数の文字とその後続くアスタリスク(*)から成る文字列です。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前を完全なオブジェクト名であると見なします。

オブジェクト名

復元したいオブジェクトの名前を指定してください。指定したライブラリーから復元したいオブジェクトを最大50個まで指定することができます。

トップ

ライブラリー(SAVLIB)

復元するオブジェクトが存在しているライブラリーの名前を指定してください。**ライブラリーへの復元(RSTLIB)**パラメーターが指定されていない場合には、これはオブジェクトの復元先のライブラリーの名前でもあります。ライブラリーの名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

トップ

装置(DEV)

復元操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、すでにBRMS装置テーブルの中になければなりません。

注: 複数のシステムでテープ装置または媒体ライブラリー装置(MLB)の使用を共用することができます。装置がテープ装置である(MLB装置でない) 場合には、その装置が共用されることを指示した場合に、BRMSが複数のシステム間での装置の使用を管理します。

このコマンドを使用してTSM (ADSM)サーバーからデータを復元することができます。TSMタイプのサーバーを1つだけ指定するか、あるいは*MEDCLS (TSMサーバーを選択していなければならない) を指定することができます。選択する装置は*APPC (SNA ネットワーク・プロトコルをサポートする) または*NET (TCPIPプロトコルをサポートする) のいずれかとすることができます。

これは必須パラメーターです。

装置名 復元操作に使用される1つまたは複数の装置の名前を指定してください。複数の装置(4台まで)を使用している場合には、それらが使用される順に装置の名前を指定してください。

注: 逐次復元を実行している場合には、媒体ライブラリー装置を1つだけ指定することができます。並列復元を実行している場合には、複数の媒体ライブラリーを指定することができます。

***MEDCLS**

BRMSは、要求した項目が保管される媒体の媒体クラスを判別します。媒体クラスが決定されると、その媒体クラスに指定された密度をサポートする装置が、復元操作を実行するために選択されます。

注: 並列最小資源の値が*NONEである場合にのみ、装置パラメーターに特殊値*MEDCLSを最大4回まで指定することができます。そうでない場合には、*MEDCLSは1回しか指定することができません。BRMSは、この操作に割り振ることができる最大数の装置を使用しようとしています。

より多くの装置で並列復元を実行するには、値*MEDCLSは1回しか指定することができず、並列最小資源および最大資源は1より大きいか、*SAVでなければなりません。

トップ

並列装置資源(PRLRSC)

復元操作に使用される装置資源の最小数および最大数を指定します。

要素 1 : 最小資源数

並列復元に必要な装置資源の最小数を指定します。

注: 媒体ライブラリー装置(MLB)が使用されていて、必要な資源が使用できない場合に、コマンドは、MLBが使用可能になるのをユーザーによって指定された期間だけ待機します。この待機時間は、INLMNTWAITについて*MLB装置記述に指定された値によって決まります。*TAP装置が使用されていて、必要な資源が使用できない場合には、コマンドは正常に実行されません。

注: テープへの保管ファイルの転送の場合、並列操作はサポートされていません。

***SAV** 保管に使用されたのと同じ数の装置資源が復元に使用されることを指定します。保管が逐次保管であった場合には、復元も逐次になります。

***AVAIL**

指定された最大値まで使用可能な数の装置を使用します。最小値にこの値を指定すると、BRMSは使用可能ないくつの資源でも使用できますが、コマンドの開始時にただ1つの資源しか使用可能でない場合には、その1つの資源を使用するだけです。

***NONE**

装置資源は使用されません。復元は、逐次復元として実行されます。

I-32 この復元コマンドで使用される装置資源の最小数（保管に使用された最大数まで）指定します。

要素 2：最大資源数

***MIN** 装置資源の最小数として指定された値を使用します。

***AVAIL**

使用可能ないくつの装置でも使用します。最大値にこの値を指定すると、BRMS は使用可能ないくつの資源でも使用できますが、少なくとも最小値要素に指定された値だけは使用します。

I-32 この復元コマンドで使用される装置資源の最大数を（保管に使用された最大数まで）指定します。

トップ

オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)

復元したいオブジェクト・タイプを指定してください。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** すべてのタイプのオブジェクトが復元処理に組み込まれます。

その他の値（反復は最大50回まで）

オブジェクト・タイプ

復元したいオブジェクト・タイプの値（コマンド(*CMD)、ファイル(*FILE)、またはプログラム(*PGM)など）を指定してください。オブジェクト・タイプの完全なリストが必要な場合には、**オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)**パラメーターにカーソルを位置づけてF4キーを押してください。

トップ

保管レベル(SAVLVL)

媒体内容情報から復元したいオブジェクトのコピーを指定します。

***CURRENT**

オブジェクトの最新のコピーが復元されます。

***SAVDATE**

復元したいオブジェクトのレベルを識別するために、保管日が使用されることを指定します。保管日は**保管日(SAVDATE)**パラメーターに指定されます。

保管レベル番号

媒体内容情報から復元したいコピーの世代を指定してください。1-99のコピー番号を指定することができます。たとえば、最後の最新のコピーの次に復元したい場合には、1を指定してください。

トップ

保管日(SAVDATE)

復元したいオブジェクトの保管日付を指定してください。指定した日付のオブジェクトの最新の保管が復元されます。指定した日付にオブジェクトの保管が行なわれていない場合には、このオブジェクトは復元されません。

注: 保管レベル(SAVLVL)パラメーターに*SAVDATEが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

保管日付

復元したいオブジェクトの保管日付を指定してください。この日付は、QDATFMTシステム値によって指定された形式で、区切り文字を付けてあるいは付けずに入力しなければなりません。システム値QDATSEPは、使用できる日付区切り文字を指定しています。

[トップ](#)

テープの終わりオプション(ENDOPT)

ボリュームが使用される時に、復元操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に行われるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

*REWIND

回復操作の終了後にボリュームは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

回復操作の終了後にボリュームは自動的に巻き戻され、アンロードされます。

[トップ](#)

オプション(OPTION)

各オブジェクトの復元の処理方法を指定します。

***ALL** 保管されたライブラリー中のすべてのオブジェクトがシステム上のライブラリーに復元されます。保管されたライブラリー中のオブジェクトは、システム上のライブラリーのオブジェクトを置き換えます。システム上に保管されていないオブジェクトはシステム上のライブラリーに追加されます。システム・ライブラリーにあって保管されたライブラリーにないオブジェクトはライブラリーに入ったままです。

*FREE

記憶域が開放されて、システム上のライブラリーに存在しているオブジェクトだけが、復元されます。

- *NEW システム上のライブラリーに存在していない保管されたライブラリー中のオブジェクトだけが、復元されます。
- *OLD システム上のライブラリーに存在しているオブジェクトだけが、復元されます。

トップ

データベース・メンバー・オプション(MBROPT)

システム上に存在しているデータベース・ファイルの場合に、どのメンバーが復元されるかを指定します。
*MATCHを使用した場合以外は、保管ファイルのメンバー・リストがメンバーごとにシステムの現行バージョンと一致している必要はありません。

*MATCH

保管されたメンバーは、それが存在しているメンバーのリストがメンバーごとに現行システム・バージョンのリストと一致している場合に復元されます。オブジェクト差異可能(ALWOBJDIF)パラメーターに*ALLが指定されている場合には、MBROPT(*MATCH)は無効です。

- *ALL 保管ファイル中のすべてのメンバーが復元されます。
- *NEW 新規のメンバー（システムに認識されていないメンバー）だけが復元されます。
- *OLD すでにシステムに認識されているメンバーだけが復元されます。

トップ

スプール・ファイル・データ(SPLFDTA)

保管済みスプール・ファイル・データおよび属性が、復元された出力待ち行列に復元されるかどうかを指定します。

*NEW 新規の保管済みスプール・ファイル・データおよび属性が、保管済み出力待ち行列に復元されることを指定します。保管済みスプール・ファイルは、同じ属性を持つ既存のスプール・ファイルがシステム上にない場合に、これらが保管されたのと同じ出力待ち行列に対して復元されます。

*NONE

スプール・ファイル・データまたは属性が、復元済みの出力待ち行列に復元されないことを指定します。

トップ

オブジェクト差異可能(ALWOBJDIF)

保管済みのオブジェクトと復元されるオブジェクトとの間の差異が許されるかどうかを指定します。これらの差異には次のものがあります。

- **権限リスト:** システム上のオブジェクトの権限リストが、保管操作からのオブジェクトの権限リストと異なる。あるいは、権限リスト付きの新規オブジェクトの復元先のシステムが、それが保管されているシステムと異なる。
- **ファイル・レベルID:** システム上のデータベース・ファイルの作成日時が、保管されたファイルの作成日時と一致していない。

- **メンバー・レベルID:** システム上のデータベース・ファイル・メンバーの作成日時が、保管されたメンバーの作成日時と一致していない。
- **所有権:** システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なる。
- **1次グループ:** システム上のオブジェクトの1次グループが、保管操作からのオブジェクトの1次グループと異なる。

注: このパラメーターを使用するためには*ALLOBJ特殊権限が必要です。

単一値

*NONE

上にリストされた差異は復元操作では許可されません。

- ***ALL** 上記にリストされたすべての差異が復元操作で許可されます。ファイル・レベルIDおよびメンバーIDの差異は、*FILELVL値とは別に処理されます。ファイル・レベルの差異があつて、**データベース・メンバーのオプション・フィールド(MBROPT)**パラメーターに*ALLが指定されている場合には、ファイルの既存のバージョンの名前が変更されて、そのファイルの保管済みバージョンが復元されます。メンバー・レベルの差異がある場合には、メンバーの既存のバージョンの名前が変更されて、メンバーの保管済みバージョンが復元されます。この値は、保管済みデータを復元しますが、その結果が正しくなるとは限りません。その他の差異について、差異を処理する方法を判別するには、個々の値の記述を参照してください。

注: BRMSがSAVOBJまたはSAVCHGOBJで保管したオブジェクトを復元しようとする場合には、BRMSはこれらのオブジェクトが名前変更されないように、そのパラメーターをALWOBJDIF(*FILELVL *AUTL *OWNER *PGP)に変更します。

その他の値 (反復は最大4回まで)

*AUTL

権限リストの差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる権限リストのオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管元とは異なるシステムに復元される新規オブジェクトは、復元されてその権限リストにリンクされず。新規のシステムに権限リストが存在していない場合には、共通権限が*EXCLUDEに設定されず。

この値が指定されていない場合には、権限リストの差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる権限リストをもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。保管元とは異なるシステムに復元される新規オブジェクトは復元されますが、その権限リストにはリンクされず、共通権限は*EXCLUDEに設定されます。

*FILELVL

ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの差異が、許可されます。

保管媒体が、システム上の物理ファイルと異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDをもつ場合でも、既存の物理ファイルを復元する試みが行われます。物理ファイル・データは、システム上の対応する物理ファイルの形式レベルIDと一致する保管媒体上の形式レベルIDをもつ物理ファイルについてのみ、復元されます。

この値が指定されていない場合には、ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDをもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。

***OWNER**

所有権の差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる所有者のオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されていない場合には、所有権の差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる所有者をもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる1次グループのオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの1次グループで復元されます。

この値が指定されていない場合には、1次グループの差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる1次グループをもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。

トップ

ライブラリーへの復元(RSTLIB)

オブジェクトを保管されたライブラリーと異なるライブラリーへ、または同じライブラリーへ復元するかどうかを指定します。

***SAVLIB**

オブジェクトが保管されたライブラリーと同じライブラリーへ復元されます。

ライブラリー名

保管されたオブジェクトが復元されるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ASP (RSTASP)

オブジェクトは、それらが保管された補助記憶域プールに復元されるか、別の補助記憶域プールに復元されるかを指定します。ライブラリー・オブジェクトは、システム(1)補助記憶域プール、基本ユーザー(2-32)補助記憶域プール、1次補助記憶域プール、または2次補助記憶域プールにのみ復元することができます。

補助記憶域プールに復元できるオブジェクト・タイプの詳細については、バックアップおよび回復の手引きを参照してください。

***SAVASP**

オブジェクトは、それらが保管された補助記憶域プールに復元されます。

***SYSTEM**

オブジェクトは、システム(1)補助記憶域プールに復元されます。

補助記憶域プール名

およびオブジェクトは、この名前によって識別された補助記憶域プールに復元されます。これは、使用可能な任意の基本ユーザー補助記憶域プール(2-32)あるいは使用可能な任意の1次または2次補助記憶域プールの名前とすることができます。

補助記憶域プール番号

オブジェクトは、この番号によって識別されたシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールに復元されます。補助記憶域プール番号の範囲は1-32です。

トップ

FROMシステム(FROMSYS)

媒体情報をローカル・システムに復元したい場合に、その復元元のシステムの位置およびネットワークIDを指定します。

注: ネットワーク属性の表示(DSPNETA)コマンドは、システム・ネットワーク属性を表示するのに使用します。

注: *LCL以外の値が指定されている場合には、この値を使用するのにBRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

***LCL** FROMシステムがローカル・システムであることを示します。BRMSは、現行システム名を判別するのに、省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を使用し、システム名(SYSNAME)ネットワーク属性は使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。

ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムの省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。リモート・システムと接続するには、現行システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性が使用されます。

ネットワークID.ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)および省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。ここで、NNNNNNNNはLCLNETIDで、CCCCCCCCはLCLLOCNAMEです。

FROMSYSパラメーターが指定され、リモート・システムへの接続を確立できなかった場合は、コマンドは復元操作の実行にローカル・データを使用しません。媒体情報の処理(WRKMEDIBRM)コマンドまたはBRMを使用した回復の開始(STRRCYBRM)を使用して、オブジェクトを選択して復元します。

トップ

例

```
RSTOBJBRM OBJ(AP1000) SAVLIB(APLIB) DEV(*MEDCLS) OBJTYPE(*FILE)
```

このコマンドは、ライブラリーAPLIBから保管されているAP1000という名前のオブジェクトを復元します。復元操作には、AP1000が入っている媒体に割り当てられた媒体クラスをサポートする装置を使用することができます。AP1000はファイル・オブジェクトです。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1177

リモート・システムとの接続を確立できません。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM2112

ASP &2が無効です。

CPF4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM使用のオブジェクトの保管 (SAVBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したオブジェクトの保管(SAVBRM)コマンドは、統合ファイル・システムで使用できる1つまたは複数のオブジェクトのコピーを保管します。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、INTEGRATED FILE SYSTEM INTRODUCTIONを参照してください。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- 装置(DEV)パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または*MEDCLS特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する*CHANGE権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリー中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する*USE権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. SAVBRMコマンドは、光ディスク・ファイルをサポートしません。
2. このコマンドを使用して、QSYSおよびQDLSファイル・システムを保管することはできません。
3. このコマンドを使用するには、SAVコマンドに対する権限が必要です。
4. 補助記憶域プール(ASPDEV)パラメーターに指定された補助記憶域プール装置に対する*USE権限が必要です。
5. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。
6. ルート・ディレクトリー中の名前パターンを使用してオブジェクトを保管するか、ライブラリー中のオブジェクトを保管するか、あるいは文書ライブラリー・オブジェクトを保管するためにこのコマンドを使用するときの制約事項の詳細については、バックアップおよび回復の手引きの**オブジェクト保管 (SAV)** コマンドを参照してください。

このコマンドを使用してTIVOLI STORAGE MANAGER (TSM)サーバーにデータを保管することができます。データをTSMサーバーに保管するためには、次の条件を満たしていなければなりません。

- TSMサーバーには、ユーザー・データしか保管できません。BRMSでは、*IBMタイプのライブラリーをTSMサーバーには保管できません。またBRMSは、QGPL, QUSRBRM, QUSRSYS ライブラリーなど、ユーザー・データと考えられるIBM提供ライブラリーをTSM媒体に保管できません。

- 装置(DEV)パラメーターには、1つの装置しか指定することができず、またこの装置は、カテゴリ*NETまたは*APPCでなければなりません。
- 場所(LOC)パラメーターと一緒にDEV(*MEDCLS)を指定して、使用される*NETまたは*APPCカテゴリ装置を識別することができます。
- 媒体ポリシーが媒体クラス属性に*ADSM (TSMサーバー)の指定を使用している場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに媒体ポリシー名を指定することができます。そうでない場合には、MEDPCY(*NONE)を指定できますが、その場合には、媒体クラス(MEDCLS)、移動ポリシー(MOVPCY)、および保護ボリューム(VOLSEC)パラメーターに*ADSMを指定しなければなりません。
- 順序番号(SEQNBR)パラメーターは*ENDでなければなりません。
- 保管ファイルへの保管(SAVF)、ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP)、およびヒストリーの複写マーク付け(MARKHST)パラメーターは*NOでなければなりません。これらのパラメーターに*MEDPCYを指定した場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターで指定された媒体ポリシーの保管ファイルへの保管属性、ボリュームの複写マーク付け属性、およびヒストリーの複写マーク付け属性の各値は*NOとしなければなりません。
- 必要ボリューム数(MINVOL)パラメーターは、*NONEでなければなりません。SAVF(*MEDPCY)を指定した場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターで指定された媒体ポリシーの必要ボリューム数属性の値は*NONEでなければなりません。
- *SYNCLIBが活動時保管(SAVACT)パラメーターに指定されている場合には、各ライブラリーはグループとしてではなく個々に保管されます。したがって同期メッセージは、ライブラリーのグループごとではなくライブラリーごとに個別に送られ、同期は、ライブラリーをまたがらずに、1つのライブラリー内でのみ行われます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLGRP	制御グループ	名前, *NONE, *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
CTLGRPATR	制御グループ属性の使用	*NO, *YES	オプション
DEV	装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前, *MEDCLS	オプション, 位置 1
PRLRSC	並列装置資源	要素リスト	オプション
	要素 1: 最小資源	1-32, *NONE, *AVAIL	
	要素 2: 最大資源	1-32, *MIN, *AVAIL	
MEDPCY	媒体ポリシー	名前, *SYSPCY, *NONE	オプション, 位置 2
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 名前	パス名, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
SUBTREE	ディレクトリー・サブツリー	*ALL, *DIR, *NONE, *OBJ	オプション
SAVACT	活動時保管	*NO, *SYNC, *YES	オプション
SAVACTOPT	活動時保管オプション	*NONE, *ALWCKPWRT	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SAVACTMSGQ	活動メッセージ待ち行列の保管	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動メッセージ待ち行列の保管	名前, *NONE, *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
USEOPTBLK	最適ブロック・サイズの使用	*BKUPCY, *DEV, *NO, *YES	オプション
SAVTYPE	保管のタイプ	*FULL, *CUML, *INCR	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT	オプション
CLEAR	消去	*NONE, *AFTER, *ALL	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV, *NO	オプション
REFDATE	参照日	文字値, *REF	オプション
REFTIME	参照時刻	文字値, *REF	オプション
EXPDATE	満了日	日付, *MEDPCY, *PERM	オプション
MOVPCY	移動ポリシー	名前, *MEDPCY, *ADSM, *NONE	オプション
MEDCLS	媒体クラス	文字値, *MEDPCY, *ADSM, *SYSPCY	オプション
LOC	場所	名前, *MEDPCY, *ANY, *HOME	オプション
SAVF	保管ファイルへの保管	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション
SAVFASP	保管ファイルASP	文字値, *MEDPCY, *SYSTEM	オプション
SAVFEXP	保管ファイルの保存	日付, *MEDPCY, *NONE, *PERM	オプション
MAXSTG	ASP記憶域限界	1-99, *MEDPCY	オプション
VOLSEC	ボリュームの保護	*MEDPCY, *ADSM, *NO, *YES	オプション
MINVOL	必要ボリューム数	1-9999, *MEDPCY, *NONE	オプション
MARKDUP	ボリュームの複写マーク付け	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション
MARKHST	履歴の複写マーク付け	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション
PKGID	パッケージ識別子	*NEW, *PRVSAV	オプション
RCYEXITPGM	回復出口プログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 回復出口プログラム	名前, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
RCYEXITDTA	回復出口プログラム・データ	文字値, *NONE	オプション

トップ

制御グループ(CTLGRP)

このコマンドで保管されたオブジェクトと関連づけたい制御グループの名前を指定します。制御グループ名は媒体情報と一緒に保管されます。そして、BRMSコマンド上以外の制御グループ(CTLGRP)パラメーターを使用して、制御グループ別に媒体情報のフィルター操作または保管済みオブジェクトの回復をすることができます。

注: 保管には制御グループの属性は使用されません。

保管する項目に対してバージョン制御を使用する場合には、この保管操作は、指定されたバージョン制御の一部として記録されます。バージョン制御は、この制御グループに関連した媒体ポリシーの中に指定されており、「媒体ポリシーの処理」画面を使用して検討することができます。

***NONE**

このコマンドに制御グループ名を指定しない。

***ARCGRP**

省略時の保存制御グループの名前。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKUGRP**

省略時のバックアップ制御グループの名前がすべてのユーザー・データの保管に使用されます。

***SYSGRP**

省略時のシステム制御グループの名前がすべてのシステム・データの保管に使用されます。

***SYSTEM**

省略時のシステム制御グループの名前が全システムの保管に使用されます。

制御グループ名

保管している項目に割り当てる制御グループの名前を指定します。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、制御グループは既存のBRMS制御グループでなければなりません。CTLGRPATR(*NO)を指定した場合には、既存の制御グループ名を指定するか、または名前が既存の制御グループの名前でなくても、保管操作に関連付けたい名前を指定することができます。

[トップ](#)

制御グループ属性使用

装置、並列装置資源、媒体ポリシー、保管タイプ、最適なブロック、順序番号、ターゲット・リリース、消去、事前検査オブジェクト、圧縮、短縮、参照日時、および満了日に、制御グループ(CTLGRP)パラメーターに指定された制御グループからの制御グループ属性を使用するかどうかを指定します。

制御グループは既存のBRMSバックアップ制御グループでなければなりません。

バージョン設定を使用する媒体ポリシーは、値*YESで使用することはできません。

***NO** 指定された制御グループからの値は使用されません。装置および媒体ポリシーの値は必須です。

***YES** 指定された制御グループからの値が使用されます。

[トップ](#)

装置(DEV)

このコマンドで使用される1つ以上の装置を指定します。

単一値

***MEDCLS**

このポリシーまたは制御グループの装置が、媒体ポリシーに指定された媒体クラスの密度をサポートする装置タイプに基づいて選択されます。*MEDCLS特殊値は、装置プールの一部である装置、

すなわち、いくつかのシステムが1つまたは1セットの装置を共用しているような場合の装置に使用されます。装置は「装置の処理」画面で指定されています。

注: 逐次保管操作に複数の装置を使用したい場合には、使用される各装置ごとに一度ずつ***MEDCLS**を4回まで繰り返し使用することができますが、単一値に制限されている仮想テープ装置は例外です。並列装置資源(**PRLRSC**)パラメーターは***NONE**でなければなりません。**BRMS**は、保管操作に割り振ることができる装置の最大数を使用しようとします。並列保管操作に複数の装置を使用したい場合には、***MEDCLS**は一度だけ指定し、**PRLRSC**の最小および最大応答数が1より大きくなければなりません。

その他の値 (反復は最大4回まで)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。指定された装置名は、すでに**BRMS**装置テーブルの中になければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。入力画面が表示されていて、これらの複数個の値を入力するために追加の入力フィールドが必要である場合には、「値の続きは+」の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

注: 複数のシステムでテープ装置または媒体ライブラリー装置(**MLB**)の使用を共用することができます。装置がテープ装置(**MLB**装置でない)の時、装置が共用されるよう指示した場合には**BRMS**を複数システムによるスタンドアロン装置の使用の管理に役立てることができます。

このコマンドを使用して**TSM (ADSM)**サーバーにデータを保管することができます。装置のリストの中から**TSM**タイプのサーバーを1つだけ指定するか、あるいは***MEDCLS** (**TSM**サーバーを選択していなければならない)を指定することができます。装置タイプは***APPC** (**SNA**ネットワーク・プロトコルをサポートする)、または***NET** (**TCPIP** プロトコルをサポートする)のいずれかとすることができます。

***NONE**

この保管操作の装置はありません。保管データを記憶するために保管ファイルが使用されます。装置***NONE**によって作成された保管ファイル内のデータは、**BRMS**によってテープにコピーされることはありません。これはオンライン・アクセス専用です。

装置名 保管操作に使用する1つ以上の装置の名前を指定してください。複数の装置 (最大4台まで) を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。

注: 逐次保管を実行している場合には、媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を1つだけ指定することができます。並列保管を実行している場合には、複数の媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を指定することができます。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。このパラメーターの値は、**CTLGRP**パラメーターに指定された制御グループの属性から決定されます。

トップ

並列装置資源(**PRLRSC**)

並列保管操作に使用される装置資源の最小数および最大数を指定します。

注: テープへの保管ファイルの転送の場合、並列操作はサポートされていません。

要素 1 : 最小資源数

並列保管に必要な装置資源の最小数を指定します。

注: 媒体ライブラリー装置(MLB)が使用されていて、必要な資源が使用できない場合に、コマンドは、ユーザーが指定した期間だけMLBが使用可能になるのを待機します。この待機時間は、*MLB装置記述のINLMNTWAITに指定された値によって決まります。*TAP装置が使用されていて、必要な資源が使用できない場合には、コマンドは正常に実行されません。

***NONE**

装置資源は使用されません。保管は、逐次保管として実行されます。TSMまたは仮想テープ装置を使用している時には、*NONEを指定しなければなりません。

***AVAIL**

保管に使用できる最大数まで、使用可能な装置を使用します。最小値にこの値を指定すると、BRMSはどの使用可能な資源も使用できますが、コマンドの開始時に使用可能な資源が1つしかなかった場合には、その1つの資源を使用して処理を完了します。

I-32 この保管コマンドで使用される装置資源の最小数を指定します。

要素 2 : 最大資源数

装置資源の最大数を指定します。

***MIN** 装置資源の最小数として指定された値を使用します。

***AVAIL**

保管操作に使用できる装置をどれでも使用します。最大値にこの値を指定すると、BRMSはどの使用可能な資源も使用できますが、最少でも最小値要素に指定した値の資源を使用します。

I-32 この保管コマンドで使用される装置資源の最大数を指定します。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。このパラメーターの値は、CTLGRPパラメーターに指定された制御グループの属性から決定されます。

V5R4M0より前のターゲット・リリースの複数の並列装置資源を使用した保管は、単一の装置資源だけを使用して実行されます。

トップ

媒体ポリシー(MEDPCY)

この保管コマンドで使いたい媒体ポリシーを指定します。

媒体ポリシーは、次のことを決定するために使用されます。

- 制御グループの処理で使用される媒体に使用する保存のタイプ (日数、日付、またはバージョンなど)。
- この媒体ポリシーで使用する移動ポリシー。
- 使用する媒体クラス。
- 保管ファイルを使用するかどうか。
- 制御グループの処理で作成された保管ファイルに使用する保存のタイプ、すなわち日数または日付。

指定する媒体ポリシーは、BRMS媒体ポリシー・テーブルの中にある媒体ポリシーでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

***SYSPCY**

システム・ポリシーで指定された媒体ポリシーが、この保管操作からの出力ボリュームに割り当てられます。

***NONE**

この保管操作には媒体ポリシーは指定されません。媒体ポリシーの値は、省略時の値***MEDPCY**をもつ各パラメーターごとに保管コマンドで提供しなければなりません。

注: ***NONE**を指定して、データをTSM (ADSM)サーバーに保管する場合には、この保管操作の媒体ポリシーの値の一部である**MOVPCY**、**MEDCLS**、および**VOLSEC**パラメーターに***ADSM**特殊値を指定しなければなりません。省略時の値として***MEDPCY**が指定されている残りのパラメーターに対しては、これまで通り追加の媒体ポリシー値を指定しなければなりません。TSM管理クラス**STANDARD**およびTSMノード***LCL**が保管操作の省略時の値として使用されます。

媒体ポリシー

この保管操作で使用したい媒体ポリシーの名前を指定してください。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。このパラメーターの値は、**CTLGRP**パラメーターに指定された制御グループの属性から決定されます。

トップ

オブジェクト(OBJ)

保管したいオブジェクトのリストに組み込むかまたはリストから除外したいオブジェクトを指定します。最大300個のオブジェクト名パターンを指定することができます。

パス名の指定の詳細については、コマンド言語解説書の**第2章**を参照してください。

オブジェクト名のパターンの詳細については、**INTEGRATED FILE SYSTEM INTRODUCTION**を参照してください。

要素1: 名前

'*' 現行ディレクトリー中のオブジェクトが保管されます。

'オブジェクト・パス名パターン'

オブジェクト・パス名または多くの名前と一致できるパターンを指定してください。

制約事項:

- リンク・リストに**QDLS**または**QSYS.LIB**オブジェクトをリストすることはできません。こうしたファイル・システムのオブジェクトには、適切な***OBJ**または***FLR**リストを使用してください。

要素2: 除外または組み込み

2番目の部分は、そのパターンと一致する名前を操作に組み込むかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する際には、関係を示す名前パターンが常に現行作業ディレクトリーと比較してテストされることに注意してください。**ディレクトリー・サブツリー(SUBTREE)**パラメーターは、サブツリーを組み込むか除外するかを決定します。

***INCLUDE**

***OMIT**指定によって一時変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトが保管されます。

*OMIT

オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは保管されません。これは*INCLUDEの指定を一時変更し、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることになります。

[トップ](#)

ディレクトリー・サブツリー(SUBTREE)

ディレクトリーのサブツリーを保管操作に含めるかどうかを指定します。

***ALL** オブジェクト名パターンと一致する各ディレクトリーのサブツリー全体が含まれます。サブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

***DIR** オブジェクト名パターンと一致する各ディレクトリーの第1レベルのオブジェクトが含まれます。一致する各ディレクトリーのサブディレクトリーは含まれますが、サブディレクトリー中のオブジェクトは含まれません。

*NONE

サブツリーは保管操作に含まれません。ディレクトリーが指定されたオブジェクト名パターンと一致する場合には、そのディレクトリー中のオブジェクトは含まれます。ディレクトリーにサブディレクトリーがある場合には、そのサブディレクトリーもサブディレクトリー中のオブジェクトも含まれません。

***OBJ** オブジェクト名パターンと正確に一致するオブジェクトだけが処理されます。オブジェクト名のパターンがディレクトリーを指定している場合には、そのディレクトリーの中のオブジェクトは含まれません。

[トップ](#)

活動時保管(SAVACT)

オブジェクトの保管時にそのオブジェクトを更新できるかどうかを指定します。

注: システムが制限状態にある場合には、このパラメーターは無視され、保管操作は、SAVACT(*NO)が指定されたものとして実行されます。

注: 制御グループ内で*EXIT特殊操作の一部としてMONSWABRMコマンドを使用している場合には、活動時に保管したい項目の活動時保管フィールドの値が*YESでなければなりません。活動時保管監視(MONSWABRM)コマンドは、活動時保管メッセージ待ち行列を再検討して、同期の終わりを示すメッセージを探します。同期が検出されると、ユーザーはシステムに対してコマンドを出すことができます。

***NO** 使用中でないオブジェクトは保管されません。保管中にオブジェクトを更新することはできません。

*SYNC

オブジェクトは保管され、同時に使用することができます。すべてのオブジェクト・チェックポイントは同時に発生します。

***YES** オブジェクトは保管され、同時に使用することができます。オブジェクトのチェックポイントはいろいろな時点で発生します。

[トップ](#)

活動時保管オプション

活動時保管(SAVACT)パラメーターで使用されるオプションを指定します。

*NONE

特殊な活動時保管オプションは使用されません。通常の活動時保管処理が行われます。すべてのオブジェクトはロックされ、活動時保管チェックポイントに達するまでは更新することができません。

*ALWCKPWRT

オブジェクトの対応するシステム属性が設定されている場合に、オブジェクトを更新中に保管できるようにします。このオプションは、適用業務に関連し、追加のバックアップおよび回復の考慮事項をもつオブジェクトを保管するためにのみ、適用業務で使用しなければなりません。詳細については、AS/400Eバックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

トップ

活動メッセージ待ち行列の保管(SAVACTMSGQ)

保管操作がチェックポイントの処理の完了をユーザーに通知するために使用するメッセージ待ち行列を指定します。

このパラメーターは、復元操作の後で追加の回復手順が避けられるように既知の一貫性のある境界にオブジェクトを保管するために使用することができます。チェックポイント処理完了メッセージが受け取られるまで、適用業務を停止することができます。

修飾子1: 活動時保管メッセージ待ち行列

*NONE

通知メッセージは送られません。

*WRKSTN

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列

通知メッセージの送信先のメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL メッセージ待ち行列を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPL ライブラリーが使用されません。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

最適ブロック・サイズの使用(USEOPTBLK)

保管操作に最適ブロック・サイズが使用されるかどうかを指定します。

***BKUPCY**

バックアップ・ポリシーからの値を**最適ブロック・サイズの使用**パラメーターに使用します。

***DEV** 「装置の処理」画面に指定された値を**最適ブロック・サイズの使用**パラメーターに使用します。

***NO** 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドには、すべての装置タイプによってサポートされている省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープの複写(DUPTAP)コマンドまたはBRM を使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)コマンドを使用して、任意の媒体形式に複写することができます。

***YES** 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用されるブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされているブロック・サイズより大きい場合には、次のようになります。

- パフォーマンスが改善されることがあります。
- 作成されたテープ・ファイルには、使用されたブロック・サイズをサポートする装置とだけ互換性があります。ファイルが使用されたのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複写されていない限り、テープの複写(DUPTAP)およびBRMを使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)などのコマンドではファイルは複写されません。
- データ圧縮(DTACPR)パラメーターの値は無視されます。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。このパラメーターの値は、CTLGRPパラメーターに指定された制御グループの属性から決定されます。

[トップ](#)

保管のタイプ(SAVTYPE)

保管操作がすべてのオブジェクトを保管するか、最後の全保管以降に変更されたオブジェクトを保管するか、あるいは最後の増分保管以降に保管されたオブジェクトを保管するかを指定します。

***FULL**

すべてのオブジェクトを保管します。

***CUML**

最後の全保管以降に変更されたオブジェクトだけを保管します。

***INCR**

最後の増分保管以降に変更されたオブジェクトだけを保管します。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。このパラメーターの値は、CTLGRPパラメーターに指定された制御グループの属性から決定されます。

[トップ](#)

テープの終わりオプション(ENDOPT)

テープの使用時に、保管操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に行われるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

***REWIND**

操作の終了後、ボリュームは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

ボリュームは操作の終了後に自動的に巻き戻され、アンロードされます。

トップ

順序番号(SEQNBR)

テープを使用するときに、保管操作に使用される順序を指定します。満了したBRMSボリュームに保管する場合には、*ENDを指定してあっても、BRMSは、そのボリュームの始めから情報の書き込みを始めます。BRMSボリュームに保管しようとしている場合には、BRMSは、使用している出力装置によって、出力ボリュームの論理的な終わり（最後の活動ファイルの終わりの後）から始まるように出力を送ります。たとえば、3490装置はどの順序番号にも書き込むことができますが、6525装置は順序番号1または*ENDにしか書き込むことができません。

***END** 保管操作はボリューム上の最後の活動ファイルの順序番号の後から開始されます。

ファイル順序番号 (1-16,777,215)

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。このパラメーターの値は、CTLGRPパラメーターに指定された制御グループの属性から決定されます。

トップ

ターゲット・リリース(TGTRLS)

保管されているオブジェクトを復元したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在のシステムで実行中のオペレーティング・システムと同じリリースを実行するシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合の*CURRENTは、オブジェクトをV5R2M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、そのオペレーティング・システムの後続リリースが導入されているシステムでも復元することができます。

***PRV** オブジェクトは、モディフィケーション・レベル0の前のオペレーティング・システムのリリースで実行されるシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合の*PRVは、オブジェクトをV5R1M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、これより後のリリースのオペレーティング・システムが導入されているシステムでも復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

ターゲット・リリース

リリースはVXRXXMXの形式で指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R2M0はバージョン5、リリース2、モディフィケーション・レベル0です。

オブジェクトは、指定されたリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

有効な値は現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変更されます。このコマンドでサポートされている最も古いリリース・レベルよりさらに古いリリース・レベルを指定した場合には、サポートされる最も古いリリースを示したエラー・メッセージが出されます。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。このパラメーターの値は、CTLGRPパラメーターに指定された制御グループの属性から決定されます。

複数の並列装置資源のあるV5R4M0より前のターゲット・リリースを使用した保管は、単一の装置資源だけを使用して実行されます。

[トップ](#)

消去(CLEAR)

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルが自動的に消去されるかどうかを指定します。

***NONE**

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルは、自動的に消去されることはありません。まだ消去されていないボリュームが見つかったために保管操作を続行できない場合には、操作員に照会メッセージが送られ、保管操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して保管操作を続行できるように指定することができます。

保管ファイルが消去されていない場合には、照会メッセージが対話式ジョブであればワークステーション・メッセージ待ち行列に送られ、バッチ・ジョブであれば操作員に送られます。保管コマンドを出す前に、保管操作の実行に使用するすべてのボリュームを消去するか、あるいは保管ファイルを空にする必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての未消去のボリュームが自動的に消去されます。保管ファイルへの保管または復元操作の場合には、このオプションは無効です。最初のボリュームが消去されていないために操作を続行できない場合には、照会メッセージがシステム操作員に送られ、システム操作員は操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して操作を続行できるように指定することができます。

***ALL** 保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルはすべて自動的に消去されます。テープが使用され、順序番号が指定されている場合には、そのボリュームが消去され、さらにその順序番号で始まって、最初のボリュームの後にあるすべてのボリュームが消去されます。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。このパラメーターの値は、CTLGRPパラメーターに指定された制御グループの属性から決定されます。

オブジェクト事前検査(PRECHK)

選択したオブジェクトのいずれかが保管できない場合に保管操作を終了するかどうかを指定します。

***NO** ライブラリーの保管操作は続行され、保管できるオブジェクトだけを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後に、1つまたは複数のオブジェクトを保管することができない場合には、すべてのデータが書き込まれる前にライブラリーの保管操作が終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行されます。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。このパラメーターの値は、CTLGRPパラメーターに指定された制御グループの属性から決定されます。

トップ

データ圧縮(DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

***DEV** 保管がテープに対して行われ、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェア圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

注: データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェア圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていない場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。このパラメーターの値は、CTLGRPパラメーターに指定された制御グループの属性から決定されます。

トップ

データ短縮(COMPACT)

データ短縮が行われるかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置(DEV)パラメーターに指定されたすべての装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が行われます。

注: データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

*NO データ短縮は行われません。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。このパラメーターの値は、CTLGRPパラメーターに指定された制御グループの属性から決定されます。

トップ

参照日(REFDATE)

保管操作が増分保管のために使用する参照日付を指定します。参照日付は、BRMSの制御下で実行された保管の日付です。

***REF** この増分保管操作の参照日付として、制御グループに指定されている*LINKキーワードに対する最後のBRMS全保管の日付を使用します。

参照日付

この増分保管操作の参照日付として使用したい最後のBRMS全保管の日付を指定してください。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。このパラメーターの値は、CTLGRPパラメーターに指定された制御グループの属性から決定されます。

トップ

参照時刻(REFTIME)

保管操作が増分保管のために使用する参照時刻を指定します。参照時刻は、BRMSの制御下で実行された保管の時刻です。

***REF** この増分保管操作の参照時刻として、制御グループに指定されている*LINKキーワードに対する最後のBRMS全保管の時刻を指定してください。

参照時刻

この増分保管操作の参照時刻として使用したい最後のBRMS全保管の時刻を指定してください。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。このパラメーターの値は、CTLGRPパラメーターに指定された制御グループの属性から決定されます。

トップ

満了日(EXPDATE)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい満了を指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***PERM**

この保管操作からの出力ボリュームは永続的に有効となります。

満了日 この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる有効期限を日付区切り記号の有無にかかわらず指定してください。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、*MEDPCYを指定しなければなりません。

トップ

移動ポリシー(MOVPCY)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい移動ポリシーを指定します。

実行しようとするこの保管操作がデータをカテゴリー*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、媒体の使用を制御するのはこの場合、BRMSではなく、TSMサーバーであるので、MOVPCYパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー) を指定しなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ADSM**

媒体移動はTSMサーバーの仕様によって制御されます。

***NONE**

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームと関連づけられる移動ポリシーはありません。

移動ポリシー

この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる移動ポリシーを指定してください。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、*MEDPCYを指定しなければなりません。

トップ

媒体クラス(MEDCLS)

この保管操作で使用される出力ボリュームを選択するために使用したい媒体クラスを指定します。

実行しようとするこの保管操作がデータをカテゴリー*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、媒体の使用を制御するのはこの場合、TSMサーバーであって、BRMSでないので、MEDCLSパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー) を指定しなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ADSM**

保管操作では、TSMサーバーの仕様によって選択および制御される媒体が使用されます。

***NONE**

この保管操作に選択された出力ボリュームと関連づけられる媒体クラスはありません。

***SYSPCY**

この保管操作の出力ボリュームを選択するために、システム・ポリシーの中の媒体クラスの値が使用されます。

媒体クラス

この保管操作の出力ボリュームを選択するのに使用する媒体クラスを指定してください。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、*MEDPCYを指定しなければなりません。

[トップ](#)

場所(LOC)

この保管操作で使用される出力ボリュームの選択に使用したい場所を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ANY** 任意の場所からのボリュームがこの保管操作出力ボリュームとして選択されます。

***HOME**

ホーム場所からのボリュームがこの保管操作の出力ボリュームとして選択されます。

場所 ボリュームがこの保管操作の出力ボリュームとして選択される場所を指定してください。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、*MEDPCYを指定しなければなりません。

[トップ](#)

保管ファイルへの保管(SAVF)

この保管操作からの出力が保管ファイルに保管されるかどうかを指定します。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。SAVF(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシーの中の**保管ファイルへの保管**フィールドの値を*NOとしなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NO** この保管操作からの出力は保管ファイルに保管されません。

***YES** この保管操作からの出力は保管ファイルに保管されます。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、*MEDPCYを指定しなければなりません。

[トップ](#)

保管ファイルASP (SAVFASP)

この保管操作の結果として保管ファイルが作成される対象のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールを指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***SYSTEM**

保管ファイルはシステム(1)補助記憶域プールに保管されます。

保管ファイルASP名

保管ファイルの保管先の補助記憶域プールの名前を指定します。

保管ファイルASP番号

保管操作の結果として保管ファイルが作成される対象のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プール番号を指定します。

注: このパラメーターの場合には、UDFS, 1次, および2次補助記憶域プールはサポートされません。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、*MEDPCYを指定しなければなりません。

[トップ](#)

保管ファイルの保存(SAVFEXP)

この保管操作の結果として作成される保管ファイルの保存期間を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NONE**

保管操作から生成された保管ファイルは保持されません。

***PERM**

保管操作から生成された保管ファイルは永続的に保持されます。

満了日 この保管操作から作成された保管ファイルの保持期間を示す日付を指定してください。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、*MEDPCYを指定しなければなりません。

ASP記憶域限界(MAXSTG)

保管操作中に受け入れ可能な補助記憶域プール(ASP)の最大使用パーセントを指定します。たとえば、入力が90の場合には、補助記憶域プールの使用率が90%を超えるまで保管処理が続けられることを意味します。この上限に達すると、保管処理が停止されて、BRMSログにメッセージが送られます。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

記憶域限界

最大補助記憶域プール使用率限界を指定します。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、*MEDPCYを指定しなければなりません。

トップ

ボリュームの保護(VOLSEC)

この媒体クラスのボリュームにボリューム保護を適用するかどうかを指定します。保護されているボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

実行しようとする保管操作がデータをカテゴリー*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、ボリューム保護を制御するのはこの場合、TSMサーバーであって、BRMSでないので、VOLSECパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー)を指定しなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*ADSM

ボリューム保護はTSMサーバーの仕様によって制御されます。

***NO** この媒体クラスにはボリューム保護は適用されていません。ボリューム保護のないボリュームは、誰でも読み取ることができます。

***YES** この媒体クラスの媒体ボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、*MEDPCYを指定しなければなりません。

トップ

必要ボリューム数(MINVOL)

この媒体ポリシーを使用して保管を行う前に、必要な満了済みボリュームの最小数を指定します。この値は、BRM満了済み媒体の検査(CHKEXPBRM)コマンドを使用したユーザー・ジョブによって調べることができます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NONEを指定しなければなりません。MINVOL(*MEDPCY) を指定した場合には、参照される媒体ポリシーの中の**必要ボリューム数**・フィールドの値を*NONEとしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに***MEDPCY**を指定することはできません。

***NONE**

保管操作が開始される前に、必要なボリュームの最小数を調べる検査は行われません。

ボリュームの数

BRMS保管操作が開始される前に、使用可能になっていなければならない満了済み媒体ボリュームの数を指定してください。指定できる数は1-9999です。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、***MEDPCY**を指定しなければなりません。

[トップ](#)

ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP)

媒体ボリュームに複写マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に使用されるすべてのボリュームに複写マークが付けられます。保管が完了した後でその保管項目を複写するために、BRMSを使用した媒体の複写コマンドでVOL(*SEARCH)を使用することができます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKDUP(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の**複写用のマーク属性**の値を*NOにしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに***MEDPCY**を指定することはできません。

***NO** 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークは付けられません。

***YES** 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークが付けられます。

CTLGRPATR(*YES)を指定した場合には、***MEDPCY**を指定しなければなりません。

[トップ](#)

ヒストリーの複写マーク付け(MARKHST)

ヒストリー項目に複写マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に作成されるすべてのヒストリー項目に複写マークが付けられます。保管済み項目を複写するには、BRMを使用した媒体の複写コマンドでVOL(*SCHHST)を使用しなければなりません。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKHST(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内のヒストリーの複写マーク付け属性の値を*NOにしなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NO** 保管操作中に作成されるヒストリー項目には複写マークが付けられません。

***YES** 保管操作中に作成されるヒストリー項目に複写マークが付けられます。

トップ

パッケージID

この保管操作が一部となっているパッケージがこのジョブによって作成された新しいパッケージまたは前のパッケージ用のものであるかどうかを指定します。パッケージは、関連媒体ファイルのグループです。

このパラメーターによって、個別の保管操作を1つまたは複数の保管操作からの関連オブジェクトの1つのエンティティーに結び付けることができます。

***NEW** 保管操作では、パッケージに組み込まれる最初または唯一の媒体ファイルが書き込まれます。後続の保管操作は、*PRVSAV特殊値を使用して同じパッケージに組み込むことができます。

***PRVSAV**

前の保管操作のパッケージIDが使用されます。これにより、この保管操作からの媒体ファイル出力は先行の保管操作に関連していると見なすことができます（さらに先行の保管操作と一緒に回復されます）。この関連媒体ファイルのグループのことをBRMSパッケージといいます。

単一のパッケージで可能な媒体ファイルの最大数に達すると、新規パッケージが自動的に作成されます。

トップ

回復出口プログラム

オブジェクトの回復で呼び出される回復出口プログラムの名前およびライブラリーを指定します。

出口プログラムは、保管されるオブジェクトの復元の前および回復後に呼び出されます。

回復出口プログラムは、パッケージID (PKGID)パラメーターに*NEWが指定されている場合にのみ指定することができます。

回復の後処理のときには、出口プログラムが存在しなければなりません。

修飾子 1 : 回復出口プログラム

*NONE

現行パッケージに回復出口プログラムが割り当てられません。

回復出口プログラム

呼び出される回復出口プログラムの名前を指定してください。

修飾子 2 : ライブラリー

ライブラリー名

回復出口プログラムが存在するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

回復出口データ

保管される 1 つまたは複数のオブジェクトの回復で回復出口プログラムに渡されるユーザー定義データを指定します。

*NONE

回復出口プログラムに回復出口プログラム・データは渡されません。

回復出口プログラム・データ

回復出口プログラムに渡されるデータを指定してください。

トップ

例

例1: 統合ファイル・システム・オブジェクトの保管

```
SAVBRM DEV(*MEDCLS) MEDPCY(*SYSPCY)
```

このコマンドは、システム・ポリシーに指定された装置を使用して、すべての統合ファイル・システム・オブジェクトを保管します。

例2: 補助記憶域プール装置上の統合ファイル・システム・オブジェクトの保管

```
SAVBRM DEV(*MEDCLS) OBJ((' /DEV/PRIMETIME/*')) MEDPCY(*SYSPCY)
```

このコマンドは、システム・ポリシーに指定された装置を使用して、補助記憶域プール装置PRIMETIME中のすべての統合ファイル・システム・オブジェクトを保管します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用したDLOの保管 (SAVDLOBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した文書ライブラリー・オブジェクトの保管(SAVDLOBRM)コマンドによって、指定した文書、フォルダー、または配布オブジェクト（メール）のコピーを保管します。

注：

- フォルダーが保管される時には、フォルダー・オブジェクトは、そのフォルダーに入っている文書、サブフォルダーとサブフォルダー中の文書、および後続のすべてのネストされたフォルダーと文書、と一緒に保管されます。
- 個別ユーザーの配布オブジェクト（メール）は保管または復元することができません。メールは、すべてのユーザーの場合にだけ保管することができます。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- 装置(DEV)パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または*MEDCLS特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する*CHANGE権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリー中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する*USE権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. 文書ライブラリー・オブジェクト(DLO) パラメーターに*SEARCHが指定されている場合には、保管のタイプ(SAVTYPE)パラメーターに*CUMLまたは*INCRを指定しなければなりません。
2. 文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)パラメーターに*SEARCHが指定されている場合には、除外フォルダー(OMITFLR)パラメーターに*NONEを指定しなければなりません。
3. フォルダー(FLR)パラメーターに*ANYが指定されている場合には、文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)パラメーターに*ALLまたは*SEARCHを指定しなければなりません。
4. SAVDLOコマンドに対する権限が必要です。
5. このコマンドを使用するには、*ALLOBJまたは*SAVSYS 特殊権限が必要です。*ALLOBJまたは*SAVSYS特殊権限をもっていないユーザーは次の通りでなければなりません。
 - 保管する各文書またはフォルダーの*ALL権限をもっていること。
 - 文書交換アーキテクチャー(DIA)ユーザーとして登録されていること。

6. このコマンドは、SAVDLOコマンドの文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)パラメーターに見つかる *MAIL選択項目をサポートしません。
7. これらのコマンドによって内部オブジェクトの排他的使用が獲得されているので、別のジョブが RCLDLO, SAVDLO, SAVDLOBRM, RSTDLO,およびRSTDLOBRMなどのコマンドを実行中の時には、このコマンドを使用することができません。
8. 文書またはフォルダーの所有権の判別には、指定されたユーザー・プロファイルと関連している場合のグループ・プロファイルの検査が含まれていません。
9. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

このコマンドを使用してTIVOLI STORAGE MANAGER (TSM)サーバーにデータを保管することができます。データをTSMサーバーに保管するためには、次の条件を満たしていなければなりません。

- TSMサーバーには、ユーザー・データしか保管できません。BRMSでは、*IBMタイプのライブラリーをTSMサーバーには保管できません。またBRMSは、QGPL, QUSRBRM, QUSRSYS ライブラリーなど、ユーザー・データと考えられるIBM提供ライブラリーをTSM媒体に保管できません。
- 装置(DEV)パラメーターには、1つの装置しか指定することができず、またこの装置は、カテゴリ*NETまたは*APPCでなければなりません。
- 場所(LOC)パラメーターと一緒にDEV(*MEDCLS)を指定して、使用される*NETまたは*APPCカテゴリ装置を識別することができます。
- 媒体ポリシーが媒体クラス属性に*ADSM (TSMサーバー)の指定を使用している場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに媒体ポリシー名を指定することができます。そうでない場合には、MEDPCY(*NONE)を指定できますが、その場合には、媒体クラス(MEDCLS),移動ポリシー(MOVPCY),および保護ボリューム(VOLSEC)パラメーターに*ADSMを指定しなければなりません。
- 順序番号(SEQNBR)パラメーターは*ENDでなければなりません。
- 保管ファイルへの保管(SAVF), ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP), およびヒストリーの複写マーク付け(MARKHST)パラメーターは*NOでなければなりません。これらのパラメーターに*MEDPCYを指定した場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターで指定された媒体ポリシーの保管ファイルへの保管属性, ボリュームの複写マーク付け属性, およびヒストリーの複写マーク付け属性の各値は*NOとしなければなりません。
- 必要ボリューム数(MINVOL)パラメーターは、*NONEでなければなりません。SAVF(*MEDPCY)を指定した場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターで指定された媒体ポリシーの必要ボリューム数属性の値は*NONEでなければなりません。
- *SYNCLIBが活動時保管(SAVACT)パラメーターに指定されている場合には、各ライブラリーはグループとしてではなく個々に保管されます。したがって同期メッセージは、ライブラリーのグループごとではなくライブラリーごとに個別に送られ、同期は、ライブラリーをまたがらずに、1つのライブラリー内でのみ行われます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *ALL, *SEARCH	必須, 定位置 1

キーワード	記述	選択項目	注
FLR	フォルダー	単一値: <u>*ANY</u> , *NONE その他の値 (最大 100 回の繰り返し): 文字値	オプション、定位置 4
DEV	装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前, *MEDCLS	必須、定位置 2
MEDPCY	媒体ポリシー	名前, *NONE, *SYSPCY	必須、定位置 3
SAVACT	活動時保管	<u>*NO</u> , *YES	オプション
OBJDTL	オブジェクト明細の保存	<u>*NO</u> , *YES	オプション
CTLGRP	制御グループ	名前, <u>*NONE</u> , *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
SAVTYPE	保管のタイプ	<u>*FULL</u> , *CUMUL, *INCR	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
USEOPTBLK	最適ブロック・サイズの使用	<u>*BKUPCY</u> , *DEV, *NO, *YES	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, <u>*END</u>	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, <u>*CURRENT</u>	オプション
CLEAR	消去	<u>*NONE</u> , *AFTER, *ALL	オプション
DTACPR	データ圧縮	<u>*DEV</u> , *NO, *YES	オプション
COMPACT	データ短縮	<u>*DEV</u> , *NO	オプション
OMITFLR	フォルダーの除外	単一値: <u>*NONE</u> , *BKUPCY その他の値 (最大 100 回の繰り返し): 文字値	オプション
ASP	補助記憶域プール	文字値, <u>*ANY</u> , *SYSTEM	オプション
REFDATE	参照日	文字値, <u>*REF</u>	オプション
REFTIME	参照時刻	文字値, <u>*REF</u>	オプション
EXPDATE	満了日	日付, <u>*MEDPCY</u> , *PERM	オプション
MOVPCY	移動ポリシー	名前, <u>*MEDPCY</u> , *ADSM, *NONE	オプション
MEDCLS	媒体クラス	文字値, <u>*MEDPCY</u> , *ADSM, *SYSPCY	オプション
LOC	場所	名前, <u>*MEDPCY</u> , *ANY, *HOME	オプション
SAVF	保管ファイルへの保管	<u>*MEDPCY</u> , *NO, *YES	オプション
SAVFASP	保管ファイルASP	文字値, <u>*MEDPCY</u> , *SYSTEM	オプション
SAVFEXP	保管ファイルの保存	日付, <u>*MEDPCY</u> , *NONE, *PERM	オプション
MAXSTG	ASP記憶域限界	1-99, <u>*MEDPCY</u>	オプション
VOLSEC	ボリュームの保護	<u>*MEDPCY</u> , *ADSM, *NO, *YES	オプション
MINVOL	必要ボリューム数	1-9999, <u>*MEDPCY</u> , *NONE	オプション
MARKDUP	ボリュームの複写マーク付け	<u>*MEDPCY</u> , *NO, *YES	オプション
MARKHST	ヒストリーの複写マーク付け	<u>*MEDPCY</u> , *NO, *YES	オプション

トップ

文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)

保管する文書およびフォルダーを指定します。フォルダー全体を保管するためには、*ALLを指定しなければなりません。このパラメーターの他のすべての値は文書しか保管しません。

これは必須パラメーターです。

*SEARCH

指定された検索値に一致したすべての文書およびフォルダーが保管されます。検索値は次のパラメーターの使用によって指定されます。

- フォルダー(FLRパラメーター)
- 最終変更日(REFDATEパラメーター)
- 最終変更時刻(REFTIMEパラメーター)

***ALL** FLRパラメーターによってさらに修飾された、すべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。DLO(*ALL) FLR(*ANY)の指定により、すべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。

文書名 保管したい文書のユーザー割り当て名を指定してください。

トップ

フォルダー(FLR)

文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)パラメーターで指定されたオブジェクトが入っているフォルダーまたは総称フォルダー名を指定します。

単一値

***ANY** 文書ライブラリー・オブジェクトを任意のフォルダーから保管することができます。FLRパラメーターを使用する時には、次のことを考慮してください。

- DLO (文書名) が指定されている時にFLR(*ANY)は正しくありません。
- SAVDLOBRM DLO(*ALL) FLR(*ANY)を指定した時には、次のものが保管されます。
 - すべての文書
 - すべてのフォルダー
 - すべての配布オブジェクト (メール)

*NONE

保管済み文書はフォルダー内にありません。FLR(*NONE)は、DLO(*ALL)が指定されている時にしか正しくありません。

その他の値 (反復は最大100回まで)

総称*フォルダー名

総称名を指定してください。総称名とは、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が続いた文字列です。たとえば、ABC*などです。アスタリスク(*)は任意の有効な文字の代用です。総称名は総称接頭部で始まる名前をもつすべてのフォルダー (これに対してユーザーが権限をもっている) を指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なフォルダー名と見なします。

フォルダー名

保管したいフォルダーの名前を指定してください。

注: 名前の一部として大文字および小文字のあるフォルダー名は、単一引用符で囲む必要があります。

以下は 2, 3 の例:

フォルダー名	SAVDLOBRMの項目
F o l d e r	' F o l d e r ' (半角で)
FOLDER	FOLDER
FOLDER/SUBFOLDER	FOLDER/SUBFOLDER

トップ

装置(DEV)

このコマンドで使用される1つ以上の装置を指定します。

単一値

*MEDCLS

このコマンドの装置が、媒体ポリシーに指定された媒体クラスの密度をサポートする装置タイプに基づいて選択されます。*MEDCLS特殊値は、装置プールの一部である装置、すなわち、いくつかのシステムが1つまたは1セットの装置を共有しているような場合の装置に使用されます。装置は「装置の処理」画面で指定されています。

注: 逐次保管操作に複数の装置を使用したい場合には、使用される各装置ごとに一度ずつ*MEDCLSを4回まで繰り返し使用することができますが、単一値に制限されている仮想テープ装置は例外です。

その他の値（反復は最大4回まで）

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、すでにBRMS装置テーブルの中になければなりません。

このコマンドを使用してTSM (ADSM)サーバーにデータを保管することができます。装置のリストの中からTSMタイプのサーバーを1つだけ指定するか、あるいは*MEDCLS (TSMサーバーを選択していなければならない) を指定することができます。装置タイプは*APPC (SNAネットワーク・プロトコルをサポートする)、または*NET (TCPIP プロトコルをサポートする) のいずれかとすることができます。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。入力画面が表示されていて、これらの複数個の値を入力するために追加の入力フィールドが必要である場合には、「値の続きは+」の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

単一値

*MEDCLS

媒体ポリシーに指定された媒体クラスをサポートする任意の装置をこの保管操作に使用することができます。

その他の値

*NONE

この保管操作の装置はありません。保管データを記憶するために保管ファイルが使用されます。

装置名 保管操作に使用する1つ以上の装置の名前を指定してください。複数の装置（最大4台まで）を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。

注: 媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を1つだけ指定することができます。

トップ

媒体ポリシー(MEDPCY)

この保管コマンドで使用したい媒体ポリシーを指定します。

媒体ポリシーは、次のことを決定するために使用されます。

- 制御グループの処理で使用される媒体に使用する保存のタイプ（日数、日付、またはバージョンなど）。
- この媒体ポリシーで使用する移動ポリシー。
- 使用する媒体クラス。
- 保管ファイルを使用するかどうか。
- 制御グループの処理で作成された保管ファイルに使用する保存のタイプ、すなわち日数または日付。

指定する媒体ポリシーは、BRMS媒体ポリシー・テーブルの中にある媒体ポリシーでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

*SYSPCY

システム・ポリシーで指定された媒体ポリシーが、この保管操作からの出力ボリュームに割り当てられます。

*NONE

この保管操作には媒体ポリシーは指定されません。媒体ポリシーの値は、省略時の値***MEDPCY**をもつ各パラメーターごとに保管コマンドで提供しなければなりません。

注: ***NONE**を指定して、データをTSM (ADSM)サーバーに保管する場合には、この保管操作の媒体ポリシーの値の一部である**MOVPCY**、**MEDCLS**、および**VOLSEC**パラメーターに***ADSM**特殊値を指定しなければなりません。省略時の値として***MEDPCY**が指定されている残りのパラメーターに対しては、これまで通り追加の媒体ポリシー値を指定しなければなりません。TSM管理クラス**STANDARD**およびTSMノード***LCL**が保管操作の省略時の値として使用されます。

媒体ポリシー

この保管操作で使用したい媒体ポリシーの名前を指定してください。

[トップ](#)

活動時保管(SAVACT)

保管中にオブジェクトを更新できるかどうかを指定します。

***NO** 使用中の文書ライブラリー・オブジェクトは保管されません。文書ライブラリー・オブジェクトは、使用中に更新することはできません。

***YES** 文書ライブラリー・オブジェクトは、保管要求時に変更することができます。使用中であるが、適用業務回復を使用していないオブジェクトは、保管されません。DLO、使用中のオブジェクトの保管、および適用業務回復の詳細については、「バックアップおよび回復の手引き」を参照してください。

[トップ](#)

オブジェクト明細の保存(OBJDTL)

保管済み文書についてのオブジェクト明細をBRMSデータベースに保存するかどうかを指定します。

***NO** オブジェクト明細は保管しません。

***YES** オブジェクト明細を保管します。

トップ

制御グループ(CTLGRP)

このコマンドで保管されたオブジェクトと関連づけたい制御グループの名前を指定します。制御グループ名は媒体情報と一緒に保管されます。そして、BRMSコマンド上以外の**制御グループ(CTLGRP)**パラメーターを使用して、制御グループ別に媒体情報のフィルター操作または保管済みオブジェクトの回復をすることができます。

注: 保管には制御グループの属性は使用されません。

保管する項目に対してバージョン制御を使用する場合には、この保管操作は、指定されたバージョン制御の一部として記録されます。バージョン制御は、この制御グループに関連した媒体ポリシーの中に指定されており、「媒体ポリシーの処理」画面を使用して検討することができます。

***NONE**

このコマンドに制御グループ名を指定しない。

***ARCGRP**

省略時の保存制御グループの名前。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKUGRP**

省略時のバックアップ制御グループの名前がすべてのユーザー・データの保管に使用されます。

***SYSGRP**

省略時のシステム制御グループの名前がすべてのシステム・データの保管に使用されます。

***SYSTEM**

省略時のシステム制御グループの名前が全システムの保管に使用されます。

制御グループ名

保管している項目に割り当てる制御グループの名前を指定します。

トップ

保管のタイプ(SAVTYPE)

保管のタイプ・パラメーターによって、フォルダー中のすべての文書を保管するか、あるいは変更された文書だけを保管するかを指定することができます。

***FULL**

すべての文書ライブラリー・オブジェクトを保管してください。

***CUML**

変更された文書だけが保管されるようにします。*CUMLは、増分保管に、最後の全保管以降に作成または変更されたすべての文書と作成されたすべてのフォルダー、およびすべてのメールが含まれることを指示します。

*INCR

変更された文書だけが保管されるようにします。*INCRは、増分保管に、最後の増分保管以降に作成または変更されたすべての文書と作成されたすべてのフォルダー、およびすべてのメールが含まれることを指示します。

トップ

テープの終わりオプション(ENDOPT)

テープの使用時に、保管操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に行われるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

注: オブジェクトが保管されない場合には、ボリュームはオープンされず、ENDOPTパラメーターは無視されます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

*REWIND

ボリュームは巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

保管操作の終了後、ボリュームは自動的に巻き戻され、アンロードされます。

トップ

最適ブロック・サイズの使用(USEOPTBLK)

保管操作に最適ブロック・サイズが使用されるかどうかを指定します。

*BKUPCY

バックアップ・ポリシーからの値を**最適ブロック・サイズの使用**パラメーターに使用します。

*DEV 「装置の処理」画面に指定された値を**最適ブロック・サイズの使用**パラメーターに使用します。

*NO 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドには、すべての装置タイプによってサポートされている省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープの複写(DUPTAP)コマンドまたはBRMを使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)コマンドを使用して、任意の媒体形式に複写することができます。

*YES 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用されるブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされているブロック・サイズより大きい場合には、次のようになります。

- パフォーマンスが改善されることがあります。

- 作成されたテープ・ファイルには、使用されたブロック・サイズをサポートする装置とだけ互換性があります。ファイルが使用されたのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製されていない限り、テープの複製(DUPTAP)およびBRMを使用した媒体の複製(DUPMEDBRM)などのコマンドではファイルは複製されません。
- データ圧縮(DTACPR)パラメーターの値は無視されます。

トップ

順序番号(SEQNBR)

テープを使用するときに、保管操作に使用される順序を指定します。満了したBRMSボリュームに保管する場合には、*ENDを指定してあっても、BRMSは、そのボリュームの始めから情報の書き込みを始めます。BRMSボリュームに保管しようとしている場合には、BRMSは、使用している出力装置によって、出力ボリュームの論理的な終わり（最後の活動ファイルの終わりの後）から始まるように出力を送ります。たとえば、3490装置はどの順序番号にも書き込むことができますが、6525装置は順序番号1または*ENDにしか書き込むことができません。

***END** 保管操作はボリューム上の最後の活動ファイルの順序番号の後から開始されます。

ファイル順序番号 (1-16,777,215)

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

トップ

ターゲット・リリース(TGTRLS)

保管されているオブジェクトを復元したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

*CURRENT

オブジェクトは、現在のシステムで実行中のオペレーティング・システムと同じリリースを実行するシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合の*CURRENTは、オブジェクトをV5R2M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、そのオペレーティング・システムの後続リリースが導入されているシステムでも復元することができます。

***PRV** オブジェクトは、モディフィケーション・レベル0の前のオペレーティング・システムのリリースで実行されるシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合の*PRVは、オブジェクトをV5R1M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、これより後のリリースのオペレーティング・システムが導入されているシステムでも復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

ターゲット・リリース

リリースはVXRXMXの形式で指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R2M0はバージョン5、リリース2、モディフィケーション・レベル0です。

オブジェクトは、指定されたリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

有効な値は現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変更されます。このコマンドでサポートされている最も古いリリース・レベルよりさらに古いリリース・レベルを指定した場合には、サポートされる最も古いリリースを示したエラー・メッセージが出されます。

トップ

消去(CLEAR)

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルが自動的に消去されるかどうかを指定します。

***NONE**

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルは、自動的に消去されることはありません。まだ消去されていないボリュームが見つかったために保管操作を続行できない場合には、操作員に照会メッセージが送られ、保管操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して保管操作を続行できるように指定することができます。

保管ファイルが消去されていない場合には、照会メッセージが対話式ジョブであればワークステーション・メッセージ待ち行列に送られ、バッチ・ジョブであれば操作員に送られます。保管コマンドを出す前に、保管操作の実行に使用するすべてのボリュームを消去するか、あるいは保管ファイルを空にする必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての未消去のボリュームが自動的に消去されます。保管ファイルへの保管または復元操作の場合には、このオプションは無効です。最初のボリュームが消去されていないために操作を続行できない場合には、照会メッセージがシステム操作員に送られ、システム操作員は操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して操作を続行できるように指定することができます。

***ALL** 保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルはすべて自動的に消去されます。テープが使用され、順序番号が指定されている場合には、そのボリュームが消去され、さらにその順序番号で始まって、最初のボリュームの後にあるすべてのボリュームが消去されます。

トップ

データ圧縮(DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

***DEV** 装置にハードウェア圧縮機能が導入されている場合には、処理はDTACPR(*YES)が指定されたものとして続行されます。圧縮機能が導入されていない場合、あるいは保管データが保管ファイルに書き出される場合には、処理はDTACPR(*NO)が指定されたものとして続行されます。

注: データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** 保管がテープに対して行われ、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェア圧縮が実行されます。装置圧縮がサポートされていない場合、あるいは保管データが保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。システムで他のジョブが活動状態の時に保管が実行され、ソフトウェア圧縮が使用された場合には、システム全体のパフォーマンスに影響が出ることがあります。

[トップ](#)

データ短縮(COMPACT)

データ短縮が行われるかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置(DEV)パラメーターに指定されたすべての装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が行われます。

注: データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** データ短縮は行われません。

[トップ](#)

フォルダーの省略(OMITFLR)

保管操作から除外する1つまたは複数のフォルダーの名前、またはフォルダーの各グループの総称名を指定します。

単一値

***NONE**

フォルダーは保管操作から除外されません。

その他の値 (反復は最大100回まで)

***BKUPCY**

除外されるフォルダーはバックアップ・ポリシーに指定されます。

総称*フォルダー名

総称名を指定してください。総称名とは、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が続いた文字列です。たとえば、ABC*などです。アスタリスク(*)は任意の有効な文字の代用です。総称名は総称接頭部で始まる名前をもつすべてのフォルダー (これに対してユーザーが権限をもっている) を指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なフォルダー名と見なします。

フォルダー名

この保管操作から除外したいフォルダーの名前を指定してください。

トップ

補助記憶域プール(ASP)

保管される文書ライブラリー・オブジェクトのシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールを指定します。

***ANY** 保管される文書はシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールに常駐しています。DLOパラメーターに*ALL が指定されている場合には、システム上のすべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。

***SYSTEM**

保管される文書はシステム(1)補助記憶域プールに常駐しています。基本ユーザー補助記憶域プール(2-32)の文書ライブラリー・オブジェクトはすべて無視されます。

補助記憶域プール名

オブジェクトを保管したいシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールの名前を指定します。その他の補助記憶域プールの文書ライブラリー・オブジェクトはすべて無視されます。

補助記憶域プール番号

オブジェクトを保管したいシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールの番号を指定します。その他の補助記憶域プールの文書ライブラリー・オブジェクトはすべて無視されます。指定する番号は、文書ライブラリー・オブジェクトが入っている既存の補助記憶域プールを示していなければなりません。

注: UDFS, 1次, および2次補助記憶域プールの場合には、文書ライブラリー・オブジェクトはサポートされません。

トップ

参照日(REFDATE)

BRMSの制御のもとで実行される増分保管（変更されたオブジェクトの保管）とともに機能します。

***REF** この増分保管の開始点として、この保管操作の最後の全BRMS保管の日付を使用します。

参照日付

この増分保管の開始点として使用するこの保管操作の日付を指定してください。

トップ

参照時刻(REFTIME)

BRMSの制御のもとで実行される増分保管（変更されたオブジェクトの保管）とともに機能します。

***REF** この増分保管の開始点として、この保管操作の最後の全BRMS保管の時刻を使用します。

参照時刻

この増分保管の開始点として使用するこの保管操作の時刻を時、分、秒(HHMMSS)の形式で指定してください。

満了日(EXPDATE)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい満了を指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*PERM

この保管操作からの出力ボリュームは永続的に有効となります。

満了日 この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる有効期限を日付区切り記号の有無にかかわらず指定してください。

移動ポリシー(MOVPCY)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい移動ポリシーを指定します。

実行しようとするこの保管操作がデータをカテゴリ*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、媒体の使用を制御するのはこの場合、BRMSではなく、TSMサーバーであるので、MOVPCYパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー) を指定しなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*ADSM

媒体移動はTSMサーバーの仕様によって制御されます。

*NONE

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームと関連づけられる移動ポリシーはありません。

移動ポリシー

この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる移動ポリシーを指定してください。

媒体クラス(MEDCLS)

この保管操作で使用される出力ボリュームを選択するために使用したい媒体クラスを指定します。

実行しようとするこの保管操作がデータをカテゴリー*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、媒体の使用を制御するのはこの場合、TSMサーバーであって、BRMSでないので、MEDCLSパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー) を指定しなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ADSM**

保管操作では、TSMサーバーの仕様によって選択および制御される媒体が使用されます。

***NONE**

この保管操作に選択された出力ボリュームと関連づけられる媒体クラスはありません。

***SYSPCY**

この保管操作の出力ボリュームを選択するために、システム・ポリシーの中の媒体クラスの値が使用されます。

媒体クラス

この保管操作の出力ボリュームを選択するのに使用する媒体クラスを指定してください。

[トップ](#)

場所(LOC)

この保管操作で使用される出力ボリュームの選択に使用したい場所を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ANY** 任意の場所からのボリュームがこの保管操作出力ボリュームとして選択されます。

***HOME**

ホーム場所からのボリュームがこの保管操作の出力ボリュームとして選択されます。

場所 ボリュームがこの保管操作の出力ボリュームとして選択される場所を指定してください。

[トップ](#)

保管ファイルへの保管(SAVF)

この保管操作からの出力が保管ファイルに保管されるかどうかを指定します。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。SAVF(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシーの中の保管ファイルへの保管フィールド**の値を*NOとしなければなりません。**

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NO** この保管操作からの出力は保管ファイルに保管されません。

***YES** この保管操作からの出力は保管ファイルに保管されます。

[トップ](#)

保管ファイルASP (SAVFASP)

この保管操作の結果として保管ファイルが作成される対象のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールを指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***SYSTEM**

保管ファイルはシステム(1)補助記憶域プールに保管されます。

保管ファイルASP名

保管ファイルの保管先の補助記憶域プールの名前を指定します。

保管ファイルASP番号

保管操作の結果として保管ファイルが作成される対象のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プール番号を指定します。

注: このパラメーターの場合には、UDFS, 1次, および2次補助記憶域プールはサポートされません。

[トップ](#)

保管ファイルの保存(SAVFEXP)

この保管操作の結果として作成される保管ファイルの保存期間を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NONE**

保管操作から生成された保管ファイルは保持されません。

***PERM**

保管操作から生成された保管ファイルは永続的に保持されます。

満了日 この保管操作から作成された保管ファイルの保持期間を示す日付を指定してください。

トップ

ASP記憶域限界(MAXSTG)

保管操作中に受け入れ可能な補助記憶域プール(ASP)の最大使用パーセントを指定します。たとえば、入力が90の場合には、補助記憶域プールの使用率が90%を超えるまで保管処理が続けられることを意味します。この上限に達すると、保管処理が停止されて、BRMSログにメッセージが送られます。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

記憶域限界

最大補助記憶域プール使用率限界を指定します。

トップ

ボリュームの保護(VOLSEC)

この媒体クラスのボリュームにボリューム保護を適用するかどうかを指定します。保護されているボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

実行しようとする保管操作がデータをカテゴリー*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、ボリューム保護を制御するのはこの場合、TSMサーバーであって、BRMSでないので、VOLSECパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー)を指定しなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ADSM**

ボリューム保護はTSMサーバーの仕様によって制御されます。

***NO** この媒体クラスにはボリューム保護は適用されていません。ボリューム保護のないボリュームは、誰でも読み取ることができます。

***YES** この媒体クラスの媒体ボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

トップ

必要ボリューム数(MINVOL)

この媒体ポリシーを使用して保管を行う前に、必要な満了済みボリュームの最小数を指定します。この値は、BRM満了済み媒体の検査(CHKEXPBRM)コマンドを使用したユーザー・ジョブによって調べることができます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NONEを指定しなければなりません。MINVOL(*MEDPCY) を指定した場合には、参照される媒体ポリシーの中の**必要ボリューム数**・フィールドの値を*NONEとしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに***MEDPCY**を指定することはできません。

*NONE

保管操作が開始される前に、必要なボリュームの最小数を調べる検査は行われません。

ボリュームの数

BRMS保管操作が開始される前に、使用可能になっていなければならない満了済み媒体ボリュームの数を指定してください。指定できる数は1-9999です。

[トップ](#)

ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP)

媒体ボリュームに複写マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に使用されるすべてのボリュームに複写マークが付けられます。保管が完了した後でその保管項目を複写するために、BRMSを使用した媒体の複写コマンドでVOL(*SEARCH)を使用することができます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKDUP(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の**複写用のマーク属性**の値を*NOにしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに***MEDPCY**を指定することはできません。

*NO 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークは付けられません。

*YES 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークが付けられます。

[トップ](#)

履歴の複製マーク付け(MARKHST)

履歴項目に複製マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に作成されるすべての履歴項目に複製マークが付けられます。保管済み項目を複製するには、BRMを使用した媒体の複製コマンドでVOL(*SCHHST)を使用しなければなりません。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKHST(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の履歴の複製マーク付け属性の値を*NOにしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NO 保管操作中に作成される履歴項目には複製マークが付けられません。

*YES 保管操作中に作成される履歴項目に複製マークが付けられます。

トップ

例

例1: すべてのDLOの保管の実行

```
SAVDLOBRM DLO(*ALL) FLR(*ANY) DEV(TAP01) MEDPCY(FULL)
```

このコマンドは、媒体ポリシーFULLを使用して、すべてのフォルダー、文書、およびメールを装置TAP01に保管します。

例2: 特定日付の後で変更されたオブジェクトの保管

```
SAVDLOBRM DLO(*SEARCH) DEV(TAP01) MEDPCY(FULL) REFDATE('1/1/03')
```

このコマンドは、03/1/1以後に変更されたすべての文書を装置TAP01に保管します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM使用のフォルダー・リストの保管 (SAVFLRLBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したフォルダー・リストの保管(SAVFLRLBRM)コマンドは、バックアップまたは保存フォルダー・リストを保管します。フォルダー・リストは、ユーザー定義のリスト名に組み込むよう選択したフォルダーのグループです。各種パラメーターが、BRMSに対してフォルダー・リスト保管処理をより詳しく定義するために使用されます。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- 装置(DEV)パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または*MEDCLS特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する*CHANGE権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリー中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する*USE権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、SAVDLOコマンドに対する権限が必要です。
2. このコマンドを使用するには、*ALLOBJまたは*SAVSYS 特殊権限が必要です。*ALLOBJまたは*SAVSYS特殊権限をもっていないユーザーは次の通りでなければなりません。
 - 保管する文書およびフォルダーに対する*ALL権限を持っていること。
 - 文書交換アーキテクチャー(DIA)ユーザーとして登録されていること。
3. これらのコマンドによって内部オブジェクトの排他的使用が獲得されているので、別のジョブがRCLDLO, SAVDLO, SAVDLOBRM, RSTDLO,およびRSTDLOBRMなどのコマンドを実行中の時には、このコマンドを使用することができません。
4. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

このコマンドを使用してTIVOLI STORAGE MANAGER (TSM)サーバーにデータを保管することができます。データをTSMサーバーに保管するためには、次の条件を満たしていなければなりません。

- TSMサーバーには、ユーザー・データしか保管できません。BRMSでは、*IBMタイプのライブラリーをTSMサーバーには保管できません。またBRMSは、QGPL, QUSRBRM, QUSRSYS ライブラリーなど、ユーザー・データと考えられるIBM提供ライブラリーをTSM媒体に保管できません。
- 装置(DEV)パラメーターには、1つの装置しか指定することができず、またこの装置は、カテゴリ*NETまたは*APPCでなければなりません。

- 場所(LOC)パラメーターと一緒にDEV(*MEDCLS)を指定して、使用される*NETまたは*APPCカテゴリ装置を識別することができます。
- 媒体ポリシーが媒体クラス属性に*ADSM (TSMサーバー) の指定を使用している場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに媒体ポリシー名を指定することができます。そうでない場合には、MEDPCY(*NONE)を指定できますが、その場合には、媒体クラス(MEDCLS)、移動ポリシー(MOVPCY)、および保護ボリューム(VOLSEC)パラメーターに*ADSMを指定しなければなりません。
- 順序番号(SEQNBR)パラメーターは*ENDでなければなりません。
- 保管ファイルへの保管(SAVF)、ボリュームの複製マーク付け(MARKDUP)、およびヒストリーの複製マーク付け(MARKHST)パラメーターは*NOでなければなりません。これらのパラメーターに*MEDPCYを指定した場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターで指定された媒体ポリシーの保管ファイルへの保管属性、ボリュームの複製マーク付け属性、およびヒストリーの複製マーク付け属性の各値は*NOとしなければなりません。
- 必要ボリューム数(MINVOL)パラメーターは、*NONEでなければなりません。SAVF(*MEDPCY)を指定した場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターで指定された媒体ポリシーの必要ボリューム数属性の値は*NONEでなければなりません。
- *SYNCLIBが活動時保管(SAVACT)パラメーターに指定されている場合には、各ライブラリーはグループとしてではなく個々に保管されます。したがって同期メッセージは、ライブラリーのグループごとではなくライブラリーごとに個別に送られ、同期は、ライブラリーをまたがらずに、1つのライブラリー内でのみ行われます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FLRL	フォルダー・リスト	名前	必須, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前, *MEDCLS	必須, 定位置 2
MEDPCY	媒体ポリシー	名前, *NONE, *SYSPCY	必須, 定位置 3
SAVACT	活動時保管	<u>*NO</u> , *YES	オプション
OBJDTL	DLO明細の保存	<u>*NO</u> , *YES	オプション
CTLGRP	制御グループ	名前, *NONE, *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
SAVTYPE	保管のタイプ	<u>*FULL</u> , *CUML, *INCR	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
USEOPTBLK	最適ブロック・サイズの使用	<u>*BKUPCY</u> , *DEV, *NO, *YES	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, <u>*END</u>	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, <u>*CURRENT</u>	オプション
CLEAR	消去	<u>*NONE</u> , *AFTER, *ALL	オプション
DTACPR	データ圧縮	<u>*DEV</u> , *NO, *YES	オプション
COMPACT	データ短縮	<u>*DEV</u> , *NO	オプション
REFDATE	参照日	文字値, <u>*REF</u>	オプション
REFTIME	参照時刻	文字値, <u>*REF</u>	オプション
EXPDATE	満了日	日付, <u>*MEDPCY</u> , *PERM	オプション
MOVPCY	移動ポリシー	名前, <u>*MEDPCY</u> , *ADSM, *NONE	オプション
MEDCLS	媒体クラス	文字値, <u>*MEDPCY</u> , *ADSM, *SYSPCY	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
LOC	場所	名前, *MEDPCY, *ANY, *HOME	オプション
SAVF	保管ファイルへの保管	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション
SAVFASP	保管ファイルASP	文字値, *MEDPCY, *SYSTEM	オプション
SAVFEXP	保管ファイルの保存	日付, *MEDPCY, *NONE, *PERM	オプション
MAXSTG	ASP記憶域限界	1-99, *MEDPCY	オプション
VOLSEC	ボリュームの保護	*MEDPCY, *ADSM, *NO, *YES	オプション
MINVOL	必要ボリューム数	1-9999, *MEDPCY, *NONE	オプション
MARKDUP	ボリュームの複写マーク付け	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション
MARKHST	履歴の複写マーク付け	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション

トップ

フォルダー・リスト(FLRL)

保管したいフォルダー・リストの名前を指定します。リストは、一緒に保管したいフォルダーのグループです。リストは、BRMを使用したリストの処理(WRKLBRM)コマンドを使用して追加、変更、または表示されます。

これは必須パラメーターです。

トップ

装置(DEV)

*MEDCLS

このコマンドの装置が、媒体ポリシーに指定された媒体クラスの密度をサポートする装置タイプに基づいて選択されます。*MEDCLS特殊値は、装置プールの一部である装置、すなわち、いくつかのシステムが1つまたは1セットの装置を共用しているような場合の装置に使用されます。装置は「装置の処理」画面で指定されています。

注: 逐次保管操作に複数の装置を使用したい場合には、使用される各装置ごとに一度ずつ*MEDCLSを4回まで繰り返し使用することができますが、単一値に制限されている仮想テープ装置は例外です。

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、すでにBRMS装置テーブルの中になければなりません。

このコマンドを使用してTSM (ADSM)サーバーにデータを保管することができます。装置のリストの中からTSMタイプのサーバーを1つだけ指定するか、あるいは*MEDCLS (TSMサーバーを選択していなければならない) を指定することができます。装置タイプは*APPC (SNAネットワーク・プロトコルをサポートする)、または*NET (TCPIP プロトコルをサポートする) のいずれかとすることができます。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。入力画面が表示されていて、これらの複数個の値を入力するために追加の入力フィールドが必要である場合には、「値の続きは+」の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

単一値

*MEDCLS

媒体ポリシーに指定された媒体クラスをサポートする任意の装置をこの保管操作に使用することができます。

その他の値

*NONE

この保管操作の装置はありません。保管データを記憶するために保管ファイルが使用されます。

装置名 保管操作に使用する1つ以上の装置の名前を指定してください。複数の装置（最大4台まで）を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。

注: 媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を1つだけ指定することができます。

[トップ](#)

媒体ポリシー(MEDPCY)

この保管コマンドで使用したい媒体ポリシーを指定します。

媒体ポリシーは、次のことを決定するために使用されます。

- 制御グループの処理で使用される媒体に使用する保存のタイプ（日数、日付、またはバージョンなど）。
- この媒体ポリシーで使用する移動ポリシー。
- 使用する媒体クラス。
- 保管ファイルを使用するかどうか。
- 制御グループの処理で作成された保管ファイルに使用する保存のタイプ、すなわち日数または日付。

指定する媒体ポリシーは、BRMS媒体ポリシー・テーブルの中にある媒体ポリシーでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

*SYSPCY

システム・ポリシーで指定された媒体ポリシーが、この保管操作からの出力ボリュームに割り当てられます。

*NONE

この保管操作には媒体ポリシーは指定されません。媒体ポリシーの値は、省略時の値*MEDPCYをもつ各パラメーターごとに保管コマンドで提供しなければなりません。

注: *NONEを指定して、データをTSM (ADSM)サーバーに保管する場合には、この保管操作の媒体ポリシーの値の一部であるMOVPCY、MEDCLS、およびVOLSECパラメーターに*ADSM特殊値を指定しなければなりません。省略時の値として*MEDPCYが指定されている残りのパラメーターに対しては、これまで通り追加の媒体ポリシー値を指定しなければなりません。TSM管理クラスSTANDARDおよびTSMノード*LCLが保管操作の省略時の値として使用されます。

媒体ポリシー

この保管操作で使用したい媒体ポリシーの名前を指定してください。

[トップ](#)

活動時保管(SAVACT)

保管中にオブジェクトを更新できるかどうかを指定します。

- *NO** 使用中の文書ライブラリー・オブジェクトは保管されません。文書ライブラリー・オブジェクトは、使用中に更新することはできません。
- *YES** 文書ライブラリー・オブジェクトは、保管要求時に変更することができます。使用中であるが、適用業務回復を使用していないオブジェクトは、保管されません。DLO、使用中のオブジェクトの保管、および適用業務回復の詳細については、「バックアップおよび回復の手引き」を参照してください。

トップ

DLO明細の保存(OBJDTL)

文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)明細を、保管されたDLOのBRMSデータベースで保持するかどうかを指定することができます。

- *NO** DLO明細はBRMSバックアップ・ヒストリーに保持されません。
- *YES** DLO明細はBRMSバックアップ・ヒストリーに保持されます。

トップ

制御グループ(CTLGRP)

このコマンドで保管されたオブジェクトと関連づけたい制御グループの名前を指定します。制御グループ名は媒体情報と一緒に保管されます。そして、BRMSコマンド上以外の**制御グループ(CTLGRP)**パラメーターを使用して、制御グループ別に媒体情報のフィルター操作または保管済みオブジェクトの回復をすることができます。

注: 保管には制御グループの属性は使用されません。

保管する項目に対してバージョン制御を使用する場合には、この保管操作は、指定されたバージョン制御の一部として記録されます。バージョン制御は、この制御グループに関連した媒体ポリシーの中に指定されており、「媒体ポリシーの処理」画面を使用して検討することができます。

***NONE**
このコマンドに制御グループ名を指定しない。

***ARCGRP**
省略時の保存制御グループの名前。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKUGRP**
省略時のバックアップ制御グループの名前がすべてのユーザー・データの保管に使用されます。

***SYSGRP**
省略時のシステム制御グループの名前がすべてのシステム・データの保管に使用されます。

***SYSTEM**
省略時のシステム制御グループの名前が全システムの保管に使用されます。

制御グループ名

保管している項目に割り当てる制御グループの名前を指定します。

[トップ](#)

保管のタイプ(SAVTYPE)

保管のタイプ・パラメーターによって、フォルダー中のすべての文書を保管するか、あるいは変更された文書だけを保管するかを指定することができます。

***FULL**

リスト中のすべての文書を保管します。

***CUML**

最後の全保管以降に変更された文書だけを保管します。*CUMLは、増分保管に、最後の全保管以降に作成または変更されたすべての文書と作成されたすべてのフォルダー、およびすべてのメールが含まれることを指示します。

***INCR**

変更された文書だけが保管されるようにします。*INCRは、増分保管に、最後の増分保管以降に作成または変更されたすべての文書と作成されたすべてのフォルダー、およびすべてのメールが含まれることを指示します。

[トップ](#)

テープの終わりオプション(ENDOPT)

テープの使用時に、保管操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に行われるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

注: オブジェクトが保管されない場合には、ボリュームはオープンされず、ENDOPTパラメーターは無視されます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

***REWIND**

ボリュームは巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

保管操作の終了後、ボリュームは自動的に巻き戻され、アンロードされます。

[トップ](#)

最適ブロック・サイズの使用(USEOPTBLK)

保管操作に最適ブロック・サイズが使用されるかどうかを指定します。

*BKUPCY

バックアップ・ポリシーからの値を最適ブロック・サイズの使用パラメーターに使用します。

***DEV** 「装置の処理」画面に指定された値を最適ブロック・サイズの使用パラメーターに使用します。

***NO** 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドには、すべての装置タイプによってサポートされている省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープの複写(DUPTAP)コマンドまたはBRMを使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)コマンドを使用して、任意の媒体形式に複写することができます。

***YES** 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用されるブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされているブロック・サイズより大きい場合には、次のようになります。

- パフォーマンスが改善されることがあります。
- 作成されたテープ・ファイルには、使用されたブロック・サイズをサポートする装置とだけ互換性があります。ファイルが使用されたのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複写されていない限り、テープの複写(DUPTAP)およびBRMを使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)などのコマンドではファイルは複写されません。
- データ圧縮(DTACPR)パラメーターの値は無視されます。

トップ

順序番号(SEQNBR)

テープを使用するときに、保管操作に使用される順序を指定します。満了したBRMSボリュームに保管する場合には、*ENDを指定してあっても、BRMSは、そのボリュームの始めから情報の書き込みを始めます。BRMSボリュームに保管しようとしている場合には、BRMSは、使用している出力装置によって、出力ボリュームの論理的な終わり（最後の活動ファイルの終わりの後）から始まるように出力を送ります。たとえば、3490装置はどの順序番号にも書き込むことができますが、6525装置は順序番号1または*ENDにしか書き込むことができません。

***END** 保管操作はボリューム上の最後の活動ファイルの順序番号の後から開始されます。

ファイル順序番号 (1-16,777,215)

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

トップ

ターゲット・リリース(TGTRLS)

保管されているオブジェクトを復元したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

*CURRENT

オブジェクトは、現在のシステムで実行中のオペレーティング・システムと同じリリースを実行するシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合の*CURRENTは、オブジェクトをV5R2M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、そのオペレーティング・システムの後続リリースが導入されているシステムでも復元することができます。

PRV** オブジェクトは、モディフィケーション・レベル0の前のオペレーティング・システムのリリースで実行されるシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合のPRV**は、オブジェクトをV5R1M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、これより後のリリースのオペレーティング・システムが導入されているシステムでも復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

ターゲット・リリース

リリースはVXRXXMXの形式で指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R2M0はバージョン5、リリース2、モディフィケーション・レベル0です。

オブジェクトは、指定されたリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

有効な値は現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変更されます。このコマンドでサポートされている最も古いリリース・レベルよりさらに古いリリース・レベルを指定した場合には、サポートされる最も古いリリースを示したエラー・メッセージが出されます。

トップ

消去(CLEAR)

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルが自動的に消去されるかどうかを指定します。

***NONE**

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルは、自動的に消去されることはありません。まだ消去されていないボリュームが見つかったために保管操作を続行できない場合には、操作員に照会メッセージが送られ、保管操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して保管操作を続行できるように指定することができます。

保管ファイルが消去されていない場合には、照会メッセージが対話式ジョブであればワークステーション・メッセージ待ち行列に送られ、バッチ・ジョブであれば操作員に送られます。保管コマンドを出す前に、保管操作の実行に使用するすべてのボリュームを消去するか、あるいは保管ファイルを空にする必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての未消去のボリュームが自動的に消去されます。保管ファイルへの保管または復元操作の場合には、このオプションは無効です。最初のボリュームが消去されていないために操作を続行できない場合には、照会メッセージがシステム操作員に送られ、システム操作員は操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して操作を続行できるように指定することができます。

***ALL** 保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルはすべて自動的に消去されます。テープが使用され、順序番号が指定されている場合には、そのボリュームが消去され、さらにその順序番号で始まって、最初のボリュームの後にあるすべてのボリュームが消去されます。

データ圧縮(DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

***DEV** 装置にハードウェア圧縮機能が導入されている場合には、処理はDTACPR(*YES)が指定されたものとして続行されます。圧縮機能が導入されていない場合、あるいは保管データが保管ファイルに書き出される場合には、処理はDTACPR(*NO)が指定されたものとして続行されます。

注: データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** 保管がテープに対して行われ、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェア圧縮が実行されます。装置圧縮がサポートされていない場合、あるいは保管データが保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。システムで他のジョブが活動状態の時に保管が実行され、ソフトウェア圧縮が使用された場合には、システム全体のパフォーマンスに影響が出ることがあります。

トップ

データ短縮(COMPACT)

データ短縮が行われるかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置(DEV)パラメーターに指定されたすべての装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が行われます。

注: データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** データ短縮は行われません。

トップ

参照日(REFDATE)

BRMSの制御のもとで実行される増分保管(変更されたオブジェクトの保管)とともに機能します。

***REF** この増分保管の開始点として、この保管操作の最後の全BRMS保管の日付を使用します。

参照日付

この増分保管の開始点として使用するこの保管操作の日付を指定してください。

[トップ](#)

参照時刻(REFTIME)

BRMSの制御のもとで実行される増分保管（変更されたオブジェクトの保管）とともに機能します。

***REF** この増分保管の開始点として、この保管操作の最後の全BRMS保管の時刻を使用します。

参照時刻

この増分保管の開始点として使用するこの保管操作の時刻を時、分、秒(HHMMSS)の形式で指定してください。

[トップ](#)

満了日(EXPDATE)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい満了を指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*PERM

この保管操作からの出力ボリュームは永続的に有効となります。

満了日 この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる有効期限を日付区切り記号の有無にかかわらず指定してください。

[トップ](#)

移動ポリシー(MOVPCY)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい移動ポリシーを指定します。

実行しようとするこの保管操作がデータをカテゴリー*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、媒体の使用を制御するのはこの場合、BRMSではなく、TSMサーバーであるので、MOVPCYパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー)を指定しなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*ADSM

媒体移動はTSMサーバーの仕様によって制御されます。

*NONE

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームと関連づけられる移動ポリシーはありません。

移動ポリシー

この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる移動ポリシーを指定してください。

[トップ](#)

媒体クラス(MEDCLS)

この保管操作で使用される出力ボリュームを選択するために使用したい媒体クラスを指定します。

実行しようとするこの保管操作がデータをカテゴリ*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、媒体の使用を制御するのはこの場合、TSMサーバーであって、BRMSでないので、MEDCLSパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー) を指定しなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*ADSM

保管操作では、TSMサーバーの仕様によって選択および制御される媒体が使用されます。

*NONE

この保管操作に選択された出力ボリュームと関連づけられる媒体クラスはありません。

*SYSPCY

この保管操作の出力ボリュームを選択するために、システム・ポリシーの中の媒体クラスの値が使用されます。

媒体クラス

この保管操作の出力ボリュームを選択するのに使用する媒体クラスを指定してください。

[トップ](#)

場所(LOC)

この保管操作で使用される出力ボリュームの選択に使用したい場所を指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*ANY 任意の場所からのボリュームがこの保管操作出力ボリュームとして選択されます。

*HOME

ホーム場所からのボリュームがこの保管操作の出力ボリュームとして選択されます。

場所 ボリュームがこの保管操作の出力ボリュームとして選択される場所を指定してください。

保管ファイルへの保管(SAVF)

この保管操作からの出力が保管ファイルに保管されるかどうかを指定します。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。SAVF(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシーの中の**保管ファイルへの保管フィールド**の値を*NOとしなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NO** この保管操作からの出力は保管ファイルに保管されません。

***YES** この保管操作からの出力は保管ファイルに保管されます。

トップ

保管ファイルASP (SAVFASP)

この保管操作の結果として保管ファイルが作成される対象のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールを指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***SYSTEM**

保管ファイルはシステム(1)補助記憶域プールに保管されます。

保管ファイルASP名

保管ファイルの保管先の補助記憶域プールの名前を指定します。

保管ファイルASP番号

保管操作の結果として保管ファイルが作成される対象のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プール番号を指定します。

注: このパラメーターの場合には、UDFS, 1次, および2次補助記憶域プールはサポートされません。

トップ

保管ファイルの保存(SAVFEXP)

この保管操作の結果として作成される保管ファイルの保存期間を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NONE**

保管操作から生成された保管ファイルは保持されません。

***PERM**

保管操作から生成された保管ファイルは永続的に保持されます。

満了日 この保管操作から作成された保管ファイルの保持期間を示す日付を指定してください。

トップ

ASP記憶域限界(MAXSTG)

保管操作中に受け入れ可能な補助記憶域プール(ASP)の最大使用パーセントを指定します。たとえば、入力が90の場合には、補助記憶域プールの使用率が90%を超えるまで保管処理が続けられることを意味します。この上限に達すると、保管処理が停止されて、BRMSログにメッセージが送られます。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

記憶域限界

最大補助記憶域プール使用率限界を指定します。

トップ

ボリュームの保護(VOLSEC)

この媒体クラスのボリュームにボリューム保護を適用するかどうかを指定します。保護されているボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

実行しようとする保管操作がデータをカテゴリ*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、ボリューム保護を制御するのはこの場合、TSMサーバーであって、BRMSでないので、VOLSECパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー)を指定しなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ADSM**

ボリューム保護はTSMサーバーの仕様によって制御されます。

- *NO この媒体クラスにはボリューム保護は適用されていません。ボリューム保護のないボリュームは、誰でも読み取ることができます。
- *YES この媒体クラスの媒体ボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

トップ

必要ボリューム数(MINVOL)

この媒体ポリシーを使用して保管を行う前に、必要な満了済みボリュームの最小数を指定します。この値は、BRM満了済み媒体の検査(CHKEXPBRM)コマンドを使用したユーザー・ジョブによって調べることができます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NONEを指定しなければなりません。MINVOL(*MEDPCY) を指定した場合には、参照される媒体ポリシーの中の**必要ボリューム数**・フィールドの値を*NONEとしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに***MEDPCY**を指定することはできません。

*NONE

保管操作が開始される前に、必要なボリュームの最小数を調べる検査は行われません。

ボリュームの数

BRMS保管操作が開始される前に、使用可能になっていなければならない満了済み媒体ボリュームの数を指定してください。指定できる数は1-9999です。

トップ

ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP)

媒体ボリュームに複写マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に使用されるすべてのボリュームに複写マークが付けられます。保管が完了した後でその保管項目を複写するために、BRMSを使用した媒体の複写コマンドでVOL(*SEARCH)を使用することができます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKDUP(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の**複写用のマーク属性**の値を*NOにしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに***MEDPCY**を指定することはできません。

- *NO 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークは付けられません。

***YES** 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークが付けられます。

トップ

履歴の複写マーク付け(MARKHST)

履歴項目に複写マークを付けるかどうかを指定します。***YES**を選択すると、保管操作中に作成されるすべての履歴項目に複写マークが付けられます。保管済み項目を複写するには、BRMを使用した媒体の複写コマンドでVOL(*SCHHST)を使用しなければなりません。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに***NO**を指定しなければなりません。MARKHST(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の履歴の複写マーク付け属性の値を***NO**にしなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに***NONE**が指定されている場合には、このパラメーターに***MEDPCY**を指定することはできません。

***NO** 保管操作中に作成される履歴項目には複写マークが付けられません。

***YES** 保管操作中に作成される履歴項目に複写マークが付けられます。

トップ

例

例1: リストの変更済みフォルダーの保管

```
SAVFLRLBRM FLRL(LISTA) DEV(TAP01 TAP02) MEDPCY(INCR) SAVTYPE(*INCR)
```

このコマンドは、フォルダー・リストLISTAの変更済みフォルダーを、媒体ポリシーINCRを使用してテープ装置TAP01およびTAP02に保管します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE**メッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM使用のライブラリーの保管 (SAVLIBBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したライブラリーの保管(SAVLIBBRM)コマンドは、1つまたは複数のライブラリーのコピーを保管します。

このコマンドは、ライブラリー記述、オブジェクト記述、およびライブラリーのオブジェクトの内容を含むライブラリー全体を保管します。

ジョブ待ち行列、メッセージ待ち行列、および論理ファイルの場合には、オブジェクトの定義だけが保管され、内容は保管されません。出力待ち行列の内容は、SPLFDTA(*ALL)を使用して保管することができます。そうでない場合には、出力待ち行列のオブジェクト定義だけが保管されます。保管ファイルの内容は、SAVFDTA(*ALL)を使用して保管することができます。そうでない場合には、保管ファイルのオブジェクト定義だけが保管されます。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- 装置(DEV)パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または*MEDCLS特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する*CHANGE権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリー中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する*USE権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、SAVLIBまたはSAVCHGOBJコマンドに対する権限が必要です。
2. 補助記憶域プール(ASPDEV)パラメーターに指定された補助記憶域プール装置に対する*USE権限が必要です。
3. *SAVSYS特殊権限または以下が必要です。
 - 指定されたそれぞれのライブラリーの読み取り権限またはそれらの所有者である。
 - ライブラリーのそれぞれのオブジェクトに対するオブジェクト存在権限。
4. 保管ファイルへ保管する時に、1つのライブラリーしか指定することができません。
5. 保管中のライブラリー（またはライブラリー中のオブジェクト）は、活動時保管が使用されている場合を除き、保管操作が行われているときに同時に実行中のジョブによって更新することはできません。
6. ターゲット・リリース(TGTRLS)パラメーターの値がV5R4M0より前のリリースにより解決される場合には、スプール・ファイル・データ(SPLFDTA)パラメーターに*NONEを指定する必要があります。

V5R4M0より前のターゲット・リリースへの復元のために、スプール・ファイルの保管にバックアップ・スプール・ファイル・リストを使用してください。

7. 保管タイプ(SAVTYPE)パラメーターの値が*CUMLまたは*INCRの場合は、SPLFDTAパラメーターに*NONEを指定する必要があります。
8. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

このコマンドを使用してTIVOLI STORAGE MANAGER (TSM)サーバーにデータを保管することができます。データをTSMサーバーに保管するためには、次の条件を満たしていなければなりません。

- TSMサーバーには、ユーザー・データしか保管できません。BRMSでは、*IBMタイプのライブラリーをTSMサーバーには保管できません。またBRMSは、QGPL, QUSRBRM, QUSRSYS ライブラリーなど、ユーザー・データと考えられるIBM提供ライブラリーをTSM媒体に保管できません。
- 装置(DEV)パラメーターには、1つの装置しか指定することができず、またこの装置は、カテゴリ*NETまたは*APPCでなければなりません。
- 場所(LOC)パラメーターと一緒にDEV(*MEDCLS)を指定して、使用される*NETまたは*APPCカテゴリ装置を識別することができます。
- 媒体ポリシーが媒体クラス属性に*ADSM (TSMサーバー) の指定を使用している場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに媒体ポリシー名を指定することができます。そうでない場合には、MEDPCY(*NONE)を指定できますが、その場合には、媒体クラス(MEDCLS),移動ポリシー(MOVPCY),および保護ボリューム(VOLSEC)パラメーターに*ADSMを指定しなければなりません。
- 順序番号(SEQNBR)パラメーターは*ENDでなければなりません。
- 保管ファイルへの保管(SAVF), ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP), およびヒストリーの複写マーク付け(MARKHST)パラメーターは*NOでなければなりません。これらのパラメーターに*MEDPCYを指定した場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターで指定された媒体ポリシーの保管ファイルへの保管属性, ボリュームの複写マーク付け属性, およびヒストリーの複写マーク付け属性の各値は*NOとしなければなりません。
- 必要ボリューム数(MINVOL)パラメーターは、*NONEでなければなりません。SAVF(*MEDPCY)を指定した場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターで指定された媒体ポリシーの必要ボリューム数属性の値は*NONEでなければなりません。
- *SYNCLIBが活動時保管(SAVACT)パラメーターに指定されている場合には、各ライブラリーはグループとしてではなく個々に保管されます。したがって同期メッセージは、ライブラリーのグループごとではなくライブラリーごとに個別に送られ、同期は、ライブラリーをまたがらずに、1つのライブラリー内でのみ行われます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	単一値: *ALLPROD, *ALLTEST, *ASP01, *ASP02, *ASP03, *ASP04, *ASP05, *ASP06, *ASP07, *ASP08, *ASP09, *ASP10, *ASP11, *ASP12, *ASP13, *ASP14, *ASP15, *ASP16, *ASP17, *ASP18, *ASP19, *ASP20, *ASP21, *ASP22, *ASP23, *ASP24, *ASP25, *ASP26, *ASP27, *ASP28, *ASP29, *ASP30, *ASP31, *ASP32, *ALLUSR, *IBM その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前, *MEDCLS	必須, 定位置 2
MEDPCY	媒体ポリシー	名前, *NONE, *SYSPCY	必須, 定位置 3
PRLRSC	並列装置資源	要素リスト	オプション
	要素 1: 最小資源	1-32, *NONE, *AVAIL	
	要素 2: 最大資源	1-32, *MIN, *AVAIL	
SAVACT	活動時保管	*NO, *LIB, *SYSDFN, *SYNCLIB	オプション
SAVACTWAIT	活動時保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, <u>120</u> , *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOCMTBDY, *NOMAX	
	要素 3: その他の保留中の変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOMAX	
SAVACTMSGQ	活動メッセージ待ち行列の保管	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動メッセージ待ち行列の保管	名前, *NONE, *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OBJDTL	オブジェクト明細の保存	*ERR, *MBR, *NO, *OBJ, *YES	オプション
CTLGRP	制御グループ	名前, *NONE, *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
SAVTYPE	保管のタイプ	*FULL, *CUML, *INCR	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
USEOPTBLK	最適ブロック・サイズの使用	*BKUPCY, *DEV, *NO, *YES	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT	オプション
CLEAR	消去	*NONE, *AFTER, *ALL	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
ACCPH	アクセス・パスの保管	*SYSVAL, *NO, *YES	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV, *NO	オプション
SAVFDTA	保管ファイルの内容の保管	*YES, *NO	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	*NONE, *ALL	オプション
REFDATE	参照日	文字値, *REF	オプション
REFTIME	参照時刻	文字値, *REF	オプション
OBJJRN	ジャーナル処理されたオブジェクト	*NO, *YES	オプション
STRLIB	開始ライブラリー	名前, *FIRST	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: <u>*BKUPCY</u> , *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, <u>*NONE</u> , *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値	
ASPDEV	補助記憶域プール	名前, <u>*SYSBAS</u> , *CURASPGRP	オプション
EXPDATE	満了日	日付, <u>*MEDPCY</u> , *PERM	オプション
MOVPCY	移動ポリシー	名前, <u>*MEDPCY</u> , *ADSM, *NONE	オプション
MEDCLS	媒体クラス	文字値, <u>*MEDPCY</u> , *ADSM, *SYSPCY	オプション
LOC	場所	名前, <u>*MEDPCY</u> , *ANY, *HOME	オプション
SAVF	保管ファイルへの保管	<u>*MEDPCY</u> , *NO, *YES	オプション
SAVFASP	保管ファイルASP	文字値, <u>*MEDPCY</u> , *SYSTEM	オプション
SAVFEXP	保管ファイルの保存	日付, <u>*MEDPCY</u> , *NONE, *PERM	オプション
MAXSTG	ASP記憶域限界	1-99, <u>*MEDPCY</u>	オプション
VOLSEC	ボリュームの保護	<u>*MEDPCY</u> , *ADSM, *NO, *YES	オプション
MINVOL	必要ボリューム数	1-9999, <u>*MEDPCY</u> , *NONE	オプション
MARKDUP	ボリュームの複写マーク付け	<u>*MEDPCY</u> , *NO, *YES	オプション
MARKHST	履歴の複写マーク付け	<u>*MEDPCY</u> , *NO, *YES	オプション

トップ

ライブラリー(LIB)

ライブラリーが取り外し可能な媒体または保管ファイルに保管されることを指定します。

注: このパラメーターに*ALLUSRまたは*IBMを指定した場合には、指定したライブラリーが使用中でない時にこのコマンドを実行しなければなりません。ライブラリーを保管しようとしている時にライブラリーのオブジェクトが使用中であった場合には、SAVACTを使用している場合を除き、オブジェクトは保管されません。すべてのライブラリーの全保管を確実にするためには、制限状態のシステムでこのコマンドを実行してください。たとえば、サブシステムQSNADSが活動状態の時にSAVLIBBRM LIB(*ALLUSR) を実行した場合には、QAO*ファイルはライブラリーQUSRSYSに保管されません。QAO*ファイルを保管するためには、SAVLIBBRM LIB(*ALLUSR)を実行する前にQSNADS サブシステムを終了してください。

注: SAVLIBBRM LIB(*IBM)を実行してからSAVLIBBRM LIB(*ALLUSR)を実行すると、SAVLIB LIB(*NONSYS)と同じライブラリーを保管しますが、2つの復元コマンドが必要です。

制約事項:

- 活動時保管(SAVACT)パラメーターに*SYNCLIBが指定されている場合には、**ライブラリー(LIB)**パラメーターで値*IBMは無効です。
- ライブラリー(LIB)**パラメーターに*ALLUSRまたは*IBMが指定されている場合には、**ターゲット・リリース(TGTRLS)**パラメーターに*CURRENT以外の値を指定することはできません。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。

*ALLPROD

*PROD属性をもつすべてのライブラリーを保管します。*ALLPRODと*ALLTESTの両方を保管した場合には、*ALLUSRの保管と同等になります。

*ALLTEST

*TEST属性をもつすべてのライブラリーを保管します。*ALLTESTと*ALLPRODの両方を保管した場合には、*ALLUSRの保管と同等になります。

*ASPNN

保管したいシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プール。例：ASP 2内のライブラリーを保管するには、*ASP02と入力してください。

注：ASPNNを指定した場合には、指定した基本ユーザー補助記憶域プールのライブラリーだけが組み込まれます。その他のオブジェクト・タイプは組み込まれません。

注：ASPNNの使用は、システム(1)または基本補助記憶域プールにのみ適用されます。保管ファイル、ジャーナル、またはジャーナル・レシーバーなどの個別オブジェクトしか入っていない補助記憶域プールのためのサポートは提供されません。

注：ASPNNの使用はUDFS, 1次、または2次補助記憶域プールをサポートしません。

*ALLUSR

特殊値*ALLUSRは、すべてのユーザー・ライブラリーを保管します。

この特殊値を使用して復元できるライブラリーのリストについては、ISERIES バックアップおよび回復の手引きブックの「ライブラリーの保管」セクションにあるライブラリー保管(SAVLIB)コマンドの特殊値テーブルを参照してください。

注：ライブラリーQGPL, QUSRSYS,およびQUSRBRMは、TSM (ADSM)サーバーへの*ALLUSR保管で除外されます。

***IBM** 特殊値*IBMは、すべてのシステム(IBM)ライブラリーを保管します。

この特殊値を使用して復元できるライブラリーのリストについては、ISERIES バックアップおよび回復の手引きブックの「ライブラリーの保管」セクションにあるライブラリー保管(SAVLIB)コマンドの特殊値テーブルを参照してください。

ライブラリー名

保管する最大300個のライブラリーの名前を指定してください。ライブラリーQSYS, QSRV, QTEMP, QSPL, QSPLXXXX, QDOC, QDOCXXXX, QRPLOBJ,およびQRECOVERYを指定することはできません。

総称*ライブラリー名

保管したいライブラリーのグループの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名とは、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字列です。*が名前と一緒に指定されていない場合には、システムは、その名前を完全なライブラリー名であると見なします。

トップ

装置(DEV)

このコマンドで使用される1つ以上の装置を指定します。

単一値

*MEDCLS

このポリシーまたは制御グループの装置が、媒体ポリシーに指定された媒体クラスの密度をサポート

トする装置タイプに基づいて選択されます。*MEDCLS特殊値は、装置プールの一部である装置、すなわち、いくつかのシステムが1つまたは1セットの装置を共有しているような場合の装置に使用されます。装置は「装置の処理」画面で指定されています。

注: 逐次保管操作に複数の装置を使用したい場合には、使用される各装置ごとに一度ずつ*MEDCLSを4回まで繰り返し使用することができますが、単一値に制限されている仮想テープ装置は例外です。並列装置資源(PRLRSC)パラメーターは*NONEでなければなりません。BRMSは、保管操作に割り振ることができる装置の最大数を使用しようとします。並列保管操作に複数の装置を使用したい場合には、*MEDCLSは一度だけ指定し、PRLRSCの最小および最大応答数が1より大きくなければなりません。

その他の値 (反復は最大4回まで)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。指定された装置名は、すでにBRMS装置テーブルの中になければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。入力画面が表示されていて、これらの複数個の値を入力するために追加の入力フィールドが必要である場合には、「値の続きは+」の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

注: 複数のシステムでテープ装置または媒体ライブラリー装置(MLB)の使用を共有することができます。装置がテープ装置(MLB装置でない)の時、装置が共有されるよう指示した場合にはBRMSを複数システムによるスタンドアロン装置の使用の管理に役立てることができます。

このコマンドを使用してTSM (ADSM)サーバーにデータを保管することができます。装置のリストの中からTSMタイプのサーバーを1つだけ指定するか、あるいは*MEDCLS (TSMサーバーを選択していなければならぬ)を指定することができます。装置タイプは*APPC (SNAネットワーク・プロトコルをサポートする)、または*NET (TCPIP プロトコルをサポートする)のいずれかとすることができます。

*NONE

この保管操作の装置はありません。保管データを記憶するために保管ファイルが使用されます。装置*NONEによって作成された保管ファイル内のデータは、BRMSによってテープにコピーされることはありません。これはオンライン・アクセス専用です。

装置名 保管操作に使用する1つ以上の装置の名前を指定してください。複数の装置 (最大4台まで) を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。

注: 逐次保管を実行している場合には、媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を1つだけ指定することができます。並列保管を実行している場合には、複数の媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を指定することができます。

注: DEVが*NONEである場合には、PRLRSCは*NONEでなければなりません。

注: 逐次保管を実行している場合には、媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を1つだけ指定することができます。並列保管を実行している場合には、複数の媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を指定することができます。

トップ

媒体ポリシー(MEDPCY)

この保管コマンドで使用したい媒体ポリシーを指定します。

媒体ポリシーは、次のことを決定するために使用されます。

- 制御グループの処理で使用される媒体に使用する保存のタイプ（日数、日付、またはバージョンなど）。
- この媒体ポリシーで使用する移動ポリシー。
- 使用する媒体クラス。
- 保管ファイルを使用するかどうか。
- 制御グループの処理で作成された保管ファイルに使用する保存のタイプ、すなわち日数または日付。

指定する媒体ポリシーは、BRMS媒体ポリシー・テーブルの中にある媒体ポリシーでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

*SYSPCY

システム・ポリシーで指定された媒体ポリシーが、この保管操作からの出力ボリュームに割り当てられます。

*NONE

この保管操作には媒体ポリシーは指定されません。媒体ポリシーの値は、省略時の値***MEDPCY**をもつ各パラメーターごとに保管コマンドで提供しなければなりません。

注: ***NONE**を指定して、データをTSM (ADSM)サーバーに保管する場合には、この保管操作の媒体ポリシーの値の一部である**MOVPCY**、**MEDCLS**、および**VOLSEC**パラメーターに***ADSM**特殊値を指定しなければなりません。省略時の値として***MEDPCY**が指定されている残りのパラメーターに対しては、これまで通り追加の媒体ポリシー値を指定しなければなりません。TSM管理クラス**STANDARD**およびTSMノード***LCL**が保管操作の省略時の値として使用されます。

媒体ポリシー

この保管操作で使用したい媒体ポリシーの名前を指定してください。

[トップ](#)

並列装置資源(PRLRSC)

並列保管操作に使用される装置資源の最小数および最大数を指定します。

注: テープへの保管ファイルの転送の場合、並列操作はサポートされていません。

要素 1 : 最小資源数

並列保管に必要な装置資源の最小数を指定します。

注: 媒体ライブラリー装置(MLB)が使用されていて、必要な資源が使用できない場合に、コマンドは、ユーザーが指定した期間だけMLBが使用可能になるのを待機します。この待機時間は、***MLB**装置記述の**INLMNTWAIT**に指定された値によって決まります。***TAP**装置が使用されていて、必要な資源が使用できない場合には、コマンドは正常に実行されません。

*NONE

装置資源は使用されません。保管は、逐次保管として実行されます。TSMまたは仮想テープ装置を使用している時には、***NONE**を指定しなければなりません。

***AVAIL**

保管に使用できる最大数まで、使用可能な装置を使用します。最小値にこの値を指定すると、BRMSはどの使用可能な資源も使用できますが、コマンドの開始時に使用可能な資源が1つしかなかった場合には、その1つの資源を使用して処理を完了します。

I-32 この保管コマンドで使用される装置資源の最小数を指定します。

要素 2 : 最大資源数

装置資源の最大数を指定します。

***MIN** 装置資源の最小数として指定された値を使用します。

***AVAIL**

保管操作に使用できる装置をどれでも使用します。最大値にこの値を指定すると、BRMSはどの使用可能な資源も使用できますが、最少でも最小値要素に指定した値の資源を使用します。

I-32 この保管コマンドで使用される装置資源の最大数を指定します。

トップ

活動時保管(SAVACT)

保管中にオブジェクトを更新できるかどうかを指定します。

注: システムが制限状態であって、SAVACTパラメーターを指定した場合には、保管操作は、SAVACT(*NO)が指定されたものとして実行されます。

注: 制御グループ内で*EXIT特殊操作の一部としてMONSWABRMコマンドを使用している場合には、活動時に保管したい項目の**活動時保管**フィールドの値が*YESでなければなりません。活動時保管の監視(MONSWABRM)コマンドは、活動時保管メッセージ待ち行列を調べて、ライブラリー同期の終わりを示すメッセージを探します。同期が検出されると、ユーザーはシステムに対してコマンドを出すことができません。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中にオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブによって使用中でも保管することができます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトは、一緒にチェックポイントに達し、互いの関連において一貫性のある状態で保管されます。

注: 数千のオブジェクトをもつライブラリーは、このオプションには大きすぎる可能性があります。

***SYNCLIB**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブによって使用中でも保管することができます。保管操作ですべてのオブジェクトおよびすべてのライブラリーは、一緒にチェックポイントに達し、互いの関連において一貫性のある状態で保管されます。

注: 同期はライブラリーにわたってではなくコマンド内にあるので、最後の保管以降に新規ライブラリーがシステムに追加された場合には、増分*ALLUSRバックアップ項目で*SYNCLIBを使用する時に、複数のチェックポイントが発生します。新規ライブラリーは、ライブラリーの保管(SAVLIB)コマンドを使用して保管されます。変更されたライブラリーは、変更済みオブジェクトの保管(SAVCHGOBJ)コマンドを使用して、最後の全バックアップか最後の増分バックアップのいずれか

が最初に行なわれた参照日時とともに保管されます。BRMSでは、増分保管が固有の保管操作の影響を受けるのを防止するために、オブジェクト記述情報の参照日付ではなく独自の参照日付が使用されます。

注: *IBM保管タイプに対して*SYNCLIB選択項目を使用することはできません。

注: ライブラリーを保管ファイルまたはTSMサーバーに保管する場合には、各ライブラリーはグループとしてではなく、個別に保管されます。したがって同期メッセージは、ライブラリーのグループごとではなくライブラリーごとに個別に送られ、同期は、ライブラリーをまたがらずに、1つのライブラリー内でのみ行われます。

*SYSDFN

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブによって使用中でも保管することができます。ライブラリー中のオブジェクトは、別々の時点でチェックポイントに達し、互いの関連において一貫性のある状態で保管されない場合があります。

注: この値を指定すると、サイズに関する一部の制約がなくなり、SAVACT(*LIB)で保管できないライブラリーを保管できるようになります。

トップ

活動時保管待機時間(SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトを待機する、あるいは保留中の変更をもつトランザクションがコミット境界に到達するまで待機する時間を指定します。

要素 1 : オブジェクト・ロック

使用中のオブジェクトごとに、オブジェクトが使用可能となるまで待機する時間を指定します。オブジェクトが指定された時間の間使用中の場合には、そのオブジェクトは保管されません。

使用中のオブジェクトごとに、オブジェクトが使用可能となるまで待機する時間を指定してください。オブジェクトが指定された時間の間使用中の場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、個々のオブジェクト・ロックごとに120秒まで待機します。

*NOMAX

最大待機時間は存在しません。

待機時間

保管操作を続行する前に、個々のオブジェクト・ロックごとに待機する時間（秒）を指定します。有効な値の範囲は、0から99 999までです。

要素 2 : 保留中のレコード変更

チェックポイントが一緒に設定されているオブジェクトのグループごとに、保留中のレコード変更をもつトランザクションがコミット境界に到達するまで待機する時間を指定します。**活動時保管プロンプト (SAVACT)**パラメーターは、どのオブジェクトにチェックポイントが一緒に設定されているかを判別します。0が指定されている場合には、保管されているすべてのオブジェクトがコミット境界にしなければなりません。その他の値が指定されている場合には、保管されているオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット境界に到達しなければなりません。指定された時間内にコミット境界に到達しない場合には、*NOCMTBDYが指定されていない限り、保管操作は終了されます。

***LOCKWAIT**

システムは、レコード変更のコミット境界について**要素 1** で指定された値まで待機します。

***NOCMTBDY**

保留中のレコード変更をもつトランザクションがコミット境界に到達することを必要とせず、システムはオブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは保留中のトランザクションと一緒に保管されます。

保留中のトランザクションと一緒に保管されたオブジェクトを復元する場合には、コミット境界に到達するようジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHG コマンド) するまでオブジェクトを使用することはできません。変更を適用または除去するには、その保留中のトランザクションについての情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要となります。その変更を適用または除去するまでは、*NOCMTBDYを指定していない場合でも、そのオブジェクトのその後の保管には、保留中のトランザクションが組み込まれます。

制約事項:

1. *NOCMTBDYを使用するには、**ターゲット・リリース(TGTRLS)**パラメーターの値が、*CURRENT, V5R3M0,またはそれ以降のリリースでなければなりません。
2. *NOCMTBDYを使用するには、**オブジェクト詳細(OBJDTL)**パラメーターの値が、*YESまたは*MBRでなければなりません。
3. 保管されたライブラリーの名前は、*NOCMTBDYの使用時には、文字**Q**または**#**で開始することができません。

***NOMAX**

最大待機時間は存在しません。

待機時間

保留中のレコード変更をもつトランザクションがコミット境界に到達するのを待機する時間 (秒) を指定します。有効な値の範囲は、0から99 999までです。

要素 3 : その他の保留中の変更

ライブラリーごとに、その他の保留中の変更をもつトランザクションがコミット境界に到達するまで待機する時間を指定します。その他の保留中の変更には、以下が含まれます。

- そのライブラリーの、データ定義言語(DDL)オブジェクト・レベル変更。
- 通常保管処理を許可するオプションなしで追加されたAPIコミットメント・リソース。詳細については、[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter/series_information_center)の**SERIES INFORMATION CENTER**にあるシステムAPI参照情報のコミットメント・リソースの追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

指定された時間内にライブラリーのコミット境界に到達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

***LOCKWAIT**

システムは、上記にリストされたトランザクションのタイプに応じて、**要素 1** で指定した値まで、コミット境界に到達するのを待機します。

***NOMAX**

最大待機時間は存在しません。

待機時間

上記にリストされたトランザクションのタイプに応じて、コミット境界に到達するのを待機する時間 (秒) を指定します。有効な値の範囲は、0から99 999までです。

トップ

活動メッセージ待ち行列の保管(SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了したことをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。活動時保管(SAVACT)パラメーターに*SYSDFNまたは*LIB値が指定された時には、保管されるライブラリーごとに別のメッセージが送られます。活動時保管(SAVACT)パラメーターに*SYNCLIB値が指定された時には、保管操作のすべてのライブラリーに1つのメッセージが送られません。

注: BRMSによって複数の保管操作が生成される時には、生成されるコマンドごとに1つのメッセージが送られます。

このパラメーターは、復元操作の後で追加の回復手順が避けられるように既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管するために使用することができます。チェックポイント処理完了メッセージが受け取られるまで、適用業務を停止することができます。

修飾子 1 : 活動時保管メッセージ待ち行列

*NONE

通知メッセージは送られません。

*WRKSTN

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

通知メッセージの送信先のメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子 2 : ライブラリー

*LIBL メッセージ待ち行列を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

制約事項活動時保管メッセージ待ち行列を監視するためにMONSWABRMが使用され、MONSWABRMにLIB(*MSGQ)が指定されている場合には、ここに指定する名前は、MONSWABRMコマンドのMSGQパラメーターの名前と一致しなければなりません。

MONSWABRMは常にライブラリーQUSRBRMのメッセージ待ち行列を使用します。

トップ

オブジェクト明細の保存(OBJDTL)

オブジェクト明細を、保管されたオブジェクトのBRMSデータベースで保持するかどうかを指定します。

*ERR エラーの詳細はBRMSバックアップ・ヒストリーで保持されます。

*MBR オブジェクトおよびメンバー詳細は、BRMSバックアップ・ヒストリーに保持されます。

注: メンバー・レベル情報が物理ファイルのオブジェクト情報とともに組み込まれ、**スプール・ファイル・データの保管(SPLFDTA)**パラメーターに*ALLが指定されていた場合には、保管済みスプール・ファイル情報が保管済み出力待ち行列に保持されます。

注: この選択項目は*YESと同じです。

***NO** オブジェクト明細はBRMSバックアップ・履歴に保持されません。

***OBJ** オブジェクト明細は、BRMSバックアップ・履歴に保持されます。メンバー・レベル情報または保管済みスプール・ファイル情報は保持されません。

***YES** オブジェクト明細は、BRMSバックアップ・履歴に保持されます。

注: *YESが指定されている時には、オブジェクト情報に加えてメンバー・レベル情報が物理ファイルに保持され、**スプール・ファイル・データの保管(SPLFDTA)**パラメーターに*ALLが指定されていた場合には、保管済みスプール・ファイル情報が保管済み出力待ち行列に保持されます。

トップ

制御グループ(CTLGRP)

このコマンドで保管されたオブジェクトと関連づけたい制御グループの名前を指定します。制御グループ名は媒体情報と一緒に保管されます。そして、BRMSコマンド上以外の**制御グループ(CTLGRP)**パラメーターを使用して、制御グループ別に媒体情報のフィルター操作または保管済みオブジェクトの回復をすることができます。

注: 保管には制御グループの属性は使用されません。

保管する項目に対してバージョン制御を使用する場合には、この保管操作は、指定されたバージョン制御の一部として記録されます。バージョン制御は、この制御グループに関連した媒体ポリシーの中に指定されており、「媒体ポリシーの処理」画面を使用して検討することができます。

*NONE

このコマンドに制御グループ名を指定しない。

***ARCGRP**

省略時の保存制御グループの名前。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKUGRP**

省略時のバックアップ制御グループの名前がすべてのユーザー・データの保管に使用されます。

***SYSGRP**

省略時のシステム制御グループの名前がすべてのシステム・データの保管に使用されます。

***SYSTEM**

省略時のシステム制御グループの名前が全システムの保管に使用されます。

制御グループ名

保管している項目に割り当てる制御グループの名前を指定します。

トップ

保管のタイプ(SAVTYPE)

ライブラリー中のすべてのオブジェクトを保管するか、あるいは変更されたオブジェクトだけを保管するかを指定します。

注: バックアップに新規ライブラリーが含まれていて、BRMSにこれらのライブラリーの全バックアップの履歴がない場合には、指定された増分のタイプにかかわらず、全バックアップが実行されます。

***FULL**

ライブラリー中のすべてのオブジェクトを保管します。

***CUML**

変更された項目だけを保管します。*CUMLは、増分保管には最後の全保管以降に変更されたすべてのオブジェクトが含まれることを意味します。

***INCR**

変更された項目だけを保管します。*INCRは、増分保管には最後の増分保管以降に変更されたすべてのオブジェクトが含まれることを意味します。

トップ

テープの終わりオプション(ENDOPT)

テープの使用時に、保管操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に行われるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

***REWIND**

操作の終了後、ボリュームは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

ボリュームは操作の終了後に自動的に巻き戻され、アンロードされます。

トップ

最適ブロック・サイズの使用(USEOPTBLK)

保管操作に最適ブロック・サイズが使用されるかどうかを指定します。

***BKUPCY**

バックアップ・ポリシーからの値を**最適ブロック・サイズの使用**パラメーターに使用します。

*DEV 「装置の処理」画面に指定された値を**最適ブロック・サイズの使用**パラメーターに使用します。

*NO 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドには、すべての装置タイプによってサポートされている省略時のブロック・サイズが使用されます。テー

プ・ボリュームは、テープの複写(DUPTAP)コマンドまたはBRM を使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)コマンドを使用して、任意の媒体形式に複写することができます。

***YES** 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用されるブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされているブロック・サイズより大きい場合には、次のようになります。

- パフォーマンスが改善されることがあります。
- 作成されたテープ・ファイルには、使用されたブロック・サイズをサポートする装置とだけ互換性があります。ファイルが使用されたのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複写されていない限り、テープの複写(DUPTAP)およびBRMを使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)などのコマンドではファイルは複写されません。
- データ圧縮(DTACPR)パラメーターの値は無視されます。

トップ

順序番号(SEQNBR)

テープを使用するときに、保管操作に使用される順序を指定します。満了したBRMSボリュームに保管する場合には、*ENDを指定してあっても、BRMSは、そのボリュームの始めから情報の書き込みを始めます。BRMSボリュームに保管しようとしている場合には、BRMSは、使用している出力装置によって、出力ボリュームの論理的な終わり（最後の活動ファイルの終わりの後）から始まるように出力を送ります。たとえば、3490装置はどの順序番号にも書き込むことができますが、6525装置は順序番号 1 または*ENDにしか書き込むことができません。

***END** 保管操作はボリューム上の最後の活動ファイルの順序番号の後から開始されます。

ファイル順序番号 (1-16,777,215)

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

トップ

ターゲット・リリース(TGTRLS)

保管されているオブジェクトを復元したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

*CURRENT

オブジェクトは、現在のシステムで実行中のオペレーティング・システムと同じリリースを実行するシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合の*CURRENTは、オブジェクトをV5R2M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、そのオペレーティング・システムの後続リリースが導入されているシステムでも復元することができます。

***PRV** オブジェクトは、モディフィケーション・レベル0の前のオペレーティング・システムのリリースで実行されるシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合の*PRVは、オブジェクトをV5R1M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、これより後のリリースのオペレーティング・システムが導入されているシステムでも復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

ターゲット・リリース

リリースはVXRXXMXの形式で指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R2M0はバージョン5、リリース2、モディフィケーション・レベル0です。

オブジェクトは、指定されたリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

有効な値は現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変更されます。このコマンドでサポートされている最も古いリリース・レベルよりさらに古いリリース・レベルを指定した場合には、サポートされる最も古いリリースを示したエラー・メッセージが出されます。

[トップ](#)

消去(CLEAR)

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルが自動的に消去されるかどうかを指定します。

***NONE**

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルは、自動的に消去されることはありません。まだ消去されていないボリュームが見つかったために保管操作を続行できない場合には、操作員に照会メッセージが送られ、保管操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して保管操作を続行できるように指定することができます。

保管ファイルが消去されていない場合には、照会メッセージが対話式ジョブであればワークステーション・メッセージ待ち行列に送られ、バッチ・ジョブであれば操作員に送られます。保管コマンドを出す前に、保管操作の実行に使用するすべてのボリュームを消去するか、あるいは保管ファイルを空にする必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての未消去のボリュームが自動的に消去されます。保管ファイルへの保管または復元操作の場合には、このオプションは無効です。最初のボリュームが消去されていないために操作を続行できない場合には、照会メッセージがシステム操作員に送られ、システム操作員は操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して操作を続行できるように指定することができます。

***ALL** 保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルはすべて自動的に消去されます。テープが使用され、順序番号が指定されている場合には、そのボリュームが消去され、さらにその順序番号で始まって、最初のボリュームの後にあるすべてのボリュームが消去されます。

[トップ](#)

オブジェクト事前検査(PRECHK)

選択したオブジェクトのいずれかが保管できない場合に保管操作を終了するかどうかを指定します。

***NO** ライブラリーの保管操作は続行され、保管できるオブジェクトだけを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後に、1つまたは複数のオブジェクトを保管するこ

とができない場合には、すべてのデータが書き込まれる前にライブラリーの保管操作が終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行されます。

トップ

アクセス・パス保管(ACCPH)

保管中の物理ファイルに従属する論理ファイルのアクセス・パスも保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、作成されるアクセス・パスが関係するすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれている場合だけです。各物理ファイルとともに保管される論理ファイルのアクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。作成されるアクセス・パスが関係するすべての物理ファイルは、同じライブラリーに存在していなければなりません。このパラメーターは論理オブジェクトを保管しません。アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元については、「バックアップおよび回復の手引き」を参照してください。

重要：基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが別のライブラリーにある場合には、アクセス・パスが保管されます。しかし、論理ファイルと基礎になっている物理ファイルが別のライブラリーに入っていて、その論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に（災害時回復時またはファイルが削除されていたときなど）存在していない場合には、アクセス・パスは復元されません。それらは再作成されます。論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルの復元操作を可能な限り迅速に行うためには、それらは同じライブラリーになければならず、同時に保管しなければなりません。

*SYSVAL

システム値QSAVACCPHが、保管されている物理ファイルに依存している論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

- *NO** コマンドに指定されたオブジェクトだけが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。
- *YES** 指定された物理ファイルおよび関係する適格なすべての論理ファイルのアクセス・パスが保管されることを指定します。

トップ

データ圧縮(DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

- *DEV** 保管がテープに対して行われ、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェア圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

注：データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

- *NO** データ圧縮は実行されません。
- *YES** ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェア圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていない場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。

データ短縮(COMPACT)

データ短縮が行われるかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置(DEV)パラメーターに指定されたすべての装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が行われます。

注: データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** データ短縮は行われません。

トップ

保管ファイルの内容の保管(SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトに対して、テープまたは別の保管ファイルに保管するのは、保管ファイルの記述か、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方か、を指定します。

***YES** 保管ファイルの記述と内容が保管されます。

***NO** 保管ファイルの記述だけが保管されます。

トップ

スプール・ファイル・データ(SPLFDTA)

保管済み出力待ち行列のスプール・ファイル・データおよび属性を保管するかどうかを指定します。また、*YESまたは*MBRがオブジェクト詳細の保存(OBJDTL)パラメーターに指定された場合は、保管スプール・ファイルの処理(WRKSPLFBRM)コマンドを使用した保管の後で、保管されたスプール・ファイルおよび属性を表示できます。

注: スプール・ファイル・データが保管されるのは、保管のタイプ(SAVTYPE)パラメーターに*FULLが指定された場合だけです。

***NONE**

スプール・ファイル・データまたは属性が、保管される出力待ち行列と一緒に保管されないよう指定します。

***ALL** すべての使用可能なスプール・ファイル・データおよび属性が、保管される出力待ち行列と一緒に保管されるよう指定します。

トップ

参照日(REFDATE)

BRMSの制御のもとで実行される増分保管（変更されたオブジェクトの保管）とともに機能します。

***REF** この増分保管の開始点として、この保管操作の最後の全BRMS保管の日付を使用します。

参照日付

この増分保管の開始点として使用するこの保管操作の日付を指定してください。

[トップ](#)

参照時刻(REFTIME)

BRMSの制御のもとで実行される増分保管（変更されたオブジェクトの保管）とともに機能します。

***REF** この増分保管の開始点として、この保管操作の最後の全BRMS保管の時刻を使用します。

参照時刻

この増分保管の開始点として使用するこの保管操作の時刻を時、分、秒(HHMMSS)の形式で指定してください。

[トップ](#)

ジャーナル処理されたオブジェクト(OBJJRN)

現在ジャーナル処理中の変更されたオブジェクトおよびREFDATEおよびREFTIMEパラメーターに指定された日時以降にジャーナル処理済みの変更されたオブジェクトを保管するかどうかを指定します。

***NO** ジャーナル処理中のオブジェクトは保管されません。ジャーナル処理が指定された日付と時刻以降に開始された場合には、変更されたオブジェクトまたはデータベース・ファイル・メンバーが保管されます。最終ジャーナル処理の開始の日付と時刻は、オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドによって表示することができます。

***YES** ジャーナルに入力されている変更の対象のオブジェクトが保管されます。

注: 入力された値は、*INCRまたは*CUMLの保管タイプにのみ適用されます。タイプ*FULLの保管の場合には、この値は常に*YESとして扱われます。

[トップ](#)

開始ライブラリー(STRLIB)

*IBM, *ALLUSR, *ALLPROD, *ALLTEST.および*ASPNN保管操作を開始するライブラリーを指定します。

保管操作中に回復不可能な媒体エラーが起こった場合には、このパラメーターを使用して操作を再始動することができます。

*FIRST

保管操作は、アルファベット順の最初のライブラリーから始めます。

ライブラリー名

保管操作を始めるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

除外するライブラリー(OMITLIB)

保管操作から除外するライブラリーを指定します。このパラメーターが有効なのは、ライブラリー(LIB)パラメーターに*ALLUSR, *IBM,または*ASPNNが指定されている場合だけです。

単一値

*BKUPCY

バックアップ・ポリシーの除外するライブラリーフィールドに指定された値が省略時の値として使用されます。除外するライブラリー(OMITLIB)パラメーターの省略時の値は、バックアップ・ポリシーの中に割り当てられています。

その他の値 (反復は最大300回まで)

*NONE

ライブラリーは除外されません。

総称*ライブラリー名

総称名を指定してください。総称名とは、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が続いた文字列です。たとえば、ABC*などです。アスタリスク(*)は任意の有効な文字の代用です。総称名は総称接頭部で始まる名前をもつすべてのライブラリー (ユーザーが権限をもっている) を指定します。総称 (接頭部) 名の中にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名と見なします。

ライブラリー名

除外するライブラリーの名前を指定してください。最大300のライブラリーを指定することができます。

[トップ](#)

除外するオブジェクト(OMITOBJ)

保管操作から除外されるオブジェクトを指定します。最大300個までのオブジェクトまたは総称オブジェクト値を指定することができます。

OMITOBJパラメーターを指定しない場合には、保管操作からオブジェクトは除外されません。

*NONE

保管操作からオブジェクトは除外されません。

要素1:オブジェクト

修飾子1:オブジェクト

*ALL オブジェクト・タイプに指定されている値に応じて、指定されたライブラリーの中のオブジェクトが除外されます。

総称*オブジェクト名

オブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)の続いた文字列です。たとえばABC*などです。アスタリスク(*)は任意の有効な文字の代用で

す。総称名は総称接頭部で始まる名前を持ち、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーを指します。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なオブジェクト名と見なします。

オブジェクト名

保管操作から除外するオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子 2：ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトが保管操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称*ライブラリー名

ライブラリーの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)の続いた文字列です。たとえばABC*などです。アスタリスク(*)は任意の有効な文字の代用です。総称名は総称接頭部で始まる名前をもつすべてのライブラリー（ユーザーが権限をもっている）を指定します。総称（接頭部）名の中にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名と見なします。

ライブラリー名

保管操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素 2：オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定されている値に応じて、保管操作からすべてのオブジェクト・タイプが除外されます。

オブジェクト・タイプ

保管操作から除外するオブジェクトのタイプを指定してください。

[トップ](#)

補助記憶域プール装置(ASPDEV)

このパラメーターは、保管操作に含めることができるライブラリーおよびオブジェクトが入っている補助記憶域プールを指定するために使用します。

***SYSBAS**

システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールからのライブラリーまたはオブジェクトのみが保管に組み込まれることを指定します。

***CURASGRP**

ジョブについて現在設定されている補助記憶域プール・グループからのライブラリーまたはオブジェクトのみが保管に組み込まれることを指定します。システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールからのライブラリーまたはオブジェクトは、保管から除外されます。

補助記憶域プール装置名

名前付き補助記憶域プール装置からのライブラリーまたはオブジェクトのみが保管操作に組み込まれることを指定します。これは1次または2次補助記憶域プールの名前であればなりません。システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールからのライブラリーまたはオブジェクトは、保管から除外されます。

[トップ](#)

満了日(EXPDATE)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい満了を指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***PERM**

この保管操作からの出力ボリュームは永続的に有効となります。

満了日 この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる有効期限を日付区切り記号の有無にかかわらず指定してください。

[トップ](#)

移動ポリシー(MOVPCY)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい移動ポリシーを指定します。

実行しようとするこの保管操作がデータをカテゴリ*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、媒体の使用を制御するのはこの場合、BRMSではなく、TSMサーバーであるので、MOVPCYパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー) を指定しなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ADSM**

媒体移動はTSMサーバーの仕様によって制御されます。

***NONE**

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームと関連づけられる移動ポリシーはありません。

移動ポリシー

この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる移動ポリシーを指定してください。

[トップ](#)

媒体クラス(MEDCLS)

この保管操作で使用される出力ボリュームを選択するために使用したい媒体クラスを指定します。

実行しようとするこの保管操作がデータをカテゴリ*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、媒体の使用を制御するのはこの場合、TSMサーバーであって、BRMSでないので、MEDCLSパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー) を指定しなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ADSM**

保管操作では、TSMサーバーの仕様によって選択および制御される媒体が使用されます。

***NONE**

この保管操作に選択された出力ボリュームと関連づけられる媒体クラスはありません。

***SYSPCY**

この保管操作の出力ボリュームを選択するために、システム・ポリシーの中の媒体クラスの値が使用されます。

媒体クラス

この保管操作の出力ボリュームを選択するのに使用する媒体クラスを指定してください。

[トップ](#)

場所(LOC)

この保管操作で使用される出力ボリュームの選択に使用したい場所を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ANY** 任意の場所からのボリュームがこの保管操作出力ボリュームとして選択されます。

***HOME**

ホーム場所からのボリュームがこの保管操作の出力ボリュームとして選択されます。

場所 ボリュームがこの保管操作の出力ボリュームとして選択される場所を指定してください。

[トップ](#)

保管ファイルへの保管(SAVF)

この保管操作からの出力が保管ファイルに保管されるかどうかを指定します。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。SAVF(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシーの中の保管ファイルへの保管**フィールドの値を*NOとしなければなりません。**

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NO** この保管操作からの出力は保管ファイルに保管されません。

***YES** この保管操作からの出力は保管ファイルに保管されます。

トップ

保管ファイルASP (SAVFASP)

この保管操作の結果として保管ファイルが作成される対象のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールを指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに***NONE**が指定されている場合には、このパラメーターに***MEDPCY**を指定することはできません。

***SYSTEM**

保管ファイルはシステム(1)補助記憶域プールに保管されます。

保管ファイルASP名

保管ファイルの保管先の補助記憶域プールの名前を指定します。

保管ファイルASP番号

保管操作の結果として保管ファイルが作成される対象のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プール番号を指定します。

注: このパラメーターの場合には、UDFS, 1次, および2次補助記憶域プールはサポートされません。

トップ

保管ファイルの保存(SAVFEXP)

この保管操作の結果として作成される保管ファイルの保存期間を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに***NONE**が指定されている場合には、このパラメーターに***MEDPCY**を指定することはできません。

***NONE**

保管操作から生成された保管ファイルは保持されません。

***PERM**

保管操作から生成された保管ファイルは永続的に保持されます。

満了日 この保管操作から作成された保管ファイルの保持期間を示す日付を指定してください。

トップ

ASP記憶域限界(MAXSTG)

保管操作中に受け入れ可能な補助記憶域プール(ASP)の最大使用パーセントを指定します。たとえば、入力が90の場合には、補助記憶域プールの使用率が90%を超えるまで保管処理が続けられることを意味します。この上限に達すると、保管処理が停止されて、BRMSログにメッセージが送られます。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

記憶域限界

最大補助記憶域プール使用率限界を指定します。

[トップ](#)

ボリュームの保護(VOLSEC)

この媒体クラスのボリュームにボリューム保護を適用するかどうかを指定します。保護されているボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

実行しようとする保管操作がデータをカテゴリー*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、ボリューム保護を制御するのはこの場合、TSMサーバーであって、BRMSでないので、VOLSECパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー)を指定しなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ADSM**

ボリューム保護はTSMサーバーの仕様によって制御されます。

***NO** この媒体クラスにはボリューム保護は適用されていません。ボリューム保護のないボリュームは、誰でも読み取ることができます。

***YES** この媒体クラスの媒体ボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

[トップ](#)

必要ボリューム数(MINVOL)

この媒体ポリシーを使用して保管を行う前に、必要な満了済みボリュームの最小数を指定します。この値は、BRM満了済み媒体の検査(CHKEXPBRM)コマンドを使用したユーザー・ジョブによって調べることができます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NONEを指定しなければなりません。MINVOL(*MEDPCY) を指定した場合には、参照される媒体ポリシーの中の**必要ボリューム数**・フィールドの値を*NONEとしなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NONE**

保管操作が開始される前に、必要なボリュームの最小数を調べる検査は行われません。

ボリュームの数

BRMS保管操作が開始される前に、使用可能になっていなければならない満了済み媒体ボリュームの数を指定してください。指定できる数は1-9999です。

トップ

ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP)

媒体ボリュームに複写マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に使用されるすべてのボリュームに複写マークが付けられます。保管が完了した後でその保管項目を複写するために、BRMSを使用した媒体の複写コマンドでVOL(*SEARCH)を使用することができます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKDUP(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の**複写用のマーク属性**の値を*NOにしなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NO** 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークは付けられません。

***YES** 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークが付けられます。

トップ

ヒストリーの複写マーク付け(MARKHST)

ヒストリー項目に複写マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に作成されるすべてのヒストリー項目に複写マークが付けられます。保管済み項目を複写するには、BRMを使用した媒体の複写コマンドでVOL(*SCHHST)を使用しなければなりません。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKHST(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の**ヒストリーの複写マーク付け属性**の値を*NOにしなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NO** 保管操作中に作成されるヒストリー項目には複製マークが付けられません。

***YES** 保管操作中に作成されるヒストリー項目に複製マークが付けられます。

[トップ](#)

例

例1: テープ装置へのライブラリーの保管

```
SAVLIBBRM LIB(MYLIB) DEV(TAP01) MEDPCY(FULL)
```

このコマンドは、媒体ポリシーFULLを使用して、ライブラリーMYLIBを装置TAP01に保管します。

例2: 複数の装置への総称ライブラリーの保管

```
SAVLIBBRM LIB(MY*) DEV(TAP01 TAP02) MEDPCY(FULL)
```

このコマンドは、媒体ポリシーFULLを使用して、文字'MY'で始まっているすべてのライブラリーを装置TAP01およびTAP02に保管します。

例3: 補助記憶域プール装置のライブラリーの保管

```
SAVLIBBRM LIB(MYLIB) DEV(TAP01) MEDPCY(FULL) ASPDEV(PRIMETIME)
```

このコマンドは、補助記憶域プール装置PRIMETIMEに入っているライブラリーMYLIBを、媒体ポリシーFULLを使用して装置TAP01に保管します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM使用の媒体情報の保管 (SAVMEDIBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した媒体情報の保管(SAVMEDIBRM)コマンドは、BRMSを使用して保管された項目の回復を実行するために必要な情報のコピーを保管します。媒体情報は、オブジェクトまたはライブラリー・レベルで保管することができます。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- 装置(DEV)パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または*MEDCLS特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する*CHANGE権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリー中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する*USE権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、SAVOBJコマンドに対する権限が必要です。
2. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前, *MEDCLS	必須, 定位置 1
MEDPCY	媒体ポリシー	名前, *NONE, *SYSPCY	必須, 定位置 2
OPTION	オプション	*LIB, *OBJ	オプション
CTLGRP	制御グループ	名前, *NONE, *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
USEOPTBLK	最適ブロック・サイズの使用	*BKUPCY, *DEV, *NO, *YES	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CLEAR	消去	*NONE, *AFTER, *ALL	オプション
ACCPH	アクセス・パスの保管	*SYSVAL, *NO, *YES	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV, *NO	オプション
EXPDATE	満了日	日付, *MEDPCY, *PERM	オプション
MOVPCY	移動ポリシー	名前, *MEDPCY, *NONE	オプション
MEDCLS	媒体クラス	文字値, *MEDPCY, *SYSPCY	オプション
LOC	場所	名前, *MEDPCY, *ANY, *HOME	オプション
SAVF	保管ファイルへの保管	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション
SAVFASP	保管ファイルASP	文字値, *MEDPCY, *SYSTEM	オプション
SAVFEXP	保管ファイルの保存	日付, *MEDPCY, *NONE, *PERM	オプション
MAXSTG	ASP記憶域限界	1-99, *MEDPCY	オプション
VOLSEC	ボリュームの保護	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション
MINVOL	必要ボリューム数	1-9999, *MEDPCY, *NONE	オプション
MARKDUP	ボリュームの複写マーク付け	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション
MARKHST	履歴の複写マーク付け	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション

トップ

装置(DEV)

媒体情報の保管操作に使用される装置の名前を指定します。各装置名は、システム上のBRMS装置テーブル中ですでに認識されていなければなりません。複数装置を指定する場合には、同じ媒体クラスを使用しなければなりません。複数の装置を使用する場合には、それらが使用される順に装置の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。

単一値

*MEDCLS

媒体ポリシーに指定された媒体クラスをサポートする任意の装置をこの保管操作に使用することができます。

その他の値 (反復は最大4回まで)

*NONE

保管操作は保管ファイルに対するものです。

装置名 この保管操作に使用したい1つまたは複数の装置の名前を指定してください。

トップ

媒体ポリシー(MEDPCY)

媒体情報の保管の結果として作成中のボリュームに対する媒体ポリシーを指定します。

媒体ポリシーは、次のことを決定するために使用されます。

- 制御グループの処理で使用される媒体に使用する保存のタイプ（日数、日付、またはバージョンなど）。
- この媒体ポリシーで使用する移動ポリシー。
- 使用する媒体クラス。
- 保管ファイルを使用するかどうか。
- 制御グループの処理で作成された保管ファイルに使用する保存のタイプ、すなわち日数または日付。

指定する媒体ポリシーは、BRMS媒体ポリシー・テーブルの中にある媒体ポリシーでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

*NONE

この保管操作には媒体ポリシーは指定されません。媒体ポリシーの値は、省略時の値*MEDPCYをもつ各パラメーターごとに保管コマンドで提供しなければなりません。

*SYSPCY

システム・ポリシーで指定された媒体ポリシーが、この保管操作からの出力ボリュームに割り当てられます。

媒体ポリシー

この保管操作で使いたい媒体ポリシーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オプション(OPTION)

媒体情報をオブジェクトとライブラリーのどちらのレベルで保管したいかを指定します。

***LIB** 媒体情報をライブラリー・レベルで保管します。回復はライブラリーについてのみ実行することができ、ライブラリー中の個別のオブジェクトについて実行することはできません。

***OBJ** 媒体情報をオブジェクト・レベルで保管します。回復は、ライブラリー、ライブラリー中の個別のオブジェクト、または物理ファイル中のメンバーについて実行することができます。

[トップ](#)

制御グループ(CTLGRP)

このコマンドで保管されたオブジェクトと関連づけたい制御グループの名前を指定します。制御グループ名は媒体情報と一緒に保管されます。そして、BRMSコマンド上以外の**制御グループ(CTLGRP)**パラメーターを使用して、制御グループ別に媒体情報のフィルター操作または保管済みオブジェクトの回復をすることができます。

注：保管には制御グループの属性は使用されません。

保管する項目に対してバージョン制御を使用する場合には、この保管操作は、指定されたバージョン制御の一部として記録されます。バージョン制御は、この制御グループに関連した媒体ポリシーの中に指定されており、「媒体ポリシーの処理」画面を使用して検討することができます。

***NONE**

このコマンドに制御グループ名を指定しない。

***ARCGRP**

省略時の保存制御グループの名前。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKUGRP**

省略時のバックアップ制御グループの名前がすべてのユーザー・データの保管に使用されます。

***SYSGRP**

省略時のシステム制御グループの名前がすべてのシステム・データの保管に使用されます。

***SYSTEM**

省略時のシステム制御グループの名前が全システムの保管に使用されます。

制御グループ名

保管している項目に割り当てる制御グループの名前を指定します。

トップ

テープの終わりオプション(ENDOPT)

テープの使用時に、保管操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に行われるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

***REWIND**

操作の終了後、ボリュームは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

ボリュームは操作の終了後に自動的に巻き戻され、アンロードされます。

トップ

最適ブロック・サイズの使用(USEOPTBLK)

保管操作に最適ブロック・サイズが使用されるかどうかを指定します。

***BKUPCY**

バックアップ・ポリシーからの値を**最適ブロック・サイズの使用**パラメーターに使用します。

*DEV 「装置の処理」画面に指定された値を**最適ブロック・サイズの使用**パラメーターに使用します。

*NO 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドには、すべての装置タイプによってサポートされている省略時のブロック・サイズが使用されます。テー

プ・ボリュームは、テープの複写(DUPTAP)コマンドまたはBRM を使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)コマンドを使用して、任意の媒体形式に複写することができます。

***YES** 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用されるブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされているブロック・サイズより大きい場合には、次のようになります。

- パフォーマンスが改善されることがあります。
- 作成されたテープ・ファイルには、使用されたブロック・サイズをサポートする装置とだけ互換性があります。ファイルが使用されたのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複写されていない限り、テープの複写(DUPTAP)およびBRMを使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)などのコマンドではファイルは複写されません。
- データ圧縮(DTACPR)パラメーターの値は無視されます。

トップ

順序番号(SEQNBR)

テープを使用するときに、保管操作に使用される順序を指定します。満了したBRMSボリュームに保管する場合には、*ENDを指定してあっても、BRMSは、そのボリュームの始めから情報の書き込みを始めます。BRMSボリュームに保管しようとしている場合には、BRMSは、使用している出力装置によって、出力ボリュームの論理的な終わり（最後の活動ファイルの終わりの後）から始まるように出力を送ります。たとえば、3490装置はどの順序番号にも書き込むことができますが、6525装置は順序番号1または*ENDにしか書き込むことができません。

***END** 保管操作はボリューム上の最後の活動ファイルの順序番号の後から開始されます。

ファイル順序番号 (1-16,777,215)

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

トップ

ターゲット・リリース(TGTRLS)

保管されているオブジェクトを復元したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

*CURRENT

オブジェクトは、現在のシステムで実行中のオペレーティング・システムと同じリリースを実行するシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合の*CURRENTは、オブジェクトをV5R2M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、そのオペレーティング・システムの後続リリースが導入されているシステムでも復元することができます。

***PRV** オブジェクトは、モディフィケーション・レベル0の前のオペレーティング・システムのリリースで実行されるシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合の*PRVは、オブジェクトをV5R1M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、これより後のリリースのオペレーティング・システムが導入されているシステムでも復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

ターゲット・リリース

リリースはVXRXXMXの形式で指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R2M0はバージョン5、リリース2、モディフィケーション・レベル0です。

オブジェクトは、指定されたリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

有効な値は現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変更されます。このコマンドでサポートされている最も古いリリース・レベルよりさらに古いリリース・レベルを指定した場合には、サポートされる最も古いリリースを示したエラー・メッセージが出されます。

トップ

消去(CLEAR)

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルが自動的に消去されるかどうかを指定します。

*NONE

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルは、自動的に消去されることはありません。まだ消去されていないボリュームが見つかったために保管操作を続行できない場合には、操作員に照会メッセージが送られ、保管操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して保管操作を続行できるように指定することができます。

保管ファイルが消去されていない場合には、照会メッセージが対話式ジョブであればワークステーション・メッセージ待ち行列に送られ、バッチ・ジョブであれば操作員に送られます。保管コマンドを出す前に、保管操作の実行に使用するすべてのボリュームを消去するか、あるいは保管ファイルを空にする必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての未消去のボリュームが自動的に消去されます。保管ファイルへの保管または復元操作の場合には、このオプションは無効です。最初のボリュームが消去されていないために操作を続行できない場合には、照会メッセージがシステム操作員に送られ、システム操作員は操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して操作を続行できるように指定することができます。

***ALL** 保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルはすべて自動的に消去されます。テープが使用され、順序番号が指定されている場合には、そのボリュームが消去され、さらにその順序番号で始まって、最初のボリュームの後にあるすべてのボリュームが消去されます。

トップ

アクセス・パス保管(ACCPH)

保管中の物理ファイルに従属する論理ファイルのアクセス・パスも保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、作成されるアクセス・パスが関係するすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれている場合だけです。各物理ファイルとともに保管される論理ファイルのアクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。このパラメーターは論理オブジェクトを保管しません。アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元については、「バックアップおよび回復の手引き」を参照してください。

*SYSVAL

システム値QSAVACCPHが、保管されている物理ファイルに依存している論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

- *NO** コマンドに指定されたオブジェクトだけが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。
- *YES** 指定された物理ファイルおよびそれらを通じたすべての適切な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

[トップ](#)

データ圧縮(DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

- *DEV** 保管がテープに対して行われ、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェア圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

注: データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

- *NO** データ圧縮は実行されません。
- *YES** ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェア圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていない場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。

[トップ](#)

データ短縮(COMPACT)

データ短縮が行われるかどうかを指定します。

- *DEV** データがテープに保管され、装置(DEV)パラメーターに指定されたすべての装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が行われます。

注: データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

*NO データ短縮は行われません。

[トップ](#)

満了日(EXPDATE)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい満了を指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*PERM

この保管操作からの出力ボリュームは永続的に有効となります。

満了日 この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる有効期限を日付区切り記号の有無にかかわらず指定してください。

[トップ](#)

移動ポリシー(MOVPCY)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい移動ポリシーを指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NONE

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームと関連づけられる移動ポリシーはありません。

移動ポリシー

この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる移動ポリシーを指定してください。

[トップ](#)

媒体クラス(MEDCLS)

この保管操作で使用される出力ボリュームを選択するために使用したい媒体クラスを指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NONE**

この保管操作に選択された出力ボリュームと関連づけられる媒体クラスはありません。

***SYSPCY**

この保管操作の出力ボリュームを選択するために、システム・ポリシーの中の媒体クラスの値が使用されます。

媒体クラス

この保管操作の出力ボリュームを選択するのに使用する媒体クラスを指定してください。

[トップ](#)

場所(LOC)

この保管操作で使用される出力ボリュームの選択に使用したい場所を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ANY** 任意の場所からのボリュームがこの保管操作出力ボリュームとして選択されます。

***HOME**

ホーム場所からのボリュームがこの保管操作の出力ボリュームとして選択されます。

場所 ボリュームがこの保管操作の出力ボリュームとして選択される場所を指定してください。

[トップ](#)

保管ファイルへの保管(SAVF)

この保管操作からの出力が保管ファイルに保管されるかどうかを指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NO** この保管操作からの出力は保管ファイルに保管されません。

***YES** この保管操作からの出力は保管ファイルに保管されます。

[トップ](#)

保管ファイルASP (SAVFASP)

この保管操作の結果として保管ファイルが作成される対象のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールを指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*SYSTEM

保管ファイルはシステム(1)補助記憶域プールに保管されます。

保管ファイルASP名

保管ファイルの保管先の補助記憶域プールの名前を指定します。

保管ファイルASP番号

保管操作の結果として保管ファイルが作成される対象のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プール番号を指定します。

注: このパラメーターの場合には、UDFS, 1次, および2次補助記憶域プールはサポートされません。

[トップ](#)

保管ファイルの保存(SAVFEXP)

この保管操作の結果として作成される保管ファイルの保存期間を指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NONE

保管操作から生成された保管ファイルは保持されません。

*PERM

保管操作から生成された保管ファイルは永続的に保持されます。

満了日 この保管操作から作成された保管ファイルの保持期間を示す日付を指定してください。

[トップ](#)

ASP記憶域限界(MAXSTG)

保管操作中に受け入れ可能な補助記憶域プール(ASP)の最大使用パーセントを指定します。たとえば、入力が90の場合には、補助記憶域プールの使用率が90%を超えるまで保管処理が続けられることを意味します。この上限に達すると、保管処理が停止されて、BRMSログにメッセージが送られます。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

記憶域限界

最大補助記憶域プール使用率限界を指定します。

[トップ](#)

ボリュームの保護(VOLSEC)

この媒体クラスのボリュームにボリューム保護を適用するかどうかを指定します。保護されているボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NO** この媒体クラスにはボリューム保護は適用されていません。ボリューム保護のないボリュームは、誰でも読み取ることができます。

***YES** この媒体クラスの媒体ボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

[トップ](#)

必要ボリューム数(MINVOL)

この媒体ポリシーを使用して保管を行う前に、必要な満了済みボリュームの最小数を指定します。この値は、BRM満了済み媒体の検査(CHKEXPBRM)コマンドを使用したユーザー・ジョブによって調べることができます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NONEを指定しなければなりません。MINVOL(*MEDPCY) を指定した場合には、参照される媒体ポリシーの中の**必要ボリューム数**・フィールドの値を*NONEとしなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NONE**

保管操作が開始される前に、必要なボリュームの最小数を調べる検査は行われません。

ボリュームの数

BRMS保管操作が開始される前に、使用可能になっていなければならない満了済み媒体ボリュームの数を指定してください。指定できる数は1-9999です。

[トップ](#)

ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP)

媒体ボリュームに複写マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に使用されるすべてのボリュームに複写マークが付けられます。保管が完了した後でその保管項目を複写するために、BRMSを使用した媒体の複写コマンドでVOL(*SEARCH)を使用することができます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKDUP(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の複写用のマーク属性の値を*NOにしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NO 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークは付けられません。

*YES 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークが付けられます。

[トップ](#)

履歴の複写マーク付け(MARKHST)

履歴項目に複写マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に作成されるすべての履歴項目に複写マークが付けられます。保管済み項目を複写するには、BRMを使用した媒体の複写コマンドでVOL(*SCHHST)を使用しなければなりません。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKHST(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の履歴の複写マーク付け属性の値を*NOにしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NO 保管操作中に作成される履歴項目には複写マークが付けられません。

*YES 保管操作中に作成される履歴項目に複写マークが付けられます。

[トップ](#)

例

例1: 制御グループの媒体情報の保管

```
SAVMEDIBRM DEV(*MEDCLS) MEDPCY(FULL) OPTION(*OBJ) CTLGRP(CG01)
```

このコマンドは、制御グループCG01のオブジェクト・レベルの情報を保管します。回復情報は、媒体ポリシーFULLに指定されている媒体クラスをサポートする装置に書き込むことができます。

例2: 媒体情報およびアクセス・パスの保管

```
SAVMEDIBRM DEV(*MEDCLS) MEDPCY(FULL) OPTION(*OBJ) ACCPTH(*YES)
```

このコマンドは、媒体ポリシーFULLに指定されている媒体クラスをサポートする装置に、アクセス・パスを含むすべてのBRMSオブジェクト・レベルの回復情報を保管します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM使用のオブジェクトの保管 (SAVOBJBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したオブジェクトの保管(SAVOBJBRM)コマンドによって、個別のオブジェクトまたは同じライブラリーにあるオブジェクトのグループを保管することができます。

ジョブ待ち行列、メッセージ待ち行列、および論理ファイルの場合には、オブジェクトの定義だけが保管され、内容は保管されません。出力待ち行列の内容は、SPLFDTA(*ALL)を使用して保管することができます。そうでない場合には、出力待ち行列のオブジェクト定義だけが保管されます。保管ファイルの内容は、SAVFDTA(*ALL)を使用して保管することができます。そうでない場合には、保管ファイルのオブジェクト定義だけが保管されます。

システムは、テープ上の各オブジェクトのコピーの書き込みによって、または保管ファイルに、指定したオブジェクトを保管します。コマンドが記憶域の開放を指定している場合を除き、オブジェクトはシステムに影響を与えません。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- 装置(DEV)パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または*MEDCLS特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する*CHANGE権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリー中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する*USE権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、SAVOBJまたはSAVCHGOBJ コマンドに対する権限が必要です。
2. 補助記憶域プール(ASPDEV)パラメーターに指定された補助記憶域プール装置に対する*USE権限が必要です。
3. *SAVSYS特殊権限または以下が必要です。
 - 指定されたそれぞれのライブラリーの読み取り権限またはそれらの所有者である。
 - ライブラリーのそれぞれのオブジェクトに対するオブジェクト存在権限。
4. 保管ファイルへ保管する時に、1つのライブラリーしか指定することができません。
5. 活動時保管が使用されている場合を除き、保管中のオブジェクトを保管操作が行われているときに実行中のジョブによって変更することはできません。

6. **ターゲット・リリース(TGTRLS)**パラメーターの値がV5R4M0より前のリリースにより解決される場合には、**スプール・ファイル・データ(SPLFDTA)**パラメーターに*NONEを指定する必要があります。
V5R4M0より前のターゲット・リリースへの復元のために、スプール・ファイルの保管にバックアップ・スプール・ファイル・リストを使用してください。
7. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

このコマンドを使用してTIVOLI STORAGE MANAGER (TSM)サーバーにデータを保管することができます。データをTSMサーバーに保管するためには、次の条件を満たしていなければなりません。

- TSMサーバーには、ユーザー・データしか保管できません。BRMSでは、*IBMタイプのライブラリーをTSMサーバーには保管できません。またBRMSは、QGPL, QUSRBRM, QUSRSYS ライブラリーなど、ユーザー・データと考えられるIBM提供ライブラリーをTSM媒体に保管できません。
- **装置(DEV)**パラメーターには、1つの装置しか指定することができず、またこの装置は、カテゴリ*NETまたは*APPCでなければなりません。
- **場所(LOC)**パラメーターと一緒にDEV(*MEDCLS)を指定して、使用される*NETまたは*APPCカテゴリ装置を識別することができます。
- 媒体ポリシーが**媒体クラス**属性に*ADSM (TSMサーバー) の指定を使用している場合には、**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに媒体ポリシー名を指定することができます。そうでない場合には、MEDPCY(*NONE)を指定できますが、その場合には、**媒体クラス(MEDCLS)**、**移動ポリシー(MOVPCY)**、および**保護ボリューム(VOLSEC)**パラメーターに*ADSMを指定しなければなりません。
- **順序番号(SEQNBR)**パラメーターは*ENDでなければなりません。
- **保管ファイルへの保管(SAVF)**、**ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP)**、および**ヒストリーの複写マーク付け(MARKHST)**パラメーターは*NOでなければなりません。これらのパラメーターに*MEDPCYを指定した場合には、**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターで指定された媒体ポリシーの**保管ファイルへの保管属性**、**ボリュームの複写マーク付け属性**、および**ヒストリーの複写マーク付け属性**の各値は*NOとしなければなりません。
- **必要ボリューム数(MINVOL)**パラメーターは、*NONEでなければなりません。SAVF(*MEDPCY)を指定した場合には、**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターで指定された媒体ポリシーの**必要ボリューム数属性**の値は*NONEでなければなりません。
- *SYNCLIBが**活動時保管(SAVACT)**パラメーターに指定されている場合には、各ライブラリーはグループとしてではなく個々に保管されます。したがって同期メッセージは、ライブラリーのグループごとではなくライブラリーごとに個別に送られ、同期は、ライブラリーをまたがらずに、1つのライブラリー内でのみ行われます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 2
DEV	装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前, *MEDCLS	必須, 定位置 3
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	メンバー	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
MEDPCY	媒体ポリシー	名前, *NONE, *SYSPCY	必須, 定位置 4
PRLRSC	並列装置資源	要素リスト	オプション
	要素 1: 最小資源	1-32, <u>*NONE</u> , *AVAIL	
	要素 2: 最大資源	1-32, <u>*MIN</u> , *AVAIL	
SAVACT	活動時保管	<u>*NO</u> , *LIB, *SYSDFN, *SYNCLIB	オプション
SAVACTWAIT	活動時保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, <u>120</u> , *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, <u>*LOCKWAIT</u> , *NOMAX, *NOCMTBDY	
	要素 3: その他の保留中の変更	0-99999, <u>*LOCKWAIT</u> , *NOMAX	
SAVACTMSGQ	活動メッセージ待ち行列の保管	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動メッセージ待ち行列の保管	名前, <u>*NONE</u> , *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
CTLGRP	制御グループ	名前, <u>*NONE</u> , *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
USEOPTBLK	最適ブロック・サイズの使用	<u>*BKUPCY</u> , *DEV, *NO, *YES	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, <u>*END</u>	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, <u>*CURRENT</u>	オプション
CLEAR	消去	<u>*NONE</u> , *AFTER, *ALL	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	<u>*NO</u> , *YES	オプション
ACCPH	アクセス・パスの保管	<u>*SYSVAL</u> , *NO, *YES	オプション
DTACPR	データ圧縮	<u>*DEV</u> , *NO, *YES	オプション
COMPACT	データ短縮	<u>*DEV</u> , *NO	オプション
SAVFDTA	保管ファイルの内容の保管	<u>*YES</u> , *NO	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	<u>*NONE</u> , *ALL	オプション
OBJJRN	ジャーナル処理されたオブジェクト	<u>*NO</u> , *YES	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, <u>*NONE</u> , *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値	
ASPDEV	補助記憶域プール	名前, <u>*SYSBAS</u> , *CURASPGRP	オプション
EXPDATE	満了日	日付, <u>*MEDPCY</u> , *PERM	オプション
MOVPCY	移動ポリシー	名前, <u>*MEDPCY</u> , *ADSM, *NONE	オプション
MEDCLS	媒体クラス	文字値, <u>*MEDPCY</u> , *ADSM, *SYSPCY	オプション
LOC	場所	名前, <u>*MEDPCY</u> , *ANY, *HOME	オプション
SAVF	保管ファイルへの保管	<u>*MEDPCY</u> , *NO, *YES	オプション
SAVFASP	保管ファイルASP	文字値, <u>*MEDPCY</u> , *SYSTEM	オプション
SAVFEXP	保管ファイルの保存	日付, <u>*MEDPCY</u> , *PERM, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
MAXSTG	ASP記憶域限界	1-99, *MEDPCY	オプション
VOLSEC	ボリュームの保護	*MEDPCY, *ADSM, *NO, *YES	オプション
MINVOL	必要ボリューム数	1-9999, *MEDPCY, *NONE	オプション
MARKDUP	ボリュームの複写マーク付け	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション
MARKHST	履歴の複写マーク付け	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション

トップ

ライブラリー(LIB)

ライブラリーに保管したいオブジェクトが含まれていることを指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

オブジェクト(OBJ)

保管する1つまたは複数のオブジェクトの名前または各オブジェクト・グループの総称名を指定します。すべてのオブジェクトが、**ライブラリー(LIB)**パラメーターで指定されたライブラリー中になければなりません。オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)パラメーターが指定されていない場合には、そのパラメーターの記述にリストされているすべてのオブジェクト・タイプが保管されます。ただし、それらは指定されたライブラリーに入っていて指定された名前を持っていないければなりません。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。

単一値

***ALL** オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)パラメーターに指定された値によって、指定されたライブラリー中のすべてのオブジェクトが保管されます。

その他の値 (反復は最大50回まで)

オブジェクト名

保管する1つまたは複数の特定オブジェクトの名前を指定してください。同じコマンドに総称名と特定名の両方を指定することができます。

総称*オブジェクト名

指定したライブラリー中の保管するオブジェクトのグループの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名とは、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字列です。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前を完全なオブジェクト名であると見なします。

トップ

装置(DEV)

このコマンドで使用される1つ以上の装置を指定します。

単一値

*MEDCLS

このポリシーまたは制御グループの装置が、媒体ポリシーに指定された媒体クラスの密度をサポートする装置タイプに基づいて選択されます。*MEDCLS特殊値は、装置プールの一部である装置、すなわち、いくつかのシステムが1つまたは1セットの装置を共有しているような場合の装置に使用されます。装置は「装置の処理」画面で指定されています。

注: 逐次保管操作に複数の装置を使用したい場合には、使用される各装置ごとに一度ずつ*MEDCLSを4回まで繰り返し使用することができますが、単一値に制限されている仮想テープ装置は例外です。並列装置資源(PRLRSC)パラメータは*NONEでなければなりません。BRMSは、保管操作に割り振ることができる装置の最大数を使用しようとします。並列保管操作に複数の装置を使用したい場合には、*MEDCLSは一度だけ指定し、PRLRSCの最小および最大応答数が1より大きくなければなりません。

その他の値 (反復は最大4回まで)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。指定された装置名は、すでにBRMS装置テーブルの中になければなりません。

このパラメータには複数の値を入力することができます。入力画面が表示されていて、これらの複数個の値を入力するために追加の入力フィールドが必要である場合には、「値の続きは+」の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

注: 複数のシステムでテープ装置または媒体ライブラリー装置(MLB)の使用を共有することができます。装置がテープ装置(MLB装置でない)の時、装置が共有されるよう指示した場合にはBRMSを複数システムによるスタンドアロン装置の使用の管理に役立てることができます。

このコマンドを使用してTSM (ADSM)サーバーにデータを保管することができます。装置のリストの中からTSMタイプのサーバーを1つだけ指定するか、あるいは*MEDCLS (TSMサーバーを選択していなければならない)を指定することができます。装置タイプは*APPC (SNAネットワーク・プロトコルをサポートする)、または*NET (TCPIP プロトコルをサポートする)のいずれかとすることができます。

*NONE

この保管操作の装置はありません。保管データを記憶するために保管ファイルが使用されます。装置*NONEによって作成された保管ファイル内のデータは、BRMSによってテープにコピーされることはありません。これはオンライン・アクセス専用です。

装置名 保管操作に使用する1つ以上の装置の名前を指定してください。複数の装置 (最大4台まで) を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。

注: 逐次保管を実行している場合には、媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を1つだけ指定することができます。並列保管を実行している場合には、複数の媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を指定することができます。

注: DEVが*NONEである場合には、PRLRSCは*NONEでなければなりません。

注: 逐次保管を実行している場合には、媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を1つだけ指定することができます。並列保管を実行している場合には、複数の媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を指定することができます。

オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)

保管するシステム・オブジェクトのタイプを指定します。保管できるオブジェクト・タイプの完全なリストが必要な場合には、カーソルを**オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)**パラメーターに位置づけてF4キーを押してください。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。

単一値

ALL** 名前によって指定され、指定されたライブラリーにあるすべてのオブジェクト・タイプが保管されます。**オブジェクト(OBJ)**パラメーターにALL**も指定されている場合には、保管可能なタイプのライブラリー中のすべてのオブジェクトが保管されます。

その他の値（反復は最大50回まで）

オブジェクト・タイプ

コマンド(*CMD),ファイル(*FILE),またはプログラム(*PGM)などの、保管されるオブジェクトの各タイプの値を指定してください。

トップ

メンバー(MBR)

保管されるデータベース・ファイル・メンバーを指定します。特定のメンバー、総称メンバー名、またはすべてのメンバーを選択することができます。メンバーまたは総称メンバーに**メンバー(MBR)**パラメーターを使用するためには、**オブジェクト(OBJ)**パラメーターを***ALL**または総称にすることはできず、**オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)**パラメーターは***FILE**でなければなりません。

***ALL** 指定したファイルのすべてのメンバーが保管されます。

メンバー名

所要のファイルから保管するメンバーの名前を指定してください。

総称*メンバー名

指定したファイルから保管するメンバーの総称名を指定してください。総称名とは、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字列です。その名前にアスタリスクが指定されていない場合には、システムは名前が完全なメンバー名であると見なします。

トップ

媒体ポリシー(MEDPCY)

この保管コマンドで使用したい媒体ポリシーを指定します。

媒体ポリシーは、次のことを決定するために使用されます。

- 制御グループの処理で使用される媒体に使用する保存のタイプ（日数、日付、またはバージョンなど）。
- この媒体ポリシーで使用する移動ポリシー。
- 使用する媒体クラス。

- 保管ファイルを使用するかどうか。
- 制御グループの処理で作成された保管ファイルに使用する保存のタイプ、すなわち日数または日付。

指定する媒体ポリシーは、BRMS媒体ポリシー・テーブルの中にある媒体ポリシーでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

***SYSPCY**

システム・ポリシーで指定された媒体ポリシーが、この保管操作からの出力ボリュームに割り当てられます。

***NONE**

この保管操作には媒体ポリシーは指定されません。媒体ポリシーの値は、省略時の値***MEDPCY**をもつ各パラメーターごとに保管コマンドで提供しなければなりません。

注: ***NONE**を指定して、データをTSM (ADSM)サーバーに保管する場合には、この保管操作の媒体ポリシーの値の一部である**MOVPCY**、**MEDCLS**、および**VOLSEC**パラメーターに***ADSM**特殊値を指定しなければなりません。省略時の値として***MEDPCY**が指定されている残りのパラメーターに対しては、これまで通り追加の媒体ポリシー値を指定しなければなりません。TSM管理クラス**STANDARD**およびTSMノード***LCL**が保管操作の省略時の値として使用されます。

媒体ポリシー

この保管操作で使用したい媒体ポリシーの名前を指定してください。

トップ

並列装置資源(PRLRSC)

並列保管操作に使用される装置資源の最小数および最大数を指定します。

注: テープへの保管ファイルの転送の場合、並列操作はサポートされていません。

要素 1 : 最小資源数

並列保管に必要な装置資源の最小数を指定します。

注: 媒体ライブラリー装置(**MLB**)が使用されていて、必要な資源が使用できない場合に、コマンドは、ユーザーが指定した期間だけ**MLB**が使用可能になるのを待機します。この待機時間は、***MLB**装置記述の**INLMNTWAIT**に指定された値によって決まります。***TAP**装置が使用されていて、必要な資源が使用できない場合には、コマンドは正常に実行されません。

***NONE**

装置資源は使用されません。保管は、逐次保管として実行されます。TSMまたは仮想テープ装置を使用している時には、***NONE**を指定しなければなりません。

***AVAIL**

保管に使用できる最大数まで、使用可能な装置を使用します。最小値にこの値を指定すると、BRMSはどの使用可能な資源も使用できますが、コマンドの開始時に使用可能な資源が1つしかなかった場合には、その1つの資源を使用して処理を完了します。

I-32 この保管コマンドで使用される装置資源の最小数を指定します。

要素 2 : 最大資源数

装置資源の最大数を指定します。

***MIN** 装置資源の最小数として指定された値を使用します。

***AVAIL**

保管操作に使用できる装置をどれでも使用します。最大値にこの値を指定すると、BRMSはどの使用可能な資源も使用できますが、最少でも最小値要素に指定した値の資源を使用します。

I-32 この保管コマンドで使用される装置資源の最大数を指定します。

トップ

活動時保管(SAVACT)

保管中にオブジェクトを更新できるかどうかを指定します。

注: システムが制限状態であって、SAVACTパラメーターを指定した場合には、保管操作は、SAVACT(*NO)が指定されたものとして実行されます。

注: 制御グループ内で*EXIT特殊操作の一部としてMONSWABRMコマンドを使用している場合には、活動時に保管したい項目の活動時保管フィールドの値が*YESでなければなりません。活動時保管の監視(MONSWABRM)コマンドは、活動時保管メッセージ待ち行列を調べて、ライブラリー同期の終わりを示すメッセージを探します。同期が検出されると、ユーザーはシステムに対してコマンドを出すことができません。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中にオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブによって使用中でも保管することができます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトは、一緒にチェックポイントに達し、互いの関連において一貫性のある状態で保管されます。

注: 数千のオブジェクトをもつライブラリーは、このオプションには大きすぎる可能性があります。

***SYNCLIB**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブによって使用中でも保管することができます。保管操作ですべてのオブジェクトおよびすべてのライブラリーは、一緒にチェックポイントに達し、互いの関連において一貫性のある状態で保管されます。

注: 同期はライブラリーにわたってではなくコマンド内にあるので、最後の保管以降に新規ライブラリーがシステムに追加された場合には、増分*ALLUSRバックアップ項目で*SYNCLIBを使用する時に、複数のチェックポイントが発生します。新規ライブラリーは、ライブラリーの保管(SAVLIB)コマンドを使用して保管されます。変更されたライブラリーは、変更済みオブジェクトの保管(SAVCHGOBJ)コマンドを使用して、最後の全バックアップか最後の増分バックアップのいずれかが最初に行なわれた参照日時とともに保管されます。BRMSでは、増分保管が固有の保管操作の影響を受けるのを防止するために、オブジェクト記述情報の参照日付ではなく独自の参照日付が使用されます。

注: *IBM保管タイプに対して*SYNCLIB選択項目を使用することはできません。

注: ライブラリーを保管ファイルまたはTSMサーバーに保管する場合には、各ライブラリーはグループとしてではなく、個別に保管されます。したがって同期メッセージは、ライブラリーのグループごとではなくライブラリーごとに個別に送られ、同期は、ライブラリーをまたがらずに、1つのライブラリー内でのみ行われます。

*SYSDFN

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブによって使用中でも保管することができます。ライブラリー中のオブジェクトは、別々の時点でチェックポイントに達し、互いの関連において一貫性のある状態で保管されない場合があります。

注: この値を指定すると、サイズに関する一部の制約がなくなり、SAVACT(*LIB)で保管できないライブラリーを保管できるようになります。

トップ

活動時保管待機時間(SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトを待機する、あるいは保留中の変更をもつトランザクションがコミット境界に到達するまで待機する時間を指定します。

要素 1 : オブジェクト・ロック

使用中のオブジェクトごとに、オブジェクトが使用可能となるまで待機する時間を指定します。オブジェクトが指定された時間の間使用中の場合には、そのオブジェクトは保管されません。

使用中のオブジェクトごとに、オブジェクトが使用可能となるまで待機する時間を指定してください。オブジェクトが指定された時間の間使用中の場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、個々のオブジェクト・ロックごとに120秒まで待機します。

*NOMAX

最大待機時間は存在しません。

待機時間

保管操作を続行する前に、個々のオブジェクト・ロックごとに待機する時間（秒）を指定します。有効な値の範囲は、0から99 999までです。

要素 2 : 保留中のレコード変更

チェックポイントが一緒に設定されているオブジェクトのグループごとに、保留中のレコード変更をもつトランザクションがコミット境界に到達するまで待機する時間を指定します。**活動時保管プロンプト**

(SAVACT)パラメーターは、どのオブジェクトにチェックポイントが一緒に設定されているかを判別します。0が指定されている場合には、保管されているすべてのオブジェクトがコミット境界になければなりません。その他の値が指定されている場合には、保管されているオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット境界に到達しなければなりません。指定された時間内にコミット境界に到達しない場合には、*NOCMTBDYが指定されていない限り、保管操作は終了されます。

*LOCKWAIT

システムは、レコード変更のコミット境界について要素 1 で指定された値まで待機します。

*NOCMTBDY

保留中のレコード変更をもつトランザクションがコミット境界に到達することを必要とせず、システムはオブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは保留中のトランザクションと一緒に保管されます。

保留中のトランザクションと一緒に保管されたオブジェクトを復元する場合には、コミット境界に到達するようジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHG コマンド)するまでオブジェクトを使用することはできません。変更を適用または除去するには、その保留中のト

ランザクションについての情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要となります。その変更を適用または除去するまでは、*NOCMTBDYを指定していない場合でも、そのオブジェクトのその後の保管には、保留中のランザクションが組み込まれます。

制約事項:

1. *NOCMTBDYを使用するには、**ターゲット・リリース(TGTRLS)**パラメーターの値が、*CURRENT, V5R3M0,またはそれ以降のリリースでなければなりません。
2. *NOCMTBDYを使用するには、**オブジェクト詳細(OBJDTL)**パラメーターの値が、*YESまたは*MBRでなければなりません。
3. 保管されたライブラリーの名前は、*NOCMTDBYの使用時には、文字Qまたは#で開始することができません。

*NOMAX

最大待機時間は存在しません。

待機時間

保留中のレコード変更をもつランザクションがコミット境界に到達するのを待機する時間（秒）を指定します。有効な値の範囲は、0から99 999までです。

要素 3：その他の保留中の変更

ライブラリーごとに、その他の保留中の変更をもつランザクションがコミット境界に到達するまで待機する時間を指定します。その他の保留中の変更には、以下が含まれます。

- そのライブラリーの、データ定義言語(DDL)オブジェクト・レベル変更。
- 通常保管処理を許可するオプションなしで追加されたAPIコミットメント・リソース。詳細については、[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter/iseries_information_center)のISERIES INFORMATION CENTERにあるシステムAPI参照情報のコミットメント・リソースの追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

指定された時間内にライブラリーのコミット境界に到達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

*LOCKWAIT

システムは、上記にリストされたランザクションのタイプに応じて、要素 1 で指定した値まで、コミット境界に到達するのを待機します。

*NOMAX

最大待機時間は存在しません。

待機時間

上記にリストされたランザクションのタイプに応じて、コミット境界に到達するのを待機する時間（秒）を指定します。有効な値の範囲は、0から99 999までです。

トップ

活動メッセージ待ち行列の保管(SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了したことをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。活動時保管(SAVACT)パラメーターに*SYSDFNまたは*LIB値が指定された時には、保管されるライブラリーごとに別のメッセージが送られます。活動時保管(SAVACT)パラメーターに*SYNCLIB値が指定された時には、保管操作のすべてのライブラリーに1つのメッセージが送られません。

注: BRMSによって複数の保管操作が生成される時には、生成されるコマンドごとに1つのメッセージが送られます。

このパラメーターは、復元操作の後で追加の回復手順が避けられるように既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管するために使用することができます。チェックポイント処理完了メッセージが受け取られるまで、適用業務を停止することができます。

修飾子 1 : 活動時保管メッセージ待ち行列

*NONE

通知メッセージは送られません。

*WRKSTN

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

通知メッセージの送信先のメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子 2 : ライブラリー

*LIBL メッセージ待ち行列を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPL ライブラリーが使用されません。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

制約事項活動時保管メッセージ待ち行列を監視するためにMONSWABRMが使用され、MONSWABRMにLIB(*MSGQ)が指定されている場合には、ここに指定する名前は、MONSWABRMコマンドのMSGQパラメーターの名前と一致しなければなりません。

MONSWABRMは常にライブラリーQUSRBRMのメッセージ待ち行列を使用します。

トップ

制御グループ(CTLGRP)

このコマンドで保管されたオブジェクトと関連づけたい制御グループの名前を指定します。制御グループ名は媒体情報と一緒に保管されます。そして、BRMSコマンド上以外の**制御グループ(CTLGRP)**パラメーターを使用して、制御グループ別に媒体情報のフィルター操作または保管済みオブジェクトの回復をすることができます。

注: 保管には制御グループの属性は使用されません。

保管する項目に対してバージョン制御を使用する場合には、この保管操作は、指定されたバージョン制御の一部として記録されます。バージョン制御は、この制御グループに関連した媒体ポリシーの中に指定されており、「媒体ポリシーの処理」画面を使用して検討することができます。

*NONE

このコマンドに制御グループ名を指定しない。

*ARCGRP

省略時の保存制御グループの名前。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

*BKUGRP

省略時のバックアップ制御グループの名前がすべてのユーザー・データの保管に使用されます。

*SYSGRP

省略時のシステム制御グループの名前がすべてのシステム・データの保管に使用されます。

*SYSTEM

省略時のシステム制御グループの名前が全システムの保管に使用されます。

制御グループ名

保管している項目に割り当てる制御グループの名前を指定します。

トップ

テープの終わリオプション(ENDOPT)

テープの使用時に、保管操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に行われるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

*REWIND

操作の終了後、ボリュームは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

ボリュームは操作の終了後に自動的に巻き戻され、アンロードされます。

トップ

最適ブロック・サイズの使用(USEOPTBLK)

保管操作に最適ブロック・サイズが使用されるかどうかを指定します。

*BKUPCY

バックアップ・ポリシーからの値を最適ブロック・サイズの使用パラメーターに使用します。

*DEV 「装置の処理」画面に指定された値を最適ブロック・サイズの使用パラメーターに使用します。

*NO 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドには、すべての装置タイプによってサポートされている省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープの複写(DUPTAP)コマンドまたはBRM を使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)コマンドを使用して、任意の媒体形式に複写することができます。

***YES** 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用されるブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされているブロック・サイズより大きい場合には、次のようになります。

- パフォーマンスが改善されることがあります。
- 作成されたテープ・ファイルには、使用されたブロック・サイズをサポートする装置とだけ互換性があります。ファイルが使用されたのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複写されていない限り、テープの複写(DUPTAP)およびBRMを使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)などのコマンドではファイルは複写されません。
- データ圧縮(DTACPR)パラメーターの値は無視されます。

トップ

順序番号(SEQNBR)

テープを使用するときに、保管操作に使用される順序を指定します。満了したBRMSボリュームに保管する場合には、*ENDを指定してあっても、BRMSは、そのボリュームの始めから情報の書き込みを始めます。BRMSボリュームに保管しようとしている場合には、BRMSは、使用している出力装置によって、出力ボリュームの論理的な終わり（最後の活動ファイルの終わりの後）から始まるように出力を送ります。たとえば、3490装置はどの順序番号にも書き込むことができますが、6525装置は順序番号1または*ENDにしか書き込むことができません。

***END** 保管操作はボリューム上の最後の活動ファイルの順序番号の後から開始されます。

ファイル順序番号 (1-16,777,215)

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

トップ

ターゲット・リリース(TGTRLS)

保管されているオブジェクトを復元したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在のシステムで実行中のオペレーティング・システムと同じリリースを実行するシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合の*CURRENTは、オブジェクトをV5R2M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、そのオペレーティング・システムの後続リリースが導入されているシステムでも復元することができます。

***PRV** オブジェクトは、モディフィケーション・レベル0の前のオペレーティング・システムのリリースで実行されるシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合の*PRVは、オブジェクトをV5R1M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、これより後のリリースのオペレーティング・システムが導入されているシステムでも復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

ターゲット・リリース

リリースはVXRXXMXの形式で指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R2M0はバージョン5、リリース2、モディフィケーション・レベル0です。

オブジェクトは、指定されたリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

有効な値は現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変更されます。このコマンドでサポートされている最も古いリリース・レベルよりさらに古いリリース・レベルを指定した場合には、サポートされる最も古いリリースを示したエラー・メッセージが出されます。

[トップ](#)

消去(CLEAR)

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルが自動的に消去されるかどうかを指定します。

***NONE**

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルは、自動的に消去されることはありません。まだ消去されていないボリュームが見つかったために保管操作を続行できない場合には、操作員に照会メッセージが送られ、保管操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して保管操作を続行できるように指定することができます。

保管ファイルが消去されていない場合には、照会メッセージが対話式ジョブであればワークステーション・メッセージ待ち行列に送られ、バッチ・ジョブであれば操作員に送られます。保管コマンドを出す前に、保管操作の実行に使用するすべてのボリュームを消去するか、あるいは保管ファイルを空にする必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての未消去のボリュームが自動的に消去されます。保管ファイルへの保管または復元操作の場合には、このオプションは無効です。最初のボリュームが消去されていないために操作を続行できない場合には、照会メッセージがシステム操作員に送られ、システム操作員は操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して操作を続行できるように指定することができます。

***ALL** 保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルはすべて自動的に消去されます。テープが使用され、順序番号が指定されている場合には、そのボリュームが消去され、さらにその順序番号で始まって、最初のボリュームの後にあるすべてのボリュームが消去されます。

[トップ](#)

オブジェクト事前検査(PRECHK)

選択したオブジェクトのいずれかが保管できない場合に保管操作を終了するかどうかを指定します。

***NO** ライブラリーの保管操作は続行され、保管できるオブジェクトだけを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後に、1つまたは複数のオブジェクトを保管するこ

とができない場合には、すべてのデータが書き込まれる前にライブラリーの保管操作が終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行されます。

トップ

アクセス・パス保管(ACCPTH)

保管中の物理ファイルに従属する論理ファイルのアクセス・パスも保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、作成されるアクセス・パスが関係するすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれている場合だけです。各物理ファイルとともに保管される論理ファイルのアクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。作成されるアクセス・パスが関係するすべての物理ファイルは、同じライブラリーに存在していなければなりません。このパラメーターは論理オブジェクトを保管しません。アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元については、「バックアップおよび回復の手引き」を参照してください。

重要：基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが別のライブラリーにある場合には、アクセス・パスが保管されます。しかし、論理ファイルと基礎になっている物理ファイルが別のライブラリーに入っていて、その論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に（災害時回復時またはファイルが削除されていたときなど）存在していない場合には、アクセス・パスは復元されません。それらは再作成されます。論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルの復元操作を可能な限り迅速に行うためには、それらは同じライブラリーになければならず、同時に保管しなければなりません。

*SYSVAL

システム値QSAVACCPTHが、保管されている物理ファイルに依存している論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

- *NO** コマンドに指定されたオブジェクトだけが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。
- *YES** 指定された物理ファイルおよびそれらを通じたすべての適格な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

トップ

データ圧縮(DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

- *DEV** 保管がテープに対して行われ、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェア圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

注：データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

- *NO** データ圧縮は実行されません。
- *YES** ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェア圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていない場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。

データ短縮(COMPACT)

データ短縮が行われるかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置(DEV)パラメーターに指定されたすべての装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が行われます。

注: データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** データ短縮は行われません。

トップ

保管ファイルの内容の保管(SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトに対して、テープまたは別の保管ファイルに保管するのは、保管ファイルの記述か、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方か、を指定します。

***YES** 保管ファイルの記述と内容が保管されます。

***NO** 保管ファイルの記述だけが保管されます。

トップ

スプール・ファイル・データ(SPLFDTA)

保管済み出力待ち行列のスプール・ファイル・データおよび属性を保管するかどうかを指定します。保管されるスプール・ファイルおよび属性は、保管スプール・ファイルの処理(WRKSPLFBRM)コマンドを使用した保管の後に表示できます。

***NONE** スプール・ファイル・データまたは属性が、保管される出力待ち行列と一緒に保管されないよう指定します。

***ALL** すべての使用可能なスプール・ファイル・データおよび属性が、保管される出力待ち行列と一緒に保管されるよう指定します。

トップ

ジャーナル処理されたオブジェクト(OBJJRN)

SAVOBJBRMの場合はこのパラメーターは無視されます。コマンドは*INCRおよび*CUMMLバックアップ・タイプをサポートしないので、OBJJRNパラメーターは適用されません。

オブジェクトの除外(OMITOBJ)

保管操作から除外されるオブジェクトを指定します。最大300個までのオブジェクトまたは総称オブジェクト値を指定することができます。

OMITOBJパラメーターを指定しない場合には、保管操作からオブジェクトは除外されません。

*NONE

保管操作からオブジェクトは除外されません。

要素 1 : オブジェクト

修飾子 1 : オブジェクト

***ALL** オブジェクト・タイプに指定されている値に応じて、指定されたライブラリーの中のオブジェクトが除外されます。

総称*オブジェクト名

オブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)の続いた文字列です。たとえばABC*などです。アスタリスク(*)は任意の有効な文字の代用です。総称名は総称接頭部で始まる名前を持ち、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーを指します。総称(接頭部)名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なオブジェクト名と見なします。

オブジェクト名

保管操作から除外するオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子 2 : ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトが保管操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称*ライブラリー名

ライブラリーの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)の続いた文字列です。たとえばABC*などです。アスタリスク(*)は任意の有効な文字の代用です。総称名は総称接頭部で始まる名前をもつすべてのライブラリー(ユーザーが権限をもっている)を指定します。総称(接頭部)名の中にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名と見なします。

ライブラリー名

保管操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素 2 : オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定されている値に応じて、保管操作からすべてのオブジェクト・タイプが除外されます。

オブジェクト・タイプ

保管操作から除外するオブジェクトのタイプを指定してください。

補助記憶域プール装置(ASPDEV)

このパラメーターは、保管操作に含めることができるライブラリーおよびオブジェクトが入っている補助記憶域プールを指定するために使用します。

***SYSBAS**

システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールからのライブラリーまたはオブジェクトのみが保管に組み込まれることを指定します。

***CURASGRP**

ジョブについて現在設定されている補助記憶域プール・グループからのライブラリーまたはオブジェクトのみが保管に組み込まれることを指定します。システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールからのライブラリーまたはオブジェクトは、保管から除外されます。

補助記憶域プール装置名

名前付き補助記憶域プール装置からのライブラリーまたはオブジェクトのみが保管操作に組み込まれることを指定します。これは1次または2次補助記憶域プールの名前であればなりません。システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールからのライブラリーまたはオブジェクトは、保管から除外されます。

トップ

満了日(EXPDATE)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい満了を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***PERM**

この保管操作からの出力ボリュームは永続的に有効となります。

満了日 この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる有効期限を日付区切り記号の有無にかかわらず指定してください。

トップ

移動ポリシー(MOVPCY)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい移動ポリシーを指定します。

実行しようとするこの保管操作がデータをカテゴリ*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、媒体の使用を制御するのはこの場合、BRMSではなく、TSMサーバーであるので、MOVPCYパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー)を指定しなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ADSM**

媒体移動はTSMサーバーの仕様によって制御されます。

***NONE**

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームと関連づけられる移動ポリシーはありません。

移動ポリシー

この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる移動ポリシーを指定してください。

[トップ](#)

媒体クラス(MEDCLS)

この保管操作で使用される出力ボリュームを選択するために使用したい媒体クラスを指定します。

実行しようとするこの保管操作がデータをカテゴリ*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、媒体の使用を制御するのはこの場合、TSMサーバーであって、BRMSでないので、MEDCLSパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー) を指定しなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ADSM**

保管操作では、TSMサーバーの仕様によって選択および制御される媒体が使用されます。

***NONE**

この保管操作に選択された出力ボリュームと関連づけられる媒体クラスはありません。

***SYSPCY**

この保管操作の出力ボリュームを選択するために、システム・ポリシーの中の媒体クラスの値が使用されます。

媒体クラス

この保管操作の出力ボリュームを選択するのに使用する媒体クラスを指定してください。

[トップ](#)

場所(LOC)

この保管操作で使用される出力ボリュームの選択に使用したい場所を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*ANY 任意の場所からのボリュームがこの保管操作用出力ボリュームとして選択されます。

***HOME**

ホーム場所からのボリュームがこの保管操作用の出力ボリュームとして選択されます。

場所 ボリュームがこの保管操作用の出力ボリュームとして選択される場所を指定してください。

[トップ](#)

保管ファイルへの保管(SAVF)

この保管操作からの出力が保管ファイルに保管されるかどうかを指定します。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。SAVF(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシーの中の**保管ファイルへの保管フィールド**の値を*NOとしなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NO この保管操作からの出力は保管ファイルに保管されません。

*YES この保管操作からの出力は保管ファイルに保管されます。

[トップ](#)

保管ファイルASP (SAVFASP)

この保管操作の結果として保管ファイルが作成される対象のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールを指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***SYSTEM**

保管ファイルはシステム(1)補助記憶域プールに保管されます。

保管ファイルASP名

保管ファイルの保管先の補助記憶域プールの名前を指定します。

保管ファイルASP番号

保管操作の結果として保管ファイルが作成される対象のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プール番号を指定します。

注: このパラメーターの場合には、UDFS, 1次, および2次補助記憶域プールはサポートされません。

[トップ](#)

保管ファイルの保存(SAVFEXP)

この保管操作の結果として作成される保管ファイルの保存期間を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NONE**

保管操作から生成された保管ファイルは保持されません。

***PERM**

保管操作から生成された保管ファイルは永続的に保持されます。

満了日 この保管操作から作成された保管ファイルの保持期間を示す日付を指定してください。

[トップ](#)

ASP記憶域限界(MAXSTG)

保管操作中に受け入れ可能な補助記憶域プール(ASP)の最大使用パーセントを指定します。たとえば、入力が90の場合には、補助記憶域プールの使用率が90%を超えるまで保管処理が続けられることを意味します。この上限に達すると、保管処理が停止されて、BRMSログにメッセージが送られます。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

記憶域限界

最大補助記憶域プール使用率限界を指定します。

[トップ](#)

ボリュームの保護(VOLSEC)

この媒体クラスのボリュームにボリューム保護を適用するかどうかを指定します。保護されているボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

実行しようとする保管操作がデータをカテゴリー*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、ボリューム保護を制御するのはこの場合、TSMサーバーであって、BRMSでないので、VOLSECパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー)を指定しなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*ADSM

ボリューム保護はTSMサーバーの仕様によって制御されます。

***NO** この媒体クラスにはボリューム保護は適用されていません。ボリューム保護のないボリュームは、誰でも読み取ることができます。

***YES** この媒体クラスの媒体ボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

トップ

必要ボリューム数(MINVOL)

この媒体ポリシーを使用して保管を行う前に、必要な満了済みボリュームの最小数を指定します。この値は、BRM満了済み媒体の検査(CHKEXPBRM)コマンドを使用したユーザー・ジョブによって調べることもできます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NONEを指定しなければなりません。MINVOL(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシーの中の**必要ボリューム数**・フィールドの値を*NONEとしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NONE

保管操作が開始される前に、必要なボリュームの最小数を調べる検査は行われません。

ボリュームの数

BRMS保管操作が開始される前に、使用可能になっていなければならない満了済み媒体ボリュームの数を指定してください。指定できる数は1-9999です。

トップ

ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP)

媒体ボリュームに複写マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に使用されるすべてのボリュームに複写マークが付けられます。保管が完了した後でその保管項目を複写するために、BRMSを使用した媒体の複写コマンドでVOL(*SEARCH)を使用することができます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKDUP(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の**複写用のマーク属性**の値を*NOにしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NO 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークは付けられません。

*YES 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークが付けられます。

トップ

履歴の複写マーク付け(MARKHST)

履歴項目に複写マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に作成されるすべての履歴項目に複写マークが付けられます。保管済み項目を複写するには、BRMを使用した媒体の複写コマンドでVOL(*SCHHST)を使用しなければなりません。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKHST(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の履歴の複写マーク付け属性の値を*NOにしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NO 保管操作中に作成される履歴項目には複写マークが付けられません。

*YES 保管操作中に作成される履歴項目に複写マークが付けられます。

トップ

例

例1: 特定のタイプのオブジェクトの保管

```
SAVOBJBRM LIB(MYLIB) OBJ(AP* GLMST) DEV(TAP09)
OBJTYPE(*FILE) MEDPCY(FULL)
```

このコマンドは、装置TAP09を使用して、ライブラリーMYLIBからその名前が文字'AP'で始まる選択したファイル・オブジェクトおよびGLMSTという名前のファイル・オブジェクトを保管します。

例2: ライブラリーからの総称オブジェクトの保管

```
SAVOBJBRM LIB(MYLIB) OBJ(DIST*) DEV(TAP09) MEDPCY(FULL)
```

このコマンドは、装置TAP09を使用して、ライブラリーMYLIBから文字'DIST'で始まるすべてのオブジェクトを保管します。

例3: 特定のタイプのオブジェクトを並列保管します。

```
SAVOBJBRM LIB(MBALIB) OBJ(AP* GLMST) DEV(MLB01)
OBJTYPE(*FILE) MEDPCY(FULL) PRLRSC(2 2)
```

この例では、オブジェクト・タイプが*FILEの場合で、APで始まるすべてのオブジェクトまたはGLMSTと呼ばれるオブジェクトが保管されます。このオブジェクトはライブラリーMBALIBに入っています。これらはMLB01の2つの装置資源に保管されます。

例4: 補助記憶域プール装置上の特定のタイプのオブジェクトの保管

```
SAVOBJBRM LIB(MYLIB) OBJ(AP* GLMST) DEV(TAP09) OBJTYPE(*FILE)
MEDPCY(FULL) ASPDEV(PRIMETIME)
```

このコマンドは、装置TAP09を使用して、補助記憶域プール装置PRIMETIMEに入っているライブラリーMYLIBから、名前が文字'AP'で始まる選択したファイル・オブジェクトおよびGLMSTという名前のファイル・オブジェクトを保管します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM使用のオブジェクト・リスト保管 (SAVOBJLBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したオブジェクト・リストの保管(SAVOBJLBRM)コマンドは、BRMSオブジェクト・リストに指定されているオブジェクトを保管します。リストそのものは保管しません。

ジョブ待ち行列、メッセージ待ち行列、および論理ファイルの場合には、オブジェクトの定義だけが保管され、内容は保管されません。出力待ち行列の内容は、SPLFDTA(*ALL)を使用して保管することができます。そうでない場合には、出力待ち行列のオブジェクト定義だけが保管されます。保管ファイルの内容は、SAVFDTA(*ALL)を使用して保管することができます。そうでない場合には、保管ファイルのオブジェクト定義だけが保管されます。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- 装置(DEV)パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または*MEDCLS特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する*CHANGE権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリー中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する*USE権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、SAVOBJまたはSAVCHGOBJ コマンドに対する権限が必要です。
2. 補助記憶域プール(ASPDEV)パラメーターに指定された補助記憶域プール装置に対する*USE権限が必要です。
3. *SAVSYS特殊権限または以下が必要です。
 - 指定されたそれぞれのライブラリーの読み取り権限またはそれらの所有者である。
 - ライブラリーのそれぞれのオブジェクトに対するオブジェクト存在権限。
4. 保管ファイルへ保管する時に、1つのライブラリーしか指定することができません。
5. 活動時保管が使用されている場合を除き、保管中のオブジェクトを保管操作が行われているときに実行中のジョブによって変更することはできません。
6. ターゲット・リリース(TGTRLS)パラメーターの値がV5R4M0より前のリリースにより解決される場合には、スプール・ファイル・データ(SPLFDTA)パラメーターに*NONEを指定する必要があります。V5R4M0より前のターゲット・リリースへの復元のために、スプール・ファイルの保管にバックアップ・スプール・ファイル・リストを使用してください。

7. 保管タイプ(SAVTYPE)パラメーターの値が*CUMLまたは*INCRの場合は、SPLFDTAパラメーターに*NONEを指定する必要があります。
8. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

このコマンドを使用してTIVOLI STORAGE MANAGER (TSM)サーバーにデータを保管することができます。データをTSMサーバーに保管するためには、次の条件を満たしていなければなりません。

- TSMサーバーには、ユーザー・データしか保管できません。BRMSでは、*IBMタイプのライブラリーをTSMサーバーには保管できません。またBRMSは、QGPL, QUSRBRM, QUSRSYS ライブラリーなど、ユーザー・データと考えられるIBM提供ライブラリーをTSM媒体に保管できません。
- 装置(DEV)パラメーターには、1つの装置しか指定することができず、またこの装置は、カテゴリー*NETまたは*APPCでなければなりません。
- 場所(LOC)パラメーターと一緒にDEV(*MEDCLS)を指定して、使用される*NETまたは*APPCカテゴリー装置を識別することができます。
- 媒体ポリシーが媒体クラス属性に*ADSM (TSMサーバー) の指定を使用している場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに媒体ポリシー名を指定することができます。そうでない場合には、MEDPCY(*NONE)を指定できますが、その場合には、媒体クラス(MEDCLS),移動ポリシー(MOVPCY),および保護ボリューム(VOLSEC)パラメーターに*ADSMを指定しなければなりません。
- 順序番号(SEQNBR)パラメーターは*ENDでなければなりません。
- 保管ファイルへの保管(SAVF), ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP), およびヒストリーの複写マーク付け(MARKHST)パラメーターは*NOでなければなりません。これらのパラメーターに*MEDPCYを指定した場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターで指定された媒体ポリシーの保管ファイルへの保管属性, ボリュームの複写マーク付け属性, およびヒストリーの複写マーク付け属性の各値は*NOとしなければなりません。
- 必要ボリューム数(MINVOL)パラメーターは、*NONEでなければなりません。SAVF(*MEDPCY)を指定した場合には、媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターで指定された媒体ポリシーの必要ボリューム数属性の値は*NONEでなければなりません。
- *SYNCLIBが活動時保管(SAVACT)パラメーターに指定されている場合には、各ライブラリーはグループとしてではなく個々に保管されます。したがって同期メッセージは、ライブラリーのグループごとではなくライブラリーごとに個別に送られ、同期は、ライブラリーをまたがらずに、1つのライブラリー内でのみ行われます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJL	オブジェクト・リスト	名前	必須, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前, *MEDCLS	必須, 定位置 2
MEDPCY	媒体ポリシー	名前, *NONE, *SYSPCY	必須, 定位置 3
PRLRSC	並列装置資源	要素リスト	オプション
	要素 1: 最小資源	1-32, *NONE, *AVAIL	
	要素 2: 最大資源	1-32, *MIN, *AVAIL	
SAVACT	活動時保管	*LIB, *NO, *SYSDFN, *SYNCLIB	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SAVACTWAIT	活動時保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, <u>120</u> , *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, * <u>LOCKWAIT</u> , *NOMAX, *NOCMTBDY	
	要素 3: その他の保留中の変更	0-99999, * <u>LOCKWAIT</u> , *NOMAX	
SAVACTMSGQ	活動メッセージ待ち行列の保管	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動メッセージ待ち行列の保管	名前, * <u>NONE</u> , *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
OBJDTL	オブジェクト明細の保存	* <u>ERR</u> , *MBR, *NO, *OBJ, *YES	オプション
CTLGRP	制御グループ	名前, * <u>NONE</u> , *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
SAVTYPE	保管のタイプ	* <u>FULL</u> , *CUML, *INCR	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	* <u>REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
USEOPTBLK	最適ブロック・サイズの使用	* <u>BKUPCY</u> , *DEV, *NO, *YES	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, * <u>END</u>	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, * <u>CURRENT</u>	オプション
CLEAR	消去	* <u>NONE</u> , *AFTER, *ALL	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	* <u>NO</u> , *YES	オプション
ACCPH	アクセス・パスの保管	* <u>SYSVAL</u> , *NO, *YES	オプション
DTACPR	データ圧縮	* <u>DEV</u> , *NO, *YES	オプション
COMPACT	データ短縮	* <u>DEV</u> , *NO	オプション
SAVFDTA	保管ファイルの内容の保管	* <u>YES</u> , *NO	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	* <u>NONE</u> , *ALL	オプション
REFDATE	参照日	文字値, * <u>REF</u>	オプション
REFTIME	参照時刻	文字値, * <u>REF</u>	オプション
OBJJRN	ジャーナル処理されたオブジェクト	* <u>NO</u> , *YES	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, * <u>NONE</u> , *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, * <u>ALL</u>	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値	
ASPDEV	補助記憶域プール	名前, * <u>SYSBAS</u> , *CURASPGRP	オプション
EXPDATE	満了日	日付, * <u>MEDPCY</u> , *PERM	オプション
MOVPCY	移動ポリシー	名前, * <u>MEDPCY</u> , *ADSM, *NONE	オプション
MEDCLS	媒体クラス	文字値, * <u>MEDPCY</u> , *ADSM, *SYSPCY	オプション
LOC	場所	名前, * <u>MEDPCY</u> , *ANY, *HOME	オプション
SAVF	保管ファイルへの保管	* <u>MEDPCY</u> , *NO, *YES	オプション
SAVFASP	保管ファイルASP	文字値, * <u>MEDPCY</u> , *SYSTEM	オプション
SAVFEXP	保管ファイルの保存	日付, * <u>MEDPCY</u> , *NONE, *PERM	オプション
MAXSTG	ASP記憶域限界	1-99, * <u>MEDPCY</u>	オプション
VOLSEC	ボリュームの保護	* <u>MEDPCY</u> , *ADSM, *NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
MINVOL	必要ボリューム数	1-9999, *MEDPCY, *NONE	オプション
MARKDUP	ボリュームの複写マーク付け	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション
MARKHST	履歴の複写マーク付け	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション

トップ

オブジェクト・リスト(OBJL)

保管操作時にBRMSが使用するようにしたいバックアップ・オブジェクト・リストの名前を指定します。リストは、一緒に保管したいオブジェクトのグループを識別します。リストは、リストの処理(WRKLB RM)コマンドを使用して追加、変更、または表示されます。

これは必須パラメーターです。

トップ

装置(DEV)

このコマンドで使用される1つ以上の装置を指定します。

単一値

*MEDCLS

このポリシーまたは制御グループの装置が、媒体ポリシーに指定された媒体クラスの密度をサポートする装置タイプに基づいて選択されます。*MEDCLS特殊値は、装置プールの一部である装置、すなわち、いくつかのシステムが1つまたは1セットの装置を共有しているような場合の装置に使用されます。装置は「装置の処理」画面で指定されています。

注: 逐次保管操作に複数の装置を使用したい場合には、使用される各装置ごとに一度ずつ*MEDCLSを4回まで繰り返し使用することができますが、単一値に制限されている仮想テープ装置は例外です。並列装置資源(PRLRSC)パラメーターは*NONEでなければなりません。BRMSは、保管操作に割り振ることができる装置の最大数を使用しようとします。並列保管操作に複数の装置を使用したい場合には、*MEDCLSは一度だけ指定し、PRLRSCの最小および最大応答数が1より大きくなければなりません。

その他の値 (反復は最大4回まで)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。指定された装置名は、すでにBRMS装置テーブルの中になければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。入力画面が表示されていて、これらの複数個の値を入力するために追加の入力フィールドが必要である場合には、「値の続きは+」の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

注: 複数のシステムでテープ装置または媒体ライブラリー装置(MLB)の使用を共有することができます。装置がテープ装置(MLB装置でない)の時、装置が共有されるよう指示した場合にはBRMSを複数システムによるスタンドアロン装置の使用の管理に役立てることができます。

このコマンドを使用してTSM (ADSM)サーバーにデータを保管することができます。装置のリストの中からTSMタイプのサーバーを1つだけ指定するか、あるいは*MEDCLS (TSMサーバーを選択していなければ

ならない)を指定することができます。装置タイプは*APPC (SNAネットワーク・プロトコルをサポートする)、または*NET (TCPIP プロトコルをサポートする)のいずれかとすることができます。

***NONE**

この保管操作の装置はありません。保管データを記憶するために保管ファイルが使用されます。装置*NONEによって作成された保管ファイル内のデータは、BRMSによってテープにコピーされることはありません。これはオンライン・アクセス専用です。

装置名 保管操作に使用する1つ以上の装置の名前を指定してください。複数の装置 (最大4台まで) を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。

注: 逐次保管を実行している場合には、媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を1つだけ指定することができます。並列保管を実行している場合には、複数の媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を指定することができます。

注: DEVが*NONEである場合には、PRLRSCは*NONEでなければなりません。

注: 逐次保管を実行している場合には、媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を1つだけ指定することができます。並列保管を実行している場合には、複数の媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を指定することができます。

トップ

媒体ポリシー(MEDPCY)

この保管コマンドで使用したい媒体ポリシーを指定します。

媒体ポリシーは、次のことを決定するために使用されます。

- 制御グループの処理で使用される媒体に使用する保存のタイプ (日数、日付、またはバージョンなど)。
- この媒体ポリシーで使用する移動ポリシー。
- 使用する媒体クラス。
- 保管ファイルを使用するかどうか。
- 制御グループの処理で作成された保管ファイルに使用する保存のタイプ、すなわち日数または日付。

指定する媒体ポリシーは、BRMS媒体ポリシー・テーブルの中にある媒体ポリシーでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

***SYSPCY**

システム・ポリシーで指定された媒体ポリシーが、この保管操作からの出力ボリュームに割り当てられます。

***NONE**

この保管操作には媒体ポリシーは指定されません。媒体ポリシーの値は、省略時の値*MEDPCYをもつ各パラメーターごとに保管コマンドで提供しなければなりません。

注: *NONEを指定して、データをTSM (ADSM)サーバーに保管する場合には、この保管操作の媒体ポリシーの値の一部であるMOVPCY、MEDCLS、およびVOLSECパラメーターに*ADSM特殊値を指定しなければなりません。省略時の値として*MEDPCYが指定されている残りのパラメーターに対しては、これまで通り追加の媒体ポリシー値を指定しなければなりません。TSM管理クラスSTANDARDおよびTSMノード*LCLが保管操作の省略時の値として使用されます。

媒体ポリシー

この保管操作で使用したい媒体ポリシーの名前を指定してください。

[トップ](#)

並列装置資源(PRLRSC)

並列保管操作に使用される装置資源の最小数および最大数を指定します。

注: テープへの保管ファイルの転送の場合、並列操作はサポートされていません。

要素 1 : 最小資源数

並列保管に必要な装置資源の最小数を指定します。

注: 媒体ライブラリー装置(MLB)が使用されていて、必要な資源が使用できない場合に、コマンドは、ユーザーが指定した期間だけMLBが使用可能になるのを待機します。この待機時間は、*MLB装置記述のINLMNTWAITに指定された値によって決まります。*TAP装置が使用されていて、必要な資源が使用できない場合には、コマンドは正常に実行されません。

***NONE**

装置資源は使用されません。保管は、逐次保管として実行されます。TSMまたは仮想テープ装置を使用している時には、*NONEを指定しなければなりません。

***AVAIL**

保管に使用できる最大数まで、使用可能な装置を使用します。最小値にこの値を指定すると、BRMSはどの使用可能な資源も使用できますが、コマンドの開始時に使用可能な資源が1つしかなかった場合には、その1つの資源を使用して処理を完了します。

I-32 この保管コマンドで使用される装置資源の最小数を指定します。

要素 2 : 最大資源数

装置資源の最大数を指定します。

***MIN** 装置資源の最小数として指定された値を使用します。

***AVAIL**

保管操作に使用できる装置をどれでも使用します。最大値にこの値を指定すると、BRMSはどの使用可能な資源も使用できますが、最少でも最小値要素に指定した値の資源を使用します。

I-32 この保管コマンドで使用される装置資源の最大数を指定します。

[トップ](#)

活動時保管(SAVACT)

保管中にオブジェクトを更新できるかどうかを指定します。

注: システムが制限状態であって、SAVACTパラメーターを指定した場合には、保管操作は、SAVACT(*NO)が指定されたものとして実行されます。

注: 制御グループ内で*EXIT特殊操作の一部としてMONSWABRMコマンドを使用している場合には、活動時に保管したい項目の活動時保管フィールドの値が*YESでなければなりません。活動時保管の監視

(MONSWABRM)コマンドは、活動時保管メッセージ待ち行列を調べて、ライブラリー同期の終わりを示すメッセージを探します。同期が検出されると、ユーザーはシステムに対してコマンドを出すことができません。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中にオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブによって使用中でも保管することができます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトは、一緒にチェックポイントに達し、互いの関連において一貫性のある状態で保管されます。

注: 数千のオブジェクトをもつライブラリーは、このオプションには大きすぎる可能性があります。

***SYNCLIB**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブによって使用中でも保管することができます。保管操作ですべてのオブジェクトおよびすべてのライブラリーは、一緒にチェックポイントに達し、互いの関連において一貫性のある状態で保管されます。

注: 同期はライブラリーにわたってではなくコマンド内にあるので、最後の保管以降に新規ライブラリーがシステムに追加された場合には、増分*ALLUSRバックアップ項目で*SYNCLIBを使用する時に、複数のチェックポイントが発生します。新規ライブラリーは、ライブラリーの保管(SAVLIB)コマンドを使用して保管されます。変更されたライブラリーは、変更済みオブジェクトの保管(SAVCHGOBJ)コマンドを使用して、最後の全バックアップか最後の増分バックアップのいずれかが最初に行なわれた参照日時とともに保管されます。BRMSでは、増分保管が固有の保管操作の影響を受けるのを防止するために、オブジェクト記述情報の参照日付ではなく独自の参照日付が使用されます。

注: *IBM保管タイプに対して*SYNCLIB選択項目を使用することはできません。

注: ライブラリーを保管ファイルまたはTSMサーバーに保管する場合には、各ライブラリーはグループとしてではなく、個別に保管されます。したがって同期メッセージは、ライブラリーのグループごとではなくライブラリーごとに個別に送られ、同期は、ライブラリーをまたがらずに、1つのライブラリー内でのみ行われます。

***SYSDFN**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブによって使用中でも保管することができます。ライブラリー中のオブジェクトは、別々の時点でチェックポイントに達し、互いの関連において一貫性のある状態で保管されない場合があります。

注: この値を指定すると、サイズに関する一部の制約がなくなり、SAVACT(*LIB)で保管できないライブラリーを保管できるようになります。

トップ

活動時保管待機時間(SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトを待機する、あるいは保留中の変更をもつトランザクションがコミット境界に到達するまで待機する時間を指定します。

要素 1 : オブジェクト・ロック

使用中のオブジェクトごとに、オブジェクトが使用可能となるまで待機する時間を指定します。オブジェクトが指定された時間の間使用中の場合には、そのオブジェクトは保管されません。

使用中のオブジェクトごとに、オブジェクトが使用可能となるまで待機する時間を指定してください。オブジェクトが指定された時間の間使用中の場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、個々のオブジェクト・ロックごとに120秒まで待機します。

***NOMAX**

最大待機時間は存在しません。

待機時間

保管操作を続行する前に、個々のオブジェクト・ロックごとに待機する時間（秒）を指定します。有効な値の範囲は、0から99 999までです。

要素 2：保留中のレコード変更

チェックポイントと一緒に設定されているオブジェクトのグループごとに、保留中のレコード変更をもつトランザクションがコミット境界に到達するまで待機する時間を指定します。**活動時保管プロンプト (SAVACT)** パラメーターは、どのオブジェクトにチェックポイントと一緒に設定されているかを判別します。0が指定されている場合には、保管されているすべてのオブジェクトがコミット境界になればなりません。その他の値が指定されている場合には、保管されているオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット境界に到達しなければなりません。指定された時間内にコミット境界に到達しない場合には、*NOCMTBDYが指定されていない限り、保管操作は終了されます。

***LOCKWAIT**

システムは、レコード変更のコミット境界について**要素 1**で指定された値まで待機します。

***NOCMTBDY**

保留中のレコード変更をもつトランザクションがコミット境界に到達することを必要とせず、システムはオブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは保留中のトランザクションと一緒に保管されます。

保留中のトランザクションと一緒に保管されたオブジェクトを復元する場合には、コミット境界に到達するようジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHG コマンド)するまでオブジェクトを使用することはできません。変更を適用または除去するには、その保留中のトランザクションについての情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要となります。その変更を適用または除去するまでは、*NOCMTBDYを指定していない場合でも、そのオブジェクトのその後の保管には、保留中のトランザクションが組み込まれます。

制約事項:

1. *NOCMTBDYを使用するには、**ターゲット・リリース(TGTRLS)**パラメーターの値が、*CURRENT, V5R3M0,またはそれ以降のリリースでなければなりません。
2. *NOCMTBDYを使用するには、**オブジェクト詳細(OBJDTL)**パラメーターの値が、*YESまたは*MBRでなければなりません。
3. 保管されたライブラリーの名前は、*NOCMTBDYの使用時には、文字**Q**または**#**で開始することができません。

***NOMAX**

最大待機時間は存在しません。

待機時間

保留中のレコード変更をもつトランザクションがコミット境界に到達するのを待機する時間（秒）を指定します。有効な値の範囲は、0から99 999までです。

要素 3：その他の保留中の変更

ライブラリーごとに、その他の保留中の変更をもつトランザクションがコミット境界に到達するまで待機する時間を指定します。その他の保留中の変更には、以下が含まれます。

- そのライブラリーの、データ定義言語(DDL)オブジェクト・レベル変更。
- 通常保管処理を許可するオプションなしで追加されたAPIコミットメント・リソース。詳細については、[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるシステムAPI参照情報のコミットメント・リソースの追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

指定された時間内にライブラリーのコミット境界に到達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

***LOCKWAIT**

システムは、上記にリストされたトランザクションのタイプに応じて、要素1で指定した値まで、コミット境界に到達するのを待機します。

***NOMAX**

最大待機時間は存在しません。

待機時間

上記にリストされたトランザクションのタイプに応じて、コミット境界に到達するのを待機する時間(秒)を指定します。有効な値の範囲は、0から99 999までです。

トップ

活動メッセージ待ち行列の保管(SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了したことをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。活動時保管(SAVACT)パラメーターに*SYSDFNまたは*LIB値が指定された時には、保管されるライブラリーごとに別のメッセージが送られます。活動時保管(SAVACT)パラメーターに*SYNCLIB値が指定された時には、保管操作のすべてのライブラリーに1つのメッセージが送られます。

注: BRMSによって複数の保管操作が生成される時には、生成されるコマンドごとに1つのメッセージが送られます。

このパラメーターは、復元操作の後で追加の回復手順が避けられるように既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管するために使用することができます。チェックポイント処理完了メッセージが受け取られるまで、適用業務を停止することができます。

修飾子1 : 活動時保管メッセージ待ち行列

***NONE**

通知メッセージは送られません。

***WRKSTN**

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

通知メッセージの送信先のメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2 : ライブラリー

***LIBL** メッセージ待ち行列を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPL ライブラリーが使用されず。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

制約事項活動時保管メッセージ待ち行列を監視するためにMONSWABRMが使用され、MONSWABRMにLIB(*MSGQ)が指定されている場合には、ここに指定する名前は、MONSWABRMコマンドのMSGQパラメーターの名前と一致しなければなりません。

MONSWABRMは常にライブラリーQUSBRMのメッセージ待ち行列を使用します。

[トップ](#)

オブジェクト明細の保存(OBJDTL)

オブジェクト明細を、保管されたオブジェクトのBRMSデータベースで保持するかどうかを指定します。

***ERR** エラーの詳細はBRMSバックアップ・ヒストリーで保持されます。

***MBR** オブジェクトおよびメンバー詳細は、BRMSバックアップ・ヒストリーに保持されます。

注: メンバー・レベル情報が物理ファイルのオブジェクト情報とともに組み込まれ、**スプール・ファイル・データの保管(SPLFDTA)**パラメーターに*ALLが指定されていた場合には、保管済みスプール・ファイル情報が保管済み出力待ち行列に保持されます。

注: この選択項目は*YESと同じです。

***NO** オブジェクト明細はBRMSバックアップ・ヒストリーに保持されません。

***OBJ** オブジェクト明細は、BRMSバックアップ・ヒストリーに保持されます。メンバー・レベル情報または保管済みスプール・ファイル情報は保持されません。

***YES** オブジェクト明細は、BRMSバックアップ・ヒストリーに保持されます。

注: *YESが指定されている時には、オブジェクト情報に加えてメンバー・レベル情報が物理ファイルに保持され、**スプール・ファイル・データの保管(SPLFDTA)**パラメーターに*ALLが指定されていた場合には、保管済みスプール・ファイル情報が保管済み出力待ち行列に保持されます。

[トップ](#)

制御グループ(CTLGRP)

このコマンドで保管されたオブジェクトと関連づけたい制御グループの名前を指定します。制御グループ名は媒体情報と一緒に保管されます。そして、BRMSコマンド上以外の**制御グループ(CTLGRP)**パラメーターを使用して、制御グループ別に媒体情報のフィルター操作または保管済みオブジェクトの回復をすることができます。

注: 保管には制御グループの属性は使用されません。

保管する項目に対してバージョン制御を使用する場合には、この保管操作は、指定されたバージョン制御の一部として記録されます。バージョン制御は、この制御グループに関連した媒体ポリシーの中に指定されており、「媒体ポリシーの処理」画面を使用して検討することができます。

***NONE**

このコマンドに制御グループ名を指定しない。

***ARCGRP**

省略時の保存制御グループの名前。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKUGRP**

省略時のバックアップ制御グループの名前がすべてのユーザー・データの保管に使用されます。

***SYSGRP**

省略時のシステム制御グループの名前がすべてのシステム・データの保管に使用されます。

***SYSTEM**

省略時のシステム制御グループの名前が全システムの保管に使用されます。

制御グループ名

保管している項目に割り当てる制御グループの名前を指定します。

トップ

保管のタイプ(SAVTYPE)

ライブラリー中のすべてのオブジェクトを保管するか、あるいは変更されたオブジェクトだけを保管するかを指定します。

注: バックアップに新規ライブラリーが含まれていて、BRMSにこれらのライブラリーの全バックアップの履歴がない場合には、指定された増分のタイプにかかわらず、全バックアップが実行されます。

***FULL**

ライブラリー中のすべてのオブジェクトを保管します。

***CUML**

変更された項目だけを保管します。*CUMLは、増分保管には最後の全保管以降に変更されたすべてのオブジェクトが含まれることを意味します。

***INCR**

変更された項目だけを保管します。*INCRは、増分保管には最後の増分保管以降に変更されたすべてのオブジェクトが含まれることを意味します。

トップ

テープの終わりオプション(ENDOPT)

テープの使用時に、保管操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に行われるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

***REWIND**

操作の終了後、ボリュームは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

ボリュームは操作の終了後に自動的に巻き戻され、アンロードされます。

[トップ](#)

最適ブロック・サイズの使用(USEOPTBLK)

保管操作に最適ブロック・サイズが使用されるかどうかを指定します。

*BKUPCY

バックアップ・ポリシーからの値を最適ブロック・サイズの使用パラメーターに使用します。

*DEV 「装置の処理」画面に指定された値を最適ブロック・サイズの使用パラメーターに使用します。

*NO 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドには、すべての装置タイプによってサポートされている省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープの複写(DUPTAP)コマンドまたはBRMを使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)コマンドを使用して、任意の媒体形式に複写することができます。

*YES 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用されるブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされているブロック・サイズより大きい場合には、次のようになります。

- パフォーマンスが改善されることがあります。
- 作成されたテープ・ファイルには、使用されたブロック・サイズをサポートする装置とだけ互換性があります。ファイルが使用されたのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複写されていない限り、テープの複写(DUPTAP)およびBRMを使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)などのコマンドではファイルは複写されません。
- データ圧縮(DTACPR)パラメーターの値は無視されます。

[トップ](#)

順序番号(SEQNBR)

テープを使用するときに、保管操作に使用される順序を指定します。満了したBRMSボリュームに保管する場合には、*ENDを指定してあっても、BRMSは、そのボリュームの始めから情報の書き込みを始めます。BRMSボリュームに保管しようとしている場合には、BRMSは、使用している出力装置によって、出力ボリュームの論理的な終わり（最後の活動ファイルの終わりの後）から始まるように出力を送ります。たとえば、3490装置はどの順序番号にも書き込むことができますが、6525装置は順序番号1または*ENDにしか書き込むことができません。

*END 保管操作はボリューム上の最後の活動ファイルの順序番号の後から開始されます。

ファイル順序番号 (1-16,777,215)

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

ターゲット・リリース(TGTRLS)

保管されているオブジェクトを復元したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在のシステムで実行中のオペレーティング・システムと同じリリースを実行するシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合の*CURRENTは、オブジェクトをV5R2M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、そのオペレーティング・システムの後続リリースが導入されているシステムでも復元することができます。

***PRV** オブジェクトは、モディフィケーション・レベル0の前のオペレーティング・システムのリリースで実行されるシステムに復元されます。たとえば、システムでV5R2M0が実行されている場合の*PRVは、オブジェクトをV5R1M0が導入されているシステムで復元したいことを意味します。また、オブジェクトは、これより後のリリースのオペレーティング・システムが導入されているシステムでも復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

ターゲット・リリース

リリースはVXRXXMXの形式で指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R2M0はバージョン5、リリース2、モディフィケーション・レベル0です。

オブジェクトは、指定されたリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで復元することができます。

注: すべてのオブジェクトが他のリリースでターゲットとなるわけではありません。あるリリースで新規となるオブジェクトは、通常前のリリースには保管できません。

有効な値は現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変更されます。このコマンドでサポートされている最も古いリリース・レベルよりさらに古いリリース・レベルを指定した場合には、サポートされる最も古いリリースを示したエラー・メッセージが出されます。

トップ

消去(CLEAR)

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルが自動的に消去されるかどうかを指定します。

***NONE**

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルは、自動的に消去されることはありません。まだ消去されていないボリュームが見つかったために保管操作を続行できない場合には、操作員に照会メッセージが送られ、保管操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して保管操作を続行できるように指定することができます。

保管ファイルが消去されていない場合には、照会メッセージが対話式ジョブであればワークステーション・メッセージ待ち行列に送られ、バッチ・ジョブであれば操作員に送られます。保管コマンドを出す前に、保管操作の実行に使用するすべてのボリュームを消去するか、あるいは保管ファイルを空にする必要があります。

*AFTER

最初のボリュームの後のすべての未消去のボリュームが自動的に消去されます。保管ファイルへの保管または復元操作の場合には、このオプションは無効です。最初のボリュームが消去されていないために操作を続行できない場合には、照会メッセージがシステム操作員に送られ、システム操作員は操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して操作を続行できるように指定することができます。

***ALL** 保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルはすべて自動的に消去されます。テープが使用され、順序番号が指定されている場合には、そのボリュームが消去され、さらにその順序番号で始まって、最初のボリュームの後にあるすべてのボリュームが消去されます。

トップ

オブジェクト事前検査(PRECHK)

選択したオブジェクトのいずれかが保管できない場合に保管操作を終了するかどうかを指定します。

***NO** ライブラリーの保管操作は続行され、保管できるオブジェクトだけを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後に、1つまたは複数のオブジェクトを保管することができない場合には、すべてのデータが書き込まれる前にライブラリーの保管操作が終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行されます。

トップ

アクセス・パス保管(ACCPH)

保管中の物理ファイルに従属する論理ファイルのアクセス・パスも保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、作成されるアクセス・パスが関係するすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれている場合だけです。各物理ファイルとともに保管される論理ファイルのアクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。作成されるアクセス・パスが関係するすべての物理ファイルは、同じライブラリーに存在していなければなりません。このパラメーターは論理オブジェクトを保管しません。アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元については、「バックアップおよび回復の手引き」を参照してください。

重要：基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが別のライブラリーにある場合には、アクセス・パスが保管されます。しかし、論理ファイルと基礎になっている物理ファイルが別のライブラリーに入っていて、その論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に（災害時回復時またはファイルが削除されていたときなど）存在していない場合には、アクセス・パスは復元されません。それらは再作成されます。論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルの復元操作を可能な限り迅速に行うためには、それらは同じライブラリーになければならず、同時に保管しなければなりません。

*SYSVAL

システム値QSAVACCPHが、保管されている物理ファイルに依存している論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

***NO** コマンドに指定されたオブジェクトだけが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。

***YES** 指定された物理ファイルおよびそれらを通じたすべての適格な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

データ圧縮(DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

***DEV** 保管がテープに対して行われ、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェア圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

注: データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェア圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていない場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。

トップ

データ短縮(COMPACT)

データ短縮が行われるかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置(DEV)パラメーターに指定されたすべての装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が行われます。

注: データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** データ短縮は行われません。

トップ

保管ファイルの内容の保管(SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトに対して、テープまたは別の保管ファイルに保管するのは、保管ファイルの記述か、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方か、を指定します。

***YES** 保管ファイルの記述と内容が保管されます。

***NO** 保管ファイルの記述だけが保管されます。

トップ

スプール・ファイル・データ(SPLFDTA)

保管済み出力待ち行列のスプール・ファイル・データおよび属性を保管するかどうかを指定します。また、*YESまたは*MBRがオブジェクト詳細の保存(OBJDTL) パラメーターに指定された場合は、保管スプール・ファイルの処理(WRKSPLFBRM)コマンドを使用した保管の後で、保管されたスプール・ファイルおよび属性を表示できます。

注: スプール・ファイル・データが保管されるのは、**保管のタイプ(SAVTYPE)**パラメーターに*FULLが指定された場合だけです。

***NONE**

スプール・ファイル・データまたは属性が、保管される出力待ち行列と一緒に保管されないよう指定します。

***ALL** すべての使用可能なスプール・ファイル・データおよび属性が、保管される出力待ち行列と一緒に保管されるよう指定します。

[トップ](#)

参照日(REFDATE)

BRMSの制御のもとで実行される増分保管（変更されたオブジェクトの保管）とともに機能します。

***REF** この増分保管の開始点として、この保管操作の最後の全BRMS保管の日付を使用します。

参照日付

この増分保管の開始点として使用するこの保管操作の日付を指定してください。

[トップ](#)

参照時刻(REFTIME)

BRMSの制御のもとで実行される増分保管（変更されたオブジェクトの保管）とともに機能します。

***REF** この増分保管の開始点として、この保管操作の最後の全BRMS保管の時刻を使用します。

参照時刻

この増分保管の開始点として使用するこの保管操作の時刻を時、分、秒(HHMMSS) の形式で指定してください。

[トップ](#)

ジャーナル処理されたオブジェクト(OBJJRN)

現在ジャーナル処理中の変更されたオブジェクトおよびREFDATEおよびREFTIMEパラメーターに指定された日時以降にジャーナル処理済みの変更されたオブジェクトを保管するかどうかを指定します。

***NO** ジャーナル処理中のオブジェクトは保管されません。ジャーナル処理が指定された日付と時刻以降に開始された場合には、変更されたオブジェクトまたはデータベース・ファイル・メンバーが保管されます。最終ジャーナル処理の開始の日付と時刻は、オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドによって表示することができます。

***YES** ジャーナルに入力されている変更の対象のオブジェクトが保管されます。

注: 入力された値は、*INCRまたは*CUMLの保管タイプにのみ適用されます。タイプ*FULLの保管の場合には、この値は常に*YESとして扱われます。

トップ

オブジェクトの除外(OMITOBJ)

保管操作から除外されるオブジェクトを指定します。最大300個までのオブジェクトまたは総称オブジェクト値を指定することができます。

OMITOBJパラメーターを指定しない場合には、保管操作からオブジェクトは除外されません。

*NONE

保管操作からオブジェクトは除外されません。

要素 1 : オブジェクト

修飾子 1 : オブジェクト

***ALL** オブジェクト・タイプに指定されている値に応じて、指定されたライブラリーの中のオブジェクトが除外されます。

総称 * オブジェクト名

オブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)の続いた文字列です。たとえばABC*などです。アスタリスク(*)は任意の有効な文字の代用です。総称名は総称接頭部で始まる名前を持ち、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーを指します。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なオブジェクト名と見なします。

オブジェクト名

保管操作から除外するオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子 2 : ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトが保管操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称 * ライブラリー名

ライブラリーの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)の続いた文字列です。たとえばABC*などです。アスタリスク(*)は任意の有効な文字の代用です。総称名は総称接頭部で始まる名前をもつすべてのライブラリー（ユーザーが権限をもっている）を指定します。総称（接頭部）名の中にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名と見なします。

ライブラリー名

保管操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素 2 : オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定されている値に応じて、保管操作からすべてのオブジェクト・タイプが除外されます。

オブジェクト・タイプ

保管操作から除外するオブジェクトのタイプを指定してください。

トップ

補助記憶域プール装置(ASPDEV)

このパラメーターは、保管操作に含めることができるライブラリーおよびオブジェクトが入っている補助記憶域プールを指定するために使用します。

*SYSBAS

システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールからのライブラリーまたはオブジェクトのみが保管に組み込まれることを指定します。

*CURASGRP

ジョブについて現在設定されている補助記憶域プール・グループからのライブラリーまたはオブジェクトのみが保管に組み込まれることを指定します。システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールからのライブラリーまたはオブジェクトは、保管から除外されます。

補助記憶域プール装置名

名前付き補助記憶域プール装置からのライブラリーまたはオブジェクトのみが保管操作に組み込まれることを指定します。これは1次または2次補助記憶域プールの名前であればなりません。システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールからのライブラリーまたはオブジェクトは、保管から除外されます。

[トップ](#)

満了日(EXPDATE)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい満了を指定します。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*PERM

この保管操作からの出力ボリュームは永続的に有効となります。

満了日 この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる有効期限を日付区切り記号の有無にかかわらず指定してください。

[トップ](#)

移動ポリシー(MOVPCY)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい移動ポリシーを指定します。

実行しようとするこの保管操作がデータをカテゴリー*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、媒体の使用を制御するのはこの場合、BRMSではなく、TSMサーバーであるので、MOVPCYパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー)を指定しなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ADSM**

媒体移動はTSMサーバーの仕様によって制御されます。

***NONE**

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームと関連づけられる移動ポリシーはありません。

移動ポリシー

この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる移動ポリシーを指定してください。

[トップ](#)

媒体クラス(MEDCLS)

この保管操作で使用される出力ボリュームを選択するために使用したい媒体クラスを指定します。

実行しようとするこの保管操作がデータをカテゴリ*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、媒体の使用を制御するのはこの場合、TSMサーバーであって、BRMSでないので、MEDCLSパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー) を指定しなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ADSM**

保管操作では、TSMサーバーの仕様によって選択および制御される媒体が使用されます。

***NONE**

この保管操作に選択された出力ボリュームと関連づけられる媒体クラスはありません。

***SYSPCY**

この保管操作の出力ボリュームを選択するために、システム・ポリシーの中の媒体クラスの値が使用されます。

媒体クラス

この保管操作の出力ボリュームを選択するのに使用する媒体クラスを指定してください。

[トップ](#)

場所(LOC)

この保管操作で使用される出力ボリュームの選択に使用したい場所を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*ANY 任意の場所からのボリュームがこの保管操作用出力ボリュームとして選択されます。

***HOME**

ホーム場所からのボリュームがこの保管操作用の出力ボリュームとして選択されます。

場所 ボリュームがこの保管操作用の出力ボリュームとして選択される場所を指定してください。

[トップ](#)

保管ファイルへの保管(SAVF)

この保管操作からの出力が保管ファイルに保管されるかどうかを指定します。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。SAVF(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシーの中の**保管ファイルへの保管フィールド**の値を*NOとしなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NO この保管操作からの出力は保管ファイルに保管されません。

*YES この保管操作からの出力は保管ファイルに保管されます。

[トップ](#)

保管ファイルASP (SAVFASP)

この保管操作の結果として保管ファイルが作成される対象のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールを指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***SYSTEM**

保管ファイルはシステム(1)補助記憶域プールに保管されます。

保管ファイルASP名

保管ファイルの保管先の補助記憶域プールの名前を指定します。

保管ファイルASP番号

保管操作の結果として保管ファイルが作成される対象のシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プール番号を指定します。

注: このパラメーターの場合には、UDFS, 1次, および2次補助記憶域プールはサポートされません。

[トップ](#)

保管ファイルの保存(SAVFEXP)

この保管操作の結果として作成される保管ファイルの保存期間を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NONE**

保管操作から生成された保管ファイルは保持されません。

***PERM**

保管操作から生成された保管ファイルは永続的に保持されます。

満了日 この保管操作から作成された保管ファイルの保持期間を示す日付を指定してください。

[トップ](#)

ASP記憶域限界(MAXSTG)

保管操作中に受け入れ可能な補助記憶域プール(ASP)の最大使用パーセントを指定します。たとえば、入力が90の場合には、補助記憶域プールの使用率が90%を超えるまで保管処理が続けられることを意味します。この上限に達すると、保管処理が停止されて、BRMSログにメッセージが送られます。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

記憶域限界

最大補助記憶域プール使用率限界を指定します。

[トップ](#)

ボリュームの保護(VOLSEC)

この媒体クラスのボリュームにボリューム保護を適用するかどうかを指定します。保護されているボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

実行しようとする保管操作がデータをカテゴリー*NETまたは*APPCの装置に保管する場合には、ボリューム保護を制御するのはこの場合、TSMサーバーであって、BRMSでないので、VOLSECパラメーターに特殊値*ADSM (TSMサーバー)を指定しなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*ADSM

ボリューム保護はTSMサーバーの仕様によって制御されます。

***NO** この媒体クラスにはボリューム保護は適用されていません。ボリューム保護のないボリュームは、誰でも読み取ることができます。

***YES** この媒体クラスの媒体ボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

トップ

必要ボリューム数(MINVOL)

この媒体ポリシーを使用して保管を行う前に、必要な満了済みボリュームの最小数を指定します。この値は、BRM満了済み媒体の検査(CHKEXPBRM)コマンドを使用したユーザー・ジョブによって調べることもできます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NONEを指定しなければなりません。MINVOL(*MEDPCY) を指定した場合には、参照される媒体ポリシーの中の**必要ボリューム数**・フィールドの値を*NONEとしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NONE

保管操作が開始される前に、必要なボリュームの最小数を調べる検査は行われません。

ボリュームの数

BRMS保管操作が開始される前に、使用可能になっていなければならない満了済み媒体ボリュームの数を指定してください。指定できる数は1-9999です。

トップ

ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP)

媒体ボリュームに複写マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に使用されるすべてのボリュームに複写マークが付けられます。保管が完了した後でその保管項目を複写するために、BRMSを使用した媒体の複写コマンドでVOL(*SEARCH)を使用することができます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKDUP(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の**複写用のマーク属性**の値を*NOにしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NO 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークは付けられません。

*YES 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークが付けられます。

トップ

履歴の複写マーク付け(MARKHST)

履歴項目に複写マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に作成されるすべての履歴項目に複写マークが付けられます。保管済み項目を複写するには、BRMを使用した媒体の複写コマンドでVOL(*SCHST)を使用しなければなりません。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKHST(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の履歴の複写マーク付け属性の値を*NOにしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NO 保管操作中に作成される履歴項目には複写マークが付けられません。

*YES 保管操作中に作成される履歴項目に複写マークが付けられます。

トップ

例

例1: リストのすべてのオブジェクトの保管

```
SAVOBJLBRM OBJL(LISTO) DEV(*MEDCLS *MEDCLS *MEDCLS) MEDPCY(FULL)
```

このコマンドは、オブジェクト・リストLISTOのすべてのオブジェクトを、媒体ポリシーFULLの媒体クラスに指定されている密度をサポートする3つの装置のいずれかに保管します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM使用の保管ファイルの保管 (SAVSAVFBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した保管ファイルの保管(SAVSAVFBRM)コマンドは、BRMSの処理時に作成された保管ファイルをテープに保管します。

各種のパラメーターによって、テープにコピーしたい保管ファイルを選択することができます。たとえば、制御グループと媒体クラスを追加条件としてテープにコピーしたい保管ファイルを組み込むように、保管ファイル作成日の範囲を選択することができます。

SAVSAVFBRMコマンドのスケジュールは、システム・ジョブ・スケジューラーあるいは別のジョブ・スケジューラーを通じて行えるほか、必要に応じて行うことができます。

テープにコピーされるのを待っていない満了済み保管ファイルは、SAVSAVFBRMコマンドの処理時に削除されます。

このコマンドの使用時に**装置(DEVICE)** パラメーターに装置が指定されていないかぎり、装置*NONEで作成された保管ファイルのデータはテープにコピーされません。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- **装置(DEV)**パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または*MEDCLS特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する*CHANGE権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリー中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する*USE権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、SAVSAVFDTAコマンドに対する権限が必要です。SAVSAVFBRMコマンドは、保管済みファイル・データのTSM (ADSM)媒体への転送をサポートしません。
2. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLGRP	制御グループ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前, *NONE, *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
LIB	ライブラリー	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前, *MEDINF	オプション
MEDCLS	媒体クラス	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
PERIOD	保管ファイルの期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日	文字値, <u>*BEGIN</u> , *CURRENT	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日	文字値, <u>*END</u> , *CURRENT	
DEV	装置	単一値: <u>*SAVE</u> その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前, *MEDCLS	オプション
MEDPCY	媒体ポリシー	名前, <u>*SAVE</u> , *SYSPCY	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, <u>1</u> , *END	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	<u>*UNLOAD</u> , *LEAVE, *REWIND	オプション
USEOPTBLK	最適ブロック・サイズの使用	<u>*BKUPCY</u> , *DEV, *NO, *YES	オプション
CLEAR	消去	*AFTER, *ALL, *NONE, <u>*SAVE</u>	オプション
COMPACT	データ短縮	<u>*SAVE</u> , *DEV, *NO	オプション
ALWADLSAVE	後続保管の追加	<u>*NO</u> , *YES	オプション

トップ

制御グループ(CTLGRP)

取り外し可能な媒体にコピーしたい保管ファイルを作成するために処理された制御グループの名前を指定します。

単一値

*ALL 他のパラメーターを満たす制御グループによって作成された保管ファイルが、取り外し可能な媒体にコピーされます。

その他の値 (反復は最大50回まで)

*NONE

保管ファイルを取り外し可能な媒体にコピーするために、制御グループは使用されません。

総称*制御グループ名

総称制御グループ名を指定してください。たとえば、WEEK*を指定すると、名前がWEEKで始まるすべての制御グループが、その保管ファイルが取り外し可能な媒体にコピーされる制御グループに含まれます。

制御グループ名

取り外し可能な媒体にコピーされる保管ファイルをもつ制御グループを指定してください。最大50個の制御グループ名を指定することができます。

注: 既存の制御グループ名を指定するか、あるいは保管操作と対応づけたい名前（その名前が既存の制御グループでなくても）を指定することができます。制御グループ名は媒体情報と一緒に保管され、制御グループによる回復処理時に制御グループ名パラメーターで使用することができます。

[トップ](#)

ライブラリー(LIB)

取り外し可能な媒体にコピーしたい保管ファイルに保管されているライブラリーの名前を指定します。

単一値

***ALL** 他のパラメーター指定を満たす保管ファイルに保管されているすべてのライブラリーが取り外し可能な媒体にコピーされます。

その他の値（反復は最大50回まで）

*MEDINF

保管ファイルに保管されているBRMS媒体情報が取り外し可能媒体にコピーされるようにします。QUSRBRMライブラリーにはBRMS媒体情報が入っています。

総称*ライブラリー名

総称ライブラリー名を指定します。たとえば、APP*を指定すると、APPで始まる名前をもつすべてのライブラリーが、取り外し可能な媒体にコピーされる保管ファイルに保管されているライブラリーに組み込まれます。

ライブラリー名

取り外し可能な媒体にコピーしたい保管ファイルに保管されているライブラリーの名前を指定してください。最大50個のライブラリー名を指定することができます。

[トップ](#)

媒体クラス(MEDCLS)

制御グループと対応した媒体クラス（その保管ファイルを取り外し可能な媒体に移動する）の名前を指定します。

***ALL** 他のパラメーター指定を満たす媒体クラスをもつ保管ファイルが取り外し可能な媒体にコピーされます。

総称*媒体クラス名

媒体クラス名の総称を指定してください。たとえば、CART*を指定すると、名前がCARTで始まるすべての媒体クラスが、取り外し可能な媒体にコピーされる保管ファイルと関連した媒体クラスに含まれます。

媒体クラス名

取り外し可能な媒体にコピーしたい保管ファイルと関連づけられている媒体クラスを指定してください。

[トップ](#)

保管ファイルの期間(PERIOD)

保管ファイルがテープへの保管のために選択される期間を指定します。

要素1: 開始時刻および日付

その時点以降の保管ファイルが組み込まれる開始作成時刻を指定するために、次の1つが使用されます。指定された時刻および日付より前に作成された保管ファイルは、いずれも取り外し可能な媒体へのコピーに選択された保管ファイルには含まれません。

要素1: 開始時刻

*AVAIL

開始日に使用可能なすべての時刻が含まれます。

開始時刻

組み込まれる保管ファイルを指示する指定された開始日の開始時刻を指定してください。

時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしの場合には、4または6桁の文字列(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH=時、MM=分、SS=秒です。時間、分、および秒は、(必要な場合には、先行ゼロを使用して)それぞれが正確に2桁でなければなりません。
- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁の文字列を指定してください。この場合には、時、分、秒を区切るためにジョブに指定された時刻区切り記号を使用します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、文字列をアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号が使用された場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日付

その日以降の保管ファイルが作成されていなければならない開始日を指定するために、次の1つが使用されます。指定された日付より前に作成された項目は、いずれもテープへのコピーには含まれません。

*BEGIN

保管ファイル媒体内容情報の保管ファイルが始めからテープにコピーされます。

*CURRENT

現在日が作成日であり、指定された開始時刻と終了時刻(それが指定された場合)の間にある保管ファイルがテープにコピーされます。

開始日 開始日を指定してください。この日付は、ジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

要素2: 終了時刻および日付

その時点以前の保管ファイルが組み込まれる終了時刻を指定するために、次の1つが使用されます。指定された時刻および日付より後に作成された保管ファイルは、いずれもテープへのコピーに選択された項目には含まれません。

要素1: 終了時刻

*AVAIL

終了日に使用可能なすべての時刻が含まれます。

終了時刻

組み込まれる保管ファイルを指示する指定された終了日の終了時刻を指定してください。

要素2: 終了日付

その日以前の保管ファイルが作成されていないならばならない終了日を指定するために、次の1つが使用されます。指定された日付より後に作成された項目は、いずれもテープへのコピー操作には含まれません。

***END** 保管ファイル媒体内容情報の保管ファイルが終わりまでテープにコピーされます。

***CURRENT**

現在日が作成日であり、それが保管ファイルの最終日である保管ファイルがテープにコピーされます。

終了日 終了日を指定してください。この日付は、ジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

装置(DEV)

選択した保管ファイルをコピーしたい先の装置の名前を指定します。

単一値

***SAVF**

保管ファイルは保管ファイルの作成時に指定された装置にコピーされます。

その他の値 (反復は最大4回まで)

***MEDCLS**

BRMSは保管ファイルに指定されている媒体クラスを判別します。いったん媒体クラスが決定されると、その媒体クラスをサポートする装置が保管ファイルをコピーするために選択されます。

装置名 選択した保管ファイルをコピーしたい先の装置を指定してください。

[トップ](#)

媒体ポリシー(MEDPCY)

BRMSが保管ファイル・データを入れるための媒体を選択する時に使用する媒体ポリシーの名前を指定します。

***SAVF**

保管ファイルの作成時に指定された媒体ポリシーを使用して媒体が割り当てられます。

***SYSPCY**

システム・ポリシーに指定された媒体ポリシーを使用して媒体が割り当てられます。

媒体ポリシー

選択した保管ファイル用に使用したい媒体ポリシーを指定してください。

[トップ](#)

順序番号(SEQNBR)

テープを使用するときに、保管操作に使用される順序を指定します。

注: 満了したBRMSボリュームに保管する場合には、*ENDを指定してあっても、BRMSは、そのボリュームの始めから情報の書き込みを始めます。

注: BRMSに保管しようとしている場合には、BRMSは、使用している出力装置によって、出力ボリュームの論理的な終わり（最後の活動ファイルの終わりの後）から始まるように出力を送ります。たとえば、3490装置はどの順序番号にも書き込むことができますが、6525装置は順序番号1または*ENDにしか書き込むことができません。

1 最初のファイルは順序番号1になります。

***END** 保管操作はボリューム上の最後の活動ファイルの順序番号の後から開始されます。

ファイル順序番号

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。順序番号の範囲は1 - 16,777,215です。

トップ

テープの終わりオプション(ENDOPT)

テープの使用時に、保管操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に行われるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

注: オブジェクトが保管されない場合には、ボリュームはオープンされず、ENDOPTパラメーターは無視されます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

*UNLOAD

保管操作の終了後、ボリュームは自動的に巻き戻され、アンロードされます。

*LEAVE

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

*REWIND

ボリュームは巻き戻されますが、アンロードされません。

トップ

最適ブロック・サイズの使用(USEOPTBLK)

保管操作に最適ブロック・サイズが使用されるかどうかを指定します。

*BKUPCY

バックアップ・ポリシーからの値を最適ブロック・サイズの使用パラメーターに使用します。

- *DEV** 「装置の処理」画面に指定された値を**最適ブロック・サイズの使用パラメーター**に使用します。
- *NO** 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドには、すべての装置タイプによってサポートされている省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープの複写(DUPTAP)コマンドまたはBRMを使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)コマンドを使用して、任意の媒体形式に複写することができます。
- *YES** 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用されるブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされているブロック・サイズより大きい場合には、次のようになります。
- パフォーマンスが改善されることがあります。
 - 作成されたテープ・ファイルには、使用されたブロック・サイズをサポートする装置とだけ互換性があります。ファイルが使用されたのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複写されていない限り、テープの複写(DUPTAP)およびBRMを使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)などのコマンドではファイルは複写されません。
 - データ圧縮(DTACPR)パラメーターの値は無視されます。

トップ

消去(CLEAR)

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルが自動的に消去されるかどうかを指定します。

***SAVF**

保管ファイルの作成時に指定された値を使用します。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての未消去のボリュームが自動的に消去されます。最初のボリュームが消去されていないために操作を続行できない場合には、照会メッセージがシステム操作員に送られ、システム操作員は操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して操作を続行できるように指定することができます。

***ALL** 保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルはすべて自動的に消去されます。テープが使用され、順序番号が指定されている場合には、そのボリュームが消去され、さらにその順序番号で始まって、最初のボリュームの後にあるすべてのボリュームが消去されます。

***NONE**

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルは、自動的に消去されることはありません。まだ消去されていないボリュームが見つかったために保管操作を続行できない場合には、操作員に照会メッセージが送られ、保管操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して保管操作を続行できるように指定することができます。

保管ファイルが消去されていない場合には、照会メッセージが対話式ジョブであればワークステーション・メッセージ待ち行列に送られ、バッチ・ジョブであれば操作員に送られます。保管コマンドを出す前に、保管操作の実行に使用するすべてのボリュームを消去するか、あるいは保管ファイルを空にする必要があります。

トップ

データ短縮(COMPACT)

データ短縮が行われるかどうかを指定します。

*SAVF

保管ファイルの作成時に指定されたデータ短縮値を使用します。

***DEV** データがテープに保管され、装置(DEV)パラメーターに指定されたすべての装置が短縮機能をサポートする場合には、装置データの短縮が実行されます。

***NO** データ短縮は行われません。

[トップ](#)

後続の保管の許可(ALWADLSAVE)

後続の保管ファイル操作で保管ファイルをテープに保管するかどうかを指定します。

***NO** 後続の保管操作で保管ファイルを保管することはできません。保管ファイルは、保管ファイルがテープに保管された後で保守を実行したとき、または保管ファイルが満了したときにシステムから削除されます。

***YES** 後続の保管操作で保管ファイルを保管することができます。保管ファイルは、保守の実行時にシステムから削除されません。この値を指定した場合には、ALWADLSAVE(*NO)を使用して、後続のSAVSAVFBRMコマンドを実行し、これらの保管ファイルをシステムから除去できるようにしなければなりません。

[トップ](#)

例

例1: 取り外し可能媒体への保管ファイルの保管

```
SAVSAVFBRM CTLGRP(BACK*) MEDCLS(QIC1000) BEGIN(*AVAIL '1/1/03')
END(*AVAIL *CURRENT)
```

このコマンドは、媒体クラスQIC1000で保管ファイルを作成したその名前がBACKで始まるすべてのバックアップ制御グループを保管します。保管ファイルの保管先の装置は保管ファイル自体に指定されていて、コマンドでは指定されていません。組み込まれる保管ファイルは、2003/1/1から現在日付までの間に作成された保管ファイルです。作成時刻は問題ではありません。テープへのコピーを待機していない満了済みの保管ファイルは、コマンドの処理時に削除されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1500

保管ファイルの処理が取り消された。

BRM1502

保管ファイルの処理が取り消された。

BRM1504

保管ファイルの処理が取り消された。

BRM1506

保管ファイルの処理が取り消された。

BRM1520

ユーザーの応答で操作が取り消された。

BRM1646

保管操作は取り消された。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM1941

満了媒体の検査に対する応答によって、操作が取り消された。

BRM2265

装置&1を使用してセッションを開始中にエラーが起こった。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用したシステムの保管 (SAVSYSBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したシステムの保管(SAVSYSBRM)コマンドは、オペレーティング・システムの導入と互換性のある形式でライセンス内部コードおよびQSYSライブラリーのコピーを保管します。他のライブラリーからのオブジェクトは保管しません。さらに、これは、機密保護データの保管(SAVSECDTA)および構成の保管(SAVCFG)コマンドを使用しても保管できる機密保護および構成オブジェクトを保管します。

仮想テープ媒体および装置を、このコマンドで使用することができます。以下の制約事項が仮想媒体および仮想装置の使用に適用されます。

- 装置(DEV)パラメーターは、逐次操作に対して単一装置または*MEDCLS特殊値のみに制限されています。
- イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドに対する実行権限が必要です。
- イメージ・カタログに対する*CHANGE権限が必要です。
- イメージ・カタログ・パス名中の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- ロードまたはマウントされる親ディレクトリー中の各イメージ・ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限が必要です。
- イメージ・カタログを使用する仮想装置に対する*USE権限が必要です。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、SAVSYSコマンドに対する権限が必要です。
2. このコマンドを使用するためには、*SAVSYS特殊権限が必要です。
3. すべてのオンライン補助記憶域プール装置に対する*USE権限が必要です。
4. SAVSYSBRMコマンドを使用する時に、すべてのサブシステムが終了します。ENDSYSまたはENDSBSコマンドを使用するためには、ジョブの制御(*JOBCTL)権限が必要です。
5. 導入用に使用されるこのコマンドを使用して作成されたボリュームは、現行の代替IPL装置によってサポートされている密度の媒体クラスで初期設定されていなければなりません。そうしなかった場合には、現行のIPLボリュームは、導入が開始される前に作成されたSAVSYSBRMボリュームの密度をサポートする装置に変更されなければなりません。
6. SAVSYSBRMコマンドを使用して作成されたボリュームは自動導入用に使用することはできません。
7. 装置と関連した媒体クラスは共用媒体*NOを指定しなければなりません。
8. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): 名前, *MEDCLS	必須, 定位置 1
MEDPCY	媒体ポリシー	名前, *NONE, *SYSPCY	必須, 定位置 2
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV, *NO	オプション
CTLGRP	制御グループ	名前, *NONE, *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
USEOPTBLK	最適ブロック・サイズの使用	*BKUPCY, *DEV, *NO, *YES	オプション
OMIT	除外	単一値: *BKUPCY, *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *CFG, *SECDTA, *USRASPAUT	オプション
CLEAR	消去	*NONE, *AFTER, *ALL	オプション
STRCTL SBS	制御サブシステムの開始	*YES, *NO	オプション
EXPDATE	満了日	日付, *MEDPCY, *PERM	オプション
MOVPCY	移動ポリシー	名前, *MEDPCY, *NONE	オプション
MEDCLS	媒体クラス	文字値, *MEDPCY, *SYSPCY	オプション
LOC	場所	名前, *MEDPCY, *ANY, *HOME	オプション
VOLSEC	ボリュームの保護	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション
MINVOL	必要ボリューム数	1-9999, *MEDPCY, *NONE	オプション
MARKDUP	ボリュームの複写マーク付け	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション
MARKHST	ヒストリーの複写マーク付け	*MEDPCY, *NO, *YES	オプション
ASPDEV	補助記憶域プール	名前, *ALLAVL, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプション

トップ

装置(DEV)

システム保管操作に使用される装置の名前を指定します。各装置名は、システム上のBRMS装置テーブル中ですでに認識されていなければなりません。複数装置を指定する場合には、互換性のある媒体クラスを使用しなければなりません。複数の装置を使用する場合には、それらが使用される順に装置の名前を指定してください。最大4つの装置名を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。

装置名 システム保管操作に使用したい1つまたは複数の装置の名前を指定してください。

注: 媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置を1つだけ指定することができます。

*MEDCLS

この保管用の媒体ポリシーに指定された媒体クラスをサポートする装置はすべて、この保管操作に使用することができます。

トップ

媒体ポリシー(MEDPCY)

システム保管の処理の結果として作成中のボリュームの媒体ポリシーを指定してください。

媒体ポリシーは、次のことを決定するために使用されます。

- 制御グループの処理で使用される媒体に使用する保存のタイプ（日数、日付、またはバージョンなど）。
- この媒体ポリシーで使用する移動ポリシー。
- 使用する媒体クラス。
- 保管ファイルを使用するかどうか。
- 制御グループの処理で作成された保管ファイルに使用する保存のタイプ、すなわち日数または日付。

指定する媒体ポリシーは、BRMS媒体ポリシー・テーブルの中にある媒体ポリシーでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

*NONE

この保管操作には媒体ポリシーは指定されません。媒体ポリシーの値は、省略時の値***MEDPCY**をもつ各パラメーターごとに保管コマンドで提供しなければなりません。

*SYSPCY

システム・ポリシーで指定された媒体ポリシーが、この保管操作からの出力ボリュームに割り当てられます。

媒体ポリシー

この保管操作で使いたい媒体ポリシーの名前を指定してください。

[トップ](#)

データ圧縮(DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

***DEV** 保管がテープに対して行われ、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェア圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

注: データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に***DEV**を指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに***YES**を指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに***DEV**を指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェア圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていない場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。

[トップ](#)

データ短縮(COMPACT)

データ短縮が行われるかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置(DEV)パラメーターに指定されたすべての装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が行われます。

注: データ圧縮(DTACPR)パラメーターとデータ短縮(COMPACT)パラメーターの両方に*DEVを指定した場合には、装置で装置データ短縮がサポートされていれば、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置で圧縮がサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

データ圧縮(DTACPR)パラメーターに*YESを指定し、データ短縮(COMPACT)パラメーターに*DEVを指定した場合には、装置でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** データ短縮は行われません。

[トップ](#)

制御グループ(CTLGRP)

このコマンドで保管されたオブジェクトと関連づけたい制御グループの名前を指定します。制御グループ名は媒体情報と一緒に保管されます。そして、BRMSコマンド上以外の制御グループ(CTLGRP)パラメーターを使用して、制御グループ別に媒体情報のフィルター操作または保管済みオブジェクトの回復をすることができます。

注: 保管には制御グループの属性は使用されません。

保管する項目に対してバージョン制御を使用する場合には、この保管操作は、指定されたバージョン制御の一部として記録されます。バージョン制御は、この制御グループに関連した媒体ポリシーの中に指定されており、「媒体ポリシーの処理」画面を使用して検討することができます。

***NONE**
このコマンドに制御グループ名を指定しない。

***ARCGRP**
省略時の保存制御グループの名前。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKUGRP**
省略時のバックアップ制御グループの名前がすべてのユーザー・データの保管に使用されます。

***SYSGRP**
省略時のシステム制御グループの名前がすべてのシステム・データの保管に使用されます。

***SYSTEM**
省略時のシステム制御グループの名前が全システムの保管に使用されます。

制御グループ名
保管している項目に割り当てる制御グループの名前を指定します。

[トップ](#)

テープの終わりオプション(ENDOPT)

テープの使用時に、保管操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に行われるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

*REWIND

操作の終了後、ボリュームは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

ボリュームは操作の終了後に自動的に巻き戻され、アンロードされます。

[トップ](#)

最適ブロック・サイズの使用(USEOPTBLK)

保管操作に最適ブロック・サイズが使用されるかどうかを指定します。

*BKUPCY

バックアップ・ポリシーからの値を**最適ブロック・サイズの使用**パラメーターに使用します。

*DEV 「装置の処理」画面に指定された値を**最適ブロック・サイズの使用**パラメーターに使用します。

*NO 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドには、すべての装置タイプによってサポートされている省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープの複写(DUPTAP)コマンドまたはBRMを使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)コマンドを使用して、任意の媒体形式に複写することができます。

*YES 装置によってサポートされている最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用されるブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされているブロック・サイズより大きい場合には、次のようになります。

- パフォーマンスが改善されることがあります。
- 作成されたテープ・ファイルには、使用されたブロック・サイズをサポートする装置とだけ互換性があります。ファイルが使用されたのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複写されていない限り、テープの複写(DUPTAP)およびBRMを使用した媒体の複写(DUPMEDBRM)などのコマンドではファイルは複写されません。
- データ圧縮(DTACPR)パラメーターの値は無視されます。

[トップ](#)

除外(OMIT)

システム保管時に、構成オブジェクトを除外するか、機密保護オブジェクトを除外するか、追加の基本ユーザー補助記憶域プール情報を除外するかを指定します。

単一値

***BKUPCY**

バックアップ・ポリシーの中の*SAVSYS特殊値として、省略する項目の中に指定されている値を使用します。

***NONE**

このシステム保管操作では、省略は行われません。

その他の値（反復は最大3回まで）

***CFG** このシステム保管操作のすべての構成オブジェクトが省略されます。

***SECDTA**

このシステム保管操作のすべての機密保護オブジェクトが省略されます。

***USRASPAUT**

基本ユーザー補助記憶域プール(2-32)のオブジェクトの追加の権限情報のBRMS保管を除外します。この権限情報には、オブジェクト所有者、権限リスト、および1次グループが含まれます。

[トップ](#)

消去(CLEAR)

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルが自動的に消去されるかどうかを指定します。

***NONE**

保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルは、自動的に消去されることはありません。まだ消去されていないボリュームが見つかったために保管操作を続行できない場合には、操作員に照会メッセージが送られ、保管操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して保管操作を続行できるように指定することができます。

保管ファイルが消去されていない場合には、照会メッセージが対話式ジョブであればワークステーション・メッセージ待ち行列に送られ、バッチ・ジョブであれば操作員に送られます。保管コマンドを出す前に、保管操作の実行に使用するすべてのボリュームを消去するか、あるいは保管ファイルを空にする必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての未消去のボリュームが自動的に消去されます。保管ファイルへの保管または復元操作の場合には、このオプションは無効です。最初のボリュームが消去されていないために操作を続行できない場合には、照会メッセージがシステム操作員に送られ、システム操作員は操作を終了するか、あるいは現在選択されているボリュームを消去して操作を続行できるように指定することができます。

***ALL** 保管操作時に見つかった未消去のボリュームまたは保管ファイルはすべて自動的に消去されます。テープが使用され、順序番号が指定されている場合には、そのボリュームが消去され、さらにその順序番号で始まって、最初のボリュームの後にあるすべてのボリュームが消去されます。

[トップ](#)

制御サブシステムの開始(STRCTL SBS)

システム保管が完了した時に制御サブシステムを自動的に再始動するかどうかを指定します。

***YES** 保管操作が完了した時に制御サブシステムが再始動されます。

***NO** 保管操作が完了した時に制御サブシステムは再始動されません。

トップ

満了日(EXPDATE)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい満了日を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***PERM**

この保管操作からの出力ボリュームは永続的に有効となります。

満了日 この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる有効期限を日付区切り記号の有無にかかわらず指定してください。

トップ

移動ポリシー(MOVPCY)

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームに対して使用したい移動ポリシーを指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NONE**

この保管操作の結果として作成される出力ボリュームと関連づけられる移動ポリシーはありません。

移動ポリシー

この保管操作からの出力ボリュームに割り当てる移動ポリシーを指定してください。

トップ

媒体クラス(MEDCLS)

この保管操作で使用される出力ボリュームを選択するために使用したい媒体クラスを指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NONE**

この保管操作に選択された出力ボリュームと関連づけられる媒体クラスはありません。

***SYSPCY**

この保管操作の出力ボリュームを選択するために、システム・ポリシーの中の媒体クラスの値が使用されます。

媒体クラス

この保管操作の出力ボリュームを選択するのに使用する媒体クラスを指定してください。

[トップ](#)

場所(LOC)

この保管操作で使用される出力ボリュームの選択に使用したい場所を指定します。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***ANY** 任意の場所からのボリュームがこの保管操作出力ボリュームとして選択されます。

***HOME**

ホーム場所からのボリュームがこの保管操作の出力ボリュームとして選択されます。

場所 ボリュームがこの保管操作の出力ボリュームとして選択される場所を指定してください。

[トップ](#)

ボリュームの保護(VOLSEC)

この媒体クラスのボリュームにボリューム保護を適用するかどうかを指定します。保護されているボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NO** この媒体クラスにはボリューム保護は適用されていません。ボリューム保護のないボリュームは、誰でも読み取ることができます。

***YES** この媒体クラスの媒体ボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。

必要ボリューム数(MINVOL)

この媒体ポリシーを使用して保管を行う前に、必要な満了済みボリュームの最小数を指定します。この値は、BRM満了済み媒体の検査(CHKEXPBRM)コマンドを使用したユーザー・ジョブによって調べることができます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NONEを指定しなければなりません。MINVOL(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシーの中の**必要ボリューム数**・フィールドの値を*NONEとしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NONE

保管操作が開始される前に、必要なボリュームの最小数を調べる検査は行われません。

ボリュームの数

BRMS保管操作が開始される前に、使用可能になっていなければならない満了済み媒体ボリュームの数を指定してください。指定できる数は1-9999です。

ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP)

媒体ボリュームに複写マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に使用されるすべてのボリュームに複写マークが付けられます。保管が完了した後でその保管項目を複写するために、BRMSを使用した媒体の複写コマンドでVOL(*SEARCH)を使用することができます。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKDUP(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の**複写用のマーク属性**の値を*NOにしなければなりません。

*MEDPCY

このパラメーターの値は、この保管コマンドの**媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: **媒体ポリシー(MEDPCY)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

*NO 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークは付けられません。

*YES 保管操作で書き込まれるボリュームに複写マークが付けられます。

履歴の複製マーク付け(MARKHST)

履歴項目に複製マークを付けるかどうかを指定します。*YESを選択すると、保管操作中に作成されるすべての履歴項目に複製マークが付けられます。保管済み項目を複製するには、BRMを使用した媒体の複製コマンドでVOL(*SCHHST)を使用しなければなりません。

注: 実行しようとする保管操作がクラス*ADSM (TSMサーバー) の媒体を使用してデータを保管する場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。MARKHST(*MEDPCY)を指定した場合には、参照される媒体ポリシー内の履歴の複製マーク付け属性の値を*NOにしなければなりません。

***MEDPCY**

このパラメーターの値は、この保管コマンドの媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに指定されている媒体ポリシーで指定されます。

注: 媒体ポリシー(MEDPCY)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターに*MEDPCYを指定することはできません。

***NO** 保管操作中に作成される履歴項目には複製マークが付けられません。

***YES** 保管操作中に作成される履歴項目に複製マークが付けられます。

トップ

補助記憶域プール装置(ASPDEV)

このパラメーターは、保管操作に含めることができるライブラリーおよびオブジェクトが入っている補助記憶域プールを指定するために使用します。

***ALLAVL**

バックアップ項目の保管に、システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プール、そして使用可能なすべての1次、2次、およびUDFS補助記憶域プールからのオブジェクトを組み込むことを指定します。

***CURASGRP**

ジョブについて現在設定されている補助記憶域プール・グループからのライブラリーまたはオブジェクトのみが保管に組み込まれることを指定します。システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールからのライブラリーまたはオブジェクトは、保管から除外されます。

***SYSBAS**

システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールからのライブラリーまたはオブジェクトのみが保管に組み込まれることを指定します。

補助記憶域プール装置名

名前付き補助記憶域プール装置からのライブラリーまたはオブジェクトのみが保管操作に組み込まれることを指定します。これは1次または2次補助記憶域プールの名前であればなりません。システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールからのライブラリーまたはオブジェクトは、保管から除外されます。

トップ

例

SAVSYSBRM DEV(TAP09) MEDPCY(SAVSYS)

このコマンドは、ライセンス内部コードおよびQSYSライブラリーのコピーを保管します。この例では、SAVSYSという名前の媒体ポリシーを使用して、装置TAP09に保管しようとしています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用した媒体制御の設定 (SETMEDBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した媒体制御の設定(SETMEDBRM)コマンドには、一組の入力制御と一組の出力制御の2つの別の部分があります。

入力制御は、データが検索または読み取られているボリュームとのみ関係します。

出力制御は、媒体クラス(MEDCLS)パラメーターから始まってテキスト(TEXT)パラメーターまで継続し、データが書き込まれるボリュームに関連があります。たとえば、CPYTOTAP操作を実行する計画がある場合には、SETMEDBRMコマンドを使用して、使用されるボリューム用の移動ポリシーおよび保存日数を事前に割り当てておくことができます。

SETMEDBRMによって指定した制御は、ジョブがリセットされるか、そうでなく別のSETMEDBRMコマンドによって変更されるまで、ジョブに対して有効なままです。現在有効となっている制御値を参照するためには、SETMEDBRMコマンドをコマンド入力行に入力して、F4キーを押してください。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LABEL	入力制御	要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル・ラベル	文字値, *SAME, *ANY, *NONE	
	要素 2: バージョンの選択	1-999, *SAME, *CURRENT	
ALWCNV	変換が使用可能	*SAME, *NO, *YES	オプション
MEDCLS	媒体クラス	文字値, *SAME, *NONE	オプション
MOVPCY	移動ポリシー	名前, *SAME, *NONE	オプション
VOLSEC	ボリュームの保護	*SAME, *NO, *YES	オプション
RET	保存	要素リスト	オプション
	要素 1: 保存タイプ	*SAME, *DATE, *DAYS, *NONE, *PERM, *VERSION	
	要素 2: 媒体の保存	文字値, *SAME	
FILEGRP	ファイル・グループ	名前, *SAME, *NONE, *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
GRPTYPE	ファイル・グループ・タイプ	名前, *SAME, *ARC, *BKU, *NONE	オプション
MARKDUP	ボリュームの複写マーク付け	*SAME, *NO, *YES	オプション
MARKHST	履歴の複写マーク付け	*SAME, *NO, *YES	オプション
TEXT	テキスト	文字値, *SAME, *NONE	オプション

[トップ](#)

入力制御(LABEL)

媒体に関係した後続の入力操作でユーザー・ジョブに強制されるファイル・ラベルおよびバージョン選択制御を指定します。これらの制御は、リセットされるか、あるいは別のSETMEDBRMコマンドによって変更されるまでは、有効となっています。

要素1: ファイル・ラベル

*SAME

この値について前のSETMEDBRM指定がある場合には、それが引き続き有効となります。

***ANY** ファイル・ラベル、バージョン選択制御は、このジョブによって入力用に引き続き処理される任意のファイルに適用されます。

***NONE**

このジョブに有効なファイル・ラベル、バージョン選択制御はありません。

ファイル・ラベル

ファイル・ラベル、バージョン選択制御は、ここに指定されたファイル・ラベルと一致するラベルをもつファイルに対してだけ適用されます。

要素2: バージョンの選択

ファイル・ラベルのほかに、どのバージョンのファイルを使用するかを指定することができます。BRMSは、マウントするボリュームを判別するために、媒体内容のインベントリと一緒に、ここで指定されるファイル・ラベルおよびバージョンを使用します。ボリュームが見つからない場合には、それを示すメッセージが出されます。

*SAME

この値について前のSETMEDBRM指定がある場合には、それが引き続き有効となります。

***CURRENT**

ファイルの最新のバージョンが使用されます。

バージョン番号

*CURRENTバージョンに関連したファイルのどのバージョンをマウントするかを指定してください。たとえば、バージョン1は、*CURRENTバージョンの直前に取られたバージョンを意味します。

[トップ](#)

変換可能(ALWCNV)

媒体に関係する後続の入力操作において、ジョブに対する変換制御が実行されるかどうかを指定します。これらの制御は、リセットされるか、あるいは別のSETMEDBRMコマンドによって変更されるまでは、有効となっています。

*SAME

この値について前のSETMEDBRM指定がある場合には、それが引き続き有効となります。

***NO** 媒体上にASCIIデータが見つかっていても、それをEBCDICに変更しません。

***YES** 媒体上にASCIIデータが見つかった場合には、それをEBCDICに変更します。

媒体クラス(MEDCLS)

出力操作に媒体が必要である時に使用される媒体のタイプを指定します。ここで指定する媒体クラスは、後続のマウント操作を制御するためにBRMSによって使用されます。これらの制御は、リセットされるか、あるいは別のSETMEDBRMコマンドによって変更されるまでは、有効となっています。

*SAME

この値について前のSETMEDBRM指定がある場合には、それが引き続き有効となります。

*NONE

媒体クラスの適用は実行されません。

媒体クラス

媒体クラスの名前を指定してください。このクラスの媒体は、出力操作で媒体が必要な時にだけ使用可能です。

移動ポリシー(MOVPCY)

ジョブによって媒体への書き込みが一度でも行われた場合に、その媒体に使用する必要がある移動ポリシーを指定することができます。この値は、ジョブがリセットされるか、そうでなく別のSETMEDBRMコマンドによって変更されるまで、ジョブに対して有効なままです。

*SAME

この値について前のSETMEDBRM指定がある場合には、それが引き続き有効となります。

*NONE

ボリュームに移動ポリシーは割り当てられません。

移動ポリシー

ジョブが一度でもデータを媒体に書き込んだ場合に、その媒体の物理的な移動を制御するために使用される移動ポリシーの名前を指定してください。媒体にすでに有効となっている移動ポリシーがあった場合には、この移動ポリシーは割り当てられません。

ボリュームの保護(VOLSEC)

ボリュームが後続の読み取り操作に対して保護されるかどうかを指定します。保護されているボリュームは、特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが読み取ることができます。この値は、ジョブがリセットされるか、そうでなく別のSETMEDBRMコマンドによって変更されるまで、ジョブに対して有効なままです。

*SAME

この値について前のSETMEDBRM指定がある場合には、それが引き続き有効となります。

***NO** 媒体は保護されません。保護されていない媒体は、誰でも読み取ることができます。

***YES** 媒体は保護されます。特殊権限*ALLOBJまたは*SAVSYSをもつユーザーだけが、保護されている媒体を読み取ることができます。

保存(RET)

このボリュームに使用したい保存のタイプを指定してください。特定の**保存タイプ**の指定には、別に**媒体の保存明細**が必要です。保存タイプ・パラメーターは保存のタイプを指定し、媒体の保存パラメーターは指定した保存タイプに該当する数値または日付を指定します。たとえば、保持期間タイプが*VERSIONとして指定され、媒体の保持期間が4の場合には、媒体の4つのバージョンの情報がBRMSによって管理されます。

要素1: 保存タイプ

*SAME

この値について前のSETMEDBRM指定がある場合には、それが引き続き有効となります。

***DATE**

保存日付が割り当てられるようにします。日付は、日付区切り記号の有無にかかわらず、ジョブ日付の形式で指定されます。BRMSでは、指定した保持日付が割り当てられた媒体を、その日付を過ぎるまで満了させることはできません。

***DAYS**

データが媒体に書き出された時に始まる、日数で計算された保存日数が割り当てられるようにします。満了日は、指定した日数に基づいて計算されます。BRMSでは、この保持期間タイプの媒体は、その日付を過ぎるまでは満了することはできません。

***NONE**

ボリュームに保存タイプが割り当てられていません。

***PERM**

データが永続的に保存されるようにします。BRMSでは、*PERMデータを含む媒体を満了させることはできません。

注: *PERMを指定した場合には、**媒体の保存**の指定は無視されます。

***VERSION**

このファイルの選択したバージョンの数が媒体に保存されるようにします。BRMSでは、この保持期間になっている媒体を、BRMSインベントリーのバージョンの数が指定されたバージョンの数を超えるまで満了させることはできません。

要素2: 媒体保存

*SAME

この値について前のSETMEDBRM指定がある場合には、それが引き続き有効となります。

保存日付

保存タイプ(RET)パラメーターが*DATEの場合には、保存日付を指定してください。

日数 保存タイプが*DAYSである場合の日数を指定してください。

バージョンの数

保存タイプが*VERSIONである場合のバージョンの数を指定してください。

ファイル・グループ(FILEGRP)

現在のSETMEDBRMコマンドで使いたいファイル・グループを指定します。

*SAME

この値について前のSETMEDBRM指定がある場合には、それが引き続き有効となります。

*NONE

ファイル・グループ名は割り当てられません。

ファイル・グループ

書き出されているデータが属しているファイル・グループの名前を指定してください。

*ARCGRP

データは省略時の保存制御グループに属しています。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

*BKUGRP

データは省略時のユーザー・データ・バックアップ制御グループに属します。

*SYSGRP

データは省略時のシステム・データ制御グループに属します。

*SYSTEM

データは省略時のシステム全体バックアップ制御グループに属します。

トップ

ファイル・グループ・タイプ(GRPTYPE)

書き出されているデータが属しているファイル・グループのタイプを指定します。

*SAME

この値について前のSETMEDBRM指定がある場合には、それが引き続き有効となります。

*ARC ファイル・グループ・タイプは保存ファイル・グループ・タイプです。

注: *ARCは特殊値ではありませんが、これが保存ファイル・グループ・タイプであることを示します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

*BKU ファイル・グループ・タイプはバックアップ・ファイル・グループ・タイプです。

注: *BKUは特殊値ではありませんが、これがバックアップ・ファイル・グループ・タイプであることを示します。

*NONE

ファイル・グループ・タイプは割り当てられません。

ファイル・グループ・タイプ

書き出されるデータが属しているファイル・グループ・タイプの名前を指定してください。ファイル・グループ・タイプの例としてはQBRMBKUPがあり、これはバックアップ制御グループ・ファイルのグループ・タイプであることを示します。

トップ

ボリュームの複写マーク付け(MARKDUP)

ボリュームが複写された後そのボリュームに複写のマークを付けるかどうかを指定します。

*SAME

この値について前のSETMEDBRM指定がある場合には、それが引き続き有効となります。

***NO** ボリュームに複写を示すマークを付けません。

***YES** ボリュームに複写を示すマークを付けます。

トップ

履歴の複写マーク付け(MARKHST)

履歴項目が複写された後で、それらの項目に複写のマークを付けるかどうかを指定します。

*SAME

この値について前のSETMEDBRM指定がある場合には、それが引き続き有効となります。

***NO** 履歴項目に複写のマークを付けません。

***YES** 履歴項目に複写のマークを付けます。

トップ

テキスト(TEXT)

書き込み中のデータを簡単に記述するテキストを指定します。このテキストは、BRMS媒体インベントリに表示できます。

*SAME

この値について前のSETMEDBRM指定がある場合には、それが引き続き有効となります。

***NONE**

テキストは指定されません。

テキスト

50桁を超えないアポストロフィで囲まれたテキストを指定してください。

トップ

例

例1: 入力制御の使用

```
SETMEDBRM LABEL(*ANY 1) ALWCNV(*YES)
```

このコマンドは、バージョン番号が最新のバージョンより1つ大きいファイルが読み取られるように入力制御を設定します。ASCIIデータが見つかった場合には、EBCDICに変換します。

例2: 出力制御の使用

```
SETMEDBRM MEDCLS(QIC1000) MOVPCY(OFFSITE) RET(*DATE '3/3/03')
```

このコマンドは、出力操作に媒体クラスQIC1000を使用し、出力制御が有効の間に作成されたボリュームに移動ポリシーOFFSITEと保存日付2003/3/3を割り当てるように出力制御を設定します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMの検索制御の設定 (SETRTVBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRM検索制御の設定(SETRTVBRM)コマンドを使用することによって、検索操作がユーザーのジョブによって実行される時にどのような働きをするかを変更することができます。

SETRTVBRMによって指定した制御は、ユーザーのジョブの期間、またはそれらのジョブがリセットされるか、あるいは別のSETRTVBRMコマンドによって変更されるまで有効です。このコマンドを使用して指定した制御はジョブが終了すると保持されません。現在有効となっている制御値を参照するためには、SETRTVBRMコマンドをコマンド入力行に入力して、F4キーを押してください。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。
2. このコマンドを使用して、TSMサーバー装置からデータを検索できます。指定できるのは、TSM装置を選択する必要がある*MEDCLSの1つのTSM装置だけです。選択するTSM装置は、SNAをサポートする*APPCか、TCP/IPをサポートする*NETのいずれかにできます。
3. ALWOBJDIFパラメーターに*NONE以外の値を使用するためには、*ALLOBJ特殊権限が必要です。
4. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。
5. 逐次検索操作で選択できる仮想テープ装置は1つだけです。さらに、仮想テープ装置の密度を指定する媒体クラスの使用時には、指定できる*MEDCLSも1つだけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	検索装置	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション、定位置 1
PRLRSC	並列装置資源	要素リスト	オプション
	要素 1: 最小資源	1-32, <u>*SAV</u> , *AVAIL, *NONE	
	要素 2: 最大資源	1-32, <u>*MIN</u> , *AVAIL	
RECALL	検索の確認	要素リスト	オプション
	要素 1: 対話式操作	<u>*SAME</u> , *DELAY, *NONE, *NOTIFY, *RTVPCY, *SBMJOB, *VERIFY	
	要素 2: バッチ操作	<u>*SAME</u> , *DELAY, *NONE, *NOTIFY, *RTVPCY, *VERIFY	
RTVAUT	検索の権限	<u>*SAME</u> , *ADD, *ALL, *CHANGE, *DLT, *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJOPR, *READ, *RTVPCY, *UPD, *USE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ENDOPT	テープの終わりオプション	<u>*SAME</u> , *LEAVE, *REWIND, *RTVPCY, *UNLOAD	オプション
RSTOPT	オプション	<u>*SAME</u> , *ALL, *FREE, *NEW, *OLD, *RTVPCY	オプション
ALWBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: <u>*SAME</u> , *ALL, *NONE, *RTVPCY その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *AUTL, *FILELVL, *OWNER, *PGP	オプション
STG	ASP高記憶限界値	1-95, <u>*SAME</u> , *ASP, *RTVPCY, *SYS	オプション
RET	検索されたオブジェクトの保存	0-9999, <u>*SAME</u> , *ARC, *NOMAX, *RTVPCY	オプション
EXTEND	使用時の保存延長	0-9999, <u>*SAME</u> , *RTVPCY	オプション
RESET	使用日数カウンターの再設定	<u>*SAME</u> , *NO, *RTVPCY	オプション

トップ

検索装置(DEV)

検索操作に使用される装置名を指定します。検索処理には、単一の装置を使用しなければなりません。

このコマンドを使用してTSM (ADSM)サーバーからデータを復元することができます。TSMタイプのサーバーを1つだけ指定するか、あるいは*MEDCLS (TSMサーバーを選択していなければならない) を指定することができます。選択する装置は*APPC (SNA ネットワーク・プロトコルをサポートする) または*NET (TCPIPプロトコルをサポートする) のいずれかとすることができます。

単一値

*SAME

この値の前の指定があれば、それが使用されます。

その他の値 (反復は最大4回まで)

*MEDCLS

BRMSは、要求した項目が保管される媒体の媒体クラスを判別します。媒体クラスが判別されると、その媒体クラスに指定された密度をサポートしている装置が、要求された1つまたは複数の保管項目を検索するために選択されます。

装置名 検索操作に使用される装置の名前を指定してください。

トップ

並列装置資源(PRLRSC)

復元操作に使用される装置資源の最小数および最大数を指定します。

要素 1 : 最小資源数

並列復元に必要な装置資源の最小数を指定します。

注: 媒体ライブラリー装置(MLB)が使用されていて、必要な資源が使用できない場合に、コマンドは、MLBが使用可能になるのをユーザーによって指定された期間だけ待機します。この待機時間は、INLMNTWAITについて*MLB装置記述に指定された値によって決まります。*TAP装置が使用されていて、必要な資源が使用できない場合には、コマンドは正常に実行されません。

注: テープへの保管ファイルの転送の場合、並列操作はサポートされていません。

***SAV** 保管に使用されたのと同じ数の装置資源が復元に使用されることを指定します。保管が逐次保管であった場合には、復元も逐次になります。

***AVAIL**

指定された最大値まで使用可能な数の装置を使用します。最小値にこの値を指定すると、BRMSは使用可能ないくつの資源でも使用できますが、コマンドの開始時にただ1つの資源しか使用可能でない場合には、その1つの資源を使用するだけです。

***NONE**

装置資源は使用されません。復元は、逐次復元として実行されます。

I-32 この復元コマンドで使用される装置資源の最小数（保管に使用された最大数まで）指定します。

要素2：最大資源数

***MIN** 装置資源の最小数として指定された値を使用します。

***AVAIL**

使用可能ないくつの装置でも使用します。最大値にこの値を指定すると、BRMSは使用可能ないくつの資源でも使用できますが、少なくとも最小値要素に指定された値だけは使用します。

I-32 この復元コマンドで使用される装置資源の最大数を（保管に使用された最大数まで）指定します。

トップ

検索の確認(RECALL)

対話式ジョブまたはバッチ・ジョブで検索操作がどのように処理されるかを指定します。

要素1: 対話式操作

***SAME**

この値の前の指定があれば、それが使用されます。

***DELAY**

検索操作を延期します。これらのオブジェクトは後でBRMを使用した検索の再開(RSMRTVBRM)コマンドを使用して検索することができます。

***NONE**

BRMSが検索操作を実行するようにしません。

***NOTIFY**

オブジェクトは直ちに検索されます。状況メッセージは、検索操作が行われていることを指示します。

***RTVPCY**

検索ポリシーからの値がこの値に使用されます。

***SBMJOB**

検索するオブジェクトがバッチ・ジョブを使用して検索されるようにします。

***VERIFY**

検索される各オブジェクトごとにメッセージが送られます。ユーザーは検索操作を続行するか、延期するか、または取り消すことができます。

要素2: バッチ操作

*SAME

この値の前の指定があれば、それが使用されます。

***DELAY**

検索操作を延期します。これらのオブジェクトは後でBRMを使用した検索の再開(RSMRTVBRM)コマンドを使用して検索することができます。

***NONE**

検索処理がバイパスされるようにします。

***NOTIFY**

オブジェクトは直ちに検索されます。状況メッセージは、検索操作が行われていることを指示します。

***RTVPCY**

検索ポリシーに指定された値が使用されます。

***VERIFY**

検索される各オブジェクトごとにメッセージが送られます。ユーザーは検索操作を続行するか、延期するか、または取り消すことができます。

トップ

権限の検索(RTVAUT)

BRMSが検索要求を処理できるようにするために必要な最小権限を指定します。**権限の検索(RTVAUT)**パラメーターに指定した値が、要求を行ったユーザーの権限レベルに対して検査されます。検索時点で権限リストが検査されます。要求されたオブジェクトに対するユーザーの権限レベルが**権限の検索(RTVAUT)**パラメーターに指定された権限レベルに等しいかそれ以上の場合には、BRMSはオブジェクトの検索を許可します。オブジェクトに対するユーザーの権限が**権限の検索(RTVAUT)**パラメーターに指定された権限より小さい場合には、検索要求は実行されません。

たとえば、**権限の検索(RTVAUT)**パラメーターの値が*READでユーザーがオブジェクトに対して*OBJEXIST権限を持っている場合には、オブジェクトに対するユーザーの権限が検索ポリシーで指定された最小権限より大きいので、BRMSは要求されたオブジェクトを検索します。**権限の検索(RTVAUT)**パラメーターが*OBJEXISTで、ユーザーが要求されたオブジェクトに対する*READ権限を持っている場合には、ユーザーの権限が検索ポリシーで指定された必要な最小権限より小さいので、検索要求は処理されません。

*SAME

この値の前の指定があれば、それが使用されます。

***ADD** 追加権限が検査されます。

***ALL** オブジェクト・タイプにかかわらず、オブジェクトに対するオブジェクト操作権限、オブジェクト管理権限、オブジェクト存在権限、およびすべてのデータ権限が検査されます。

***CHANGE**

オブジェクト・タイプにかかわらず、オブジェクトに対するオブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限が検査されます。

***DLT** 削除権限が検査されます。

***OBJEXIST**

オブジェクトの所有権および存在権を制御するための権限を提供するオブジェクト存在権限が検査

されます。これらの権限は、オブジェクトの所有権を削除し、記憶域を解放し、保管し、検索し、または転送したいユーザーに必要です。(ユーザーが特殊なシステムの保管(*SAVSYS)権限をもっている場合には、オブジェクト存在権限を必要としません。)

***OBJMGT**

オブジェクトのアクセスおよび使用可能性を管理するための権限を提供するオブジェクト管理権限が検査されます。オブジェクト管理権限を有するユーザーは、オブジェクトの移動、名前変更、およびデータベース・ファイルへのメンバーの追加を行えるだけでなく、自らが所有する権限の認可(および取り消し)を行うこともできます。

***OBJOPR**

オブジェクトのアクセスおよび使用可能性を管理するための権限を提供するオブジェクト操作権限が検査されます。オブジェクト操作権限と関連したデータ権限はありません。

***READ**

読み取り権限が検査されます。

***RTVPCY**

検索ポリシーからの値がこの値に使用されます。

***UPD** 更新権限が検査されます。

***USE** オブジェクト・タイプにかかわらず、オブジェクト操作権限および読み取り権限が検査されます。

[トップ](#)

テープの終わりオプション(ENDOPT)

テープの使用時に、検索操作の終了後にボリュームでどんな位置指定操作が自動的に実行されるかを指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームに対してだけ適用されます。他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達した時に巻き戻され、アンロードされます。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置であれば、保管操作の後で装置はオフに構成変更されません。

*LEAVEを指定して、装置が共用装置でなければ、保管操作の後で装置がオフに構成変更されます。

***SAME**

この値の前の指定があれば、それが使用されます。

***LEAVE**

操作の終了後、ボリュームは巻き戻しも、アンロードもされません。ボリュームは装置上の現在の位置に留まります。

***REWIND**

検索操作の終了後にボリュームは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***RTVPCY**

検索ポリシーからの値がこの値に使用されます。

***UNLOAD**

検索操作の終了後にボリュームは自動的に巻き戻され、アンロードされます。

[トップ](#)

オプション(RSTOPT)

オブジェクトがシステム上のライブラリーに存在しているかどうかによって、検索されるオブジェクトを指定します。

***SAME**

この値の前の指定があれば、それが使用されます。

***ALL** 保管されたライブラリー中のすべてのオブジェクトが検索されてライブラリーに入れられます。ボリューム上または保管ファイル中の古いオブジェクトによって、システム上のライブラリーの現行バージョンが置き換えられます。現行バージョンのないオブジェクトがシステム上のライブラリーに追加されます。現在ライブラリーの中にあるが、媒体上にはないオブジェクトは、そのままライブラリーに残されます。

***FREE**

保管されたオブジェクトは、システム・ライブラリーに存在し、そのスペースが解放された場合にのみ検索されます。各オブジェクトの保管されたバージョンは、検索されてシステム中の前に解放されたそのスペースに入れられます。このオプションは、保管された時にそのスペースが解放されたオブジェクトを検索します。保管されたオブジェクトのうち、もはやライブラリーの現行バージョンの一部でないもの、あるいは空間が解放されていないものは、検索されません。検索操作は続行され、解放されたすべてのオブジェクトが検索されます。

***NEW** 保管されたライブラリーにあってシステム上のライブラリーの現行バージョンに存在しないオブジェクトだけがライブラリーに追加されます。システム上のライブラリーに認識されていないオブジェクトだけが検索されます。認識されているオブジェクトは検索されません。このオプションは、保管された後に削除されたオブジェクト、あるいはこのライブラリーにとっては新規のオブジェクトを検索します。保管されたオブジェクトであっても、システム上のライブラリーにすでにそのバージョンがあるオブジェクトは検索されず、各オブジェクトについて通知メッセージが送られますが、検索操作は続行されます。

***OLD** ライブラリー中に保管されたバージョンのあるオブジェクトだけが検索されます。すなわち、現在ライブラリーの中にある各オブジェクトのバージョンは、保管されたバージョンで置き換えられます。ライブラリーに認識されているオブジェクトだけが検索されます。保管されたオブジェクトがライブラリーのオンライン・バージョンの一部でなくなった場合には、ライブラリーに追加されません。各オブジェクトについて通知メッセージが送られますが、検索は続行されます。

***RTVPCY**

検索ポリシーからの値がこの値に使用されます。

[トップ](#)

オブジェクト差異可能(ALWOBIDIF)

保管済みのオブジェクトと復元されるオブジェクトとの間の差異が許されるかどうかを指定します。これらの差異には次のものがあります。

- **権限リスト:** システム上のオブジェクトの権限リストが、保管操作からのオブジェクトの権限リストと異なる。あるいは、権限リスト付きの新規オブジェクトの復元先のシステムが、それが保管されているシステムと異なる。
- **ファイル・レベルID:** システム上のデータベース・ファイルの作成日時が、保管されたファイルの作成日時と一致していない。

- **メンバー・レベルID:** システム上のデータベース・ファイル・メンバーの作成日時が、保管されたメンバーの作成日時と一致していない。
- **所有権:** システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なる。
- **1次グループ:** システム上のオブジェクトの1次グループが、保管操作からのオブジェクトの1次グループと異なる。

注: このパラメーターを使用するためには*ALLOBJ特殊権限が必要です。

単一値

*SAME

この値の前の指定があれば、それが使用されます。

- ***ALL** 上記にリストされたすべての差異が復元操作で許可されます。ファイル・レベルIDおよびメンバーIDの差異は、*FILELVL値とは別に処理されます。ファイル・レベルの差異があつて、**データベース・メンバーのオプション・フィールド(MBROPT)**パラメーターに*ALLが指定されている場合には、ファイルの既存のバージョンの名前が変更されて、そのファイルの保管済みバージョンが復元されます。メンバー・レベルの差異がある場合には、メンバーの既存のバージョンの名前が変更されて、メンバーの保管済みバージョンが復元されます。この値は、保管済みデータを復元しますが、その結果が正しくなるとは限りません。その他の差異について、差異を処理する方法を判別するには、個々の値の記述を参照してください。

注: SAVOBJまたはSAVCHGOBJで保管されたオブジェクトを復元しようとする場合には、BRMSはこれらのオブジェクトが名前変更されないように、そのパラメーターをALWOBJDIF(*FILELVL *AUTL *OWNER *PGP)に変更します。

*NONE

上にリストされた差異は復元操作では許可されません。差異を処理する方法を判別するには、個々の値の記述を参照してください。

*RTVPCY

検索ポリシーからの値がこの値に使用されます。

その他の値 (反復は最大4回まで)

*AUTL

権限リストの差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる権限リストのオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管元とは異なるシステムに復元される新規オブジェクトは、復元されてその権限リストにリンクされません。新規のシステムに権限リストが存在していない場合には、共通権限が*EXCLUDEに設定されます。

この値が指定されていない場合には、権限リストの差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる権限リストをもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。保管元とは異なるシステムに復元される新規オブジェクトは復元されますが、その権限リストにはリンクされず、共通権限は*EXCLUDEに設定されます。

*FILELVL

ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの差異が、許可されます。

保管媒体が、システム上の物理ファイルと異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDをもつ場合でも、既存の物理ファイルを復元する試みが行われます。物理ファイル・データは、システム上の対応する物理ファイルの形式レベルIDと一致する保管媒体上の形式レベルIDをもつ物理ファイルについてのみ、復元されます。

この値が指定されていない場合には、ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDをもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。

***OWNER**

所有権の差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる所有者のオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されていない場合には、所有権の差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる所有者をもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの差異が許可されます。

保管済みのオブジェクトとは異なる1次グループのオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトはシステム上のオブジェクトの1次グループで復元されます。

この値が指定されていない場合には、1次グループの差異は許可されません。保管済みのオブジェクトとは異なる1次グループをもつオブジェクトがすでにシステム上にある場合には、そのオブジェクトは復元されません。

[トップ](#)

ASP高記憶域限界値(STG)

オブジェクトを検索する時に超えることができない補助記憶域プール高限界値の値を指定します。この限界を超えるとオブジェクトは検索されませんが、そのオブジェクトはスペースの不足が検索を延期する理由であるという指示を付けて、後で検索する(RSMRTVBRMコマンドを使用して) オブジェクトのリストに載せられます。特殊値*SYSは、BRMSが補助記憶域プールの高記憶域限界値の値についてシステム情報を参照することを示します。

***SAME**

この値の前の指定があれば、それが使用されます。

***ASP** BRMS補助記憶域プール記述に指定された補助記憶域プール高限界値の値が使用されます。補助記憶域プール高限界値の値は、ASP記述の処理(WRKASPBRM)コマンドを処理することによって表示することができます。参照値が*NONE（補助記憶域プールがBRMSによって管理されていないことを示す）の場合には、オブジェクトは検索されず、補助記憶域プール高記憶域限界値が*NONEであるために検索は行われなかったことを示すメッセージがBRMSログに入れられます。そうでない場合には、BRMSは参照された限界と検索されるオブジェクトのサイズを使用して、限界値を超えるかどうかを判別します。限界値を超える場合には、そのオブジェクトは検索されず、スペースの不足が検索を延期する理由であるという指示を付けて、後で検索する(RSMRTVBRMコマンドを使用して) オブジェクトのリストに載せられます。この補助記憶域プールについてBRMS情報が存在していない場合には、BRMSはその補助記憶域プールのためにオペレーティング・システムの高限界値の値を使用します。

***RTVPCY**

検索ポリシーからの値がこの値に使用されます。

***SYS** システムの補助記憶域プール限界値によって識別された通りの高記憶域限界値が使用されます。

ASP高記憶域限界値

オブジェクト検索の結果として超えることができない補助記憶域プールの記憶域容量の最大パーセントを指定します。パーセントは1-95の範囲とすることができます。

トップ

検索されたオブジェクトの保存(RET)

検索されたオブジェクトをシステム上に保存する期間を指定します。オブジェクト保存日数が経過すると、保守が実行された時に、そのオブジェクトと関連づけられている記憶域が解放されます。

***SAME**

この値の前の指定があれば、それが使用されます。

***ARC** 検索されたオブジェクトは、保存処理が行われた時に指定された保存値があれば、それを使用します。オブジェクトの保存時にオブジェクト保持期間が指定されていないと、BRMSは*NOMAXを使用します。

***NOMAX**

検索されたオブジェクトはいつまでも保存されます。

***RTVPCY**

検索ポリシーからの値がこの値に使用されます。

日数 検索されたオブジェクトの記憶域を解放せずにそのオブジェクトを使用可能なままにしておく日数を指定してください。日数は0-9999の範囲とすることができます。

トップ

使用時の保存延長(EXTEND)

検索されたオブジェクトが検索操作後に再び使用された場合に、そのオブジェクトの保存を延長する日数を指定します。最終使用日に追加する日数（範囲は0-9999）を選択することによって、新しい保存日を決定することができます。

***SAME**

この値の前の指定があれば、それが使用されます。

***RTVPCY**

検索ポリシーからの値がこの値に使用されます。

日数 検索されたオブジェクトが検索操作後に再び使用された場合にそのオブジェクトの保存を延長する日数を指定してください。日数は0-9999の範囲とすることができます。

トップ

リセット(RESET)

オブジェクトの動的検索時に使用日数カウンターのカウンターがリセットされるかどうかを指定します。

***SAME**

この値の前の指定があれば、それが使用されます。

***NO** 使用日数カウントは、オブジェクトの動的検索時にゼロにリセットされません。

***RTVPCY**

検索ポリシーからの値がこのパラメーターに使用されます。

***YES** 使用日数カウントは、オブジェクトの動的検索時にゼロにリセットされます。

[トップ](#)

例

例1: ユーザー・ジョブのBRMS検索操作に対する制御値のリセット

```
SETRTVBRM DEV(TAP01) RECALL(*NOTIFY *NOTIFY) RTVAUT(*READ)
```

このコマンドは、ユーザーのジョブ中に行われる検索操作では装置TAP01が使用され、実行時には単に通知されるだけで、オブジェクトの検索には読み取り権限だけが必要なように制御値を設定します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1134

装置&1が見つからない。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMのユーザー使用法の設定 (SETUSRBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMのユーザー使用状況の設定(SETUSRBRM)コマンドによって、ユーザーまたはグループ・プロファイルに関する機能使用状況値を設定またはリセットすることができます。

このコマンドでは、登録機能を使用して、システムによって登録された各BRMS機能ごとにBRMSが推奨する使用状況オプションが設定されます。SETUSRBRMは、BRMS オブジェクトに対する機密保護を制御するものではありません。BRMSオブジェクトに対するユーザー権限の保守をするためには、I5/OSの機密保護を使用してください。

詳細については、BACKUP, RECOVERY AND MEDIA SERVICESの"THE FUNCTIONAL USAGE MODEL AND BRMS SECURITY CONSIDERATIONS" の項を参照してください。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. SETUSRBRMコマンドを使用するためには、*SECADM権限が必要です。
2. このコマンドを使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー	文字値, *DEFAULT	必須, 定位置 1
USAGE	使用法	文字値, *OPERATOR, *ADMIN	オプションル

[トップ](#)

ユーザー(USER)

ユーザーまたはグループ・プロファイルに与えられるBRMSの使用状況を指定します。これは必須パラメーターです。

ユーザーまたはグループ・プロファイル

既存のユーザーまたはグループ・プロファイルの名前を指定してください。指定されたユーザーまたはグループ・プロファイルの使用状況がBRMS機能について設定されます。

*DEFAULT

BRMS機能について省略時の共通使用状況が設定されます。

使用状況(USAGE)

ユーザー(USER)パラメーターに指定されたユーザーまたはグループ・プロファイルに与えられる使用状況を指定します。特定の使用状況制御は、ISERIESナビゲーターを使用して調整することができます。

BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES機能にナビゲートするには、ISERIESナビゲーター階層のシステム名をクリックして、「適用業務管理の構成」タスクをクリックするか、あるいは「ファイル」を選択して、「適用業務管理」をクリックしてください。「ホスト適用業務」タブの下にリストされているBACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIESフォルダーをオープンします。

*OPERATOR

ユーザー(USER)パラメーターに指定されたユーザーまたはグループ・プロファイルには、操作員に推奨されるBRMS機能に対する使用状況が与えられます。これには、次のものがあります。

- 基本保存活動
- 基本バックアップ活動
- 基本媒体活動
- 基本移行活動
- 基本移動活動

*ADMIN

ユーザー(USER)パラメーターに指定されたユーザーまたはグループ・プロファイルには、管理者に推奨されるすべてのBRMS機能に対する使用状況が与えられます。

トップ

例

例1: 管理者の使用状況の設定

```
SETUSRBRM USER(PAYROLL) USAGE(*ADMIN)
```

このコマンドは、すべてのBRMS機能のグループ・プロファイル'PAYROLL'の使用状況を与えます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用した保存の開始 (STRARCBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した保存の開始(STRARCBRM)コマンドは、制御グループを選択して、保存処理を開始します。保存をただちに開始するか、あるいはシステム・ジョブ・スケジューラーを使用してスケジュールすることができます。処理はバッチまたは対話式とすることができます。

注: オプション(OPTION)パラメーターの省略時の値は*REPORTで、保存候補の報告書が作成されます。保存を実行するためには、OPTIONパラメーターを*ARCHIVEに変更しなければなりません。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。
- *REPORTオプションを選択すると、特殊値*LOADおよび*EXITは無視されます。
- 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLGRP	制御グループ	名前, *ARCGRP	必須, 定位置 1
OPTION	実行オプション	*REPORT, *ARCHIVE	オプション
SCDTIME	スケジュール時刻	10 進数, *IMMED	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *NO	オプション
JOBID	ジョブ記述	単一値: *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *JOBID その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

制御グループ(CTLGRP)

保存用にスケジュールしたい制御グループの名前を指定します。

保存制御グループは、共通した保存特性を共用するリストおよび特殊値のグループです。保存ストラテジーを完成させるために、複数の保存制御グループを作成することができます。

これは必須フィールドです。

***ARCGRP**

省略時の保存制御グループが処理されます。省略時の保存制御グループは、BRMS保存ポリシー中にセットアップされます。

制御グループ名

処理したいQUARTERLYのような保存制御グループの名前を指定してください。

[トップ](#)

実行オプション(OPTION)

保存用または保存処理用の候補の報告書を作成するかどうかを指定してください。

注: 実際の保存の処理の前に、常に保存用の候補の報告書(*REPORTオプション)を実行する必要があります。*REPORTオプションを使用すると、特殊値*LOADおよび*EXITは処理されません。

***REPORT**

保存候補報告書を作成したい場合に指定します。3つの保存候補報告書があります。報告書およびそれらが書き出される印刷装置ファイルは次の通りです。

- DLO保存候補報告書-QP1A8ARF
- オブジェクト保存候補報告書-QP1AARC
- スプール・ファイル保存候補報告書-QP1AOQ

***ARCHIVE**

保存を処理したい場合に指定します。3つの保存報告書があります。報告書およびそれらが書き出される印刷装置ファイルは次の通りです。

- DLO保存報告書-QP1A8ARF
- オブジェクト保存報告書-QP1AARC
- スプール・ファイル保存報告書-QP1AOQ

[トップ](#)

スケジュール時刻(SCDTIME)

BRMSが保存の処理を開始するようにしたい時刻を指定します。

***IMMED**

保存をただちに開始します。

スケジュール時刻

保存を開始したい時刻を時間および分で指定してください。時刻は24時間時計形式'HHMM'で表されます。

[トップ](#)

バッチへの投入(SBMJOB)

選択した制御グループに必要な処理方法を指定します。

***YES** 制御グループの処理をバッチに投入します。ジョブは、後続のパラメーターに指定されるジョブ待ち行列およびジョブ記述によって異なります。

***NO** 現行ジョブの中の制御グループの処理を実行します。

[トップ](#)

ジョブ記述(JOBD)

このジョブで使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

***USRPRF**

投入済みジョブが実行されるユーザー・プロファイルのジョブ記述が、投入済みジョブのジョブ記述として使用されます。

修飾子1: ジョブ記述

名前 ジョブで使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブ記述を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列(JOBQ)

このジョブが入られるジョブ待ち行列を指定します。

単一値

***JOBQ**

投入済みジョブは、指定されたジョブ記述で名前が指定されているジョブ待ち行列に入れられます。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 投入済みジョブが入られるジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブ待ち行列を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ジョブ待ち行列を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1: 保存候補の報告書の作成

```
STRARCBRM CTLGRP(ARCH01) SCHTIME(1230)
```

このコマンドは、12:30 P.M.に保存制御グループARCH01の処理を開始します。すべての保存候補の報告書が作成されます。

例2: 保存の処理

```
STRARCBRM CTLGRP(ARCH01) OPTION(*ARCHIVE) SCHTIME(1230)
```

このコマンドは、12:30 P.M.に保存制御グループARCH01を使用して保存を開始します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1034

制御グループ&1,タイプ&2が取り消された。

BRM1391

制御グループ&2,タイプ&3が取り消された。

BRM1393

制御グループ&2,タイプ&3が取り消された。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRM使用のバックアップの開始 (STRBKUBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したバックアップの開始(STRBKUBRM)コマンドは、バックアップする制御グループを選択します。ただちにバックアップを開始するか、あるいはシステム・ジョブ・スケジューラーを使用してスケジューリングすることができます。処理はバッチまたは対話式とすることができます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。
2. 項目出口プログラムをバックアップするための*USE権限と、バックアップ項目出口プログラムを含むライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLGRP	制御グループ	名前, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	必須, 定位置 1
SCDTIME	スケジュール時刻	10 進数, *IMMED	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *CONSOLE, *CTLSBS, *NO	オプション
STRSEQ	開始順序	要素リスト	オプション
	要素 1: 番号	1-9999, *FIRST	
	要素 2: ライブラリー	名前, *FIRST	
APPEND	媒体への付加	*CTLGRPATR, *BKUPCY, *NO, *YES	オプション
JOBDD	ジョブ記述	単一値: *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *JOBDD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIVITY	活動	*CTLGRPATR, *FULL, *INCR	オプション
RETENTION	保存	要素リスト	オプション
	要素 1: 保存タイプ	*CTLGRPATR, *DAYS, *PERM	
	要素 2: 媒体の保存	1-9999, 35	
OMITS	除外	*PROCESS, *IGNORE	オプション

制御グループ(CTLGRP)

バックアップ用にスケジュールしたい制御グループの名前を指定します。

バックアップ制御グループは、共通したバックアップ特性を共用するライブラリー、特殊値、およびリストのグループです。バックアップ・ストラテジーを完了させるために、複数のバックアップ制御グループを作成することができます。

これは必須フィールドです。

*BKUGRP

省略時のバックアップ制御グループが処理されます。省略時のユーザー・データ・バックアップ制御グループは、BRMSバックアップ・ポリシー中にセットアップされます。

*SYSGRP

省略時のシステム・バックアップ制御グループが処理されます。省略時のシステム・データ制御グループは、BRMSの導入時にセットアップされます。

*SYSTEM

省略時のバックアップ制御グループが処理されます。省略時のシステム全体バックアップ制御グループは、BRMSバックアップ・ポリシー中にセットアップされます。

制御グループ名

処理したいDAILYのようなバックアップ制御グループの名前を指定してください。

トップ

スケジュール時刻(SCDTIME)

BRMSがバックアップの処理を開始するようにしたい時刻を指定します。

*IMMED

バックアップをただちに開始します。

開始時刻

バックアップを開始したい時刻を時間および分で指定してください。時刻は24時間時計形式 'HHMM' で表されます。

トップ

バッチへの投入(SBMJOB)

選択した制御グループに必要な処理方法を指定します。

***YES** 制御グループの処理をバッチに投入します。ジョブは、後続のパラメーターに指定されるジョブ待ち行列およびジョブ記述によって異なります。

*CONSOLE

制御グループの処理をシステム・コンソールに移します。この特殊値は、BRMSのコンソール・モニター機能で使用されます。

*CTLSBS

バッチ処理のために制御グループを制御サブシステムのQ1ACTLSBSジョブ待ち行列に投入します。

注: 制御グループですべてのサブシステムを終了する必要がある場合には、この特殊値は、対話式システムのコンソール・ジョブが終了して使用できないので、バックアップを操作員の介入なしに完了できる場合にのみ使用する必要があります。

制御グループですべてのサブシステムを終了する必要がある場合には、システムが制限状態にある間、システム参照コードA900 3C70が表示されます。応答がない制限状態バックアップは終了することができ、対話式システム・コンソール・ジョブは次の2つの方法で再始動されます。

1. コントロール・パネルからDSTを開始し、DSTにサインオンして、オプション14 -バッチ制限状態の終了を選択する。
2. 指定された時間内に制御サブシステムが再始動されない場合には、バックアップ・ジョブを十分完了できるだけ大きくて、しかもバックアップ・ジョブを十分終了できる小さい値をシステム・ポリシーのバックアップの最大時間に指定してください。

*NO 現行ジョブの中の制御グループの処理を実行します。

[トップ](#)

開始順序(STRSEQ)

バックアップ処理を再始動したい順序番号およびライブラリーを指定します。

注: 制御グループを再始動していない場合には、STRSEQパラメーターに指定した値とは無関係に、常に制御グループの最初の順序番号から開始することになります。

注: このパラメーターは、制御グループの指定された順序番号の保管項目として、*IBM, *ALLUSR, *ALLPROD, *ALLTEST, *ASPNN または総称ライブラリー名が指定されているときに使用することができます。

要素1: 番号

*FIRST

バックアップ処理を制御グループの中の最初の項目から開始します。

順序番号

バックアップ処理を再始動したい制御グループの中の順序番号を指定してください。

要素2: ライブラリー

*FIRST

バックアップ処理は指定された順序番号の最初のライブラリーから開始されます。

ライブラリー名

バックアップ処理を再始動したい順序番号内のライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

媒体への付加(APPEND)

再始動中のバックアップ処理のためのバックアップ・データを活動ボリュームに付加したいかどうかを指定します。

注: APPENDパラメーターは取り外し可能媒体のみに適用され、クラス*ADSMの媒体を使用する場合には*NOでなければなりません。

*CTLGRPATR

制御グループからの値を**媒体への付加**に使用します。

*BKUPCY

バックアップ・ポリシーからの値を**媒体への付加**に使用します。

***NO** 再始動中のバックアップのためのバックアップ・データを活動ボリュームに付加しません。

***YES** 再始動中のバックアップのためのバックアップ・データを活動ボリュームに付加します。バックアップ・データはボリューム上の最後の活動ファイルの直後に続くボリュームに書き出されます。

[トップ](#)

ジョブ記述(JOBD)

このジョブで使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

*USRPRF

投入済みジョブが実行されるユーザー・プロファイルのジョブ記述が、投入済みジョブのジョブ記述として使用されます。

修飾子1: ジョブ記述

名前 ジョブで使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブ記述を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ジョブ記述を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列(JOBQ)

このジョブが入られるジョブ待ち行列を指定します。

単一値

*JOBQ

投入済みジョブは、指定されたジョブ記述で名前が指定されているジョブ待ち行列に入れられます。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 投入済みジョブが入れられるジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブ待ち行列を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ジョブ待ち行列を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

活動(ACTIVITY)

活動パラメーターによって、制御グループの処理時に使用する活動を指定できます。制御グループ項目の**週間活動**属性を使用することを指定するか、あるいは制御グループ項目の**週間活動**属性を一時変更する活動の特定タイプを指定することができます。

活動の一時変更は、活動パラメーターに*CTLGRPATTR以外の値を指定するときに、CTLGRP パラメーターに指定されている制御グループのために使用可能になっていなければなりません。制御グループの活動の一時変更は、BRMS ISERIESナビゲーター・クライアントを使用して、BRMSバックアップ・ポリシーのプロパティ「活動」タブから使用可能または使用不可にすることができます。バックアップ・ポリシーは制御グループ名と同じ名前になります。

活動一時変更が使用可能でACTIVITYパラメーターの値が*CTLGRPATTRでない場合には、STRBKUBRM妥当性検査プログラムによって診断メッセージBRM400Aが送られます。

***CTLGRPATTR**

制御グループの処理時に、制御グループ項目の**週間活動**属性を使用することを指定します。これが省略時値です。

***FULL**

制御グループ項目の**週間活動**属性を一時変更して、完全保管として処理することを指定します。この一時変更は、すべての曜日に適用されます。

***INCR**

制御グループ項目の**週間活動**属性を一時変更して、増分保管として処理することを指定します。増分保管のタイプは、制御グループ項目の**増分タイプ**属性の現行値によって決定されます。この一時変更は、すべての曜日に適用されます。制御グループ内の各項目は、項目の**週間活動**属性に指定されている現行値とは無関係に、コマンドの実行時に処理されます。これには、出口項目が含まれません。制御グループ項目が増分保管をサポートしていない場合には、その項目は処理されず、診断メッセージBRM400Fがジョブ・ログに入れられることとなります。

トップ

保存(RETENTION)

保存パラメーターによって、制御グループによって保管されているオブジェクトに適用する保存属性を指定できます。制御グループ内に定義されている媒体ポリシーの保存属性を使用することを指定するか、あるいは媒体ポリシーの保存属性を一時変更する新規保存属性を指定することができます。

保存の一時変更は、保存の要素 1 のために活動パラメーターに*CTLGRPATR以外の値を指定するときに、CTLGRPパラメーターに指定されている制御グループのために使用可能になっていなければなりません。制御グループの保存一時変更は、BRMS ISERIES ナビゲーター・クライアントを使用して、BRMSバックアップ・ポリシーのプロパティ「媒体保持期間」タブで使用可能または使用不可にすることができます。バックアップ・ポリシーは制御グループ名と同じ名前になります。

保存一時変更が使用可能で保存パラメーターの要素1の値が*CTLGRPATRでない場合には、STRBKUBRM妥当性検査プログラムによって診断メッセージBRM400Bが送られます。

要素1: 保存タイプ

*CTLGRPATR

制御グループ内に定義されている媒体ポリシーの保存属性を保管済みオブジェクトに適用することを指定します。これが省略時値です。

*DAYS

日数保存を、この制御グループによって保管されるオブジェクトのすべてに適用することを指定します。保管済みファイルは、指定された日数（保管済みオブジェクトはこの日数後に有効期限が切れる）だけ活動状態のままになっています。この保存タイプを使用する場合は、要素2で日数が指定されていなければなりません。

*PERM

永久保存を、この制御グループによって保管されるオブジェクトのすべてに適用することを指定します。永久保存は、保管済みオブジェクトが無期限に、あるいは明示的に有効期限が切れるまで活動状態になっているという意味です。

要素2: 媒体保存

日数 保管済みオブジェクトを活動状態のままにしておく日数を1 - 9999の範囲で指定します。

[トップ](#)

除外(OMITS)

バックアップ制御グループの実行時に、除外項目を処理するか無視するかを指定します。

注: この属性は、バックアップ・リストまたは*SYSTEM バックアップ制御グループには適用されません。

*PROCESS

保管時に除外項目を処理します。保管から除外項目が除外されます。

*IGNORE

保管時に除外項目を無視します。保管に除外項目が含まれます。

[トップ](#)

例

例1: 制御グループのバックアップ

```
STRBKUBRM CTLGRP(BACK01)
```

このコマンドは、バックアップ制御グループBACK01のバッチ・ジョブを投入します。バッチ・ジョブはスケジュールされていないので、バッチ・ジョブ処理が活動状態であると見なして直ちに開始します。

例2: 保管活動の一時変更

```
STRBKUBRM CTLGRP(BACK01) ACTIVITY(FULL)
```

このコマンドは、バックアップ制御グループBACK01のバッチ・ジョブを投入します。制御グループは、通常に実行する累積保管に設定されます。このバックアップが実行されると、累積保管が一時変更されて、全保管が実行されます。

例3: 保管保存の一時変更

```
STRBKUBRM CTLGRP(BACK01) ACTIVITY(FULL)  
RETENTION(*DAYS 2555)
```

このコマンドは、バックアップ制御グループBACK01のバッチ・ジョブを投入します。制御グループは、保存30日で通常に実行する累積保管に設定されます。このバックアップが実行されると、累積保管および保存が一時変更されます。保存2555日の全保管が実行されます。

例4: 除外される保管項目の一時変更

```
STRBKUBRM CTLGRP(BACK01) ACTIVITY(FULL)  
RETENTION(*DAYS 2555) OMTS(*IGNORE)
```

このコマンドは、バックアップ制御グループBACK01のバッチ・ジョブを投入します。制御グループは、保存30日で通常に実行する累積保管に設定され、バックアップ・ポリシーで定義された除外を使用します。このバックアップが実行されると、累積保管、保存、および除外が一時変更されます。除外項目を含む全バックアップが実行されて、保管に2555日の保存が適用されます。

例5: バッチへのシステム保管の投入

```
STRBKUBRM CTLGRP(*SYSTEM) SBMJOB(*CTLSBS)
```

このコマンドは、バッチ処理のために*SYSTEMバックアップ制御グループを制御サブシステムに投入します。バックアップではBRMSコンソール・モニターや対話式処理は使用されないため、バックアップには完全な媒体管理の自動化が必要です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1034

制御グループ&1,タイプ&2が取り消された。

BRM1391

制御グループ&2,タイプ&3が取り消された。

BRM1393

制御グループ&2,タイプ&3が取り消された。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMの満了の開始 (STREXPBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMの媒体満了処理開始(STREXPBRM)コマンドは、BRMS媒体内容情報データベースにある媒体を満了させます。媒体が満了した場合には、それを保管処理に再使用することができます。ボリュームは、満了日または日数が経過した時、あるいはそのボリュームが再使用された時に満了します。満了したボリュームには、媒体の処理画面の満了フィールドで*YESのマークが付けられます。STREXPBRMコマンドは、定期的に行うようにスケジュールしたり、あるいはSTRMNTBRMコマンドの一部として処理することができます。媒体満了報告書は、活動ファイルの処置(ACTION)パラメーターに*REPORTを指定して作成することができます。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1AEPに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ACTFILCNT	活動ファイル・カウント	0-999, <u>0</u>	オプション
ACTION	活動ファイル処置	<u>*REPORT</u> , *EXPMED	オプション
EXPSETMED	媒体セット・ボリュームの満了	<u>*NO</u> , *YES	オプション
ACTFILRET	ファイル保存タイプ	<u>*ANY</u> , *VERSION	オプション
SLTCRTDATE	作成日の選択	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始作成日	文字値, <u>*BEGIN</u> , *CURRENT	
	要素 2: 終了作成日	文字値, <u>*END</u> , *CURRENT	

トップ

活動ファイル・カウント(ACTFILCNT)

媒体満了報告書でボリュームに満了警告が出される前にボリュームに存在することが可能な活動ファイルの数または活動ファイルの処置(ACTION)パラメーターに*EXPMEDを選択した場合に自動的に満了する活動ファイルの数を指定します。

注: 活動ファイル・カウント(ACTFILCNT)パラメーターが0で、活動ファイルの処置(ACTION)パラメーターに*REPORTを指定した場合には、BRMSは報告書を作成して活動ファイル0で媒体を満了させます。活動ファイル・カウント(ACTFILCNT)パラメーターが0より大きい場合には、報告書だけが作成されます。

0 活動ファイルの省略時の数は0です。

ファイルの数

活動ファイルの数を指定してください。0-999個の活動ファイルを指定することができます。

[トップ](#)

活動ファイルの処置(ACTION)

活動ファイル・カウント(ACTFILCNT)パラメーターに指定された値に基づいて、実行したい処置を指定します。媒体満了報告書を印刷したり、媒体を満了させたり、あるいは処置をとらないことができます。

***REPORT**

活動ファイルの数が活動ファイル・カウント(ACTFILCNT)パラメーターに指定された活動ファイルの数に等しいかそれ以下のすべての媒体に対して媒体満了報告書で警告が出されます。

注: これに対する例外は、活動ファイル・カウント(ACTFILCNT)パラメーターが0の場合で、活動ファイルのない媒体が満了されます。

***EXPMED**

活動ファイル・カウント(ACTFILCNT)パラメーターに指定された活動ファイルの数に等しいかそれ以下で、活動ファイル・カウントがそのボリュームの合計ファイル数以下の活動ファイルの数を持つ媒体が満了されます。たとえば、活動ファイル・カウント(ACTFILCNT)パラメーターに1を指定して、媒体が1つのファイルしか持っていない場合には、その媒体は満了しません。媒体が2つのファイルを保持していて、1つのファイルが活動中で他のファイルが満了している場合には、媒体を満了させることができます。

[トップ](#)

媒体セット・ボリュームの満了(EXPSETMED)

STREXPBRMコマンドの処理時に、活動ファイルなしの媒体セット内の適格のすべての媒体を満了するかどうかを指定します。これは、セット内の以後の位置に活動ファイル順序を持つまだ満了していない媒体がある場合でも、媒体セットのメンバーである媒体を満了させます。これにより、セットの満了前に媒体を再使用することができ、管理する活動媒体の数を減らします。省略時の値では、セット全体が満了しない限り、BRMSはまだ満了していない媒体の前に媒体を満了させることはありません。

***NO** 媒体セットのボリュームは、セット全体が満了しない限り満了しません。

***YES** 媒体セットのボリュームは満了します。

注: セット内の適格のすべての媒体を満了すると、セットのサイズを小さくしたり2つ以上の新しいセットを作成することができます。

注: この機能は定期的に行うことが推奨され、長期の実行プロセスとすることができます。

[トップ](#)

ファイル保存タイプ(ACTFILRET)

媒体の満了に組み込みたい活動ファイルの保存のタイプを指定します。

***ANY** 任意の保存タイプの活動ファイルを組み込みます。

*VERSION

満了がバージョン保存に基づいている活動ファイルだけを組み込みます。

トップ

作成日の選択(SLTCRTDATE)

満了または報告する媒体を選択するときに使用したい作成日の範囲を指定します。**開始作成日**は、選択した媒体の日付範囲の始めであり、**終了作成日**は、作成日の日付範囲の終わりです。

注: このパラメーターを使用すれば、区切り記号のない日付または最大5桁までの日数を入力することができます。たとえば、月/日/年形式を使用している場合には、12904という数字は1月29日、2004年として形式設定されます。一方、13904という数字を入力した場合には、BRMSはこれを日付とは見なさず、数値と見なします。BRMSは、数字が入力された時に常にカレンダー日付を最初に計算しようとし、計算した日付が正しくなかった場合には、それを日数と見なします。5桁を超える数字を入力し、計算された日付が正しくなかった場合には、エラー・メッセージを受け取ります。

注: このパラメーターは、**活動ファイルの処置(ACTION)**パラメーターに*EXPMEDを指定した場合に活動状態になるだけです。

要素1: 開始作成日付

*BEGIN

ファイル上の最も早い媒体ボリュームの作成日を作成日の範囲の始めとして使用します。

開始作成日

作成日の範囲の始めとなる日付を指定してください。この日付は、現在日より前であるか等しくなければなりません。

*CURRENT

現在日を作成日の範囲の始めとして使用します。

日数 日付の範囲の開始日を決定するために使用する現在日より前の日数を指定してください。

要素2: 終了作成日付

***END** 媒体インベントリー中の最終作成日が作成日の範囲の終わりとして使用されます。

*CURRENT

現在日を作成日の範囲の終わりとして使用します。

終了作成日

作成日の範囲の終わりとなる日付を指定してください。この日付は、開始作成日より後であるか等しく、現在日より前であるか等しくなければなりません。

日数 日付の範囲の終了日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

トップ

例

例1: バージョン制御下のボリュームの満了

STREXPBRM ACTFILCNT(2) ACTION(*EXPMED) ACTFILRET(*VERSION)

このコマンドは、ボリュームに2つまたはそれ以下の活動ファイルを持ち、その媒体満了がバージョン制御を使用して制御されているボリュームの満了処理を開始します。

例2: セットのボリュームの満了

```
STREXPBRM ACTION(*EXPMED) EXPSETMED(*YES)
```

このコマンドは、ボリュームに活動ファイルがない場合に、セットに入っている満了ボリュームの満了処理を開始します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMS プロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用した移行の開始 (STRMGRBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した移行の開始(STRMGRBRM)コマンドにより、処理する移行制御グループを指定することができます。ただちに移行を開始することもできれば、システム・ジョブ・スケジューラーを使用して移行をスケジュールすることもできます。処理はバッチまたは対話式とすることができます。

OPTIONパラメーターの省略時の値は*REPORTで、移行項目候補報告書を作成します。これにより、報告書を処理し、移行操作を実行する前に、何が移行されるかを確認することができます。*REPORTオプションによって作成された移行項目候補報告書内の項目に対して移行を実行するか、あるいは何らかの理由によって中断されていた移行を再開するためには、特殊値*RESUMEを指定することができます。

*REPORTまたは*MIGRATE特殊値のどちらかを使用してSTRMGRBRMコマンドを処理するたびに、BRMSは制御グループ内の項目のための移行候補ファイルを作成します。このファイルには、補助記憶域プールのサイズと使用率に関する情報だけでなく、STRMGRBRMコマンドを処理した時点における制御グループ内の項目に関する情報も含まれます。作成した移行候補ファイルは、候補報告書の作成と、制御グループに対する移行操作の実行のために使用されます。制御グループに対して*RESUMEを指定すると、STRMGRBRMコマンドの処理時にその制御グループのために作成された移行候補ファイルが使用されます。*RESUMEを指定した時には、制御グループ内の項目または補助記憶域プールの特性が変更されていても、新しい移行候補ファイルは作成されません。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、BRMS拡張機能（オプション2）が必要です。
2. 移行制御グループ内で特殊値*EXITを使用し、結果の処理がその制御グループ項目の特性か補助記憶域プールの特性のいずれかを変更すると、BRMSは結果の移行候補ファイルの変更を記録しません。結果の処理が項目または補助記憶域プールの特性を変更する場合には、移行制御グループ内で*EXIT特殊値を使用しないように考慮する必要があります。
3. *REPORTまたは*MIGRATE特殊値のいずれかを使用して制御グループを処理した結果として作成される移行候補リストは、ジョブまたはユーザーIDには対応しておらず、制御グループの名前に対応しているだけです。ジョブAが移行制御グループを処理し、ジョブBが続いて同じ移行制御グループを処理する場合には、ジョブA用に作成された移行候補リストがジョブB用に作成された移行候補リストによって上書きされることになります。*RESUME特殊値を使用して移行制御グループを再開したい場合には、中断されたジョブがジョブAであっても、ジョブB用に作成された移行候補リストが再開操作に使用できるリストとなります。
4. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLGRP	制御グループ	名前, *MGRGRP	必須, 定位置 1
OPTION	実行オプション	*REPORT, *MIGRATE, *RESUME	オプション
SCDTIME	スケジュール時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻	文字値, *IMMED	
	要素 2: 終了時刻	文字値, *NONE	
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *CONSOLE, *NO	オプション
JOB	ジョブ記述	単一値: *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *JOBQ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ENDINTJOB	対話式ジョブの終了	*SYSPCY, *NO, *YES	オプション
DELAY	遅延	0-999, *SYSPCY	オプション

トップ

制御グループ(CTLGRP)

移行したい制御グループの名前を指定します。

これは必須フィールドです。

*MGRGRP

省略時の移行制御グループが処理されます。省略時の移行制御グループは、導入時にBRMSによって作成されます。

制御グループ名

処理したい移行制御グループの名前を指定してください。

トップ

実行オプション(OPTION)

移行候補の報告書を作成したいか、あるいは制御グループを処理したいかを指定します。

注: 実際の移行を処理する前には、常に移行候補の報告書 (*REPORTオプション) を実行する必要があります。*REPORTオプションを使用すると、特殊値*EXITは処理されません。

*REPORT

移行項目候補報告書を作成します。この報告書が書き出される印刷装置ファイルはQPIAHCです。

*MIGRATE

移行計画に基づいて移行制御グループを処理します。

***RESUME**

移行制御グループの処理を再開します。この移行では、この制御グループ用に生成された最後の移行報告書が使用されます。

[トップ](#)

スケジュール時刻(SCDTIME)

BRMSが移行制御グループ内の項目の処理を開始および終了するようにしたい時刻を指定します。開始時刻は、移行処理を開始したい時刻で、その形式は24時間形式です。終了時刻は、移行処理を終了したい時刻を決定します。移行処理は移行項目の処理途中では終了しません。

注：開始時刻として指定した時刻が現在の時刻より前の時刻である場合には、その翌日まで処理は延期されます。同様に、指定された終了時刻はその翌日に移されます。

注：10より小さい時間または分値（あるいはその両方）を指示する時には、先行ゼロを使用する必要があります。時刻区切り記号の使用はサポートされていません。

要素1: 開始時刻

***IMMED**

ただちに移行制御グループの処理を開始します。

開始時刻

移行を開始したい時刻を時間と分で指定してください。時刻は24時間時計形式'HHMM'で表されます。

要素2: 終了時刻

***NONE**

移行プロセスは、所要時間にかかわらず、終了するまで続けられます。

終了時刻

移行プロセスを終わらせたい時刻を指定してください。移行プロセスは、終了時刻に達しても、処理途中の項目がある場合には、その項目の処理を完了するまで終了しません。

[トップ](#)

バッチへの投入(SBMJOB)

選択した制御グループに必要な処理方法を指定します。

***YES** 制御グループの処理をバッチに投入します。ジョブは、後続のパラメーターに指定されるジョブ待ち行列およびジョブ記述によって異なります。

***CONSOLE**

制御グループの処理をシステム・コンソールに移します。この特殊値は、BRMSのコンソール・モニター機能で使用されます。

***NO** 現行ジョブの中の制御グループの処理を実行します。

[トップ](#)

ジョブ記述(JOBD)

SBMJOB(*YES)が指定された場合に、このジョブで使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

*USRPRF

投入済みジョブが実行されるユーザー・プロファイルのジョブ記述が、投入済みジョブのジョブ記述として使用されます。

修飾子1: ジョブ記述

名前 ジョブで使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブ記述を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列(JOBQ)

SBMJOB(*YES)が指定された場合に、使用するジョブ待ち行列を指定します。

単一値

*JOBQ

投入済みジョブは、指定されたジョブ記述で名前が指定されているジョブ待ち行列に入れられません。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 投入済みジョブが入れられるジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブ待ち行列を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ジョブ待ち行列を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

対話式ジョブの終了(ENDINTJOB)

BRMSが、移行作業を開始しようとしていることを活動ユーザーに自動的に通知してから、活動ユーザーをサインオフするかどうかを指定します。*SYSPCYが指定されると、BRMSは、対話式ユーザーに通知してサインオフするかどうかを判別するためにシステム・ポリシーを参照します。

*SYSPCY

この移行プロセスには、システム・ポリシーからの対話式ユーザー・サインオフの値が使用されません。

***NO** BRMSは対話式ユーザーを自動的にサインオフしません。

***YES** BRMSは対話式ユーザーを自動的にサインオフします。

[トップ](#)

遅延(DELAY)

BRMSが自動的に活動ユーザーをサインオフする前に自動的にユーザーに通知する最大時間制限（分数）を指定します。分数は0-999分の範囲とすることができます。

メッセージは、次のスケジュールを使用して送られます。

- 0-メッセージを1回送ってからユーザーがサインオフされます。
- 1-10-メッセージを1分おきに送ってからユーザーがサインオフされます。
- 11-60-メッセージを2分おきに送ってからユーザーがサインオフされます。
- 61+-メッセージを10分おきに送ってからユーザーがサインオフされます。

*SYSPCY

この移行プロセスには、システム・ポリシーからのサインオフ限界値が使用されます。

分数 この移行プロセスのサインオフ限界にする分数を指定してください。分数は0-999分の範囲とすることができます。

[トップ](#)

例

例1: 移行候補の報告書の作成

```
STRMGRBRM CTLGRP(MGR01) SCDTIME(2000 0400)
```

このコマンドは、10:00 PMから4:00 AMまでの間に、制御グループMGR01で識別された項目の移行操作を開始します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM10A2

制御グループ&1タイプ&2がエラーで完了しました。

BRM1387

制御グループ&1の出口コマンドの処理中にエラーが起こった。

BRM1820

制御グループ&1タイプ&2が異常終了した。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM1955

コンソール・モニターが活動状態になっていない。

BRM1F27

操作が許されない，資源が使用不能である。

BRM2160

制御グループ&1の移行が終了した。

BRM40A2

BRMS プロダクトの初期設定が必要である。

CPF3700

すべてのCPF37XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF3800

すべてのCPF38XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMの保守の開始 (STRMNTBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMの保守の開始(STRMNTBRM)コマンドは、各種のBRMS保守およびクリーンアップ機能を実行します。STRMNTBRMコマンドは、手操作で投入するか、または自動ジョブ・スケジューラーに組み込むことによって、定期的に処理されるようにスケジュールすることができます。

STRMNTBRMコマンドは個別に実行できる他の複数のコマンドを処理します。これには、次のものがあります。

- RMVMEDIBRM - BRMからの媒体情報の除去
- MOVMEDEBRM - BRMを使用した媒体の移動
- STREXPBRM - BRMからの媒体の満了
- RMVLOGEBRM - BRMログ項目の除去
- WRKMEDIBRM -媒体情報の処理
- STRRCYBRM -回復処置の分析

STRMNTBRMは、検出した現在の条件だけでなく、ユーザーが選択した印刷オプションに応じて複数の報告書を作成します。たとえば、ユーザーがBRMSでクラスター化されたネットワーク環境を使用していない場合には、中央媒体監査報告書は印刷されません。下にリストしたものは、STRMNTBRMコマンドの処理時に作成できる印刷装置ファイルおよび関連報告書です。

- QP1AVER -バージョン制御
- QP1AEP -媒体の満了
- QP1AMM -満了日別の媒体報告書
- QP1AHS -媒体情報
- QP1ALE -保管ストラテジー例外
- QP1ARCY -システム全体の回復
- QP1AASP - ASP情報の表示
- QP1ARW -回復活動
- QP1A2SL -場所の分析
- QP1ASYN -中央媒体監査
- QP1A2RCY -回復ボリュームの要約

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。
2. このコマンドを実行するには、全オブジェクト権限が必要です。

3. このコマンドはリモート・コマンドとして実行しないでください。
4. 媒体インベントリーのサイズによっては、このコマンドの処理に長時間を要することがあります。
5. このコマンドは独立ジョブとして実行する必要があります。STRMNTBRMコマンドの処理中は、他のどのBRMS機能も活動状態であってはけません。
6. BRMSデータベース・ファイルの再編成は、追加のディスク記憶域を必要とする長時間の実行プロセスとなる可能性があります。再編成はすべてのBRMSデータベース・ファイルで行われます。十分なディスク記憶域がないか、ファイルにメンバーまたはレコードがない場合には、ファイルの再編成はスキップされることがあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EXPMED	媒体の満了	<u>*YES</u> , *NO	オプション
EXPSETMED	媒体セット・ボリュームの満了	<u>*NO</u> , *YES	オプション
RMVMEDI	媒体情報の除去	要素リスト	オプション
	要素 1: 媒体の内容	<u>*EXP</u> , *NONE, *REUSE	
	要素 2: オブジェクト・レベルの明細	1-9999, <u>*MEDCON</u>	
RMVMGRINF	移行情報の除去	1-9999, <u>180</u> , *NONE	オプション
MOVMEDE	媒体移動の実行	<u>*NO</u> , *YES	オプション
RMVLOGE	ログ項目の除去	要素リスト	オプション
	要素 1: タイプ	<u>*ALL</u> , *NONE, *ARC, *BKU, *MAINT, *MED, *MGR, *RCY, *RTV, *SEC	
	要素 2: 開始日	文字値, <u>*BEGIN</u> , *CURRENT	
	要素 3: 終了日	文字値, <u>90</u> , *CURRENT, *END	
RUNCLNUP	クリーンアップ操作の実行	<u>*YES</u> , *NO	オプション
RTVVOLSTAT	ボリューム統計の検索	<u>*YES</u> , *NO	オプション
AUDSYSMED	システム媒体の監査	単一値: <u>*NONE</u> , *NETGRP その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
CHGJRN	BRM ジャーナル・レシーバの変更	<u>*YES</u> , *NO	オプション
PRTEXPMED	満了した媒体報告書の印刷	<u>*YES</u> , *NO	オプション
PRTVSNRPT	バージョン報告書印刷	<u>*EXPMED</u> , *NO, *YES	オプション
PRTBKUACT	媒体情報の印刷	<u>*YES</u> , *NO	オプション
PRTRCYRPT	回復報告書の印刷	単一値: <u>*ALL</u> , *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *RCYACT, *RCYANL, *SAVEXCP	オプション
RCYLOC	回復場所	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 名前, *HOME	オプション
PRTSYSINF	システム情報の印刷	<u>*NO</u> , *YES	オプション
RGZBRMDB	BRMSデータベースの再編成	<u>*NO</u> , *YES	オプション
REFREE	自動検索オブジェクト	要素リスト	オプション
	要素 1: 再解放	<u>*NO</u> , *YES	

媒体の満了(EXPMED)

STRMNTBRMコマンドの処理時に、媒体を満了させるかどうかを指定します。このコマンドの実行時には、テープにコピーされた満了保管ファイルが削除されます。STREXPBRM コマンドは、媒体を満了させるためにSTRMNTBRMコマンドによって処理されます。

***YES** 保守の実行時に媒体は満了します。

***NO** 保守の実行時に媒体は満了しません。

トップ

媒体セット・ボリュームの満了(EXPSETMED)

STRMNTBRMコマンドの処理時に媒体セット・ボリュームを満了するかどうかを指定します。これは、セット内の以後の位置に活動ファイル順序を持つまだ満了していない媒体がある場合でも、媒体セットのメンバーである媒体を満了させます。これにより、セットの満了前に媒体を再使用することができ、管理する活動媒体の数を減らします。省略時の値では、セット全体が満了しない限り、BRMSはまだ満了していない媒体の前に媒体を満了させることはありません。

***NO** セット全体が満了しない限り、媒体セット内のボリュームはSTRMNTBRMコマンドの処理時には満了しません。

***YES** 媒体セット内のボリュームは、STRMNTBRMコマンドの処理時に満了します。

注：セット内の適格のすべての媒体を満了すると、セットのサイズを小さくしたり2つ以上の新しいセットを作成することができます。

注：この機能は定期的に実行することが推奨され、長期の実行プロセスとすることができます。

トップ

媒体情報の除去(RMVMedI)

BRMS媒体内容インベントリから除去する情報、およびオブジェクト明細の保持期間を指定します。RMVMEDIBRMコマンドは、BRMS媒体内容情報の除去を実行するためにSTRMNTBRMコマンドによって使用されます。媒体内容(MEDCON)パラメーターは媒体内容情報から媒体内容情報が除去される時点を示し、オブジェクト・レベルの明細(OBJDTL)パラメーターはオブジェクト・レベルの明細が除去される時点を示します。

要素1: 媒体内容

***EXP** 満了日が現在日より前か等しいすべてのBRMS媒体の媒体内容情報項目が媒体内容インベントリから除去されます。

*NONE

STRMNTBRMコマンドの処理時には、媒体内容情報は媒体内容情報インベントリから除去されません。

*REUSE

ボリュームと関連した媒体内容情報は、ボリュームがすでに満了していても、そのボリュームが再使用されるまでは媒体内容インベントリーから除去されません。

要素2: オブジェクト・レベルの明細

*MEDCON

オブジェクト明細は、媒体内容情報が除去される時に除去されます。

日数 オブジェクト明細が媒体内容インベントリーに保存される日数を指定してください。この日数が**媒体内容**フィールドに暗黙に指定された日数より大きい場合（たとえば、ボリュームは60日で満了するのに、**オブジェクト・レベルの明細**フィールドに90日を指定した場合）には、媒体内容情報が除去される時には常にオブジェクト明細が除去されるので、この値は無意味となります。しかし、45日を指定し、オブジェクトが60日で満了する場合には、オブジェクト・レベルの明細は、他の媒体内容情報が除去される15日前に除去されます。

[トップ](#)

移行情報の除去(RMVMGRINF)

移行情報を移行情報ヒストリーから除去する前に、移行情報が経過していなければならない日数を指定します。

180 移行情報は180日後に移行情報ヒストリーから除去されます。

*NONE

移行情報は移行情報ヒストリーから除去されません。

日数 移行情報が古くなり使用できなくなったと見なされる日数を指定してください。たとえば、200を指定した場合には、200日より古い移行情報が、STRMNTBRMコマンドが処理された時の移行情報ヒストリーから除去されます。1 - 9999の範囲の日数を指定することができます。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能（オプション2）が必要です。

[トップ](#)

媒体移動の実行(MOVMED)

スケジュール済み媒体移動を処理するかどうかを指定します。MOVMEDBRMコマンドは、選択された媒体を移動させるためにSTRMNTBRMコマンドによって処理されます。

***NO** STRMNTBRMコマンドの処理時に、媒体移動は処理されません。

***YES** STRMNTBRMコマンドの処理時に、スケジュール済み媒体移動が処理されます。

[トップ](#)

ログ項目の除去(RMVLOGE)

STRMNTBRMコマンドの実行時に、ログ項目を除去するかどうかを指定します。除去したいログ項目のタイプおよびログ項目の日付の範囲を指定することができます。RMVLOGEBRMコマンドは、ログ項目を除去するためにSTRMNTBRMコマンドによって処理されます。

注: このパラメーターを使用すれば、区切り記号のない日付または最大5桁までの日数を入力することができます。たとえば、月/日/年形式を使用している場合には、12904という数字は1月29日、2004年として形式設定されます。一方、13904という数字を入力した場合には、BRMSはこれを日付とは見なさず、数値と見なします。BRMSは、数字が入力された時に常にカレンダー日付を最初に計算しようとし、計算した日付が正しくなかった場合には、それを日数と見なします。5桁を超える数字を入力し、計算された日付が正しくなかった場合には、エラー・メッセージを受け取ります。

要素1: タイプ

***ALL** 指定された日付の範囲内のすべてのログ項目の除去を選択します。

***ARC** 指定された日付の範囲内の保存ログ項目だけの除去を選択します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKU** 指定された日付の範囲内のバックアップ・ログ項目だけの除去を選択します。

***MAINT**

指定された日付の範囲内の保守ログ項目だけの除去を選択します。

***MED** 指定された日付の範囲内の媒体管理ログ項目だけの除去を選択します。

***MGR** 指定された日付範囲内の移行ログ項目だけの除去を選択します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***NONE**

STRMNTBRMコマンドの処理時に、ログ項目は除去されません。

***RCY** 指定された日付の範囲内の回復ログ項目だけの除去を選択します。

***RTV** 指定された日付の範囲内の検索ログ項目だけの除去を選択します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***SEC** 指定された日付の範囲内で除去する機密保護ログ項目だけを選択します。1次区域が機密保護であるログ項目だけが除去されます。項目は何らかの理由でログに記録され、機密保護は2次区域として含まれていることがあります。

要素2: 開始日付

***BEGIN**

BRMSログ中の最も早いログ項目日付が日付範囲の先頭日付になります。

***CURRENT**

現在日が、BRMSログからの項目の除去に使用される日付範囲の開始点になります。

開始日 日付の範囲の開始日として使用したい日付を、日付区切り記号付きまたはなしのジョブ日付形式で指定してください。

日数 日付の範囲の開始日を決定するために使用する現在日より前の日数を指定してください。

要素3: 終了日付

90 現在日より90日前が日付の範囲の終了日です。

***CURRENT**

現行日付が日付範囲の終了日です。

***END** ログ中の最終日付が日付の範囲の終了日となります。

終了日 日付の範囲の終了日として使用したい日付を、日付区切り記号付きまたはなしのジョブ日付形式で指定してください。

日数 日付の範囲の終了日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

トップ

クリーンアップ操作の実行(RUNCLNUP)

BRMSが、STRMNTBRMコマンドの処理時にクリーンアップ操作を実行するかどうかを指定します。クリーンアップ操作には、場所分析報告書の作成、削除済みライブラリーの分析、有効期限が過ぎてしまっている媒体ポリシーなどの各種BRMS汎用ルーチンが含まれています。

***YES** STRMNTBRMコマンドの処理時にクリーンアップ操作が実行されます。

***NO** STRMNTBRMコマンドの処理時にクリーンアップ操作は実行されません。

トップ

ボリューム統計の検索(RTVVOLSTAT)

BRMSが、STRMNTBRMコマンドの処理時にボリューム統計を検索するかどうかを指定します。

***YES** STRMNTBRMコマンドの処理時にボリューム統計が検索されます。

***NO** STRMNTBRMコマンドの処理時にボリューム統計は検索されません。

トップ

システム媒体の監査(AUDSYSMED)

ネットワーク・グループ内の1つまたは複数のシステムによって収容される媒体情報を監査し、媒体情報中の相違点を分析解決すべきかどうかを指定します。ユーザーは、1つまたは複数のシステム/ネットワークIDを入力するか、ネットワーク・グループ内のすべてのシステムに対して特殊値*NETGRPを選択するか、あるいはネットワーク・グループ内のどのシステムに対しても特殊値*NONEを指定しないことができます。

注: STRMNTBRMを使用して各システムおよびすべてのシステムで共用インベントリ監査処理を実行すると、不必要なシステムおよび通信が働くこととなります。同じ結果を得るためには、1つのシステムでのみこの監査を実行することができます。

注: 共用インベントリ監査処理は一般的には必要なく（ユーザーがバックレベルのQUSRBRMデータベースを復元する場合を除く）、このローカル・バックレベルのコピーを再同期化する方法を必要とするか、あるいはQA1ANET2レコードの喪失による問題に対する訂正が必要です。

注: 共用インベントリ監査処理は、現行システムが制約状態にあるか、または監査を完了する必要があるリモート・システムが使用可能でない場合には、スキップされます。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。入力画面が表示されていて、これらの複数個の値を入力するために追加の入力フィールドが必要である場合には、「値の続きは+」の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

単一値

*NONE

ネットワーク・グループ内のどのシステムに対する媒体情報も監査されず、相違点も分析解決されません。

*NETGRP

ネットワーク・グループ内のすべてのシステムに対する媒体情報が監査され、相違点が分析解決されます。

注: この値を使用するには、BRMSネットワーク機能 (オプション1)が必要です。

その他の値 (反復は最大50回まで)

ロケーション名

システムと関連したリモート・ロケーションの名前を指定してください。DSPNETA コマンドを使用することにより表示されるローカル・システムのネットワークIDが、システムのネットワークIDとして使用されます。

注: リモート・システムを指定するためには、BRMSネットワーク機能 (オプション1)が必要です。

ネットワークID.ロケーション名

システムと関連したリモート・ロケーションのネットワークIDおよび名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。ここで、NNNNNNNNはネットワークID、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

注: リモート・システムを指定するためには、BRMSネットワーク機能 (オプション1)が必要です。

[トップ](#)

BRMジャーナル・レシーバーの変更(CHGJRN)

STRMNTBRMコマンドの処理時に、BRMSジャーナルのレシーバーを変更するかどうかを指定します。BRMSジャーナル・レシーバーが変更されると、古いBRMSジャーナル・レシーバーは削除されます。

*YES STRMNTBRMコマンドの処理時に、ジャーナル・レシーバーが変更されます。

*NO STRMNTBRMコマンドの処理時に、ジャーナル・レシーバーは変更されません。

[トップ](#)

満了した媒体報告書の印刷(PRTEXPMED)

STRMNTBRMコマンドの処理時に、満了している媒体の報告書を印刷するかどうかを指定します。

*YES STRMNTBRMコマンドの処理時に、満了している媒体の報告書が印刷されます。

*NO STRMNTBRMコマンドの処理時に、満了している媒体の報告書は作成されません。

[トップ](#)

バージョン報告書の印刷(PRTVSNRPT)

STRMNTBRMコマンドの処理時にバージョン制御報告書を印刷するかどうかを指定します。特殊値 *EXPMEDは、媒体満了処理が実行されている時には常にバージョン制御報告書を印刷することを意味します。

*EXPMED

媒体満了処理が実行されている時には常にバージョン制御報告書を印刷します。

*NO STRMNTBRMコマンドの処理時にバージョン制御報告書は印刷されません。

*YES STRMNTBRMコマンドの処理時にバージョン制御報告書が印刷されます。

[トップ](#)

媒体情報の印刷(PRTBKUACT)

バックアップされた内容の報告書を印刷するかどうかを指定します。この報告書には、報告書の当日および前日に実行されたバックアップが組み込まれます。BRMを使用した媒体情報の処理(WRKMEDIBRM)コマンド（パラメーターOUTPUT(*PRINT)を指定した）は、報告書を作成するためにSTRMNTBRM コマンドによって実行されます。

*YES STRMNTBRMコマンドの実行時に、当日および前日にバックアップされた内容の報告書が印刷されます。

*NO バックアップされた内容の報告書は作成されません。

[トップ](#)

回復報告書の印刷(PRTRCYRPT)

STRMNTBRMコマンドの実行時に、回復について印刷する回復報告書を指定します。3つの報告書のうちの2つを印刷したい場合には、その報告書用の特殊値を指定してください。3つの報告書をすべて印刷したい場合には、*ALLを指定してください。

単一値

*ALL STRMNTBRMコマンドの処理時に、回復についてのすべての報告書を印刷します。印刷される回復情報はシステム情報を含みます。値*SYSINFから生成される報告書が、*ALLを指定すると含まれるというわけではありません。

*NONE

STRMNTBRMコマンドの処理時に、どの報告書も印刷されないようにします。

その他の値（反復は最大3回まで）

*RCYACT

STRMNTBRMコマンドの処理時に、回復活動報告書を印刷します。

*RCYANL

STRMNTBRMコマンドの処理時に、回復分析報告書を印刷します。

*SAVEXCP

STRMNTBRMコマンドの処理時に、保管ストラテジー例外報告書を印刷します。

回復場所(RCYLOC)

どのロケーションの回復報告書を印刷するかを指定します。印刷される報告書は、**回復報告書の印刷(PRTRCYRPT)**パラメーターに指定された値によって異なります。

単一値

***ALL** すべてのロケーションの報告書が印刷されます。

その他の値（反復は最大10回まで）

ロケーション名

ロケーションの報告書を印刷する時のそのロケーション名を指定してください。

トップ

システム情報の印刷(PRTSYSINF)

BRMSがI5/OSコマンドPRTSYSINFを出して、システム情報の報告書を作成するかどうかを指示します。これらの報告書には、ユーザー・ライブラリー情報、システム・ハードウェアおよび資源情報、構成情報、ならびにその他の多くの情報が含まれます。

***NO** BRMSはPRTSYSINFコマンドを出さないで、関連した報告書は生成されません。

***YES** BRMSはPRTSYSINFコマンドを出すので、関連した報告書が生成されます。

トップ

BRMSデータベースの再編成(RGZBRMDB)

このパラメーターは、BRMSデータベースを再編成するために使用します。このオプションは、削除済みレコードをBRMSデータベースから除去します。とくに、多数のオブジェクトをオブジェクトの詳細とともに保管してある場合には、BRMSデータベースを定期的に再編成することが必要です。

注: BRMSデータベースの再編成は、追加のディスク記憶域を必要とする長時間の実行プロセスとなる可能性があります。再編成は、BRMS媒体インベントリー（ヒストリー）およびオブジェクトの詳細について行われます。BRMSでは、十分なディスク記憶域が使用可能でなかったり、あるいはデータベースにメンバーまたはレコードがない場合には、データベースの再編成をスキップすることができます。

***NO** BRMSデータベースは再編成されません。

***YES** BRMSデータベースが再編成されます。

トップ

自動検索オブジェクトの再解放(REFREE)

このパラメーターは、自動検索された保存オブジェクトを再解放するために使用します。

***NO** 自動検索オブジェクトを再解放しません。

*YES 自動検索オブジェクトを再解放します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

[トップ](#)

例

例1: 保守, 媒体移動, 保存ログ消去の開始

```
STRMNTBRM MOVMED(*YES) RMVLOGE(*ARC)
```

このコマンドは通常の保守を実行し、媒体移動処理を開始して、90日以上経過した保存項目をBRMSログから除去します。

例2: BRMSデータベース・ファイルを再編成する保守の開始

```
STRMNTBRM RGZBRMDB(*YES)
```

このコマンドは、通常の保守を実行し、すべてのデータベース・ファイルのRGZDBFコマンドを実行します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1177

リモート・システムとの接続を確立できません。

BRM1343

日付&2が正しくない。

BRM1856

ジョブ情報を検索できない。エラーが起きました。

BRM1868

ファイル&1が正常にオープンされなかった。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

BRM6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用した回復の開始 (STRRCYBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した回復の開始(STRRCYBRM)コマンドは、単一のライブラリーからシステム全体にわたって項目を回復します。BRMS保管コマンドによって保管されたライブラリーまたはライブラリーのグループを、このコマンドによって復元することができます。回復は、BRMS媒体インベントリーの内容情報中の項目に基づいて行われます。

STRRCYBRMを使用した回復では、BRMS媒体内容情報中の項目の最新の時刻および日付が使用されます。これは、ライブラリーおよびオブジェクトが保管された順序を表します。たとえば、ライブラリーの回復要求は、ライブラリーの最新の全バックアップ、そのライブラリーの最新の増分バックアップ、および最後の全保管後の日付をもつすべてのオブジェクト・レベル保管を復元します。

*ALLの値が**ボリュームの場所(LOC)**パラメーターに指定された場合、BRMSは常時、その媒体の場所に関係なく、回復項目の選択時に非複製の媒体情報を使用します。複製された媒体情報から回復項目を選択した場合は、**複製媒体の使用(USEDUPMED)**パラメーターに*YESを指定してください。

ライブラリーに関するSTRRCYBRMコマンドの目的は、ライブラリーをそっくりそのまま復元するために必要なすべての資源を報告することにあります。このことは、媒体情報の検索中に、そのライブラリーを復元する開始点として全バックアップが必要であることを意味します。検索基準を満たす全バックアップが見つからなければ、それ以降、そのライブラリーに関するオブジェクトの保管は無視されます。これが起こる可能性があるのは、制御グループAがライブラリーを全保管し、制御グループBがライブラリーを増分保管する時に、STRRCYBRM OPTION(*CTLGRP) CTLGRP(B)が出された場合です。また、指定された期間にそのライブラリーの全バックアップがない場合にも、これが起こる可能性があります。

注: 復元の処理の前に、報告書オプション(*REPORT)を使用して、システムの1部分またはシステム全体を復元するために必要なステップの報告書を作成しなければなりません。作成されるこの報告書は回復分析報告書です。報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1ARCYに書き出されます。

注: *SYSTEM, *SYSBAS,または*SAVSYSなどの複数項目の復元中は、要求した項目を復元するために必要なステップの評価に役立てるために、回復分析報告書を最初に実行することをお勧めします。たとえば、BRMSでは、ライセンス内部コードの導入およびオペレーティング・システムの復元を自動的に行うことはできません。報告書は、必要なボリュームを見つけるのに役立ち、ライセンス内部コード、オペレーティング・システム、BRMSプロダクト、および必要なシステム・ライブラリーの復元に必要な手操作ステップの識別に役立ちます。

手操作ステップの実行完了後に、BRMSはシステムの残りの部分の復元で自動化された援助を提供できるようになります。システムを復元するために必要なステップは、回復分析報告書で提供されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

1. 次の復元コマンドに対する権限が必要です。

オブジェクト復元(RST)
文書ライブラリー・オブジェクト復元(RSTDLO)
ライブラリー復元(RSTLIB)
オブジェクト復元(RSTOBJ)
構成復元(RSTCFG)
ユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF)
システム情報復元(RSTSYSINF)

さらに、ISERIES SECURITY REFERENCEの付録Dに概略説明されている上記のコマンドに必要なオブジェクト権限も必要です。

2. ライブラリーおよびオブジェクトを復元するには:
 - 存在しないライブラリーを復元するには、QSYSライブラリーに対する*ADDおよび*READ権限が必要です。
 - ライブラリーに入っているオブジェクトの上に復元するには、*OBJEXIST権限が必要です。
3. 文書およびフォルダーを復元するには:
 - システム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。
 - システムにすでに存在している場合には、親フォルダーに対する*CHANGE権限と文書に対する*ALL権限が必要です。
 - 文書ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
4. ディレクトリーおよびファイルを復元するには:
 - システムにすでに存在している場合には、ファイルに対する*Wおよび*OBJEXIST権限が必要です。
 - 親ディレクトリーに対する*WX権限が必要です。
 - 親ディレクトリーを作成する先のディレクトリーの所有ユーザー・プロファイルに対する*ADD権限が必要です。
 - 所有するユーザー・プロファイル以外のプロファイルで親ディレクトリーを作成するには、*ALLOBJ特殊権限が必要です。
5. 補助記憶域プール装置へのオブジェクトの回復時には、補助記憶域プールに対する*USE権限が必要です。
6. オプション(OPTION) パラメーターに*APYJRNCHGが指定されている場合には、以下の追加の制約事項が適用されます。
 - APYJRNCHGコマンドに対する権限が必要です。
 - ファイル、ジャーナル、およびジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
 - システムにすでに存在するファイルを復元するには*OBJEXIST権限が必要です。
 - ジャーナル処理されたファイルにジャーナル変更を適用するには、*CHANGEおよび*OBJMGT権限が必要です。
 - ジャーナル変更を適用するために使用するジャーナルまたはジャーナル・レシーバーに対する*USE権限が必要です。
7. 予測できない結果が起こるので、このコマンドを制御グループ*EXITの項目処理で使用してはいけません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	<u>*SYSTEM</u> , *ALLDLO, *ALLUSR, *APYJRNCHG, *ASP, *ASPDEV, *CTLGRP, *IBM, *LIB, *LNKLIST, *RCYEXITPGM, *RESUME, *SAVSYS, *SYSBAS	オプション, 位置 1
ACTION	処置	<u>*REPORT</u> , *RESTORE	オプション
PERIOD	回復の期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日	文字値, <u>*BEGIN</u> , *CURRENT	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日	文字値, <u>*END</u> , *CURRENT	
USESARE	保管ファイルの使用	<u>*YES</u> , *NO	オプション
USEADSM	TSMの使用	<u>*YES</u> , *NO	オプション
ASP	補助記憶域プール	1-32, <u>*SYSTEM</u>	オプション
LIB	ライブラリー	総称名, 名前	オプション
LIST	リスト	名前, <u>*ALL</u>	オプション
JRN	ジャーナル	単一値: <u>*JRNLS</u> その他の値 (最大 25 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
ASPDEV	ASP装置	値 (最大 25 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: FROMシステム	名前, <u>*LCL</u>	
	要素 2: 補助記憶域プール	名前, <u>*ALL</u>	
	要素 3: オブジェクト	<u>*ALL</u> , *LIB, *LNK	
CTLGRP	制御グループの選択項目	単一値: <u>*SELECT</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 制御グループ	名前, *NONE, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	
	要素 2: 順序番号	1-99, <u>1</u>	
OMITLIB	除外するライブラリー	値 (最大 25 回の繰り返し): 総称名, 名前, <u>*DELETE</u> , *NONE	オプション
ALWDUP	重複している項目が使用可能	<u>*NO</u> , *YES	オプション
LOC	ボリューム場所	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 名前, *HOME	オプション
FROMSYS	FROMシステム	文字値, <u>*LCL</u>	オプション
PRTSYSINF	システム情報の印刷	<u>*NO</u> , *YES	オプション
USEDUPMED	複写媒体の使用	<u>*NO</u> , *YES	オプション
USRRCYINF	ユーザー回復情報	<u>*NONE</u> , *ADD	オプション

トップ

オプション(OPTION)

BRMS媒体内容インベントリから復元したいものを指定します。

***SYSTEM**

システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プール、そして補助記憶域プール装置をBRMS媒体内容情報に基づいて復元したい場合です。

***ALLDLO**

指定した開始日および終了日と一致するすべての文書、フォルダー、および配布オブジェクト（メール）が媒体内容情報から復元されるようにします。

***ALLUSR**

*ALLUSR特殊値を使用して保管したユーザー・ライブラリーをすべて復元するようにします。

この特殊値を使用して復元できるライブラリーのリストについては、ISERIES バックアップおよび回復の手引きブックの「ライブラリーの保管」セクションにあるライブラリー保管(SAVLIB)コマンドの特殊値テーブルを参照してください。

***APYJRNCHG**

ジャーナル変更を適用します。ジャーナル(JRN)パラメーターを使用して、ジャーナルを指定してください。この値を指定した場合には、FROMシステム(FROMSYS)パラメーターの値は無視されます。

ジャーナル処理された変更を時刻指定に適用したい場合には、回復の時間期間(PERIOD)パラメーターの終了時刻および日付プロンプトにその時刻指定を指定してください。

***ASP** システム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールを復元します。補助記憶域プール(ASP)パラメーターを使用して、補助記憶域プールを指定する必要があります。システム(1)補助記憶域プールを復元した場合には、ユーザー・データだけが復元され、オペレーティング・システムは復元されません。

***ASPDEV**

補助記憶域プール装置を復元します。ASP装置(ASPDEV)パラメーターを使用して、システム、補助記憶域プール装置、およびオブジェクトを指定してください。この値を指定した場合には、FROMシステム(FROMSYS)パラメーターの値は無視されます。

***CTLGRP**

媒体内容情報から制御グループとその関連保管項目が復元されるようにします。制御グループの選択(CTLGRP)パラメーターに制御グループ名を指定する必要があります。

注: CTLGRPパラメーターに*NONEを選択した場合には、制御グループ名に関連づけられていない媒体内容情報ファイルから保管済み項目を復元したいことを示しています。

さらに、CTLGRPパラメーターで*SELECTオプションを使用しているときには、最大300個の制御グループを選択して復元するオプションがあります。選択した制御グループの復元順序は、CTLGRPパラメーターの順序番号要素を使用して順序づけることができます。

***IBM** *IBM特殊値を使用して保管したシステム(IBM)ライブラリーをすべて復元するようにします。

この特殊値を使用して復元できるライブラリーのリストについては、ISERIES バックアップおよび回復の手引きブックの「ライブラリーの保管」セクションにあるライブラリー保管(SAVLIB)コマンドの特殊値テーブルを参照してください。

***LIB** 媒体内容情報からライブラリーが復元されるようにします。ライブラリー(LIB)パラメーターでライブラリー名を指定する必要があります。最新の全保管プラス最新の全保管に続く増分保管とオブジェクト保管を使用することによって、最新バージョンのライブラリーがBRMS媒体内容情報から復元されます。

***LNKLIST**

リストに指定したすべての統合ファイル・システム・オブジェクトを、指定した開始日および終了

日と一致する媒体内容情報から復元したい場合です。この特殊値を使用する場合には、リスト (**LIST**)パラメーターを使用して、バックアップ・リンク・リストを指定してください。

***RCYEXITPGM**

回復され、関連オブジェクトの間の関係を再確立するための回復出口プログラムが呼び出されるのを待機しているすべてのオブジェクトは、復元されたオブジェクトのリストを渡すことによって呼び出されます。

このステップは、オブジェクトが保管されたときに、回復出口の処理を指定したオブジェクトを正常に再作成するために必要です。

完全なシステム回復の間に、すべてのシステムおよびユーザー・データをシステムに復元し戻すためのステップが提供されます。これらのオブジェクトの一部は、**回復出口プログラム (RCYEXITPGM)**パラメーターを介して回復出口プログラムを呼び出すように要求して保管されています。オブジェクトは、すべてがBRMSによって適切な回復ステップで復元され、回復出口プログラムへの呼び出しを必要とする各オブジェクトはリストに入れられます。回復のためのすべてのデータが復元された後に、このオプションを通じて各パッケージごとに出口プログラムが呼び出されます。

パッケージは、**パッケージ識別コード(PKGID)**パラメーターで値を指定して、保管操作中と一緒にグループ化された媒体ファイルの関連グループです。

回復時に回復出口プログラムを呼び出すことを必要としていた単一のオブジェクトまたはパッケージの回復でも、このステップは同じ方法で実行され、オブジェクトが復元され、オブジェクトのリストを使用して出口プログラムが呼び出されます。

***RESUME**

回復が停止された点から回復が開始されるようにします。

***SAVSYS**

BRMS媒体内容情報に基づいてオペレーティング・システムが復元されるようにします。

***SYSBAS**

システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールだけをBRMS媒体内容情報に基づいて復元したい場合です。

トップ

処置(ACTION)

回復分析報告書を作成するか、または実際の回復を実行するかどうかを指定することができます。

***REPORT**

回復分析報告書が作成されます。必要な媒体が使用可能であり、必要なすべての保管が実行されていることを保証するために、システムまたは*IBMを復元する前にこれを行うことをお勧めします。

***RESTORE**

要求された項目が、BRMS媒体内容情報から復元されるようにします。

注: *RESTOREを指定し、**オプション(OPTION)**パラメーターに*SYSTEMを指定している場合には、回復の実行画面に戻ります。

トップ

回復の期間(PERIOD)

回復項目が回復のために選択される期間を指定します。選択された項目は、回復報告書に組み込まれるか、あるいは回復されます。これは、**処置(ACTION)**パラメーターに指定した値によって異なります。

要素1: 開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

その時点以降の回復項目が組み込まれる開始作成時刻を指定するために、次の1つが使用されます。指定された時刻および日付より前に作成された項目は、いずれも選択された回復項目には含まれません。

*AVAIL

開始日に使用可能なすべての時刻が含まれます。

開始時刻

組み込まれる回復項目を指示する指定された開始日の開始時刻を指定してください。

時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしの場合には、4または6桁の文字列(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH=時、MM=分、SS=秒です。時間、分、および秒は、(必要な場合には、先行ゼロを使用して)それぞれが正確に2桁でなければなりません。
- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁の文字列を指定してください。この場合には、時、分、秒を区切るためにジョブに指定された時刻区切り記号を使用します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、文字列をアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号が使用された場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日付

その日以降の保管保管が作成されていなければならない開始日を指定するために、次の1つが使用されます。指定された日付より前に保管された項目は、いずれも回復には含まれません。

*BEGIN

媒体内容情報の回復項目が始めから回復されます。

*CURRENT

現在日が作成日であり、指定された開始時刻と終了時刻(それが指定された場合)の間にある回復項目が回復されます。

開始日 開始日を指定してください。この日付は、ジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

その時点以前の回復項目が組み込まれる終了時刻を指定するために、次の1つが使用されます。指定された時刻および日付より後に作成された項目は、いずれも回復のために選択された回復項目には含まれません。

*AVAIL

終了日に使用可能なすべての時刻が含まれます。

終了時刻

組み込まれる回復項目を指示する指定された終了日の終了時刻を指定してください。

要素2: 終了日付

その日以前の回復項目が保管されなければならない終了日を指定するために、次の1つが使用されます。指定された日付より後に作成された回復項目は、いずれも回復操作には含まれません。

***END** 回復情報の回復項目が終わりまで回復されます。

***CURRENT**

保管日が現在日かそれより前の日付となる回復項目が回復に組み込まれます。

終了日 終了日を指定してください。この日付は、ジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

トップ

保管ファイルの使用(USESAVF)

保管ファイルを回復用に使用したいかどうかを指定します。

***YES** 保管ファイルが回復に使用されるようにします。回復したいライブラリーがテープと保管ファイルの両方に保管されていて、その保管時刻と日付が同じである場合には、BRMSは回復のために保管ファイルを使用します。

***NO** 保管ファイルが回復に使用されないようにします。

トップ

ADSMの使用(USEADSM)

TSM (ADSM)サーバーに保管されているデータを回復に含めるかどうかを指定します。TSMサーバーに保管されているデータを回復に含めると、そのデータの回復を助けるために回復報告書に追加のステップが追加されます。全システム回復中には、システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールのデータが回復された後で、初期IPLの後にTSMサーバー・データが回復されます。これによって、TSMサーバーへの接続を確立するために必要なオペレーティング・システムの資源を使用可能にすることを保証します。また、回復データが存在する場所に基づいて、BRMSも回復の決定を行います。たとえば、現在の全バックアップがTSMサーバーに保管されているが、増分バックアップがテープに保管されていると、BRMS報告書または計画には、TSMサーバーからの全バックアップを最初に行い、その後でテープから増分保管を回復しなければならないことが指示されます。

***YES** TSMデータを回復報告書または回復計画に組み込みます。

***NO** TSMデータを回復報告書または回復計画に組み込みません。

トップ

補助記憶域プール(ASP)

復元したいシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールを指定します。オプション(OPTION)パラメーターが*ASPの場合には、ASPパラメーターは必須フィールドです。システム(1)補助記憶域プールを復元した場合には、ユーザー・データだけが復元され、オペレーティング・システムは復元されません。

***SYSTEM**

システム(1)補助記憶域プールを復元したい場合です。

補助記憶域プール名

復元したい基本ユーザー補助記憶域プールの名前を指定してください。

補助記憶域プール番号

復元したいシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールの番号を指定します。

[トップ](#)

ライブラリー(LIB)

復元したいライブラリーの名前を指定してください。ライブラリーは、オプション・フィールドに*LIBが入っている時には必須フィールドです。

ライブラリー名

復元したいライブラリーの名前を指定してください。

総称*ライブラリー名

復元したいライブラリーのグループの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名とは、1つまたは複数の文字とその後続くアスタリスク(*)から成る文字列です。*が名前と一緒に指定されていない場合には、システムは、その名前を完全なライブラリー名であると見なします。

[トップ](#)

リスト(LIST)

回復操作のためのリストの名前を指定します。

オプション(OPTION)パラメーターに*LNKLISTが指定されている場合には、リスト(LIST)パラメーターは、復元したい統合ファイル・システムのリストの名前を指定します。単一のリストまたはすべてのリストを復元することができます。

***ALL** すべての統合ファイル・システムのリストが回復のために選択されます。

リンク・リスト名

復元したい統合ファイル・システムのリストの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジャーナル(JRN)

ジャーナル変更適用操作に含めるジャーナルの修飾名を指定します。最大25個の修飾名を指定することができます。

制約事項:

- このパラメーターが有効なのは、オプション(OPTION)パラメーターに*APYJRNCHGが指定されている場合だけです。
- FROMシステム(FROMSYS)パラメーターには*LCLを指定する必要があります。

単一値

***JRNLST**

ジャーナル変更適用操作に含めるジャーナルの名前は、保管済みのジャーナルのリストから検索されます。

修飾子1: ジャーナル

名前 ジャーナル変更適用操作に含めるジャーナルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

名前 ジャーナル変更適用操作に含めるジャーナルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

ASP装置(ASPDEV)

現行システムの回復に含める補助記憶域プール装置を指定します。最大25回までの反復を指定することができます。

制約事項:

- このパラメーターが有効なのは、**オプション(OPTION)**パラメーターに*SYSTEMまたは*ASPDEVが指定されている場合だけです。
- **FROMシステム(FROMSYS)**パラメーターには*LCLを指定する必要があります。

注: 回復に他のシステムに保管された補助記憶域プール装置のオブジェクトを含めるためには、現行システムは補助記憶域プール装置情報を保管しているシステムから媒体内容情報を受け取る必要があります。

注: 他のシステムに保管されている補助記憶域プール装置のオブジェクトを回復するためには、現行システムには保管されている項目が入っている媒体ボリュームの密度をサポートする装置がなければなりません。

要素1: FROMシステム

補助記憶域プール装置が保管されたシステムを指定します。

***LCL** 回復に、現行システムに保管された補助記憶域プール装置を含めます。

システム名

回復に、指定されたシステムに保管された補助記憶域プール装置を含めます。

ネットワークID.システム名

回復に、指定されたシステムに保管された補助記憶域プール装置を含めます。システム名の形式はNNNNNNNN.CCCCCCCCで、この場合のNNNNNNNNはネットワークID、CCCCCCCCは省略時のローカル・ロケーション名です。

要素2: 補助記憶域プール

補助記憶域プール装置の名前を指定します。

***ALL** 回復に、すべての補助記憶域プール装置を含めます。

補助記憶域プール名

回復に、この名前でも識別された補助記憶域プール装置を含めます。

要素3: オブジェクト

オブジェクトのタイプを指定します。

***ALL** 回復にすべてのオブジェクトを含めます。

***LIB** 回復にライブラリー・オブジェクトだけを含めます。

***LNK** 回復にディレクトリーおよびファイル・オブジェクトだけを含めます。

制御グループ選択(CTLGRP)

復元したい制御グループの名前を指定します。オプション(OPTION)パラメーターに*CTLGRPが入っている場合には、CTLGRP)パラメーターが必須フィールドです。単一の制御グループを指定するか、あるいは複数の制御グループおよびそれらが復元される順序を指定することができます。

制御グループのリストから1つまたは複数の制御グループを選択したい場合には、CTLGRPパラメーターに*SELECTを選択して実行キーを押してください。「制御グループの選択および順序づけ」画面が表示され、この画面には媒体内容情報の中にあるすべての制御グループが表示されます。相対復元順序を確立するために各制御グループごとに順序番号を入れることにより、復元したい各制御グループを選択して順序づけることができます。順序番号の範囲は1-99とすることができます。最大300個までの制御グループを選択することができます、同じ順序番号を共用することができます。

全保管と増分保管が異なる制御グループにおいて行われる場合には、増分項目が選択されるように両方の制御グループを指定する必要があります。たとえば、STRRCYBRM OPTION(*CTLGRP) CTLGRP((A) (B))のように指定することができます。

報告書における項目の順序を確実にするために、制御グループ名と一緒に順序番号を使用することができます。増分制御グループを全制御グループより前に順序付けないようにしてください。これを行うと、全保管が増分保管の上に復元されてしまいます。同時に実行する制御グループに対しては異なる順序番号を使用するのが得策です。そうしないと、いろいろなテープのロードとアンロードの回数が増える可能性があります。たとえば、制御グループCはAと同時に実行され、DはBと同時に実行されます。この場合、順序番号の適切な使用法はSTRRCYBRM OPTION(*CTLGRP) CTLGRP((A 10) (C 10) (B 20) (D 20))となります。

単一値

*SELECT

制御グループのリストから1つまたは複数の制御グループを選択してそれらを媒体内容情報から復元します。このパラメーターはバッチ操作では使用できません。

その他の値 (反復は最大300回まで)

要素1: 制御グループ

*NONE

制御グループと対応していないデータを復元します。

*BKUGRP

ユーザー・データ・バックアップ制御グループが復元されるようにします。

*SYSGRP

システム・データ制御グループが復元されるようにします。

*SYSTEM

システム全体バックアップ制御グループが復元されるようにします。

制御グループ名

復元したい制御グループの名前を指定してください。

要素2: 順序番号

順序番号

選択した制御グループを選択したい順序を示すために1-99の番号を指定します。複数の制御グループに同じ順序番号を指定することができます。

注: CTLGRPパラメーターに*NONEが指定されている場合には、順序番号は無視されます。

[トップ](#)

除外するライブラリー(OMITLIB)

回復から除外したいライブラリーを指定してください。すべてのライブラリーの組み込み、あるいは削除されるライブラリーおよび/または指定したライブラリーの除外、および/または総称ライブラリーの指定を選択できます。最大25回までの反復を指定することができます。

単一値:

***NONE**

回復にすべてのライブラリーを含めます。

その他の値:

***DELETE**

削除されるライブラリーを回復から除外します。

ライブラリー名

指定されたライブラリーを回復から除外します。

***総称ライブラリー名**

この総称名で始まるライブラリーを回復から除外します。

[トップ](#)

重複項目可能(ALWDUP)

選択または復元できる制御グループのリストで重複項目が許されるかどうかを指定します。

***NO** 重複している制御グループ項目を制御グループの選択および順序付け画面で使用することはできません。

***YES** 制御グループの選択および順序付け画面で重複を使用することができます。

[トップ](#)

ボリュームの場所(LOC)

回復に組み込みたい場所を指定します。

単一値

***ALL** BRMSでセットアップが完了しているすべての場所を組み込みます。

その他の値 (反復は最大10回まで)

***HOME**

ホーム場所だけが回復に組み込まれます。

ロケーション名

回復に組み込みたい場所の名前を指定してください。最高10個の場所を指定することができます。

[トップ](#)

FROMシステム(FROMSYS)

媒体情報をローカル・システムに復元したい場合に、その復元元のシステムの位置およびネットワークIDを指定します。

注: ネットワーク属性の表示(DSPNETA)コマンドは、システム・ネットワーク属性を表示するのに使用します。

注: *LCL以外の値が指定されている場合には、この値を使用するのにBRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

***LCL** FROMシステムがローカル・システムであることを示します。BRMSは、現行システム名を判別するのに、省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を使用し、システム名(SYSNAME)ネットワーク属性は使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。

ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムの省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。リモート・システムと接続するには、現行システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性が使用されます。

ネットワークID.ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)および省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。ここで、NNNNNNNNはLCLNETIDで、CCCCCCCCはLCLLOCNAMEです。

[トップ](#)

システム情報の印刷(PRTSYSINF)

このコマンドの処理時に印刷する回復報告書にシステム情報を組み込みたいかどうかを指定します。*YESを指定すると、システム情報印刷(PRTSYSINF)コマンドが処理されます。

***NO** 回復報告書の印刷時にシステム情報を組み込みません。

***YES** 回復報告書の印刷時にシステム情報を組み込みます。

[トップ](#)

複写媒体の使用(USEDUPMED)

回復のヒストリー項目を選択する時に、オリジナルの保管媒体または複写の保管媒体のいずれを使用したいかを指定します。オリジナルの媒体をオフサイトに移動し、オリジナル媒体の複写をオンサイトで保管したい場合には、このオプションを使用できます。省略時の値は*NOです。

***NO** 回復のヒストリー項目を選択する時に、オリジナルの保管媒体を使用したいことを指定します。

***YES** 回復の履歴項目を選択する時に、複製の媒体を使用したいことを指定します。

トップ

ユーザー回復(USRRCYINF)

ユーザー回復情報を、このコマンドで作成したBRMS回復報告書(QPIARCY)に追加したいかどうかを指定します。

使用上の注意:

1. ユーザー回復情報は、その情報を含むレコードを、ライブラリーQUSRBRM内のファイルQO1AUSRRCYの該当するメンバーに追加することによって、回復報告書に含めることができます。メンバーPROLOGにレコードを追加し、報告書のプロログ情報にユーザー回復情報を含めます。メンバーSTEPNNNにレコードを追加して、ユーザー回復情報を報告書の特定ステップに含めます。ここでNNNは、報告書に示される時のステップ番号です。最大92バイトまでのユーザー回復情報を各レコードに追加できます。レコード数の制限はありません。
2. ユーザー回復情報が追加されるのは、BRMS情報の後で、ステップ中のどの保管項目よりも前に追加されます。この情報は、報告書でユーザー回復情報として明確に強調表示されます。
3. 各レコードは最初のレコードから開始し、最後のレコードで終了するまでファイル・メンバーから順次読み取られ、読み取られたのと同じ順序で報告書に追加されます。各レコードは報告書の8桁目から始まる最後の印刷行の後に入れられます。
4. 各レコードのスペーシング、位置決め、および回復情報の変換はすべて、ユーザーの責任となります。
5. ユーザー回復情報の精度を保証するのも、ユーザーの責任となります。
6. 報告書のステップ番号は**オプション(OPTION)** パラメーターの値および回復の内容によって異なります。OPTIONまたは内容が変更された場合は、ファイルQO1AUSRRCYのメンバーの名前もそれに従って名前変更する必要がある場合があります。報告書タイプおよび保管項目内容に一貫性がある場合には、そのステップ番号にも一貫性がなければなりません。
7. ユーザー回復情報が要求されたが、メンバー中でレコードが検出されない場合に、例外の通知は出されません。

*NONE

その報告書で使用できるユーザー回復情報がないことを指定します。

***ADD** ユーザー回復情報は使用可能で、その報告書に追加されることを指定します。

注: この値を指定できるのは、*REPORTが**処置(ACTION)**パラメーターに指定された場合だけです。

トップ

例

例1: 全システム報告書の回復の印刷

```
STRRCYBRM OPTION(*SYSTEM)
```

このコマンドは、システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールおよび補助記憶域プール装置を含む全システムの復元を支援するための回復報告書を作成します。

例2: 全システム報告書の回復でのライブラリーの除外

```
STRRCYBRM OPTION(*SYSTEM) OMITLIB(*DELETE QSC*)
```

このコマンドは、システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールおよび補助記憶域プール装置を含む全システムの回復を支援する報告書を作成します。ただし、削除されるライブラリーおよび総称名QSC*で始まるライブラリーは報告書から除外されます。

例3: 全システム報告書の回復でのSTEP 002のカスタマイズ

ユーザー回復情報ファイルを処理するには、以下のコマンドを入力してください。

```
WRKMBRPDM FILE(QUSRBRM/Q01AUSRRCY) MBR(STEP002)
```

メンバーSTEP002で「2=編集」オプションを使用して、メンバーを編集します。報告書に追加したい詳細なユーザー回復情報を入力します。完了したなら、編集画面を終了し、その終了画面で編集セッションの変更を保管すること指示します。

報告書を印刷し、STEP 002のユーザー回復情報を確認するには、以下のコマンドを実行してください。同じコマンドを使用して、このユーザー回復情報を使用して将来のすべての報告書を生成します。

```
STRRCYBRM OPTION(*SYSTEM) USRRCYINF(*ADD)
```

上記のステップは、ユーザー自身のユーザー回復情報を追加して「全システム報告書の回復」のSTEP 002をカスタマイズする方法を示しています。その回復に固有の特別な詳細指示をシステム・オペレーターに提供するために、これを実行することがあります。これは、報告書の一部のステップでも、すべてのステップでも実行できます。

例4: 基本システムの全システム報告書の回復の印刷

```
STRRCYBRM OPTION(*SYSBAS)
```

このコマンドは、システム(1)および基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールを含み、補助記憶域プール装置を除外する基本システムの復元を助ける報告書を作成します。

例5: 補助記憶域プールの全システム報告書の回復の印刷

```
STRRCYBRM OPTION(*ASP) ASP(2)
```

このコマンドは、基本ユーザー補助記憶域プール2への保管済み項目の復元を助ける報告書を作成します。

例6: 補助記憶域プール装置MYASPの復元

```
STRRCYBRM OPTION(*ASP) ACTION(*RESTORE) ASP(MYASP)
```

このコマンドは、補助記憶域プール装置MYASPから保管オブジェクト保管済み項目のリストが入っている回復項目の選択画面を表示します。

例7: 切り替えられた補助記憶域プール装置での全システム回復報告書

```
STRRCYBRM ACTION(*REPORT) OPTION(*SYSTEM)  
          ASPDEV(SYSTEM_B PAYROLL)
```

このコマンドは、SYSTEM_Bに保管された補助記憶域プール装置PAYROLLを含む現行システムの復元を助ける報告書を作成します。SYSTEM_Bは、BRMSネットワーク内のシステムで、そのネットワーク媒体情報を現行システムに保管します。

例8: ジャーナル変更の適用

```
STRRCYBRM OPTION(*APYJRNCHG) JRN(*JRNLS)
```

このコマンドは、BRMSにBRMSを使用したジャーナルの処理画面のプロンプトを出します。この画面は、BRMSを使用して保管されているジャーナルの名前が取り込まれます。オプション1=変更の適用を使用して関連ジャーナル・レシーバーをBRMSを使用したジャーナル変更の適用画面に表示し、その後でF16=変更の適用を使用してジャーナル変更を適用します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1177

リモート・システムとの接続を確立できません。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

BRM61FF

回復がエラーで完了した。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

トップ

BRM使用のサブシステムの開始 (STRSBSBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したサブシステムの開始(STRSBSBRM)コマンドは、制御グループの処理の結果として終了され、制御グループの 処理するサブシステム 項目の 再始動 フィールドに*YESの値が指定されているサブシステムを再始動します。

制御グループ名およびサブシステムを再始動しようとしている制御グループのタイプを指定することができます。

注: 制御グループの*EXITバックアップ項目にこのコマンドを指定して、CTLGRPパラメーターに現行の制御グループ名を指定している場合は、これには通常行われるより早く現行の制御グループの 処理するサブシステム に定義されたサブシステムを再始動する効果があります。通常、サブシステムはすべての保管が完了した後の事後処理中に再始動されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLGRP	制御グループ	名前, *BKUGRP, *ARCGRP, *MGRGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
TYPE	タイプ	*BKU, *ARC, *MGR	オプション

トップ

制御グループ(CTLGRP)

サブシステムを再始動したい制御グループを指定します。

*BKUGRP

省略時のユーザー・データ・バックアップ制御グループ用にサブシステムが再始動されるようにします。

*ARCGRP

省略時の保存制御グループ用にサブシステムを再始動します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

*MGRGRP

省略時の移行制御グループのサブシステムを再始動します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***SYSGRP**

省略時のシステム・データ・バックアップ制御グループ用にサブシステムが再始動されるようにします。

***SYSTEM**

省略時のシステム全体バックアップ制御グループ用にサブシステムが再始動されるようにします。

制御グループ名

サブシステムを再始動したい制御グループの名前を指定してください。

トップ

タイプ(TYPE)

ユーザーが識別した制御グループのタイプを示します。CTLGRPパラメーターに*SYSTEM, *BKUGRP, *ARCGRP, *SYSGRP,または*MGRGRPが指定されていると、タイプは無視されます。

***BKU** 制御グループはバックアップ制御グループです。

***ARC** 制御グループは保存制御グループです。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***MGR** 制御グループは移行制御グループです。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

トップ

例

```
STRSBSBRM CTLGRP(ARCHIVE01) TYPE(*ARC)
```

このコマンドは、保存制御グループARCHIVE01が保存処理を完了した後でサブシステムを再始動します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

BRM1381

制御グループ&1,タイプ&2が見つからない。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

BRMを使用した移動の確認 (VFYMOVBRM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した移動の検査(VFYMOVBRM)コマンドは、媒体移動の検査画面を表示します。この媒体移動の検査画面によって、個々の媒体ボリュームの移動を検査したり、移動を予定されているすべてのボリュームを検査したり、あるいは個別のボリュームまたは選択したボリュームの移動を取り消すことができます。検査するために、すべてのシステムを指定するか、あるいは選択したシステムを指定することができます。

VFYMOVBRMコマンドを実行すると、ボリューム移動報告書が作成されます。この報告書は印刷装置ファイルQP1AVMSに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSNAME	システム名	文字値, *ALL, *LCL	オプション

[トップ](#)

システム名(SYSNAME)

媒体移動について検査したいシステム識別コードを指定します。

***ALL** すべてのシステム上にあるすべての媒体を媒体移動のために選択された媒体に組み込みます。

***LCL** システムがローカル・システムであることを指定します。BRMSは省略時のローカル・ロケーション名LCLLOCNAMEを使用し、システム名SYSNAMEは使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。DSPNETAコマンドを使用してシステム・ネットワーク属性を表示することができます。

ロケーション名

システムと関連したりリモート・ロケーションの名前を指定してください。DSPNETA コマンドを使用して表示されるローカル・システムのネットワークIDが、システムのネットワークIDとして使用されます。

注: この値を使用するには、BRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

ネットワークID.ロケーション名

システムと関連したりリモート・ロケーションのネットワークIDおよび名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。NNNNNNNNはネットワークIDで、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

注: この値を使用するには、BRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

[トップ](#)

例

例1: 媒体移動の検査

VFYMOVBRM

このコマンドは、媒体移動の検査画面を表示します。ネットワークのすべてのシステムで媒体移動を選択した媒体が表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

[トップ](#)

ASP記述の処理 (WRKASPBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ASP記述の処理(WRKASPBRM)コマンドは、ASP記述の処理画面を呼び出すか、あるいはASP記述報告書を作成します。結果の画面または報告書は、ASP記述の処理コマンドで指定する値によって異なります。個別の補助記憶域プール、すべての補助記憶域プール、または総称補助記憶域プールを指定することができます。さらに、ASPクラス別の要求、および結果の出力をソートしたい順序を定義することができます。

出力は画面または印刷報告書とすることができます。作成される報告書はASP記述報告書です。この報告書（印刷の場合）は印刷装置ファイルQP1AXSに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、BRMS拡張機能（オプション2）が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ASP	補助記憶域プール	総称名, 名前, *ALL, *NONE, *SYSTEM, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32	オプション
ASPCLS	ASPクラス	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
SORT	ソート順序	*NAME, *CLASS	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

補助記憶域プール(ASP)

表示あるいは報告したい補助記憶域プールの名前または特殊値を指定します。

***ALL** すべての補助記憶域プールが画面または報告書に組み込まれます。

***NONE**

どの補助記憶域プールも画面または報告書に組み込みません。

***SYSTEM**

システム(1)補助記憶域プールのみが画面または報告書に組み込まれます。

総称*ASP名

総称補助記憶域プール名を指定します。たとえば、ASP0*を指定すると、ASP0で始まる名前をもつすべての補助記憶域プールが報告書または画面に組み込まれることになります。

ASP名 報告書または画面に組み込む補助記憶域プールの名前を指定します。

ASP番号

報告書または画面に組み込むシステム(1)または基本ユーザー(2-32)補助記憶域プールの番号を指定します。

[トップ](#)

ASPクラス(ASPCLS)

表示あるいは報告したいASPクラスの名前または特殊値を指定します。

***ALL** すべてのASPクラスが画面または報告書に組み込まれます。

*NONE

ASPクラスに割り当てられていない補助記憶域プールのみが画面または報告書に組み込まれます。

総称*ASPクラス名

総称ASPクラス名を指定してください。たとえば、MEDIUM*と指定すると、MEDIUMで始まる名前をもつすべてのASPクラスが報告書または画面に組み込まれることになります。

ASPクラス名

報告書または画面に組み込む特定のASPクラスの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソート順序(SORT)

結果の情報を表示または報告したい順序を指定します。

*NAME

結果の画面または報告書は補助記憶域プール名順に順序付けられます。名前のない補助記憶域プールが最初にリストされます。

*CLASS

結果の画面または報告書はASPクラスの階層順に配列されます。クラスに割り当てられていないASPは最後にリストされます。

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

例

例1: システムASPの処理

WRKASPBRM ASP(1)

このコマンドは、システムASPであるASP 1の「ASP記述の処理」パネルを表示します。このパネルから、システムASPの記述を検討または変更できます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

CPF9800

すべてのCPF98XXメッセージは信号送信できます。XXは01からFFです。

トップ

BRMを使用した予定表の処理 (WRKCALBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

予定表の処理(WRKCALBRM)コマンドは、予定表の処理画面を表示することによってすべての予定表項目を処理します。この画面から、予定表情報を追加、除去、変更、コピー、または表示することができます。出力は画面または印刷報告書とすることができます。作成される報告書は予定表報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQPIACAに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

- 予定表名は10文字までの長さとすることができ、I5/OSの命名規則に従います。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

- *
_ 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

WRKCALBRM

このコマンドは、「予定表の処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

[トップ](#)

BRMを使用したクラスの処理 (WRKCLSBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したクラスの処理(WRKCLSBRM)コマンドは、すべてのまたは選択されたコンテナ・クラス、補助記憶域プール(ASP)クラス、あるいは媒体クラスを処理します。単一のクラスまたはすべてのクラスを選択することができます。出力は画面または印刷報告書とすることができます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*MED, *ASP, *CNR	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

タイプ(TYPE)

媒体クラス、ASPクラス、またはコンテナ・クラスのいずれかで表示または印刷するかを指定することができます。

***MED** 媒体クラスについて表示または報告したい場合に指定します。作成される報告書は媒体クラス報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1AMTに書き出されます。

***ASP** ASPクラスで表示または報告します。作成される報告書はASPクラス報告書です。この報告書（印刷の場合）は印刷装置ファイルQP1AXCに書き出されます。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能（オプション2）が必要です。

***CNR** コンテナ・クラスについて表示または印刷したい場合に指定します。作成される報告書はコンテナ・クラス報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1ACTに書き出されます。

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

トップ

例

WRKCLSBRM TYPE(*CNR)

このコマンドは、「コンテナー・クラスの処理」パネルを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

トップ

BRM使用のコンテナの処理 (WRKCNBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したコンテナの処理(WRKCNBRM)コマンドは、すべてのコンテナまたは選択されたコンテナを処理します。すべてのコンテナ、またはオープンされたコンテナか、クローズされたコンテナを選択することができます。選択項目は、場所によってさらに詳細にすることができます。出力は画面または印刷報告書とすることができます。作成される報告書はコンテナ報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1ACNに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CNR	コンテナID	名前, <u>*ALL</u>	オプション、位置 1
STATUS	状況	<u>*ALL</u> , *CLOSED, *OPEN	オプション、位置 2
LOC	場所	名前, <u>*ALL</u> , *HOME	オプション、位置 3
CNRCLS	コンテナ・クラス	名前, <u>*ALL</u>	オプション、位置 4
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション、位置 5

[トップ](#)

コンテナID (CNR)

特定のコンテナを処理したいかあるいはすべてのコンテナを処理したいか、そのいずれかを指定します。

*ALL BRMSコンテナ・インベントリ中のすべてのコンテナが処理されるようにします。

コンテナID

BRMSコンテナ・インベントリ中の処理したいコンテナIDを指定してください。

[トップ](#)

状況(STATUS)

すべてのコンテナ、オープンされたコンテナ、またはクローズされたコンテナを処理するかどうかを指定します。オープンされたコンテナは追加の媒体ボリュームを受け入れることができ、クローズされたコンテナはできません。

***ALL** BRMSコンテナ・インベントリ中のすべてのコンテナが処理されるようにします。

*CLOSED

クローズされたコンテナが処理されます。

*OPEN

オープンされているコンテナが処理されます。

[トップ](#)

場所(LOC)

処理したい場所を指定します。単一のコンテナ、ホーム保管場所にあるコンテナ、他の保管場所にあるコンテナ、またはすべてのコンテナを指定することができます。

***ALL** すべての場所にあるすべてのコンテナが処理されます。

*HOME

場所*HOMEにあるコンテナが処理されます。

ロケーション名

処理したいコンテナのある場所を指定してください。

[トップ](#)

コンテナ・クラス(CNRCLS)

処理したいコンテナのコンテナ・クラスを指定します。コンテナ・クラスは、物理媒体クラスの保管および移送に使用される物理コンテナのタイプを定義します。コンテナ・クラスは容量や媒体クラスなどの属性によって区別されます。たとえば、8ミリメートル・カートリッジに複数のコンテナ・クラスがある場合もあります。あるコンテナ・クラスを、このコンテナ・クラスが8ミリメートル・カートリッジとして使用され、10カートリッジの容量があることを示すCONT8MM10とすることができます。8ミリメートル・カートリッジ用にカートリッジ25個を収容できる別のコンテナを使用する場合には、CONT8MM25をコンテナ・クラスとしてセットアップすることができます。

***ALL** 処理しようとしているコンテナに割り当てられているすべてのコンテナ・クラスが処理されます。

コンテナ・クラス名

処理したいコンテナのコンテナ・クラスのユーザー定義名を指定してください。

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

*
出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

WRKCNBRM STATUS(*OPEN) LOC(*HOME)

このコマンドは、ホーム場所にあるすべてのオープン・コンテナが表示される「コンテナの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

[トップ](#)

制御グループの処理 (WRKCTLGBRM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した制御グループの処理(WRKCTLGBRM)コマンドにより、バックアップ、保存、および移行制御グループの画面あるいは報告書を作成することができます。制御グループ情報を表示する場合には、制御グループを作成、削除、変更、または表示できる、選択された制御グループの処理画面が表示されます。制御グループ情報を報告する場合には、選択された制御グループ報告書が作成されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	* BKU , *ARC, *MGR	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

タイプ(TYPE)

処理したい制御グループのタイプを指定します。

***BKU** バックアップ制御グループが処理されるようにします。

***ARC** 保存制御グループが処理されるようにします。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***MGR** 移行制御グループを処理します。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力が表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいは印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

注: OUTPUT(*PRINT)がサポートされるのはTYPE(*MGR)の場合だけです。

[トップ](#)

例

WRKCTLGBRM

このコマンドは、「バックアップ制御グループの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

BRM1039

&1は現在使用中。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

[トップ](#)

BRMを使用した装置の処理 (WRKDEVBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した装置の処理(WRKDEVBRM)コマンドは、装置の処理画面を表示することによってすべての装置項目を処理します。この画面から、装置情報を追加、除去、変更、または表示することができます。出力は画面または印刷報告書とすることができます。作成される報告書は装置報告書です。この報告書は、印刷される場合に、印刷装置ファイルQP1ADVに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

WRKDEVBRM

このコマンドは、「装置の処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1240

装置&1を使用することはできない。

BRM1291

装置項目&1は使用中。

BRM1706

媒体ライブラリー&1が使用中である。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

[トップ](#)

保管済みフォルダーの処理 (WRKFLRBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した保管済みフォルダーの処理(WRKFLRBRM)コマンドは、すべてのサブフォルダーを含めて、保管済みフォルダーの報告書を表示または印刷します。フォルダーは日付の範囲別を選択され、結果の表示/印刷はいくつかの方法で順序付けすることができます。

表示オプションを選択した場合には、各フォルダー内の文書を表示し、それらを媒体インベントリから復元することができます。作成される報告書は保管済みフォルダー報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1AFDに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FLR	フォルダー	文字値, *ALL	オプションル, 定位置 1
SLTDATE	日付の選択	要素リスト	オプションル
	要素 1: 開始日	文字値, *BEGIN, *CURRENT	
	要素 2: 終了日	文字値, *END, *CURRENT	
SAVSTS	保管状況	*ALL, *ERROR, *NOERROR	オプションル
SORT	順序付けオプション	*DATE, *FLR	オプションル
FROMSYS	FROMシステム	文字値, *LCL	オプションル
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプションル

[トップ](#)

フォルダー(FLR)

表示または印刷したいフォルダーまたはフォルダー・グループの名前を指定してください。

***ALL** すべてのフォルダーを表示または印刷に組み込んでください。

フォルダー名

表示または印刷したいフォルダーの名前を指定してください。

総称*フォルダー名

総称フォルダー名を指定してください。たとえば、ACCFLR*を指定することによって、ACCFLRで始まる名前のすべてのフォルダーが表示または印刷に組み込まれます。

日付の選択(SLTDATE)

保管済みフォルダーの表示または印刷時に使用したい日付の範囲を指定します。**開始日**は保管済みフォルダーの日付範囲の始めであり、**終了日**は、その日付範囲の終わりです。

注: このパラメーターを使用すれば、区切り記号のない日付または最大5桁までの日数を入力することができます。たとえば、月/日/年形式を使用している場合には、12904という数字は1月29日、2004年として形式設定されます。一方、13904という数字を入力した場合には、BRMSはこれを日付とは見なさず、数値と見なします。BRMSは、数字が入力された時に常にカレンダー日付を最初に計算しようとし、計算した日付が正しくなかった場合には、それを日数と見なします。5桁を超える数字を入力し、計算された日付が正しくなかった場合には、エラー・メッセージを受け取ります。

要素1: 開始日付

***BEGIN**

最も早い活動日付を日付の範囲の開始日として使用します。

***CURRENT**

現在日を日付の範囲の開始日として使用します。

開始日 日付区切り記号の有無にかかわらずジョブ日付の形式で入力された日付を、日付の範囲の開始日として指定してください。

日数 日付の範囲の開始日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

要素2: 終了日付

***END** フォルダーが保管された最終日付が、検索に使用したい日付の範囲の終了日となります。

***CURRENT**

現在日を日付の範囲の終了日として使用します。

終了日 日付の範囲の終了日として使用したい日付を、日付区切り記号付きまたはなしのジョブ日付形式で指定してください。

日数 日付の範囲の終了日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

保管状況(SAVSTS)

すべての正常な保管、正常でない保管、あるいはその両方のいずれを表示または報告したいかを指定します。

***ALL** 正常な保管と正常でない保管の両方が画面または報告書に組み込まれます。

***ERROR**

正常でない保管だけが画面または報告書に組み込まれます。

***NOERROR**

正常な保管だけが画面または報告書に組み込まれます。

順序付けオプション(SORT)

保管済みフォルダの処理画面または報告書は、いくつかの方法で順序付けすることができます。

*DATE

画面または報告書を日付順に順序づけます。

***FLR** 画面または報告書をフォルダ順に順序づけます。

トップ

FROMシステム(FROMSYS)

処理したいフォルダ情報のあるシステムのロケーションおよびネットワークIDを指定します。

注: ネットワーク属性の表示(DSPNETA)コマンドは、システム・ネットワーク属性を表示するのに使用します。

注: *LCL以外の値が指定されている場合には、この値を使用するのにBRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

***LCL** FROMシステムがローカル・システムであることを示します。BRMSは、現行システム名を判別するのに、省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を使用し、システム名(SYSNAME)ネットワーク属性は使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。

ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムの省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。リモート・システムと接続するには、現行システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性が使用されます。

ネットワークID.ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)および省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。ここで、NNNNNNNNはLCLNETIDで、CCCCCCCCはLCLLOCNAMEです。

トップ

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

* 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

トップ

例

WRKFLRBRM SLTDATE(*BEGIN *END)

このコマンドは、ファイルの先頭からファイルの最後まですべてのフォルダーが表示される「保管フォルダーの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1177

リモート・システムとの接続を確立できません。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMS プロダクトの初期設定が必要である。

[トップ](#)

BRMを使用したリストの処理 (WRKLB RM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したリストの処理(WRKLB RM)コマンドは、ユーザーが選択するリストの報告書を表示または印刷します。ユーザーは、すべてのリスト、バックアップ・リストまたは保存リストの表示または印刷を選択することができます。表示オプションを選択した場合には、リストの処理画面が表示され、この画面でリストを作成、削除、変更、または表示することができます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	使用のタイプ	*ALL, *ARC, *BKU	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

使用法のタイプ(TYPE)

処理したいリストのタイプを指定してください。

***ALL** すべてのタイプのリストが処理されます。

***ARC** 保存リストが処理されます。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKU** バックアップ・リストが処理されます。

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいは印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

保存リストを印刷したい場合には、次の報告書が関連の印刷装置ファイルに書き出されます。

- フォルダー保存リスト報告書-QP1AAF
- オブジェクト保存リスト報告書-QP1AAO
- スプール・ファイル保存報告書-QP1AAQ

バックアップ・リストを印刷したい場合には、次の報告書が関連の印刷装置ファイルに書き出されます。

- フォルダー・バックアップ・リスト報告書 - QP1AFL
- オブジェクト・バックアップ・リスト報告書 - QP1AOB
- スプール・ファイル・バックアップ報告書 - QP1ALQ
- オブジェクト・バックアップ・リスト報告書 - QP1AFS

[トップ](#)

例

WRKLB RM TYPE(*BKU)

このコマンドは、「バックアップ・リストの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1177

リモート・システムとの接続を確立できません。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMS プロダクトの初期設定が必要である。

[トップ](#)

リンク情報の処理 (WRKLNKBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リンク情報の処理(WRKLNKBRM)コマンドにより、統合ファイル・システム・オブジェクト・リンク情報が入っているすべての選択されたディレクトリーを処理することができます。リンク情報の処理画面が表示され、統合ファイル・システム・オブジェクト・リンク情報の処理または除去を行うことができます。出力は画面または印刷報告書とすることができます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	ディレクトリー	パス名, <u>*</u>	オプション
SAVTYPE	保管タイプ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *ARC, *CUML, *FILE, *FULL, *INCR, *NONE, *QBRM	オプション
SLTDATE	日付の選択	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日	文字値, <u>*BEGIN</u> , *CURRENT	
	要素 2: 終了日	文字値, <u>*END</u> , *CURRENT	
FROMSYS	FROMシステム	文字値, <u>*LCL</u>	オプション
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

[トップ](#)

ディレクトリー(DIR)

画面または報告書で処理したいディレクトリーのパスを指定します。

* すべてのディレクトリーを画面または報告書に組み込みます。

オブジェクト名パターン

オブジェクトの名前、または表示するオブジェクトの名前と一致するパターンを指定してください。オブジェクト・パス名は、単純名または、オブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前のいずれかとすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意個の文字と一致し、疑問符(?)は単一文字と一致します。パス名が修飾されたりパターンを含んでいたりする場合には、アポストロフィで囲む必要があります。

[トップ](#)

保管タイプ(SAVTYPE)

処理したい保管項目のタイプを指定します。項目のすべてのタイプ、特定タイプ、またはタイプの混合を指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。入力画面が表示されていて、これらの複数個の値を入力するために追加の入力フィールドが必要である場合には、「値の続きは+」の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

単一値

***ALL** 保管項目のすべてのタイプを処理します。

その他の値（3回反復まで）

***ARC** 保存処理の結果である保管項目だけを処理します。

注: この値には、BRMS拡張機能（オプション2）が必要です。

*CUML

増分保管（変更されたオブジェクトの保管）の結果である保管項目だけを処理します。*CUMLは、増分保管には最後の全保管以降に変更されたすべてのオブジェクトが含まれることを意味します。

***FILE** 固有のIS/OS保管コマンドの結果である保管項目だけを処理します。

*FULL

全保管の結果である保管項目だけを処理します。

*INCR

増分保管（変更されたオブジェクトの保管）の結果である保管項目だけを処理します。*INCRは、増分保管には最後の増分保管以降に変更されたすべてのオブジェクトが含まれることを意味します。

*NONE

保管されたことのない保管項目だけを処理します。

*QBRM

保管されているBRMS媒体情報項目を処理します。

[トップ](#)

日付の選択(SLTDATE)

画面または報告書に組み込む項目を選択する時に使用したい日付の範囲を指定します。開始日は日付の範囲の開始点で、終了日は日付の範囲の終了点です。

注: このパラメーターを使用すれば、区切り記号のない日付または最大5桁までの日数を入力することができます。たとえば、月/日/年形式を使用している場合には、12904という数字は1月29日、2004年として形式設定されます。一方、13904という数字を入力した場合には、BRMSはこれを日付とは見なさず、数値と見なします。BRMSは、数字が入力された時に常にカレンダー日付を最初に計算しようとし、計算した日付が正しくなかった場合には、それを日数と見なします。5桁を超える数字を入力し、計算された日付が正しくなかった場合には、エラー・メッセージを受け取ります。

要素1: 開始日付

***BEGIN**

最も早い項目の日付は日付の範囲の開始日です。

***CURRENT**

画面または報告書のために選択する日付の範囲の開始点は現行日付です。

開始日 日付の範囲の開始日として使用したい日付を、日付区切り記号付きまたはなしのジョブ日付形式で指定してください。

日数 日付の範囲の開始日である現在日より前の日数を指定してください。

要素2: 終了日付

***END** 最終日付が日付の範囲の終了日です。

***CURRENT**

現行日付が日付範囲の終了日です。

終了日 日付の範囲の終了日として使用したい日付を、日付区切り記号付きまたはなしのジョブ日付形式で指定してください。

日数 日付の範囲の終了日である現在日より前の日数を指定してください。

トップ

FROMシステム(FROMSYS)

表示または印刷したい統合ファイル・システム情報があるシステムのロケーションおよびネットワーク識別を指定します。

注: ネットワーク属性の表示(DSPNETA)コマンドは、システム・ネットワーク属性を表示するのに使用しません。

注: *LCL以外の値が指定されている場合には、この値を使用するのにBRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

***LCL** FROMシステムがローカル・システムであることを示します。BRMSは、現行システム名を判別するのに、省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を使用し、システム名(SYSNAME)ネットワーク属性は使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。

ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムの省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。リモート・システムと接続するには、現行システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性が使用されます。

ネットワークID.ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)および省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。ここで、NNNNNNNNはLCLNETIDで、CCCCCCCCはLCLLOCNAMEです。

トップ

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

WRKLNKBRM SLTDATE(*CURRENT *CURRENT)

このコマンドは、現在日付のすべての統合ファイル・システム情報が表示される「リンク情報の処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1177

リモート・システムとの接続を確立できません。

BRM1867

ファイル&1への書き込み中にエラー。

BRM1868

ファイル&1が正常にオープンされなかった。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

BRM4117

最初の媒体ファイルの回復が必要である。

[トップ](#)

BRMを使用したロケーションの処理 (WRKLOCBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した場所の処理(WRKLOCBRM)コマンドによって、すべての保管場所を処理することができます。1つの場所またはすべての場所を選択することができます。出力は画面または印刷報告書とすることができます。作成される報告書は保管場所報告書です。この報告書は印刷装置ファイルQP1ASLに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

トップ

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

WRKLOCBRM

このコマンドは、「場所の処理」パネルを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

[トップ](#)

BRMを使用した媒体の処理 (WRKMEDBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した媒体の処理(WRKMEDBRM)コマンドは、任意またはすべての場所の作成日および満了日によって媒体インベントリー中の活動、満了、またはすべての媒体ボリュームを処理します。次のパラメーターを使用してこの画面または印刷報告書を調整することができます。作成される報告書は媒体報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1AMMに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	ボリュームの選択	* BOTH , *ACT, *EXP	オプション、位置 1
SLTCRTDATE	作成日の選択	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始作成日	文字値, * BEGIN , *CURRENT	
	要素 2: 終了作成日	文字値, * END , *CURRENT	
SLTEXPDATE	満了日の選択	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始満了日	文字値, * BEGIN , *CURRENT, *PERM	
	要素 2: 終了満了日	文字値, * END , *CURRENT	
VOL	ボリュームID	単一値: * ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
LOC	FROM場所	名前, * ALL , *HOME	オプション
CNR	コンテナ	名前, * ALL	オプション
MEDCLS	媒体クラス	名前, * ALL	オプション
SYSNAME	システム名	文字値, * ALL , *LCL	オプション
FILEGRP	ファイル・グループ	名前, * ALL , *NONE, *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
GRPTYPE	ファイル・グループ・タイプ	名前, * ALL , *ARC, *BKU, *NONE	オプション
TEXT	テキスト	文字値, * ALL , *NONE, *GENERIC*	オプション
SORT	順序	* VOL , *CRT, *EXP, *LOC	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

トップ

ボリュームの選択(TYPE)

このパラメーターを使用して表示または印刷したい媒体ボリュームのタイプを指定してください。

***BOTH**

活動中および満了の両方の媒体ボリュームを表示または印刷します。

***ACT** 活動中の媒体ボリュームだけを表示または印刷します。

***EXP** 満了の媒体ボリュームだけを表示または印刷します。

[トップ](#)

作成日の選択(SLTCRTDATE)

媒体の処理時に使用したい作成日の範囲を指定します。**開始作成日**は、選択した媒体の日付範囲の始めであり、**終了作成日**は、作成日の日付範囲の終わりです。

注: このパラメーターを使用すれば、区切り記号のない日付または最大 5 桁までの日数を入力することができます。たとえば、月/日/年形式を使用している場合には、12904 という数字は1月29日、2004年として形式設定されます。一方、13904 という数字を入力した場合には、BRMSはこれを日付とは見なさず、数値と見なします。BRMSは、数字が入力された時に常にカレンダー日付を最初に計算しようとし、計算した日付が正しくなかった場合には、それを日数と見なします。5 桁を超える数字を入力し、計算された日付が正しくなかった場合には、エラー・メッセージを受け取ります。

要素1: 開始作成日付

***BEGIN**

ファイル上の最も早い媒体ボリュームの作成日を作成日の範囲の始めとして使用します。

***CURRENT**

現在日を作成日の範囲の始めとして使用します。

開始作成日

作成日の範囲の始めとなる日付を指定してください。この日付は、現在日より前であるか等しくなければなりません。

日数 日付の範囲の開始日を決定するために使用する現在日より前の日数を指定してください。

要素2: 終了作成日付

***END** 媒体インベントリー中の最終作成日が作成日の範囲の終わりとして使用されます。

***CURRENT**

現在日を作成日の範囲の終わりとして使用します。

終了作成日

作成日の範囲の終わりとなる日付を指定してください。この日付は、開始作成日より後であるか等しく、現在日より前であるか等しくなければなりません。

日数 日付の範囲の終了日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

[トップ](#)

満了日の選択(SLTEXPDATE)

媒体の処理時に使用したい満了日の範囲を指定します。**開始満了日**が選択された媒体の日付の範囲の始めであり、**終了満了日**が満了日の日付の範囲の終わりとなります。

注: このパラメーターを使用すれば、区切り記号のない日付または最大5桁までの日数を入力することができます。たとえば、月/日/年形式を使用している場合には、12904という数字は1月29日、2004年として形式設定されます。一方、13904という数字を入力した場合には、BRMSはこれを日付とは見なさず、数値と見なします。BRMSは、数字が入力された時に常にカレンダー日付を最初に計算しようとし、計算した日付が正しくなかった場合には、それを日数と見なします。5桁を超える数字を入力し、計算された日付が正しくなかった場合には、エラー・メッセージを受け取ります。

要素1: 開始満了日付

***BEGIN**

ファイル上の最も早い媒体ボリュームの満了日を満了日の範囲の始めとして使用します。

***CURRENT**

現在日を満了日の範囲の始めとして使用します。

開始満了日

満了日の範囲の始めとなる日付を指定してください。この日付は、現在日より前であるか等しくなければなりません。

日数 日付の範囲の開始日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

要素2: 終了満了日付

***END** 媒体インベントリー中の最終満了日が満了日の範囲の終わりとして使用されます。

***CURRENT**

現在日を満了日の範囲の終わりとして使用します。

終了満了日

満了日の始めより大きいか等しい日付を指定してください。

日数 日付の範囲の終了日を決定するために使用する現在日より後の日数を指定してください。

***PERM**

永久保存とマークされている媒体ボリュームをすべて選択します。

トップ

ボリューム識別コード(VOL)

媒体の処理画面に表示したいボリューム（複数もある）を指定します。

単一値

***ALL** 指定されたすべてのパラメーターを満たす媒体インベントリー中のすべてのボリュームを表示または印刷します。

その他の値（反復は最大50回まで）

総称*ボリューム名

総称ボリューム名を指定してください。たとえば、VOL*を指定すると、VOLで始まる名前をもつすべてのボリュームが表示または印刷に組み込まれます。

ボリューム名

指定されたすべてのパラメーターを満たすボリューム（複数の場合もある）を表示または印刷することを指定してください。

FROM場所(LOC)

表示または印刷したい媒体の場所を指定します。

***ALL** 任意の保管場所に存在している媒体ボリュームを使用します。

***HOME**

ローカル保管場所*HOMEに存在している媒体ボリュームを使用します。

FROMロケーション名

媒体保管場所の名前を指定してください。

トップ

コンテナ(CNR)

表示または印刷したいコンテナを指定します。特定のコンテナまたはある場所内のすべてのコンテナを選択することができます。

***ALL** 保管場所に存在するすべてのコンテナを処理します。

コンテナID

表示または印刷したいコンテナの名前を指定してください。

トップ

媒体クラス(MEDCLS)

表示または印刷したい媒体クラスを指定します。特定の媒体クラスまたはすべての媒体クラスを選択することができます。

***ALL** すべての媒体クラスを処理します。

媒体クラス名

表示または印刷したい媒体クラスの名前を指定してください。

トップ

システム名(SYSNAME)

表示または印刷したい媒体インベントリをもつシステム名を指定します。

***ALL** すべてのシステム名について媒体インベントリを表示または印刷します。

***LCL** システムがローカル・システムであることを指定します。BRMSは省略時のローカル・ロケーション名LCLLOCNAMEを使用し、システム名SYSNAMEは使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。DSPNETAコマンドを使用してシステム・ネットワーク属性を表示することができます。

ロケーション名

システムと関連したリモート・ロケーションの名前を指定してください。DSPNETA コマンドを使用することにより表示されるローカル・システムのネットワークIDが、システムのネットワークIDとして使用されます。

注: この値を使用するには、BRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

ネットワークID.ロケーション名

システムと関連したリモート・ロケーションのネットワークIDおよび名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。NNNNNNNNはネットワークIDで、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

注: この値を使用するには、BRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

[トップ](#)

ファイル・グループ(FILEGRP)

表示または印刷したいボリュームに組み込みたいファイル・グループを指定します。

***ALL** 表示または印刷したい媒体について他の指定を満たすすべてのファイル・グループを組み込みます。

***NONE**

ファイル・グループを組み込みません。

***ARCGRP**

省略時の保存制御グループが入っているボリュームをファイルのグループに組み込みます。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能（オプション2）が必要です。

***BKUGRP**

省略時のユーザー・データ・バックアップ制御グループが入っているボリュームをファイルのグループに組み込みます。

***SYSGRP**

省略時のシステム・データ制御グループが入っているボリュームをファイルのグループに組み込みます。

***SYSTEM**

省略時のシステム全体バックアップ制御グループが入っているボリュームをファイルのグループに組み込みます。

ファイル・グループ

ボリュームを表示または印刷したいファイル・グループの名前を指定してください。

[トップ](#)

ファイル・グループ・タイプ(GRPTYPE)

表示または印刷したいファイル・グループのタイプを指定します。

***ALL** 他の指定を満たすすべてのタイプのファイル・グループを検索に組み込みます。

***ARC** 保存タイプ・ファイル・グループであるファイル・グループを表示または印刷したい媒体に組み込みます。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能（オプション2）が必要です。

***BKU** バックアップ・タイプ・ファイル・グループであるファイル・グループを表示または印刷したい媒体に組み込みます。

***NONE**

表示または印刷したい媒体にはどのファイル・グループ・タイプも組み込みません。

ファイル・グループ・タイプ

表示または印刷したいファイル・グループに組み込みたいファイル・グループ・タイプを指定してください。

トップ

テキスト(TEXT)

処理したい媒体に関連したテキストを指定します。任意の文字列を検索することができ、テキストにその文字列を含む媒体インベントリ項目だけが表示または印刷に組み込まれます。

***ALL** テキストとは関係なく、すべての媒体インベントリ項目を表示または印刷します。

***NONE**

テキストがブランクであるすべての媒体インベントリ項目を表示または印刷します。

***総称* テキスト**

指定されたテキスト文字列をもつすべての媒体インベントリ項目を表示または印刷したいことを指定してください。

トップ

順序(SORT)

この画面または報告書に使用したいソート順序を指定します。

***VOL** 画面または報告書をボリューム順にソートします。

***CRT** 画面または報告書を作成日順にソートします。

***EXP** 画面または報告書を満了日順にソートします。

***LOC** 画面または報告書を場所順にソートします。

トップ

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

例

例1: 満了媒体の処理

WRKMEDBRM TYPE(*EXP)

このコマンドは、満了した媒体が表示される「媒体の処理」パネルを表示します。

例2: 場所でソートされた活動媒体の処理

WRKMEDBRM TYPE(*ACT) SYSNAME(MYSYS) SEQ(*LOC)

このコマンドは、MYSYSという名前のシステムの媒体インベントリー中にある活動媒体が場所順に表示される「媒体の処理」パネルを表示します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

媒体情報の処理 (WRKMEDIBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した媒体情報の処理(WRKMEDIBRM)コマンドは、指定されたライブラリー、日付の範囲、および順序に基づいて媒体情報を表示または報告します。媒体情報の処理コマンドは、各ライブラリーが保管された日付と時刻、保管のタイプ、ボリューム通し番号とその関連満了日、および保管されたオブジェクト数と保管されなかったオブジェクト数を表示します。このコマンドには、報告書を表示または印刷するオプションがあります。作成される報告書は媒体情報報告書です。この報告書は、印刷される場合に、印刷装置ファイルQP1AHSに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	総称名, 名前, *ALL, *ALLDLO, *LINK, *LNKOMTLTS, *LNKOMTONL, *LTSOMTONL, *QHST, *SAVCFG, *SAVSECDTA, *SAVSPLF, *SAVSYS	オプション, 位置 1
VOL	ボリューム	文字値, *ALL	オプション
ASP	補助記憶域プール	文字値, *ALL, *SYSTEM	オプション
CTLGRP	制御グループ	名前, *ALL, *NONE, *ARCGRP, *BKUGRP, *SYSGRP, *SYSTEM	オプション
SAVTYPE	保管タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *ARC, *CUML, *FILE, *FULL, *INCR, *NONE, *QBRM	オプション
SLTDATE	日付の選択	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日	文字値, *BEGIN, *CURRENT	
	要素 2: 終了日	文字値, *END, *CURRENT	
SAVSTS	保管状況	*ALL, *ERROR, *NOERROR	オプション
SORT	順序付けオプション	*DATE, *LIB, *VOL	オプション
START	最初に表示される項目	*LAST, *FIRST	オプション
FROMSYS	FROMシステム	文字値, *LCL	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

ライブラリー(LIB)

表示または報告したいライブラリー名または特殊値の名前を指定します。

***ALL** すべてのライブラリーが媒体情報報告書に含まれます。

***ALLDLO**

*ALLDLO特殊値を使用して保管したすべてのフォルダーに関する媒体情報が表示または印刷されるようにします。

***LINK**

/QSYS.LIBおよび/QDLSディレクトリーのファイルを除くすべてのIFSディレクトリーを保管する特殊値*LINKを使用して、すべてを保管する媒体情報を表示または印刷します。

***LNKOMTLTS**

特殊値*LNKOMTLTSを使用して保管するすべての媒体情報を表示または印刷します。この値は、すべてのLOTUSサーバー・ファイルと/QSYS.LIBおよび/QDLSディレクトリーのファイルを除くすべてのIFSディレクトリーおよびファイルを保管します。

***LNKOMTONL**

特殊値*LNKOMTONLを使用して保管するすべての媒体情報を表示または印刷します。この値は、オンラインLOTUSサーバー・バックアップ・ファイルと/QSYS.LIBおよび/QDLSディレクトリーのファイルを除くすべてのIFSディレクトリーおよびファイルを保管します。

***LTSOMTONL**

特殊値*LTSOMTONLを使用して保管するすべての媒体情報を表示または印刷します。この値は、オンラインLOTUSサーバー・ファイルを除くすべてのLOTUSサーバー・ファイルを保管します。

***QHST**

*QHST特殊値を使用して保管したすべての項目に関する媒体情報が表示または印刷されるようにします。

***SAVCFG**

*SAVCFG特殊値を使用して保管したすべての構成に関する媒体情報が表示または印刷されるようにします。

***SAVSECDTA**

*SAVSECDTA特殊値を使用して保管したすべての機密保護データに関する媒体情報が表示または印刷されるようにします。

***SAVSPLF**

リストに保管したすべてのスプール・ファイルに関する媒体情報が表示または印刷されるようにします。

***SAVSYS**

*SAVSYS特殊値を使用した結果である媒体情報が表示または印刷されるようにします。

ライブラリー名

媒体情報を報告したい特定のライブラリーの名前を指定してください。

総称*ライブラリー名

ライブラリー名の総称を指定してください。たとえば、ACCTP*を指定すると、名前がACCTPで始まるすべてのライブラリーが報告書または画面に含まれます。

トップ

ボリューム(VOL)

媒体情報の処理画面に組み込みたい媒体ボリュームの名前、あるいはすべてのボリュームを組み込みたい場合には*ALLを指定してください。

注: *SAVFを指定すると、BRMSが保管ファイルに保管するすべてのものが結果の画面または報告書に含まれることとなります。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべてのボリュームが媒体情報画面または報告書に組み込まれるようにします。

ボリューム識別コード

媒体情報を表示または報告したい媒体ボリュームの名前を指定してください。

[トップ](#)

補助記憶域プール(ASP)

検索された媒体情報用の補助記憶域プールを指定します。保管操作が行われた時に指定された補助記憶域プールに常駐しているオブジェクトだけが、表示または報告されます。

***ALL** すべての補助記憶域プールから保管されたすべての項目を表示または報告したい場合です。

***SYSTEM**

システム(1)補助記憶域プールから保管されたすべての項目を表示または報告したい場合です。

補助記憶域プール番号

この番号によって識別される補助記憶域プールから保管されたすべての項目を表示または報告したい場合です。

補助記憶域プール名

この名前によって識別される補助記憶域プールから保管されたすべての項目を表示または報告したい場合です。

[トップ](#)

制御グループ

保管された項目を表示する時に処理したい制御グループの名前を指定します。

***ALL** すべての制御グループを処理します。

***NONE**

制御グループを使用して保管されていない項目を処理します。

***ARCGRP**

省略時の保存制御グループを使用して保管された項目を処理したい時の、省略時の保存制御グループの名前。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKUGRP**

省略時のユーザー・データ・バックアップ制御グループを使用して保管された項目を処理したい時の、省略時のバックアップ制御グループの名前。

***SYSGRP**

省略時のシステム・データ・バックアップ制御グループを使用して保管された項目を処理したい時の、省略時のシステム・バックアップ制御グループ。

*SYSTEM

省略時の全システム・バックアップ制御グループを使用して保管された項目を処理したい時の、省略時のシステム・バックアップ制御グループ。

制御グループ名

処理したい項目の制御グループの名前を指定してください。

[トップ](#)

保管タイプ(SAVTYPE)

処理したい保管項目のタイプを指定します。項目のすべてのタイプ、特定タイプ、またはタイプの混合を指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。入力画面が表示されていて、これらの複数個の値を入力するために追加の入力フィールドが必要である場合には、「値の続きは+」の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

単一値

***ALL** 保管項目のすべてのタイプを処理します。

その他の値（3回反復まで）

***ARC** 保存処理の結果である保管項目だけを処理します。

注: この値には、BRMS拡張機能（オプション2）が必要です。

*CUML

増分保管（変更されたオブジェクトの保管）の結果である保管項目だけを処理します。*CUMLは、増分保管には最後の全保管以降に変更されたすべてのオブジェクトが含まれることを意味します。

***FILE** 固有のI5/OS保管コマンドの結果である保管項目だけを処理します。

*FULL

全保管の結果である保管項目だけを処理します。

*INCR

増分保管（変更されたオブジェクトの保管）の結果である保管項目だけを処理します。*INCRは、増分保管には最後の増分保管以降に変更されたすべてのオブジェクトが含まれることを意味します。

*NONE

保管されたことのない保管項目だけを処理します。

*QBRM

保管されているBRMS媒体情報項目を処理します。

[トップ](#)

日付の選択(SLTDATE)

媒体情報の報告時に使用したい日付の範囲を指定します。開始日が媒体情報の日付の範囲の始めであり、終了日が日付の範囲の終わりとなります。

注: このパラメーターを使用すれば、区切り記号のない日付または最大5桁までの日数を入力することができます。たとえば、月/日/年形式を使用している場合には、12904という数字は1月29日、2004年として形式設定されます。一方、13904という数字を入力した場合には、BRMSはこれを日付とは見なさず、数値と見なします。BRMSは、数字が入力された時に常にカレンダー日付を最初に計算しようとし、計算した日付が正しくなかった場合には、それを日数と見なします。5桁を超える数字を入力し、計算された日付が正しくなかった場合には、エラー・メッセージを受け取ります。

要素1: 開始日付

***BEGIN**

ファイル中の最も早い媒体情報の日付が日付の範囲の開始日となります。

***CURRENT**

現在日が日付の範囲の開始日となります。

開始日 日付範囲の開始日にしたい日付をジョブ日付形式（日付区切り記号付き、または日付区切り記号なし）で指定してください。

日数 日付の範囲の開始日を決めるのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

要素2: 終了日付

***END** ファイルで見つかった最終日付が検索の日付範囲の終わりになります。

***CURRENT**

現行日付が日付範囲の終了日です。

終了日 日付範囲の終了日にしたい日付をジョブ日付形式（日付区切り記号付き、または日付区切り記号なし）で指定してください。

日数 日付の範囲の終了日を決めるのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

トップ

保管状況(SAVSTS)

すべての正常な保管、正常でない保管、あるいはその両方のいずれを表示または報告したいかを指定します。

***ALL** 正常と正常でない両方の保管が画面または報告書に組み込まれるようにします。

***ERROR**

正常でない保管だけが画面または報告書に組み込まれるようにします。

注: 組み込まれるエラーとは、保管操作に固有のIS/OS保管コマンドを使用した場合に、異常終了状態の結果となるようなものです。

***NOERROR**

正常な保管だけが画面または報告書に組み込まれるようにします。

注: 保管されないオブジェクトは必ずしもエラー条件とは見なされません。たとえば、あるライブラリー内のあるオブジェクトが保管操作時にロック状態になっていて、そのライブラリー内の残りのオブジェクトがそうになっていない場合には、たとえロックされたオブジェクトが除外されても、そのライブラリーの保管操作は正常に完了することができます。除外されたオブジェクトは、結果の媒体情報の処理画面または報告書の**保管されなかったオブジェクト数**欄に示されます。

トップ

順序(SORT)

媒体情報報告書はいくつかの方法で順序付けされることを指定します。

*DATE

媒体情報報告書を日付によって順序づけます。

***LIB** 媒体情報報告書をライブラリーによって順序づけます。

***VOL** 媒体情報報告書をボリュームによって順序づけます。

トップ

最初に表示される項目(START)

媒体情報項目の開始桁を指定します。媒体情報項目が別の表示画面にある場合には、表示装置ユーザーは画面を上下にロールさせて他の媒体情報項目を見ることができます。

*LAST

媒体情報は最後の項目から順に画面の最下部に表示されます。

*FIRST

媒体情報は最初の項目から順に画面の最上部に表示されます。

トップ

FROMシステム(FROMSYS)

その媒体を処理したいシステムの場所およびネットワークIDを指定します。

注: ボリューム(VOL)パラメーターにボリュームIDが指定されている場合には、FROMSYSパラメーターに指定した値は無視されます。この場合には、指定されたボリュームに対応する場所およびネットワークIDが使用されます。

注: ネットワーク属性の表示(DSPNETA)コマンドは、システム・ネットワーク属性を表示するのに使用しません。

注: *LCL以外の値が指定されている場合には、この値を使用するのにBRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

***LCL** FROMシステムがローカル・システムであることを示します。BRMSは、現行システム名を判別するのに、省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を使用し、システム名(SYSNAME)ネットワーク属性は使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。

ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムの省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。リモート・システムと接続するには、現行システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性が使用されます。

ネットワークID.ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)および省略

時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。ここで、NNNNNNNNはLCLNETIDで、CCCCCCCCはLCLLOCNAMEです。

トップ

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

* 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

トップ

例

```
WRKMEDIBRM LIB(MY*) SAVTYPE(*FULL) SORT(*LIB)
```

このコマンドは媒体情報処理パネルを表示します。このパネルには、文字'MY'で始まり全保管中に保管されたすべてのライブラリーがライブラリー順序で表示されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1177

リモート・システムとの接続を確立できません。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM2154

ASP値*ALLを指定しなければならない。

BRM215A

*ALLまたは1から32のASP値を指定しなければならない。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM4041

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

[トップ](#)

移行情報の処理 (WRKMGRIBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した移行情報の処理(WRKMGRIBRM)コマンドは、指定された項目、項目タイプ、日付の範囲、移行状況、移行ポリシー、ソース補助記憶域プールおよび（または）ターゲット補助記憶域プールに基づいて、移行情報を表示または報告します。最も包括的な画面または報告書を作成する省略時の値が用意されています。順序(SORT)パラメーターによって、ユーザーは結果の出力順序を指定することができます。最初に表示する項目(START)パラメーターは、結果の出力が情報の先頭に位置づけられるか最後に位置づけられるかを決定します。報告書（印刷の場合）は、印刷装置ファイルQPIAHHに書き込まれます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、BRMS拡張機能（オプション2）が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	項目タイプ	*FLR, *LIB	オプション、定位置 1
LIB	ライブラリー	総称名, 名前, *ALL	オプション
FLR	フォルダー	総称名, 名前, *ALL	オプション
FROMASP	FROM ASP	文字値, *ALL, *SYSTEM	オプション
TOASP	TO ASP	文字値, *ALL, *SYSTEM	オプション
FROMASPCLS	FROM ASPクラス	名前, *ALL	オプション
TOASPCLS	TO ASPクラス	名前, *ALL	オプション
SLTDATE	日付の選択	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日	文字値, *BEGIN, *CURRENT	
	要素 2: 終了日	文字値, *END, *CURRENT	
MGRSTS	移行状況	*ALL, *ERROR, *NOERROR	オプション
SORT	順序	*DATE, *FROMASP, *NAME, *TOASP	オプション
START	最初に表示される項目	*LAST, *FIRST	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

項目タイプ(TYPE)

移行情報を表示あるいは報告したい項目のタイプを指定します。

***LIB** ライブラリーの移行情報が組み込まれます。

***FLR** 第1レベル・フォルダーの移行情報が組み込まれます。

[トップ](#)

ライブラリー(LIB)

結果の画面または報告書に組み込まれるものがすべてのライブラリーか、いくつかのライブラリーの総称グループか、あるいは単一のライブラリーかを指定します。項目タイプ(TYPE)パラメーターに*LIBが指定されている場合には、このパラメーターは必須です。

***ALL** 移行情報画面あるいは報告書にすべてのライブラリーを組み込みます。

総称*ライブラリー名

組み込みたいライブラリーの総称名を指定してください。総称名とは、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字列です。*が名前と一緒に指定されていない場合には、システムは、その名前を完全なライブラリー名であると見なします。

ライブラリー名

移行情報を表示あるいは報告したいライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

フォルダー(FLR)

結果の画面または報告書に組み込まれるものがすべてのライブラリーか、いくつかのライブラリーの総称グループか、あるいは単一のライブラリーかを指定します。項目タイプ(TYPE)パラメーターに*FLRが指定されている場合には、このパラメーターは必須です。

***ALL** 移行情報画面あるいは報告書にすべてのライブラリーを組み込みます。

総称*フォルダー名

組み込みたいフォルダーの総称名を指定してください。総称名とは、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字列です。名前に*が指定されていないと、システムは、その名前が完全なフォルダー名であると見なします。

フォルダー名

移行情報を表示あるいは報告したいフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

FROM ASP (FROMASP)

画面または報告書に組み込みたい項目が移行された元のすべての補助記憶域プールまたは単一の補助記憶域プールを指定します。

***ALL** 項目が画面または報告書に移行された元のすべての補助記憶域プールを組み込みます。

*SYSTEM

システム(1)補助記憶域プールから移行された項目のみを組み込みます。

FROM ASP名

画面または報告書に組み込みたい補助記憶域プールの名前を指定します。

FROM ASP番号

画面または報告書に組み込みたい補助記憶域プールの番号を指定します。

注: このパラメーターの場合には、UDFS, 1次, および2次補助記憶域プールはサポートされません。

トップ

TO ASP (TOASP)

画面または報告書に組み込みたい項目が移行された先のすべての補助記憶域プールまたは単一の補助記憶域プールを指定します。

***ALL** 項目が画面または報告書に移行された先のすべての補助記憶域プールを組み込みます。

***SYSTEM**

システム(1)補助記憶域プールへ移行された項目のみを組み込みます。

TO ASP名

画面または報告書に組み込みたい補助記憶域プール名を指定します。

TO ASP番号

画面または報告書に組み込みたい補助記憶域プール番号を指定します。

注: このパラメーターの場合には、UDFS, 1次, および2次補助記憶域プールはサポートされません。

トップ

FROMクラス(FROMASPCLS)

データが移行された元のすべてのASPクラスまたは単一のASPクラスにある補助記憶域プールが画面または報告書に組み込まれることを指定します。

***ALL** すべてのASPクラスが画面または報告書に組み込まれます。

FROM ASPクラス名

画面または報告書に組み込むASPクラスを指定してください。

トップ

TO ASPクラス(TOASPCLS)

データが移行された先のすべてのASPクラスまたは単一のASPクラスにある補助記憶域プールが画面または報告書に組み込まれることを指定します。

***ALL** すべてのASPクラスが画面または報告書に組み込まれます。

TO ASPクラス名

画面または報告書に組み込むASPクラスを指定してください。

トップ

日付の選択(SLTDATE)

移行情報について報告する際に使用したい日付の範囲を指定します。**開始日**は移行情報の日付範囲の始めであり、**終了日**は、その日付範囲の終わりです。

注: このパラメーターを使用すれば、区切り記号のない日付または最大5桁までの日数を入力することができます。たとえば、月/日/年形式を使用している場合には、12904という数字は1月29日、2004年として形式設定されます。一方、13904という数字を入力した場合には、BRMSはこれを日付とは見なさず、数値と見なします。BRMSは、数字が入力された時に常にカレンダー日付を最初に計算しようとし、計算した日付が正しくなかった場合には、それを日数と見なします。5桁を超える数字を入力し、計算された日付が正しくなかった場合には、エラー・メッセージを受け取ります。

要素1: 開始日付

***BEGIN**

ファイル上の最も古い移行情報日付が日付範囲の開始日になります。

***CURRENT**

現在日が日付の範囲の開始日となります。

開始日 日付範囲の開始日にしたい日付をジョブ日付形式（日付区切り記号付き、または日付区切り記号なし）で指定してください。

日数 日付の範囲の開始日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

要素2: 終了日付

***END** ファイルで見つかった最終日付が検索の日付範囲の終わりになります。

***CURRENT**

現行日付が日付範囲の終了日です。

終了日 日付範囲の終了日にしたい日付をジョブ日付形式（日付区切り記号付き、または日付区切り記号なし）で指定してください。

日数 日付の範囲の終了日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

[トップ](#)

移行状況(MGRSTS)

成功したすべての移行情報、失敗した移行情報、またはその両方の移行情報のいずれを表示あるいは報告したいかを指定します。

***ALL** 成功と失敗の両方の移行情報を画面または報告書に組み込みます。

***ERROR**

失敗した移行情報のみを画面または報告書に組み込みます。

***NOERROR**

成功した移行情報のみを画面または報告書に組み込みます。

[トップ](#)

順序付けオプション(SORT)

移行情報を順序付ける方法を指定します。

*DATE

移行情報を日付と時刻によって順序付けます。

*FROMASP

移行情報をソース補助記憶域プール、ターゲット補助記憶域プール、日付および時刻別の順に順序付けます。

*NAME

移行情報を項目名とタイプによって順序付けます。

*TOASP

移行情報をターゲット補助記憶域プール、ソース補助記憶域プール、日付および時刻別の順に順序付けます。

[トップ](#)

最初に表示される項目(START)

移行情報項目の開始位置を指定します。表示装置ユーザーは、画面をロールアップまたはロールダウンすることにより、別の表示画面にある他の移行情報項目を見ることができます。

*LAST

画面の一番下にある最後の項目で始まる移行情報が表示されます。

*FIRST

画面の一番上にある最初の項目で始まる移行情報が表示されます。

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

WRKMGRIBRM ITEM(ABC*) TOASP(03)

このコマンドは移行情報処理パネルを表示します。このパネルには、文字'ABC'で始まり補助記憶域プール(ASP)からASP番号3に移行されたすべてのライブラリーが日付順に表示されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

媒体ライブラリーの処理 (WRKMLBBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

媒体ライブラリーの処理(WRKMLBBRM)コマンドは、媒体ライブラリー(MLB)を処理します。出力は画面または印刷報告書とすることができます。作成される報告書は媒体ライブラリー報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1AMD に書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT -	オプション、定位置 1

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

WRKMLBBRM

このコマンドは、「媒体ライブラリーの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM4040

ユーザー&1のアクセスが拒否されました。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

[トップ](#)

媒体ライブラリー媒体の処理 (WRKMLMBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した媒体ライブラリー媒体の処理(WRKMLMBRM)コマンドは、ユーザーが指定する媒体ライブラリー装置内のすべての媒体または特定の媒体を処理します。この画面または報告書を調整するために、いろいろなパラメーターを使用することができます。作成される報告書は媒体ライブラリー媒体報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1A1MDに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MLB	媒体ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム	文字値, *ALL	オプション
CGY	カテゴリー	名前, *ALL, *EJECT, *INSERT, *IPL, *NL, *NOSHARE, *SHARE400	オプション
BRMVOL	BRMボリューム	*ANY, *NO, *YES	オプション
MEDCLS	媒体クラス	名前, *ALL	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

媒体ライブラリー(MLB)

表示または印刷したい媒体ライブラリー(MLB)を指定するためには、このパラメーターを使用してください。

これは必須フィールドです。

[トップ](#)

ボリューム(VOL)

表示または印刷したいすべての媒体、総称媒体ボリューム、または特定の媒体ボリュームを指定します。

***ALL** 選択された媒体ライブラリーのすべての媒体を画面または報告書に組み込みます。

総称*媒体ボリューム

ボリュームの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)

が続いている文字列です。たとえば、ABC*などです。アスタリスク(*)は任意の有効な文字の代用です。総称名は、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのボリュームを指定します（ユーザーはそれに対する権限をもっている）。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なボリューム名と見なします。

媒体ボリューム

画面または報告書に組み込みたい、選択した媒体ライブラリー装置の媒体ボリュームを指定してください。

[トップ](#)

カテゴリー(CGY)

表示または印刷に組み込むために選択した媒体ライブラリー(MLB)からの媒体をカテゴリー別に指定します。

***ALL** MLBのすべての媒体が画面または報告書に含まれます。

注: 固有の媒体カテゴリーを定義していた場合には、CGY(*ALL)を指定した時にそれらは含まれません。

***CNV** 選択されたMLBの中の好都合な端末媒体だけが画面または報告書に組み込まれます。

***EJECT**

選択されたMLBの中の排出モードの媒体だけが画面または報告書に組み込まれます。

***INSERT**

すでにMLBの中にあり、*SHARE400または*NOSHAREといったカテゴリーをもたず、そうでなければシステムに割り当てられていない媒体だけが画面または報告書に組み込まれます。

***IPL** 選択したMLBの中の代替IPL媒体だけが画面または報告書に組み込まれます。

***NL** 選択したMLBの中のラベルなし媒体だけが画面または報告書に組み込まれます。

***NOSHARE**

すでにMLBに追加されている私用媒体だけが画面または報告書に含まれます。私用媒体は、このシステムでのみ使用することができる媒体です。

***SHARE400**

すでにMLBに追加されている共用媒体だけが画面または報告書に含まれます。

カテゴリー名

ユーザー定義の媒体カテゴリー名を指定してください。

[トップ](#)

BRMボリューム(BRMVOL)

BRMS媒体のみ、BRMS以外の媒体、または任意の媒体のどれを画面または報告書に含めるかを指定します。

***ANY** BRMSに登録済みであるか否かにかかわらず、すべての媒体を画面または報告書に組み込みます。

***NO** BRMS以外の媒体だけを画面または報告書に組み込みます。

***YES** BRMSに登録済みの媒体だけを画面または報告書に組み込みます。

媒体クラス(MEDCLS)

指定された媒体ライブラリー用に選択したい媒体クラスを指定します。特定の媒体クラスまたはすべての媒体クラスを選択することができます。

***ALL** 媒体クラスに関係なくすべての媒体を選択します。

媒体クラス名

指定した媒体ライブラリーで使用したい媒体クラスの名前を指定してください。

トップ

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

WRKMLMBRM MLB(MLB01) BRMVOL(*YES)

このコマンドは、MLB01によって使用されるBRMS媒体が表示される「媒体ライブラリー媒体の処理」パネルを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1232

媒体クラス&1が見つからない。

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

トップ

保管済みオブジェクトの処理 (WRKOBJBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した保管済みオブジェクトの処理(WRKOBJBRM)コマンドは、保管済みオブジェクトの報告書を印刷／表示します。オブジェクトのグループは日付の範囲によって選択され、結果の画面または報告書はいくつかの方法で順序付けることができます。表示オプションを選択した場合には、媒体インベントリーからオブジェクトを復元することができます。作成される報告書は保管済みオブジェクト報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1AODに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前, <u>*ALL</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*ALL</u>	
OBJTYPE	タイプ	文字値, <u>*ALL</u>	オプション、位置 2
ASP	補助記憶域プール	文字値, <u>*ALL</u> , *SYSTEM	オプション
SLTDATE	日付の選択	要素リスト	オプション、位置 3
	要素 1: 開始日	文字値, <u>*BEGIN</u> , *CURRENT	
	要素 2: 終了日	文字値, <u>*END</u> , *CURRENT	
SAVSTS	保管状況	<u>*ALL</u> , *ERROR, *NOERROR	オプション
INFTYPE	オブジェクト情報	<u>*ALL</u> , *DLO, *MBR, *OBJ	オプション
SORT	順序付けオプション	<u>*SAVDAT</u> , *LIB, *OBJ	オプション
FROMSYS	FROMシステム	文字値, <u>*LCL</u>	オプション
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

[トップ](#)

オブジェクト(OBJ)

表示または印刷したいオブジェクトまたはオブジェクト・グループの名前およびライブラリーを指定します。

修飾子1: オブジェクト

***ALL** **タイプ(TYPE)**パラメーターに指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトを保管済みオブジェクトの処理画面または報告書に組み込みます。

オブジェクト名

保管済みオブジェクトの処理画面または報告書を作成したい特定のオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 保管済みオブジェクトの処理画面または報告書に含めるオブジェクトをすべてのライブラリーで検索します。

ライブラリー名

表示または印刷に含まれるオブジェクトを検索する特定のライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

タイプ(OBJTYPE)

表示または印刷したいオブジェクトのタイプを指定してください。

***ALL** すべてのオブジェクト・タイプを表示または印刷に組み込んでください。

オブジェクト・タイプ

表示または印刷したいオブジェクト・タイプを指定してください。

[トップ](#)

補助記憶域プール(ASP)

報告書に表示したい、保管されたオブジェクトが入っている補助記憶域プールを指定します。

***ALL** 保管されたオブジェクトをすべての補助記憶域プールに入れたい場合です。

***SYSTEM**

システム(1)補助記憶域プールに入っていた保管済みオブジェクトを入れたい場合です。

補助記憶域プール番号

組み込みたい保管済みオブジェクトが入っている補助記憶域プールの番号を指定してください。

補助記憶域プール名

組み込みたい保管済みオブジェクトが入っている補助記憶域プールの名前を指定してください。

[トップ](#)

日付の選択(SLTDATE)

保管済みオブジェクトの報告時に使用したい日付の範囲を指定します。**開始日**は保管済みオブジェクトの日付範囲の始めて、**終了日**は日付範囲の終わりです。

注: このパラメーターを使用すれば、区切り記号のない日付または最大5桁までの日数を入力することができます。たとえば、月/日/年形式を使用している場合には、12904という数字は1月29日、2004年として形式設定されます。一方、13904という数字を入力した場合には、BRMSはこれを日付とは見なさず、数値と

見なします。BRMSは、数字が入力された時に常にカレンダー日付を最初に計算しようとし、計算した日付が正しくなかった場合には、それを日数と見なします。5桁を超える数字を入力し、計算された日付が正しくなかった場合には、エラー・メッセージを受け取ります。

要素1: 開始日付

***BEGIN**

ファイル中の最も早い日付を日付の範囲の開始日として使用します。

***CURRENT**

現在日を日付の範囲の開始日として使用します。

開始日 日付の範囲の開始日として使用したい日付を、日付区切り記号の有無にかかわらず、ジョブ日付の形式で指定してください。

日数 日付の範囲の開始日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

要素2: 終了日付

***END** オブジェクトが保管された最終日付を、検索に使用したい日付の範囲の終了日として使用します。

***CURRENT**

現在日を日付の範囲の終了日として使用します。

終了日 日付の範囲の終了日として使用したい日付を、日付区切り記号の有無にかかわらず、ジョブ日付の形式で指定してください。

日数 日付の範囲の終了日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

[トップ](#)

保管状況(SAVSTS)

すべての正常な保管、正常でない保管、あるいはその両方のいずれを表示または報告したいかを指定します。

***ALL** 正常な保管と正常でない保管の両方が画面または報告書に組み込まれます。

***ERROR**

正常でない保管だけが画面または報告書に組み込まれます。

***NOERROR**

正常な保管だけが画面または報告書に組み込まれます。

[トップ](#)

オブジェクト情報(INFTYPE)

すべてのオブジェクトと選択したオブジェクトのどちらを表示または報告したいかを指定します。

***ALL** すべてのオブジェクトが画面または報告書に含まれます。

***DLO** DLOオブジェクトだけが画面または報告書に含まれます。

***MBR** メンバーだけが画面または報告書に含まれます。

***OBJ** 非DLOオブジェクトだけが画面または報告書に含まれます。

順序付けオプション(SORT)

保管済みオブジェクトの画面または報告書は、いくつかの方法で順序付けすることができます。

*SAVDAT

リストを保管日順に順序づけます。

*LIB リストをライブラリー順に順序づけます。

*OBJ リストをオブジェクト順に順序づけます。

FROMシステム(FROMSYS)

処理したいオブジェクト情報のあるシステムのロケーションおよびネットワークIDを指定します。

注: ネットワーク属性の表示(DSPNETA)コマンドは、システム・ネットワーク属性を表示するのに使用しません。

注: *LCL以外の値が指定されている場合には、この値を使用するのにBRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

*LCL FROMシステムがローカル・システムであることを示します。BRMSは、現行システム名を判別するのに、省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を使用し、システム名(SYSNAME)ネットワーク属性は使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。

ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムの省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。リモート・システムと接続するには、現行システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性が使用されます。

ネットワークID.ロケーション名

ネットワーク操作用のリモート・システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)および省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。ここで、NNNNNNNNはLCLNETIDで、CCCCCCCCはLCLLOCNAMEです。

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

例

例1: 正常に保管されなかったオブジェクトの処理

WRKOBJBRM SAVSTS(*ERROR) INFTYPE(*OBJ) SORT(*OBJ)

このコマンドは、正常に保管されなかったすべてのオブジェクトがオブジェクト名順に表示される「保管済みオブジェクトの処理」パネルを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

トップ

BRMを使用したポリシーの処理 (WRKPCYBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用したポリシーの処理(WRKPCYBRM)コマンドは、処理したいBRMSポリシーを指定します。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	ポリシー・タイプ	*MOV, *ARC, *BKU, *MED, *MGR, *RCY, *RTV, *SYS	オプションル、位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプションル

[トップ](#)

ポリシーのタイプ(TYPE)

処理または印刷したいポリシーのタイプを指定してください。

***MOV** 移動ポリシーを処理または印刷したい場合に指定します。作成される報告書は移動ポリシー報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1AMPに書き出されます。

***ARC** 保存ポリシーを処理または印刷したい場合に指定します。作成される報告書は保存ポリシー報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1AAXに書き出されます。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***BKU** バックアップ・ポリシーを処理または印刷したい場合に指定します。作成される報告書はバックアップ・ポリシー報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1ABXに書き出されます。

***MED** 媒体ポリシーを処理または印刷したい場合に指定します。作成される報告書は媒体ポリシー報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1AMEに書き出されます。

***MGR** 移行ポリシーを処理または印刷します。作成される報告書は移行ポリシー報告書です。この報告書 (印刷の場合) は印刷装置ファイルQP1AHXに書き出されます。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***RCY** 回復ポリシーを処理または印刷したい場合に指定します。作成される報告書は回復ポリシー報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1ARXに書き出されます。

***RTV** 検索ポリシーを処理または印刷したい場合に指定します。作成される報告書は検索ポリシー報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1ARPに書き出されます。

注: この値を使用するには、BRMS拡張機能 (オプション2)が必要です。

***SYS** システム・ポリシーを処理または印刷したい場合に指定します。作成される報告書はシステム・ポリシー報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1ASPに書き出されます。

トップ

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

* 出力が表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいは印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

トップ

例

WRKPCYBRM TYPE(*MED)

このコマンドは、「媒体ポリシーの処理」パネルを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE**メッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

トップ

回復活動の処理 (WRKRCYBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した回復活動の処理(WRKRCYBRM)コマンドは、ユーザーがBRMSに対して定義済みの回復活動の画面または報告書を作成します。画面を要求した場合には、回復活動の処理画面が表示され、その画面で回復活動を追加、変更、または除去することができます。作成される報告書は回復活動報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1ARWに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

トップ

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

WRKRCYBRM

このコマンドは、「回復活動の処理」パネルを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

[トップ](#)

保管ファイルの処理 (WRKSAVFBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した保管ファイルの処理(WRKSAVFBRM)コマンドは、BRMS媒体内容情報にあるすべての保管ファイルの報告書を表示または印刷します。画面または報告書の情報には、保管の日付および時刻、補助記憶域プール番号などの保管情報が含まれています。

表示オプションを選択した場合には、保管ファイルの処理画面によって保管ファイルを表示、除去、および満了することができます。さらに、オブジェクト明細を選択して保管ファイルからオブジェクトを表示または復元することができます。作成される報告書はBRM保管ファイル報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1ASFに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、 位置 1

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

WRKSAVFBRM

このコマンドは、「保管ファイルの処理」パネルを表示します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

保管済みスプール・ファイル処理 (WRKSPLFBRM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BRMを使用した保管済みスプール・ファイルの処理(WRKSPLFBRM)コマンドは、指定されたライブラリー、出力待ち行列、補助記憶域プール、ファイル、ジョブ名、ユーザー、日付の範囲、および順序に基づいて、保管済みスプール・ファイルの画面または報告書を作成します。保管済みスプール・ファイルの処理コマンドが処理されると、「保管済みスプール・ファイルの処理」画面が表示されるので、保管済みスプール・ファイルを含む媒体の処理だけでなく、選択したスプール・ファイル項目の除去、表示、または検索も行うことができます。報告書を作成したい場合には、作成される報告書は保管済みスプール・ファイル報告書です。この報告書は、印刷される場合、印刷装置ファイルQP1AOQに書き出されます。

このコマンドを使用するには、導入されたライセンス・プログラム、「BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES FOR ISERIES」(5722-BR1)がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前, <u>*ALL</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*ALL</u>	
ASP	補助記憶域プール	文字値, <u>*ALL</u> , *SYSTEM	オプション、位置 2
FILE	ファイル	名前, <u>*ALL</u>	オプション、位置 3
JOB	ジョブ名	名前, <u>*ALL</u>	オプション、位置 4
USER	ユーザー	名前, <u>*ALL</u>	オプション、位置 5
USRDTA	ユーザー・データ	文字値, <u>*ALL</u>	オプション、位置 6
SLTDATE	日付の選択	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日	文字値, <u>*BEGIN</u> , *CURRENT	
	要素 2: 終了日	文字値, <u>*END</u> , *CURRENT	
SAVSTS	保管状況	<u>*ALL</u> , *ERROR, *NOERROR	オプション
SORT	順序付けオプション	<u>*DATE</u> , *FILE, *JOB	オプション
FROMSYS	FROMシステム	文字値, <u>*LCL</u>	オプション
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

[トップ](#)

出力待ち行列(OUTQ)

画面または報告書に組み込みたいライブラリーおよび出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子1: 出力待ち行列

***ALL** すべての出力待ち行列を画面または報告書に組み込みます。

出力待ち行列名

画面または報告書に組み込みたい出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** スプール・ファイルを含むすべてのライブラリーまたは特殊値がスプール・ファイルのリストに組み込まれます。

ライブラリー名

スプール・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

補助記憶域プール(ASP)

スプール・ファイルが保管された時にそのスプール・ファイルが入っていた補助記憶域プールを指定します。

***ALL** 保管済みスプール・ファイルが入っていたすべての補助記憶域プールを報告書または画面に組み込みます。

***SYSTEM**

システム(1)補助記憶域プールに入っていた保管済みスプール・ファイルを報告書または画面に組み込みたい場合です。

補助記憶域プール番号

報告書または画面に組み込みたい保管済みスプール・ファイルに入っている補助記憶域プールの番号を指定してください。

補助記憶域プール名

報告書または画面に組み込みたい保管済みスプール・ファイルに入っている補助記憶域プールの名前を指定してください。

[トップ](#)

ファイル(FILE)

画面または報告書に組み込みたいスプール・ファイルが保管された時に入れられた印刷装置ファイルの名前を指定します。

***ALL** すべてのファイルを画面または報告書に組み込みます。

ファイル名

画面または報告書に組み込みたいファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名(JOB)

画面または報告書に組み込みたいスプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。

***ALL** ジョブのすべてのスプール・ファイルを画面または報告書に組み込みます。

ジョブ名

ファイルが画面または報告書に組み込まれるジョブの名前を指定してください。

トップ

ユーザー(USER)

画面または報告書に組み込みたいスプール・ファイルを作成したユーザーの名前を指定します。

***ALL** すべてのユーザーのファイルを画面または報告書に組み込みます。

ユーザー名

ファイルが画面または報告書に組み込まれるユーザーの名前を指定してください。

トップ

ユーザー・データ(USRDTA)

保管されていて画面または報告書に組み込みたいスプール・ファイルと関連づけられているデータを指定します。

***ALL** すべてのユーザー・データを画面または報告書に組み込みます。

ユーザー・データ

画面または報告書に組み込みたいユーザー・データを指定してください。

トップ

日付の選択(SLTDATE)

保管されたスプール・ファイルの報告時に使用したい日付の範囲を指定します。**開始日**が日付の範囲の始めであり、**終了日**が日付の範囲の終わりとなります。

注: **開始日**は、スプール・ファイルが作成された日付を基礎としています。

注: このパラメーターを使用すれば、区切り記号のない日付または最大5桁までの日数を入力することができます。たとえば、月/日/年形式を使用している場合には、12904という数字は1月29日、2004年として形式設定されます。一方、13904という数字を入力した場合には、BRMSはこれを日付とは見なさず、数値と見なします。BRMSは、数字が入力された時に常にカレンダー日付を最初に計算しようとし、計算した日付が正しくなかった場合には、それを日数と見なします。5桁を超える数字を入力し、計算された日付が正しくなかった場合には、エラー・メッセージを受け取ります。

要素1: 開始日付

***BEGIN**

ファイル上の最も早い保管日が日付の範囲の開始日となります。

***CURRENT**

現在日が日付の範囲の開始日となります。

開始日 日付範囲の開始日にしたい日付をジョブ日付形式（日付区切り記号付き，または日付区切り記号なし）で指定してください。

日数 日付の範囲の開始日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

要素2: 終了日付

***END** ファイルで見つかった最終日付が検索の日付範囲の終わりになります。

***CURRENT**

現行日付が日付範囲の終了日です。

終了日 日付範囲の終了日にしたい日付をジョブ日付形式（日付区切り記号付き，または日付区切り記号なし）で指定してください。

日数 日付の範囲の終了日を決定するのに使用する現在日より前の日数を指定してください。

[トップ](#)

保管状況(SAVSTS)

すべての正常な保管，正常でない保管，あるいはその両方のいずれを表示または報告したいかを指定します。

***ALL** 正常に保管された媒体情報と正常に保管されなかった媒体情報の両方が画面または報告書に組み込まれるようにします。

***ERROR**

正常でない保管だけが画面または報告書に組み込まれるようにします。

***NOERROR**

正常な保管だけが画面または報告書に組み込まれるようにします。

[トップ](#)

順序付けオプション(SORT)

保管済みスプール・ファイル報告書は，いくつかの方法で順序付けすることができます。

***DATE**

保管済みスプール・ファイル報告書を日付によって順序づけます。

***FILE** 保管済みスプール・ファイル報告書をファイルによって順序づけます。

***JOB** 保管済みスプール・ファイル報告書をジョブによって順序づけます。

[トップ](#)

FROMシステム(FROMSYS)

そのスプール・ファイル情報を処理したいシステムの場所およびネットワークIDを指定します。

注: ネットワーク属性の表示(DSPNETA)コマンドは、システム・ネットワーク属性を表示するのに使用します。

注: *LCL以外の値が指定されている場合には、この値を使用するのにBRMSネットワーク機能（オプション1）が必要です。

***LCL** FROMシステムがローカル・システムであることを示します。BRMSは、現行システム名を判別するのに、省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を使用し、システム名(SYSNAME)ネットワーク属性は使用しません。ほとんどの場合、システムのLCLLOCNAMEおよびSYSNAMEには同じ値が指定されています。

ロケーション名

ネットワーク操作のリモート・システムの省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。リモート・システムと接続するには、現行システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性が使用されます。

ネットワークID.ロケーション名

ネットワーク操作のリモート・システムのローカル・ネットワークID (LCLNETID)および省略時のローカル・ロケーション名(LCLLOCNAME)ネットワーク属性を指定します。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定してください。ここで、NNNNNNNNはLCLNETIDで、CCCCCCCCはLCLLOCNAMEです。

トップ

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、またはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

トップ

例

例1: 日付別に保管されたプール・ファイルの処理

```
WRKSPLFBRM SLTDATE('1/1/03' '4/2/03') SORT(*JOB)
```

このコマンドは「保管済みプール・ファイルの処理」画面を表示し、2003年1月1日から4月2日までに保管されたすべてのプール・ファイルのリストを表示します。プール・ファイルはジョブ順に表示されます。

例2: ASP別に保管されたプール・ファイルの処理

```
WRKSPLFBRM ASP(PRIMETIME)
```

このコマンドは「保管済みプール・ファイルの処理」画面を表示し、補助記憶域プール装置PRIMETIMEから保管されたすべてのプール・ファイルのリストを表示します。プール・ファイルは日付順に表示されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

BRM1917

機能が導入されていない。

BRM1921

機能がライセンス交付されていません。

BRM2154

ASP値*ALLを指定しなければならない。

BRM215A

*ALLまたは1から32のASP値を指定しなければならない。

BRM40A2

BRMSプロダクトの初期設定が必要である。

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとしします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

(C) (御社名) (年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 (C) Copyright IBM Corp. 1998, 2006. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries
LPDA
OfficeVision
i5/OS
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan